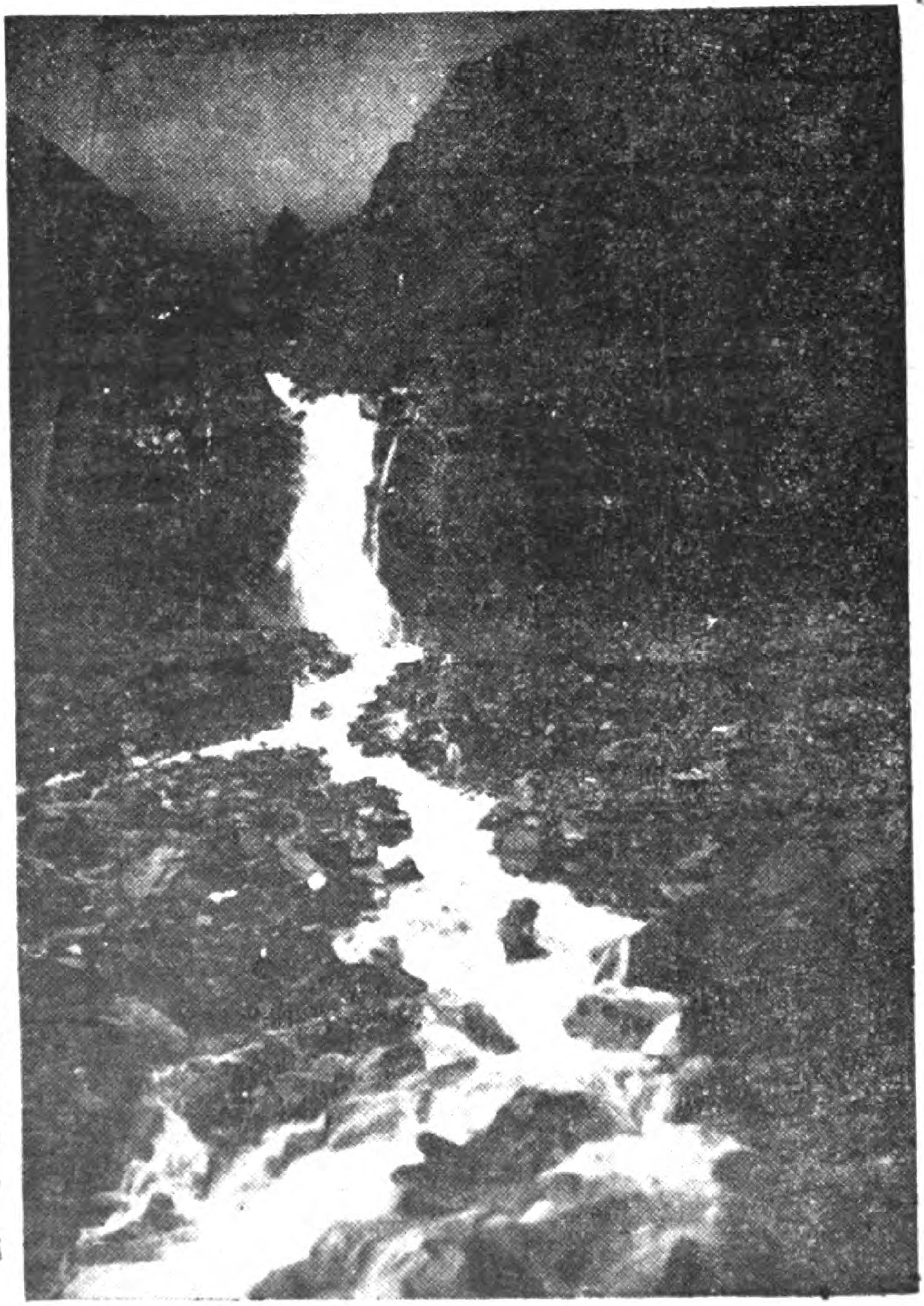
八月號

臺灣時報

大正十年八月[illegible]每月一回一日發行

SOUTH MANCHURIA RAILWAY CO., LIMITED.
SEP 5 1921



宜蘭濁水溪上流タボー溪

總務長官の更迭
總務長官送迎記事
新舊長官と世評
松本氏の海外管見
我邦南邦發展現狀
佛領印度支那近狀
辮髮の史的研究
時報（臺灣時事）
臺灣婦人の傷害犯
瑯嶠（恒春視察話）

臺灣總督府内　臺灣時報發行所

◎臺灣時報發行の趣旨

政事、時事、農事、工事、商事、學術技藝、統計等の報道評論特に臺灣に於ける統治狀態及び諸般の情況並に南支南洋に關する事項を周知せしむる爲め臺灣時報を發行す（發行規定第一條）

◎臺灣時報發行所役員

△評議員長　賀來佐賀太郎

△評議員（以下イロハ順）

池田常吉　石坂莊作　市來半次郎　今井周三郎　服部仁藏　原鶴次郎　新元鹿之助　西川利藤太　醫學博士 堀内次雄　宮島元治　宮地近思　陳鴻鳴　陳中和　李景盛　林熊徵　林獻堂　林烈堂　林鶴壽　李延禧

大竹勝一郎　農學博士 大島金太郎　大越大藏　奥田重榮　大川盛行　大賀基作　渡邊英太郎　渡邊啓太　賀來佐賀太郎　川崎卓吉　片山秀太郎　川崎軍治　川中子安次郎　簡朗山　簡阿牛　顏雲年　曾野善三郎　楊吉臣　醫學博士 高木友枝

工學博士 高田元治郎　高橋辰次郎　立川連　田村武七　田村藤四郎　法學博士 谷野格　高山仰　瀧田傳吉　津田毅一　津久井誠一郎　永田隼之輔　中村啓次郎　長尾景德　内藤正太郎　武藤針五郎　草鹿砥祐吉　工學博士 山形要助　山移定政　松岡富雄　牧山清砂　藤野幹　小松吉久　吳昌才　辜顯榮　古賀三千人　黃欣　吳汝祥　黃春帆　枝德二　江口良三郎

江崎眞隆　鄭拱辰　鄭神寶　赤石定藏　赤司初太郎　後宮信太郎　相賀照鄉　阿部滂　麻生誠之　荒卷鐵之助　淺田知定　青池論　近江時五郎　坂本素魯哉　佐々木紀綱　齋藤愛二　柵瀨軍之佐　佐藤小次郎　皿谷廣次　蔡蓮舫　木村匡　木村久太郎　許廷光　北村吉之助　三村三平　三好德三郎　下瀨謙太郎　徐杰夫　森俊六郎　平山寅次郎　平山午介　末松偕一郎　角源泉　鈴木重臣　諏訪禮次郎

△編纂委員

石井光次郎　池田幸甚　生駒高常　井澤眞民　服部武彥　豐田勝藏　東鄉實　農學博士 岡村勝次郎

△常務員

鎌田正威　神社柳吉　吉岡荒造　横光吉規　淺野安吉　赤松寅七　縣池武芳　水越幸一　三浦碌郎　御厨規三　島田彌市　本山文平

深川繁治　古山榮三郎　小西恭介　田阪千助　堤一馬　長尾景德　岡本佃　中村壽太郎　宇都宗一　前田稔靖　福與平三郎

編輯係　鷲取田一郎
同　高橋惇
同　拓大雄
同　中野順三郎
同　小森德治
同　秋澤次郎
囑託　池田壯太郎
同　峰谷彬

囑託　大槻綱彥
同　小野眞盛
同　横尾善夫
同　高倉龜次郎
同　眞倉民治
同　志田潔之
同　杉山秀
庶務及會計係　伊藤憐之助

大正十年八月十八日印刷（毎月一回）
大正十年八月廿日發行（一日發行）
（定價一册郵稅共金三十錢　廣告料一頁金二十圓）

發行所　臺灣總督府内　臺灣時報發行所
振替貯金口座臺灣第二〇七〇番
電話總督府内第八八九番

編輯兼發行人　臺北市龍口町百四十番戶　中野順三郎

印刷人　臺北市撫臺街二丁目四十番戶　澤田照基

印刷所　臺北撫臺街二丁目百四十六番戶　臺北印刷株式會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

株式會社
臺灣銀行
（臺北）

支店出張所

臺灣

基隆　臺中　嘉義　臺南　高雄

宜蘭　淡水　桃園　新竹　南投

屏東　臺東　花蓮港　澎湖島

支店出張所

支那其他

上海　九江　漢口　福州

厦門　汕頭　香港　廣東

新嘉坡　盤谷　スラバヤ　スマラン

バタビヤ　孟買　倫敦　紐育

內地

神戶　大阪　横濱　東京　門司

臺灣時報

第二十五號 目次

大正十年八月

口繪◉新舊總務長官◉臺灣體育協會の前長官送別運動會に於ける下村博士の挨拶

總務長官の更送（卷頭辭）……一
下村前長官の告別辭（總督府に於ける）……二
賀來總務長官の新任挨拶（同上）……四
下村前長官の別辭（鐵道ホテルの送迎會に於ける）……六
賀來總務長官の謝辭（同上）……一〇
米國領事ヒッチコック氏の送迎辭……一三
日月潭水力發電と下村前長官……臺灣電力會社長 醫學博士 高木友枝……一九
博識大才の下村前長官……臺灣銀行頭取 中川小十郎……二一
何一つ不愉快の無かつた下村前長官……鐵道部長 新元鹿之助……二五
青年を愛護されたる下村前長官……總督府評議會員新高銀行常務 李延禧……三〇
思想問題に留意された下村前長官……眞言宗臺灣開教監督 小山祐全……三三
新舊長官と世評……三五
松本卓爾氏遺稿「海外管見」……法學博士 下村宏……六三
我邦の南方發展の現狀に就て……木村增太郎……七二

佛領印度支那の近狀 …… 横山正修 七九

辮髮の史的研究 …… 總督府囑託 鷹取田一郎 八七

故明石將軍の筆に成れる「壺瀛仙府」の碑文（屯山生）…… 九八

時報 ◉總務長官更迭◉新舊長官の挨拶◉官民合同新舊長官送迎會◉在臺七日間の下村博士□紀州會の送別□各團體の送別午餐會□臺灣體育協會の送別大會□臺灣銀行の送別宴□朝起會の送別會□歌の會の送別□電力會社の送別會□本島人の送別宴□記者團の送別宴□其他の送別◉下村前長官の去臺◉故明石總督の臨時祭◉賀來新長官の執掌◉新竹州警察會議（新竹州報告）◉新竹州公醫會議（同上）◉桃園郡與風國語演習會（桃園郡役所報告）◉臺南女子高等普通開校式（臺南市役所報告）◉福田軍司令官巡視（臺東廳報告）◉財團法人臺東奬學會（同上）◉畜牛改良と印度牛（同上）◉金融概況（金融課報告）◉臺灣商況（商工課報告）…… 一〇一―一三三

海南博士の歌（鳥川生）…… 一三四

臺灣婦人の傷害犯 ……（調査課調査） 一三七

寫眞宣傳が戰敗の原因ださ …… G K 生 一四四

瑯璚 …… 仙俗居士 一四六

臍の緒 …… 蕉鹿夢 一四九

詞苑 …… 一五一

雜報 ◉臺灣日誌◉人事消息◉任命◉新刊紹介◉寄贈書目

漢文◉於總督府下村前長官之告別辭◉於總督府賀來新長官之告辭◉於鐵道旅館官民送迎會下村前長官之別辭◉於道鐵旅館官民送迎會賀來新長官之謝辭 …… 一六一

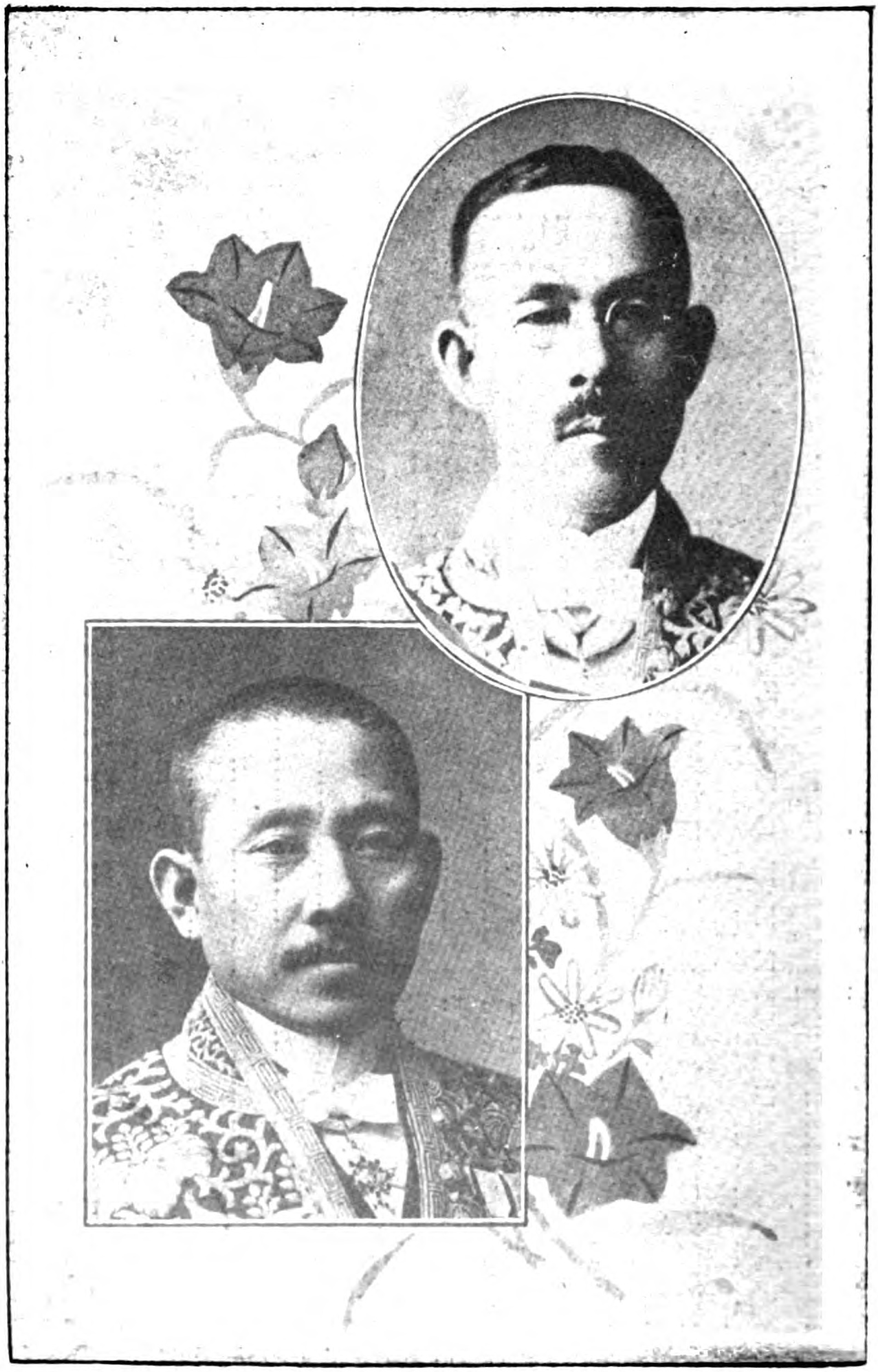
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

問屋業
販賣業
代理業

三井物產株式會社臺灣支店

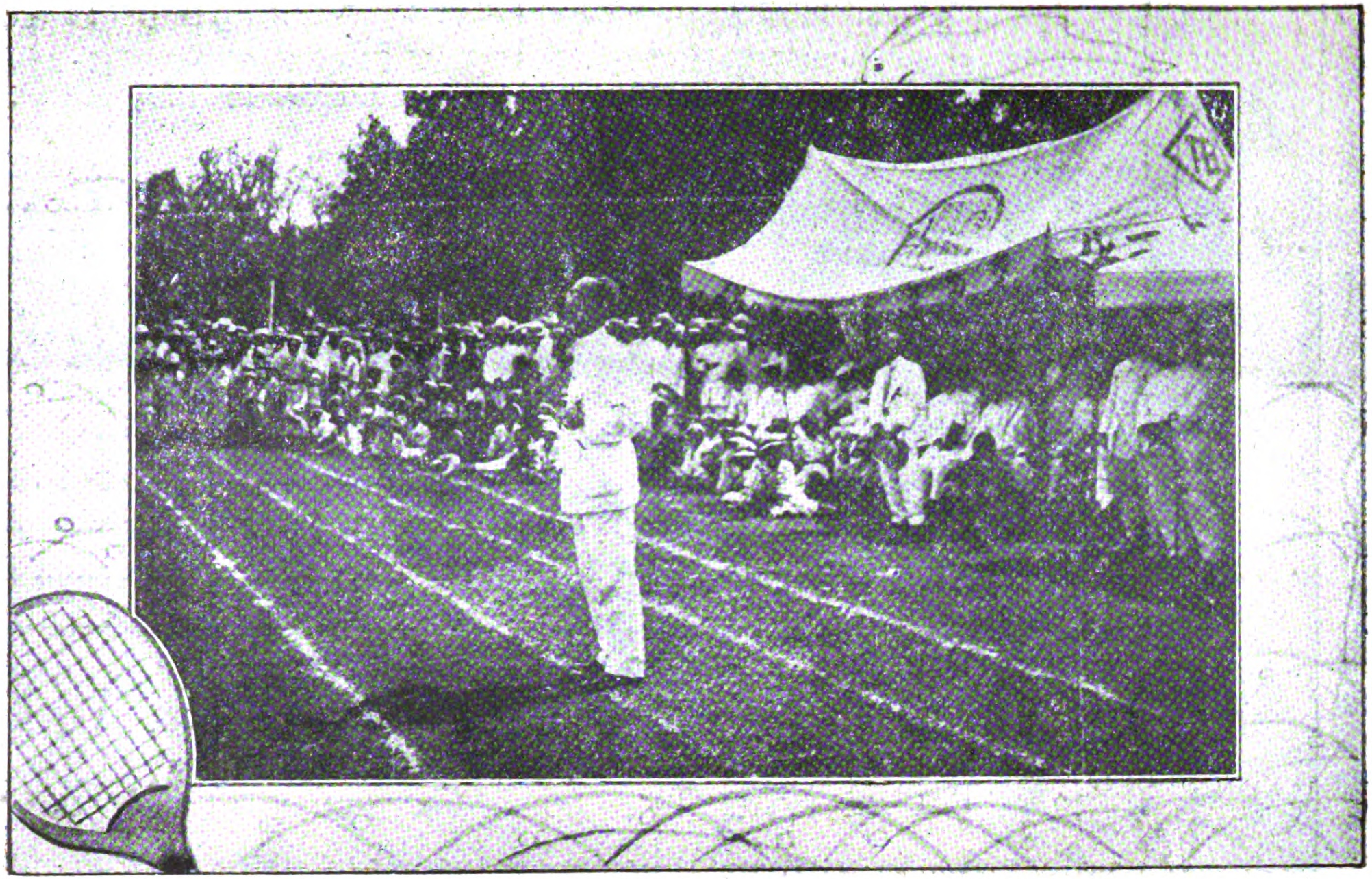
電話
長四〇三番
二〇四番
五七五番
六〇〇番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



下村前總務長官（上）と賀來新總務長官（下）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



臺灣體育協會の送別大競技會に於ける下村會長の告別演説

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣時報

大正十年八月號

總務長官の更迭

七月某日、時報子、北軒に偃して星斗の闌干たるを望む。忽ち聞く、總務長官法學博士、下村宏君、病の故を以て冠を挂け、專賣局長賀來佐賀太郎君、其の後を襲ふと。嗚呼大地の悠久なるに比して、人事の曷ぞ爾く倏忽なる。案ずるに本島主腦の行政機關は即ち臺灣總督にして、總務長官以下は之が補助機關たり。故に長官の更迭は法理上敢て至重の意義を爲すものに非ずと雖、政治上、長官その人の人格風尚は、一島の施爲に關係し、民衆の趨嚮に影響する所頗る大なるものあるを以て、其の更迭や決して輕視すべからざるものあり。下村前長官は博識公才にして誠實無私、其の總督政治を補佐するや、卓然として高處に觀、敢然として機方自出、其の島政に對するや、應酬萬端、倦むことを知らず。在任七年、三代の總督を補佐し、渾身の熱誠を島治島民に捧げたるの至誠に至りては、歷代の長官中、蓋し稀に覯る所、況んや其の參劃せる事績に至りては、法律第三號を初め、總督府評議會、臺灣教育令、地方自治制、鐵道、港灣、電力、埤圳其他物質精神兩界共に著大なるもの尠からざるに於ておや。今忽ちに此の好長官を失ふは本島の一大損害として痛惜に堪へざるも、然かも下村博士は拮据七年、之が爲に健康を害したるものあるに於て、吾人は遺憾ながら博士の爲に其の御任を諒とする所なかるべからず。

新任總務長官賀來佐賀太郎君は本島に在職すること既に十八年、島情に精通し、加ふるに謹嚴にして周密、從來の實績亦た見るべきもの尠からず。特に從來此人にして下村氏の後を襲ふ、誠に其の所を得たりと謂ふべし。特に從來民政長官を内地に擢用せるの例ありしに反し、今回は即ち新領政治に經歷ある本島官吏中より登用せるの一事、吾人の大いに贊同を表する所なり。但だ前長官も「施設の種は既に蒔かれたるも耕作收穫の却て困難なる重荷を後人に付與したるの感なきにあらず」と言へる如く、今後島政上幾多の難問題を生ずることあるべく、隨つて此の難局に當るべき新長官の勞苦亦た容易ならざるべし。然かも吾人は新長官の手腕技量の、克く有終の效果を收むべきを確信し、本島官民の一致協力して、此の蒔かれたる新領統治の實績を擧げんことを、希望して已まざるものなり。易に曰く「天行健、君子以自彊不レ息」と。於戲、當局其人を代ふるも、島治の勵精は、夫の天の運行の至健なるが如く、冀くは自から彊めて息まざらんことを。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

總務長官送迎記事

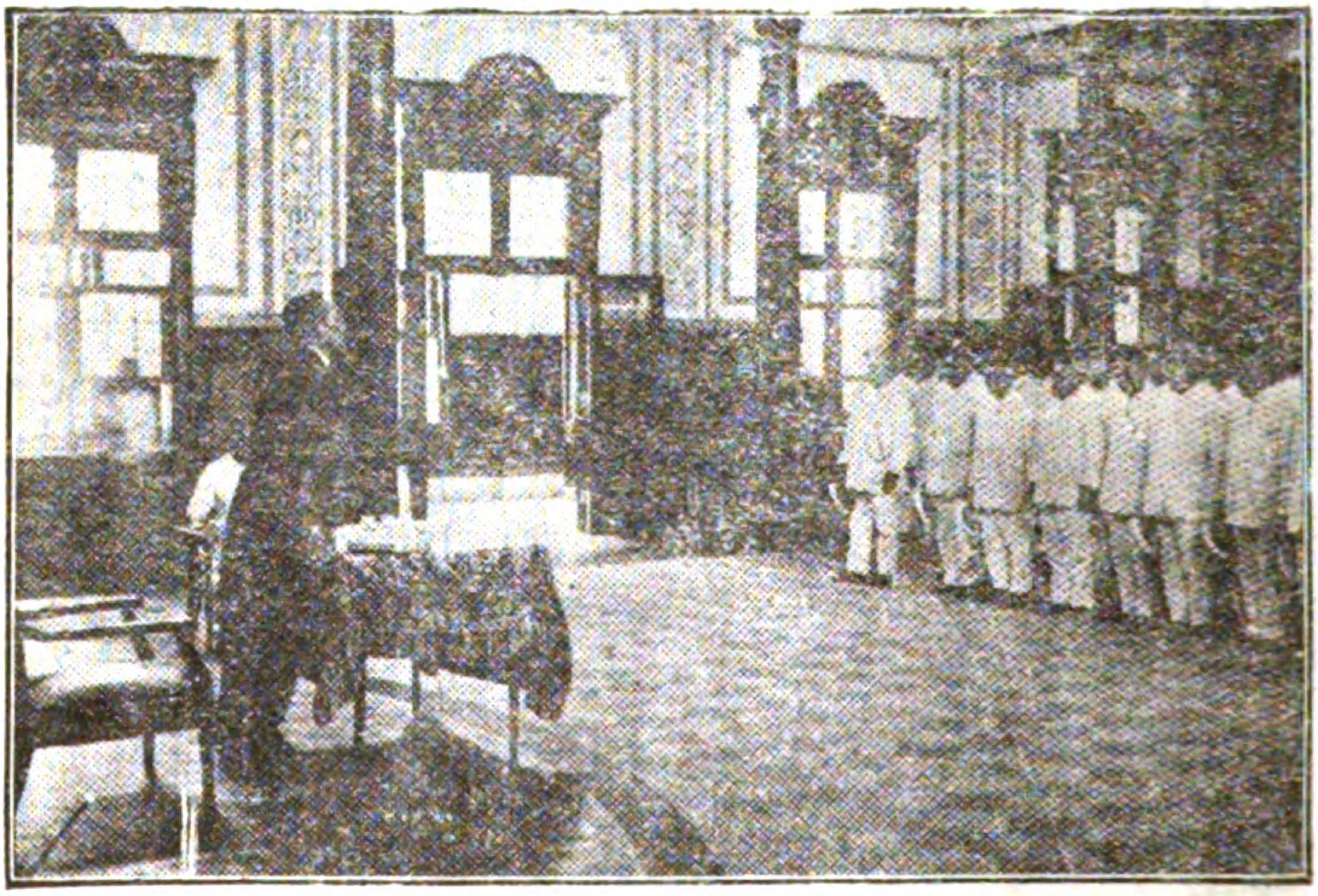
下村前總務長官の告別辭

七月二十二日、總督府會議室に於て

私は今回退官の命を拜しましたので、本日各位に御挨拶を申上げます。私は大正四年の末に就職しまして足掛七箇年、此の間三代の總督に歴任致しまして大なる過も無く今日に至つた事は、歴代の總督閣下の御指導の賜たるのみならず、一面には各位の深甚なる御聲援の結果に外ならぬ。非德短才の私は、在職中は各位に禮を缺き、且つ言葉足らず常に各位に對して自ら遺憾とする點を自覺して居りましたが、此の機會に深く各位にお詫を申上げる次第であります。私は明石總督薨去の砌に骸骨を乞ひ、偶々田男爵が後任となられた過渡の際、私は其の儘就任したのでありますが、私が假りに健康でありましても、人心を新にする爲、又臺灣統治の爲めから申しまして、最早其の職を退いて好い時機であります。殊に今春中部海岸を旅行いたしました時から再び胃を害し、爾來今日まで尙ほ藥餌に親しんで居ります、此の微弱な身體で此の劇務に堪へて居た事が寧ろ奇蹟であります。故に私は一意健康の回復に從事し度いと考へます。總督閣下、中央の先輩同僚より、私の身上に就いては一方ならず配慮を致されましたが、私は今日特に下村として其の經歷、周圍の事情等、各種

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の點から是非御奉公しなければならぬ事があれば格別、さなくば、よき適任者の多々ある場合には、私は退いて健康を計り、又出來得べくんば斯かる際海外に出て身神共に養ひ、他日の御奉公に資し度いと存じて居る。但し臺灣に於て私は始めて各般政務を見る事を得て、私としては之れ程多大の經驗を得た事は無いので、又此の新領土に對する統治に就いては、中央に於て動もすれば閑却されて居るので、私は自分の將來は全部でも一部でも必ず新領土、海外と云ふ事が含まれて居る事に沒頭し度いと考へて居ります。臺灣に於ても私が免官後の今日、玆に臺灣に參りましたのも、申迄もなく皆さんに



下村前長官の總督府に於ける告別の光景

お禮を申し、御暇乞を致し、同時に臺灣を忘れたくないと云ふ微衷に外ならぬのである。今後自分の事情さへ許せば、私は將來必ず年に一度位は臺灣に參り度いと思つて居る。又私が臺灣の爲めに役に立つ事があれば、喜んで微力の限りを盡し度いと思ひます。是は總理大臣にも總督閣下にも縷々述べて御諒承を得たことで、既に從來總督が三度代られて總督として夫れ夫れ又統治の方針も御有ちになつた事であります。今回は既に現總督には一昨年御就任後、其の統治の方針を著々御實行になつて居ります、唯今回は總務長官が更迭したに過ぎないのであります。而かも私の後任としては前の專賣局長

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

賀來君が御新任になつたのであるから、臺灣の事情に全く沒交涉である人が來らるゝに比し多年島内に在つて各般の事情に精通して居られる人を後任に得ました事は、洵に臺灣の爲めに喜ぶべきことで、私の在職中も歴代總督の指導と時運の變遷とに依りまして多少施設も致しましたが、謂はゞ之れは種を蒔いたに過ぎません。此の實を結ぶと云ふことが、又上は總督より下各位の御盡力に待たなければならぬことゝ思ひます。今日は申す迄もなく世界各國を通じて、殊に我國は日に月に國事が多端であります。吾々は高所に立つて單り臺灣の統治と云ふ問題許りでありませぬ、我が國の進歩の爲に、餘程高所に立つて其の志を一にし、互に協力して臺灣の統治、惹いては日本の統治、東洋の平和、是等の點に餘程思を致さなければならぬと信ずるのであります。どうか私は皆さんと倶に、縱へ位置が變つてもお互に臺灣の爲め小異を捨てゝ大同に就き、共に微力の限りを致したいと思ふのであります。私は皆さんに七年の長いお馴染を回想致しますると、萬感胸に迫つて言ふ所を知りませぬ。唯總ては臺灣の隆昌、臺灣の統治を中心にして。お互に終始致したい、斯ふ思ふのであります。返す／＼も私が甚だ不德短才でありました爲に、此の七年の間、各位には一方ならぬお手數を掛けました段は、厚くお禮を申し、又お詫を申す次第であります。尚將來私以上に新長官に御援助下されて、どうか本島の統治の爲に御盡力あらんことを、呉れ／＼も祈ります。

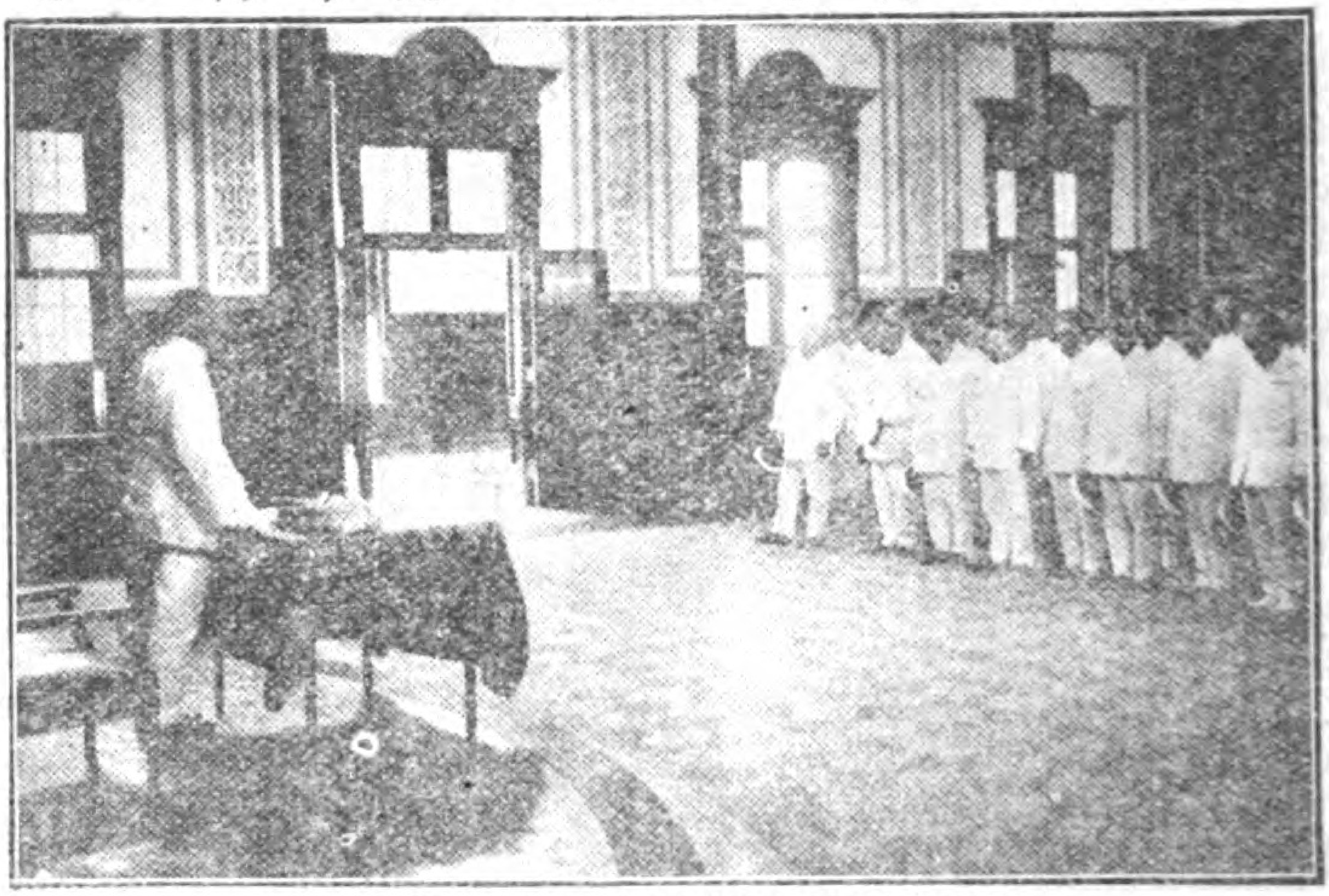
賀來總務長官の新任の辭

七月二十二日、總督府會議室に於て

私は此度總務長官の重任を拜命することゝ相成りまして、玆に親しく各位と相會することは、實

に感慨に堪へない次第で御座います。御承知の如く、私は多年總督府に勤務致して、職を代ふることと數次に亙るも、其間大過なく今日に至りたるは、實に歴代總督長官の御指導と、同僚各位の御同情とに依るもの多かりしと信じます。此の點に就いては常に感謝の意を表して居ります。

臺灣統治の方針に就いては、總督閣下の指示せられ居る處であつて、長官の更迭は何等之に影響を與ふべきものにあらざるは申す迄もなき事で、私としては唯本島に於ける多年の經驗と知識とを基礎として、其の統治の方針に準據して總督閣下の意圖を體得し、施政の緩急を調節することに依りて、總督輔佐の任を完ふすることに最善の努力を致す外はないのであります が、叙上の任務を遂行するに當りましては、一に各位の御援助に待たなければならぬので御座いまするが、此の機會に於て是非各位の留意を望まなければならない事があるのであります。其は各位が各自其の職務に趣味を持ち、一意專心與へられたる職務に力を致すと云ふこと、緊張せる協力一致とであります。趣味なき事物に對して折角精神の充實を缺くものあるを恐れますからで御座ります。又何人と雖も、事を爲すに協力一致の必要を感ぜざるものなかるべく、今日と雖も總督閣下の麾下に一團となつて、協力せられつゝある譯で御座



賀來新長官の總督府に於ける告辭の光景

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ります。私は其の一人として日夜其の足らざるものあるを憂ひ居る者であります。今日以後は私自身率先して、如何なる犧牲を拂ふも此の缺陷を充實して一層終結の中心力を强ふすることに努力致す決心で御座りますから、何うか各位は私の意の在る所を諒せられ、總督府の各機關が眞に協同一致、緊張せる活動を爲し、本島統治上の美果を擧げると云ふことに、最善の努力を願ひ度い次第であります。

官吏が官規を守り其の風格を保つと云ふことに就て、常に周到なる用意を拂ふべきものであるは今更言ふを須ひず。特に本島の如き土地に於て苟も公職を奉ずるもの丶大いに考慮すべき所であると信ず。此の點に就いては一に各位の自省に待ち度いと思つて居るので御座います。以上新任に際し希望の一端を述べて御挨拶に代ふる次第で御座います。

下村前長官の別辭

七月二十三日、臺北鐵道ホテルの官民合同大送迎會に於て

私が今回退官の恩命を拜しましたるに付、此盛大なる送別の宴を御開き被下ましたる段、私の深く光榮とし感激措く能はざる所で御座ります。又只今は全く過分の御挨拶に與りまして却て恐縮の外は御座ませぬ。

顧みれば、下村は大正四年、民政長官の重職を拜命してより、茲に足かけ七箇年となります。此歳月は必しも短かしと致しませぬ。同時に私は此要職を汚して此間三代の總督に歷任致したる事は、

或る意味に於て私にとりまして不幸なることであり、遺憾とする所であります。然しながら又一面此間大過なく今日に至りましたることは、誠に私の自ら滿足とする所でありまして、如此は歴代中央關係當局を始め、臺灣官民諸君の御厚情の賜でありまして、殊に三代の總督閣下の御指導御誘掖に俟つこと多大なりしは、申すまでもなきことであります。玆に此機を以て衷心より官民各位に對し、厚く御禮を申上げまする。

私の官場生活に於ける歳月の大部分は、遞信省の爲替貯金の事務に費したのでありますが、是は國務の全體から申しますと、極專門の一部の仕事であつて、且つ社會の表面

鐵道ホテルに於ける官民合同長官送迎會宴席の一部

玄關のみを知るに過ぎなかつたのであります。然るに臺灣に轉任致しますると、土地こそ中央より隔絶致して居りまするが、新附の民衆に對する統治と云ふ。重大に然かも動ともすれば内地に於て閑却せられんとする新領土の經營と云ふ問題と、猶進んで南支、南洋一帶の事情にも相當の知識了解を得ました。殊に私が執る處の事務の分量は内地各省に比して固より少いのは當然でありますか、其の品質範圍に至りては、やゝ内地の政務全體と其の趣を一に致します。云はゞ内地各省に亙る事務につき、表裏を通じて親しく經驗する事を得ましたることは、誠に私として云はゞ眼を開けて貰ふたと同樣

で、何んとも感謝に辭なき次第であります。

私は三代の總督の御意圖を奉じて種々の制度施設を創むることに微力を致した積りでありますが、言はゞ僅かに種を蒔いたと云ふに過ぎないので、其の蒔かれたるものを培ひ耕し、遂に之を成熟せしむることは、一段の苦辛經營を要するものと考へます。從つて心底を告白すれば、立案創業の功に誇る處ではなく、却て後に殘る方々に重荷を移したと云ふ樣な感じも致すのでありますが、是も健康の許るさゞるが故と御用捨下さいまして、今後の經營に就ては甚だ勝手ながら有力なる官民各位の御盡力を願ひ度いと存じます。

貧弱なる痩軀を擁したる下村は、一昨年前總督の薨去に前後してアミバー赤痢の爲め三箇月に亙り臥床しました。爾來慢性の腸胃加答兒は痼疾となり、今春海岸線巡視以來、今猶引續き藥餌に親んで居りまする。貯金局長としての晩年には、親友の多くは一つ方向轉換をせよと云ひました。今や同じ言が總務長官としての私に對し繰り返へされました。下村の健康は此七箇年の活動に堪へたること誠に一の奇蹟であります。然し此間の虐使により當に相當の靜養を要すべきことは事實であります。又下村の頭腦も此七箇年の劇職によりて吐き出す計りで涸渇して來ました。相當の滋養分を與へねばなりませぬ。一面には肉體的健康の恢復、又一面には精神的に新たに見聞を廣くすることは、當年四十七歳の下村に對する自らの要求でありますから、事情さへ許せば或る時期に久し振りに海外の空氣を吸ひに往かうかと考へて居ります。随て今回私が退官するに際しては、身分上に關して總督閣下始め先輩同僚各位の一方ならざる御厚配に與りましたることは、衷心より感謝する所であります。然しながら前述の次第にて此際一切の公職より離れ、專ら靜養して宿痾を根治致し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

度、退官の恩命を仰いだ次第であります。

臺灣の統治の駸々たる歩武は、既に現總督就職以來正に各位の知悉せらるゝ如くであります、今回は單に總務長官の更迭であります。而して其後任の長官は私の古き校友として、又同僚として深く畏敬し且親愛する所の賀來君でありまして、其の殊に長く臺灣に在任せられたる關係上、啻に事務引繼の上に便宜を感ずるのみならず、將來の臺灣の施政の上に新に見るべきものあるは疑を容れぬ所であります。唯私は七箇年の間、德薄く智足らず、部局長始め總督府茲に各官衙の方々には、一方ならざる御面倒御苦勞を掛けましたことは、此機に於て幾重にも陳謝する次第であります。又民間各位に對しては、存じながら禮を缺き情を盡さず、甚だ至らぬ點の多かりしことは、深く自覺して今更慚愧に堪へざる次第であります。

今回退官に際し歸臺致しましたるは、七箇年間を通じ公私共御厚情に與りましたる各位に對し、告別を兼ね親しく御禮申上げますると同時に、猶一は平素の言責の一を果したい爲めであります。卽ち現職を離れたる下村と臺灣と云ふことであります。從來臺灣の官民、重なる人々の中には、常に臺灣を念とし、機會ある每に渡臺せらるゝ方も無いではありませぬ。私は常に之を見て推服致して居ります。然し多數の方は其地位を去れば、兎角臺灣の地に疎遠となり勝ちであります。之は距離が遠く袋島であるので、寄り道と云ふ譯にいかず、何かと仰山になり、先方にも種々迷惑をかける、先づ此の如き理由で自然足が遠のくのでは無からうかと思ふ。之は誠に尤も千萬なことであります。扨て私とても將來忙しい身分となる時があれば、自然臺灣を見舞ふことは困難とならう。然し閑であればある程、一布衣一浪人であればある程、臺灣の土地を踏み度い。果して現實し得るか否

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

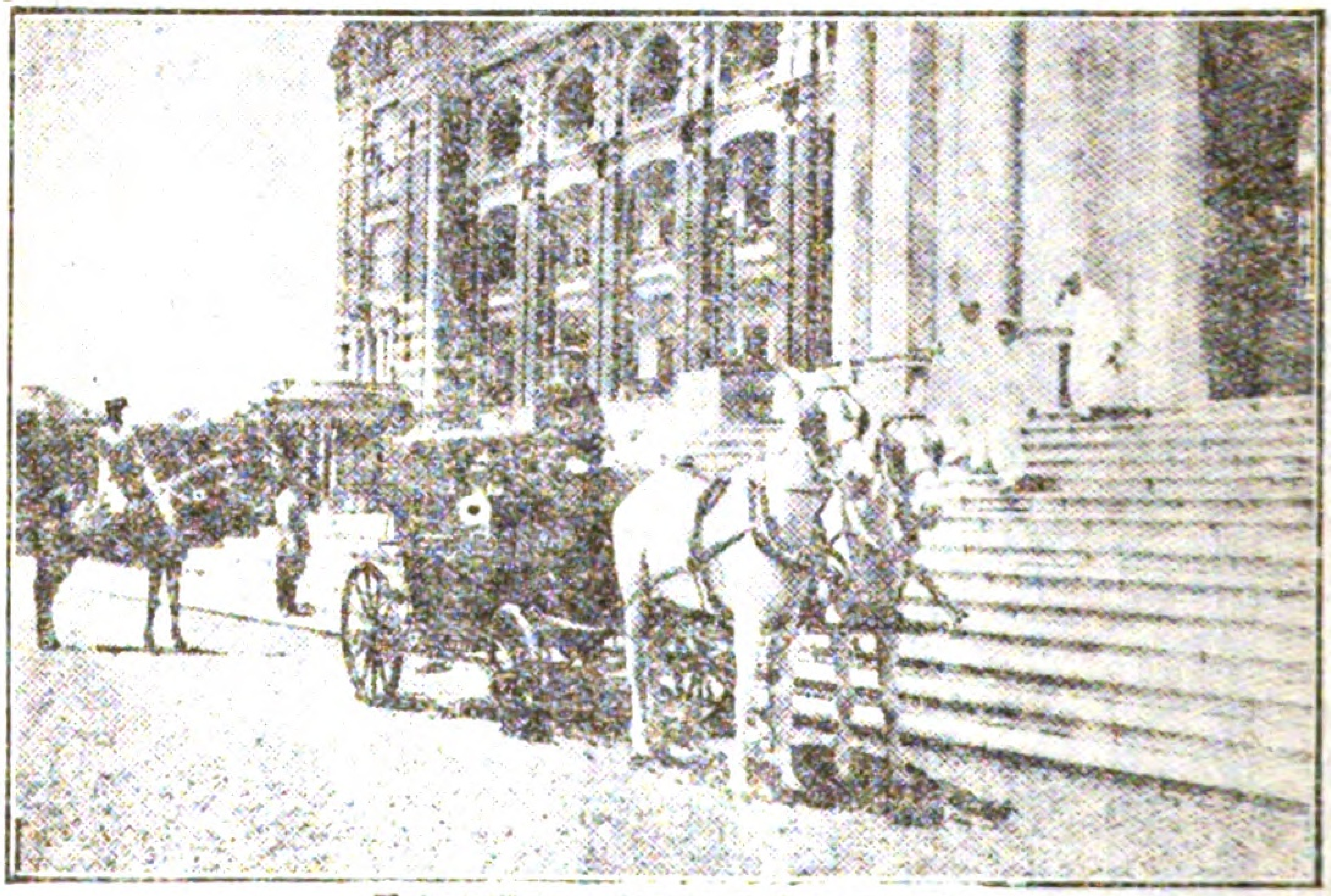
かは保證出來ませぬが、眞に活動期を去り、老後の餘生を送るとなれば、北投か草山か、それとも思ひ多き日月潭の菱の花咲く湖邊に、又は他日五穀穰々たるべき官佃溪の界隈に、茅屋を結び度いとも考へて居る位でありまして、將來事情の許す限り、せめて一年に一度位はどうか御邪魔したい。仰山な歡迎とか何とか申しますから事が面倒となる。私は例により浴衣一貫で、手拭を腰にした一介の老書生として、飄然として相思樹畔を逍遙して見たい。又私は職務を以て骨を此地に埋めたる明石大將の墓前に時々敬意も表したい。又私は我が體育協會を創設しました。之は何分共體育奬勵の主旨を諒として各位の御後援を仰ぎ度い。臺北の新公園のグラウンドで三伏の炎天の下、野球に庭球にトラックにフ井ールドに、奮闘する幾千百の健兒の喚聲は私の耳より離れないのであります。私は唯此競技の見物丈けにても參り度いと存じます。私は何としても此思ひ出多き臺灣は忘れられないのであります。貧弱極まる痩軀なりと雖も、下村には口もあり手もあります。私は臺灣の爲めには常に微力を效さんとする者であります。此點はくどくも總理大臣並に總督閣下にも申上げて御諒承を得た次第であります。今回歸臺致しましたのも、又此席上にかく申し上げるのも、一は將來自らの桎梏とし、自ら言責を忘れない樣、自分と自分を縛るのであります。私は臺灣は忘れませぬ。此一言を申上げ度い爲めに歸りました。重ね〴〵茲に各位に御禮申上げます。申す迄もなく國事日に〴〵益多事多端であります。どうか皆樣も御健康で此上とも御活動の程、衷心より祈ります。茲に終りに臨み諸君と共に杯を擧げて我が臺灣の益々健全なる進步發達を祝し度いと存じます。

賀來總務長官の謝辭

七月二十三日夜鐵道ホテルの官民合同送迎會に於て

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

今夕は私が下村長官の後をうけて昇任致しましたに對し、前長官送別を兼ねて私の爲めに斯る盛大なる祝賀會を御催し下されました事は、身に餘る光榮にして感謝に堪へない次第で御座ります。特に御出席相成られ居る方々の多數は、私の平素御交誼を願つて居る方々にあることを承知して感謝に堪へない次第で御座ります。御承知の通り私は青年時代に臺灣に赴任し來り、前後十八年勤續、五代の總督、五代の長官へ仕へ、大過なく今日に至りたるは、實に歷代の總督長官の御指導と、僚友知己の御同情と御援助とに依りしもの多きを信じ、常に感謝し居る次第で御座ります。



賀來新長官の總督府に初登廳光景

總務長官としての任務は、總督閣下御指揮の下に克く之を輔佐して、臺灣統治の根本方針に依據し、總督閣下の御意圖を遵守して、施政の運用を圓滑にすることを努むるにあるのでありますから、其の責任の甚だ重大なるものあることを思ひます。特に現時の如き社會上經濟上の安定を缺ける秋に於ては、愈々益々責任の重きを感ずる次第で御座ります。

只今本祝賀會を代表されまして、高木電力社長の御挨拶にも亦領事團及び外國人團を代表されました米國領事ヒッチコック君の御演說、更に下村前長官の御言葉の中にも、私に對し多大の御推賞と將來に對する御期待を持た

れ居る事を伺ひましたが、私としては甚だ當らざる次第で、唯其の任重く力足らざるものあるを恐れて居る次第で御座ります。併し私は私の重任を果す爲めには、多年本島に在勤の賜たる幾分の經驗と智識とを以つて誠心誠意己を空しうして公に盡し、且つ僚友の協助と識者各位の御援助とに依りて、其の目的を達成する外ないと存じて居る次第で御座ります。近き世界戰爭の實蹟を見ましても、其の後の國家又は社會の變動に徴しましても、事物の達成には相互の理解と協調との必要を感ぜぬものは無いのであります。

臺灣統治に於ても亦然りで、我々官吏が單に總督閣下の意を遵守遂行し行くのみでは、如何なる努力を爲すも到底充分に其目的を達成すると云ふことに、滿足の結果を得らるゝものではないことゝ信じますから、是非とも島内有識の士と互に相理解し、克く協調を保ち、相共に力を協せて本島福祉の增進、人文の進展に盡瘁する事と相成らねばならぬので、然してこそ初めて其の目的の達成を見る事を得るものと信ずるのであります。依て私は出來得る限り此點に力を注ぎ、官民協調の連鎖を堅實にすると云ふ事に就て、最善の努力を致したいと決心致して居ります次第で御座ります。各位に於かれましても何卒私の微衷の存する所を察せられ、臺灣の幸福增進の爲め御協力下さりますす様、切に御願申上ぐる次第で御座ります。更に外國領事各位に對しては厚く今夕の御出席を感謝致しますと同時に、今後一層の御親交を御願ひ致します。尚外國人側に對しては、今後相互の親善なる關係を增進することに付、相當の御援助を賜はらんことを切望して止まないのであります。終

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

りに望みまして、重ねて今夕の御厚意を感謝し、謹て御禮を申し述べます。

米國領事ヒッチコック氏の送迎辭

七月二十三日夜鐵道ホテルの官民合同、總務長官送迎會に於て

閣下竝に諸君、私は玆に領事團竝に外國人團體を代表して前下村長官閣下に對し送別の辭を述べ、新任賀來長官閣下に對し歡迎の辭を呈するの光榮を有します。下村博士は日本政府に於て眞に有爲なる政治家に非ざれば到底見出し得ざる最も責任ある重要なる地位に多年在任されたるが、今次の御辭職に由り七箇年間の植民地官歷を了られました。由來總務長官の如き重要なる任務に當る人々には、幾多重要なる資格ありと雖も、洞察力、先見の明、機智、内外の情勢に精通する事、四圍の人物を良く抱擁し進取せしむるの力等は、蓋し其最も高尙にして必要なものであります。多年下村博士の厚誼を辱ふし且つ親しく施政功業を目擊するの特權を得たる我々外人は、同博士が行政家として必要なる此の種の高尙なる要件を遺憾なく發揮されたる事を明かに承認するものであります。私が初めて下村長官に面會したる時に、同長官が米國に生れ又は米人の雰圍氣中に成長せる人士中にも稀に見る程に、良く米人の思想を諒解し、其の社會的事情に曉通され居たる事を知り、大に驚き且つ敬服したのであります。爾來同博士と交際日に厚きを加ふるや、私は博士の該博なる智識の

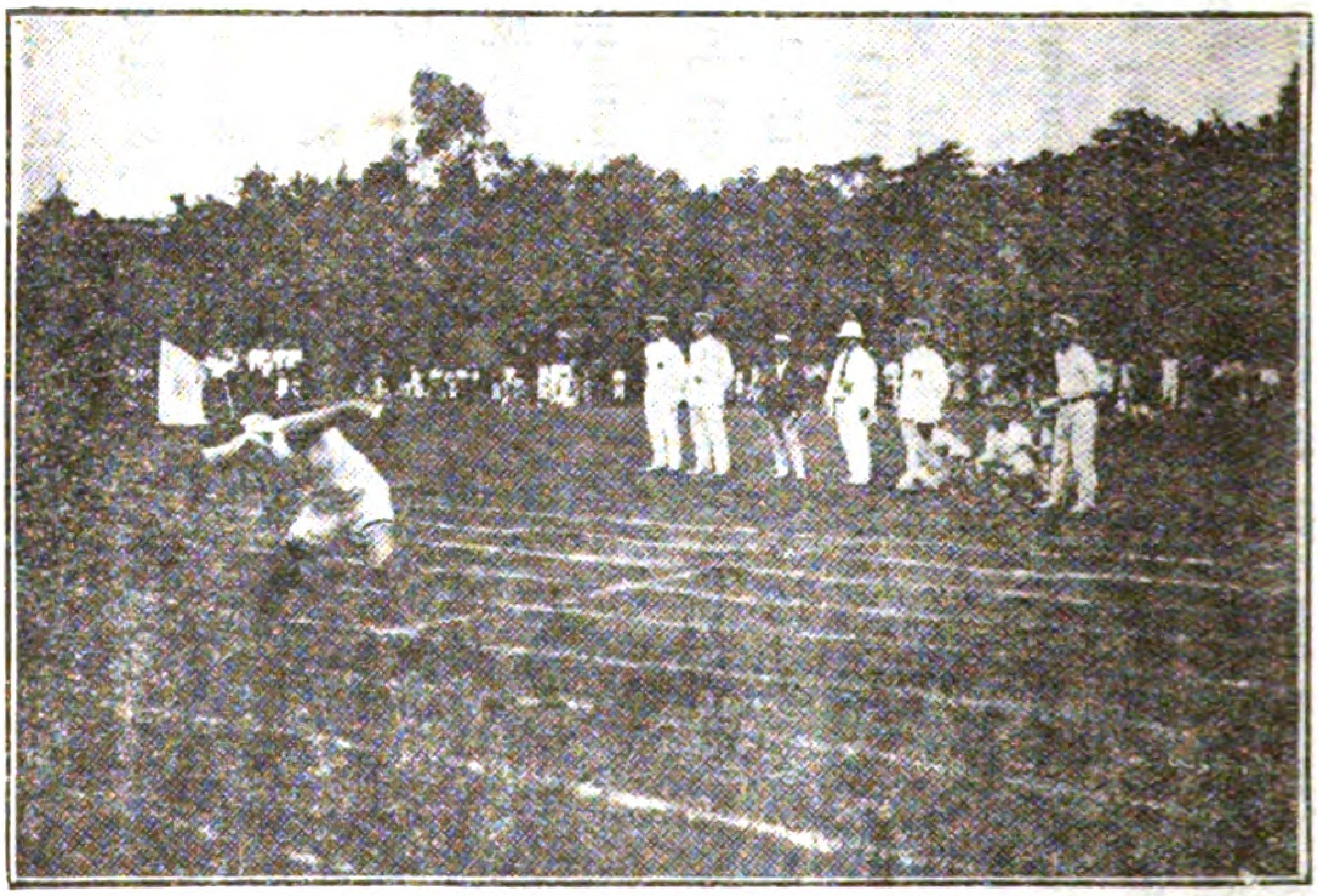
獨り米の問題のみに限らず、廣く世界諸般の問題に關しても驚くべき程通達し居る事を知りて益々感嘆したのであります。下村博士の知識能力に對して嘆稱を禁じ得ざると同時に、同氏在官七年中光輝燦爛たる行政上の治績を成功せしめたる此の驚くべく大なる能力の一端を窺知する事を得たるを喜ぶのであります。下村博士の知識能力の卓越し居るに對して賞讃を拂ふのみならず、私は同博士より常に教示されたる御厚情と御親切に對し深く感謝の意を表する次第であります。私は臺灣に着任以來日猶は淺き者でありますが、從來何回となく同博士の御指導と御教示とを受けまして、幾多の困難を排除し幾多の問題を解決し來りしを欣幸として感謝するものであります。此幾多の場合に於て特に長官の思付より便宜と厚情とを與へられましたに就きましては、一層感謝の意を表する次第であります。臺灣の如き習慣事情を異にせる土地に新に渡來せるものは自然幾多の困難に遭逅するものでありますが、常に長官より機宜の指導援助を賜り愉快に滿足に職務を執行し居りましたに就きましては私は、私の僚友並に外國人に代り特に深厚なる謝意を表する次第であります。

由來在臺外國人は役人たると市人たるとを問はず、總督府と常に密接なる關係にある事は大いに幸福とする所であります。臺灣總督府をして特色あらしむる寛仁宏量なる政策の下に施設されたる機關を置かるゝ中に、外事課の如きは事務の處理最も宜しきを得、大いに模範とすべきものありと認められます、私は下村博士を以て寛量大度の權化として敬慕し居るものでありますが、吾々外人は多くの場合に於て同長官より恩惠を享受したるものであります。斯くの如く從來下村長官より寄與されたる周到なる御親切と至情を罩めたる御歡待とに對し、眞實なる謝意を表するの機會を得た

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

る事は吾々の喜びに堪へざる所であります。吾々は今下村前長官に對し送別の御挨拶を述ぶるは甚だ遺憾とする所でありますが、然し一面より見れば斯くの如き重要なる地位にありて多年手腕を洗錬し、才能を大成したる下村博士は、日本帝國の前途益々多事なる秋、他の更に重要なる局面に猶一層必要にしてより大なる貢獻を爲し得るものと考ふるのであります。茲に吾々は同博士を送るに當り同氏の前途に横はる歷程を通じて益々光輝あり成功あらしむる様衷心より希望し祝福して止まざる次第であります。

新任總務長官賀來閣下には既往十八年の長きに亙り總督府各方面の要職に當られたれば、本島就任以來未だ二年に充たざる私が閣下に對し歡迎の辭を述ぶるは烏滸がましく潛越の嫌あるかも知れません。然しながら吾々は最も良く知るものを最も熱心歡迎すると云ふことを御記憶なさるゝならば、吾々が臺灣總督府の新任總務長官として同氏を歡迎するの、吾々の微衷を諒解さるゝ事と思ひます。本島に於ける過去十八年に亙る賀來氏の御經歷を回顧すれば賀來長官は總督府內幾多の重要なる地位に歷任し、本島の統治に就きては極めて該博なる智識と豐富なる經驗とを有せられて居る事は皆人の驚く所であります。今にして之を思へば運命の神が賀來氏をして今日の如き重大にして



下村前長官送別臺灣體育協會大競技會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

光榮ある任務を負はしむべく竊かに同氏を試練し計畫しつゝありしか如く想像さるゝのであります。賀來氏は專賣局長としては吾々外國領事が屢々接觸するの光榮を有したる地位に居られたので、在臺の官民は充分なる試練を經、豐富なる經驗を有せる賀來閣下を新任總務長官に迎へ、斯くして本島の將來に對し大なる光明を認め、文物產業、駸々乎たる發展を期し得るは實に慶賀に堪へざる處であります。終りに臨み私は賀來新任長官に對し、將來過去に於けるよりも尙一層の御懇情を賜はらん事を懇願すると同時に、將來吾々外國人團は公私共益々親善なる關係を增進し、出來得る限り新長官と協調し、以て其任務を翼贊せん事を期する次第であります。玆に今日同氏が贏ち得たる大なる御光榮に對し衷心より祝意を表します。

（原文）

Your Excellencies and Gentlemen:-

I should like, on behalf of the Consular Corps and the foreign community in Formosa, to say a few words of farewell to His Excellency Dr. Shimomura, and of welcome to His Excellency Mr. Kaku, the former Chief, and the new Chief of Administration in the Formosan Government General.

The resignation of Dr. Shimomura brings to a close seven years of service in one of the most responsible posts in the Japanese Government Service, a post to be filled only by a statesman in the true sense of the word statesman. Vision both insight and foresight tact, a wide knowledge of international and national affairs, and the ability to inspire confidence in those who work with him, are but a few of the high qualities of mind and heart which are required of the man who fills the position of Chief of Administration in the Formosan Government Gen-

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

eral. To those of us who have been privileged to enjoy the friendship of Dr. Shimomura and who have followed his work here, there can be no doubt of his having met these high requirements to the full.

My first meeting with Dr. Shimomura brought me the delightful surprise of finding one who understood American ideas and social movements as but few do are not born and brought up in the American atmosphere. As my acquaintance with him ripened I found this broad knowledge of affairs extended not only to Ameriacn subjects but included a conversance with matters practically worldwide in scope. In the midst of midst of my admiration I was able to comprehend, to some small degree at least, the exceptional abilities which had made possible the brilliant administration he is now bringing to a close.

And not merely matters of the intellect. I must confess a debt of gratitude to his kindness of heart. As a newcomer to Formosa I consider myself fortunate in having had the benefit of his advice and guidance at many times when I should have been greatly hampered, lacking it. And besides, there were the many little courtesies which need not have been given, perhaps, but which, nevertheless. were given and for that very reason, the more highly appreciated. I know I speak for my colleagues, as well as for myself, when I express our very especial thanks for his ever readiness to lend a helping hand through the difficulties natural to a newcomer in a land of the peculiar conditions of Formosa.

We foreigners in Foamosa are exceptionally fortunate in the intimate contact we enjoy with the Government General, whether as officials or as private citizens. The ably conducted Division of Foreign Affairs is but one example of the many conveniences provided for us under

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

the broad and generous policies which have characterized thg goverment of the island. I have always considered Dr. Shimomura as the personification of this broadmindedness of which we foreigners have been the beneficiaries in so many instances and am glad of the opportunity to express our great appreciation of the thoughtfulness-the feeling of true hospitality which has been manifested thereby.

While it is with keen regret that we speak the word "farewell", we cannot but realize that the abilities of Dr. Shimomura, trained and seasoned by seven years of service in a post of high responsibility, must be of increasing value to the Empire in other and yet higher posts. And in speaking our farewell, we add to it our heartiest and very best wishes to accompany him throughout the brilliant career we know lies before him.

His Excellency, Mr. Kaku, may think it presumptuous of one who has not yet completed his second year in Formosa to extend the hand of welcome to one who can look back upon eighteen years of service here. But if he will bear in mind that we welcome the heartiest whom we know the best, he will understand our feelings when we greet him as the new Chief of the Administration in the Formosan Government General.

When one reviews those eighteen years of service, one is struck by the breadth and variety of the experience Mr. Kaku has had in the different positions he has held in the Government General. It is as though Fate had been planning a man who should later be asked to take up the exacting duties that are now his.

As Chief of the Monopoly Bureau he has held a position where we consuls have had many opportunities of coming in contact with him. And I speak with the assurance born of personal

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

knowledge when I prophesy an administration which shall be distinguished by a most thoroughgoing and intimate acquaintance with Formosan affairs. One who has lived through so much of the history of the island cannot but guide with a surer hand with less friction than a newcomer could possibly hope to The Government General and the people of Formosa are to be congratulated upon the confidence in the future and the freedom from anxiety with which they may view the progress of their affairs with Mr. Kaku's experience to rely upon.

In bespeaking for the future a continuance of the many courtesies we have received in the past, I beg to assure His Excellency of the desire of the foreign community to co-operate with him in his new duties in every way that lies in our power, and to offer him our heartiest congratulations upon the high honor to which he has now attained.

日月潭水力發電と下村前長官

臺灣電力社長　醫學博士　高木友枝氏談

下村前長官が在任七年の間、三代の總督を輔佐して島治に參劃した事績は言ふ迄もなく數多いことである。其の中で明石總督の經綸の、一つの現はれとして出來上がつた日月潭電力のことは、直接私の社に關係があるので、それに就て下村前長官の參劃事績の一つとして話して見たいと思ふ。

日月潭の水力を利用して電力を興すべしと云ふことは、十年も前から唱へた人があつた樣である、然し夫等の人の多くは素人であつて、中には日月潭の水其物を利用して、電氣を起す樣な考を、持

つて居た人もあつた樣である、是が專門家の手に掛つて、具體化されて來たのが大正五年頃からと思ふ、大體の見込が付いて、中央政府と折衝する迄に進んだのが、大正六年七年であつたと思ふ、當初は官業として工費四千八百萬圓を公債に仰ぐ豫定であつたのであるが、此公債募集には大藏省の同意を得ることが困難であつた樣に聞いて居る、然るに下村長官としては、農業の臺灣は大々的に發展すべき餘地の無いことを看取せられ、之を工業地となすにあらざれば、臺灣の運命を開拓する能はずとの意見を以て奮鬪せられた樣である、斯樣なる狀況の下に明石總督が赴任せられたのであるが、同總督は赴任前に地圖を開いて、東部平原の開拓に著眼せらた樣であるが、其後人々の說も聞き又實地に視察せられた結果、其大部分が砂礫地であることを看取せられ、日月潭電力に注目せらるゝに至つた樣である、然るに官業とするには大藏省の同意を得難く、純民業とするには、臺灣であり蕃地である關係上、何人も之に巨大なる投資をする者が無い有樣であつたので、遂に半官半民の會社を造り、總督府は電氣關係の諸物件を提出して會社に加入したのである。總て是等のことは下村長官の劃策に出でた事と思ふ會社創立の際は創立委員長として、一切の指揮をせられたものである、斯の如くして大

下村前長官送別武德會演武大會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

正八年四月律令第一號を以て臺灣電力株式會社令を發布せられ、同年八月會社の設立を見るに至つたのである。此の官民合同說に就ても、矢張りお天狗樣が多くて、俺が發明者だ、イヤ俺が發明者だと、ドレが眞正の發明者であるやら一寸と分らぬやうになつて仕舞つたが、要するに之は明石總督の戰後經營といふ高遠なる經綸の、島内に於ける一つの現はれであつて、而して總督の意圖を飲み込んで、能く官民合同といふ窮通の大策を實行して其の時機を逸しなかつた下村前長官の效績の著大なることは、何人も異論なき所であらうと思ふ。

明石總督は會社設立の頃、下村前長官に對して「日月潭工事の完成する迄はお互に腰を据ゑて十分やらなければならぬ」と言はれたる由、蓋し此の總督長官の間には互に相許した所があつたのであらう、而して明石總督は白玉樓中の人となり、下村長官は今や本島を去らるゝに至つたのである。

日月潭の工事落成せば十八萬馬力の電力を供給するを得べく、而して勞銀は高いと言つても尙ほ歐羅巴亞米利加よりは安く、工業原料は支那南洋より得らるべき本島に於て其の工業界の前途の多望なるべきに想到するときは、實に我が電力に對する斷案及び實行を爲したる當局の勞を多とし、其の效績を稱揚せざるを得ないのである。

博識大才の下村前長官

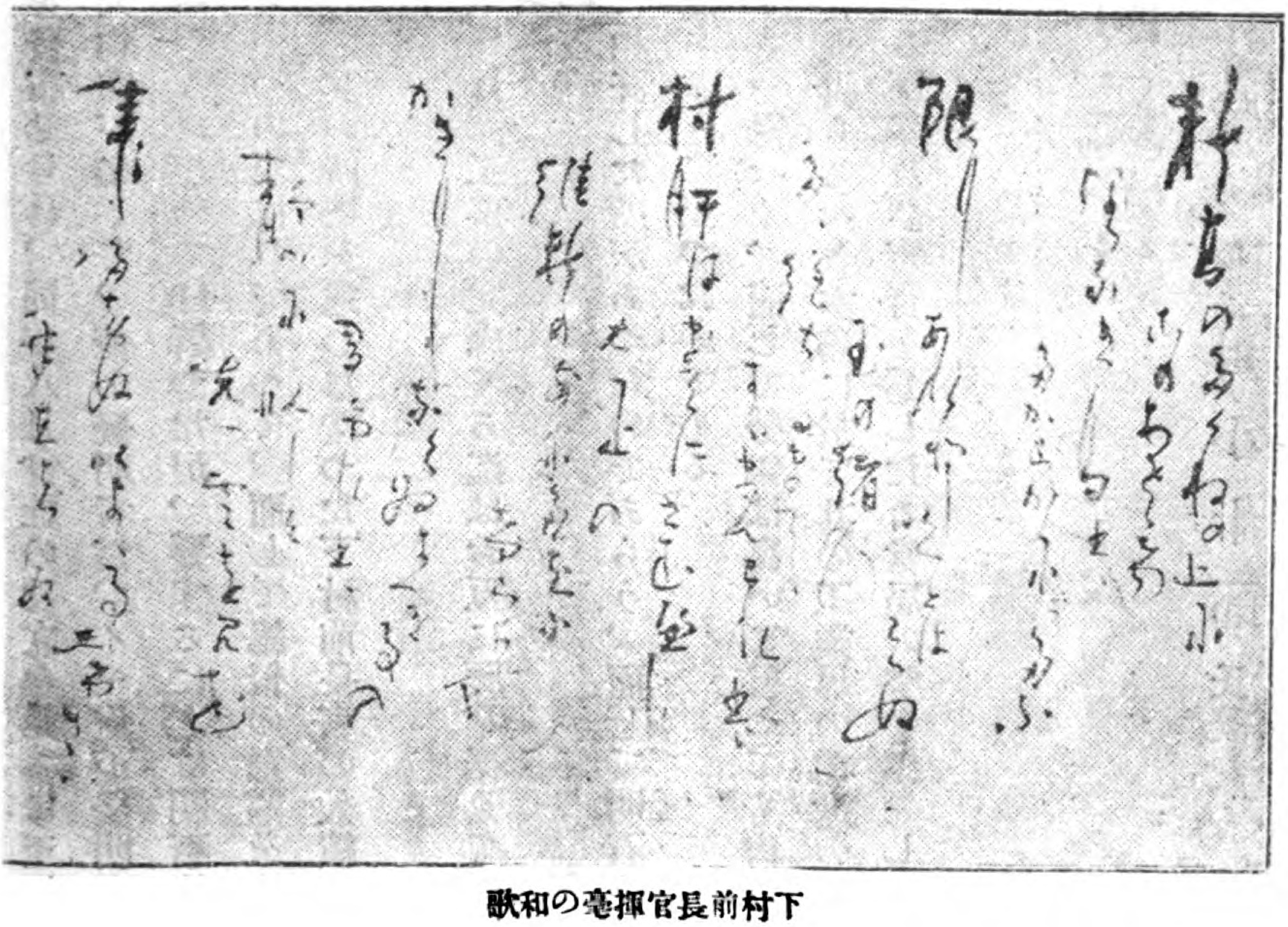
臺灣銀行頭取　中川小十郎氏談

「下村前長官と私とは學校時代も違ふので、當時に於ける同氏の美點の詳しいことは知らぬが、兎に角同氏の臺灣在任七個年は

予も亦臺灣銀行重役の一員として在勤し來つたことであるから、職務上より氏と接觸することは度々であつたので、隨つて氏の人物の常人に超越せらるゝ點多々なる事は十分に承知して居る」と前置して中川氏は朝風の涼しい應接室に淳々として語られる。

下村長官が在學中稀有の俊才として令聞あつたことは豫て聞く所であつて、其後宦海の人となられてからも、所有る方面の硏鑽を積まれ、殊に支那に宦遊し、歐米に留學せられてから、其の學殖は該博深遠を加へたと云ふことである。實際其の片言隻語の中にも博識の大才である事が窺はれて所謂雲中片鱗を望むの感がある。夫れでありながら少しも學究的の偏狹の點なく、八面玲瓏たる襟度の裡に烈々たる熱誠を包藏して居られる所は、官場稀に觀るの材である。

氏が甫めて民政長官の命を拜して渡臺せられたのは安東總督時代で、内田氏の後を襲はれたのであるが、當時氏の博識の士であることを知つて他の多くの長所を知らなかつた世間一部の人は其の學殖の深遠なることが或は却つて累を爲しはしな

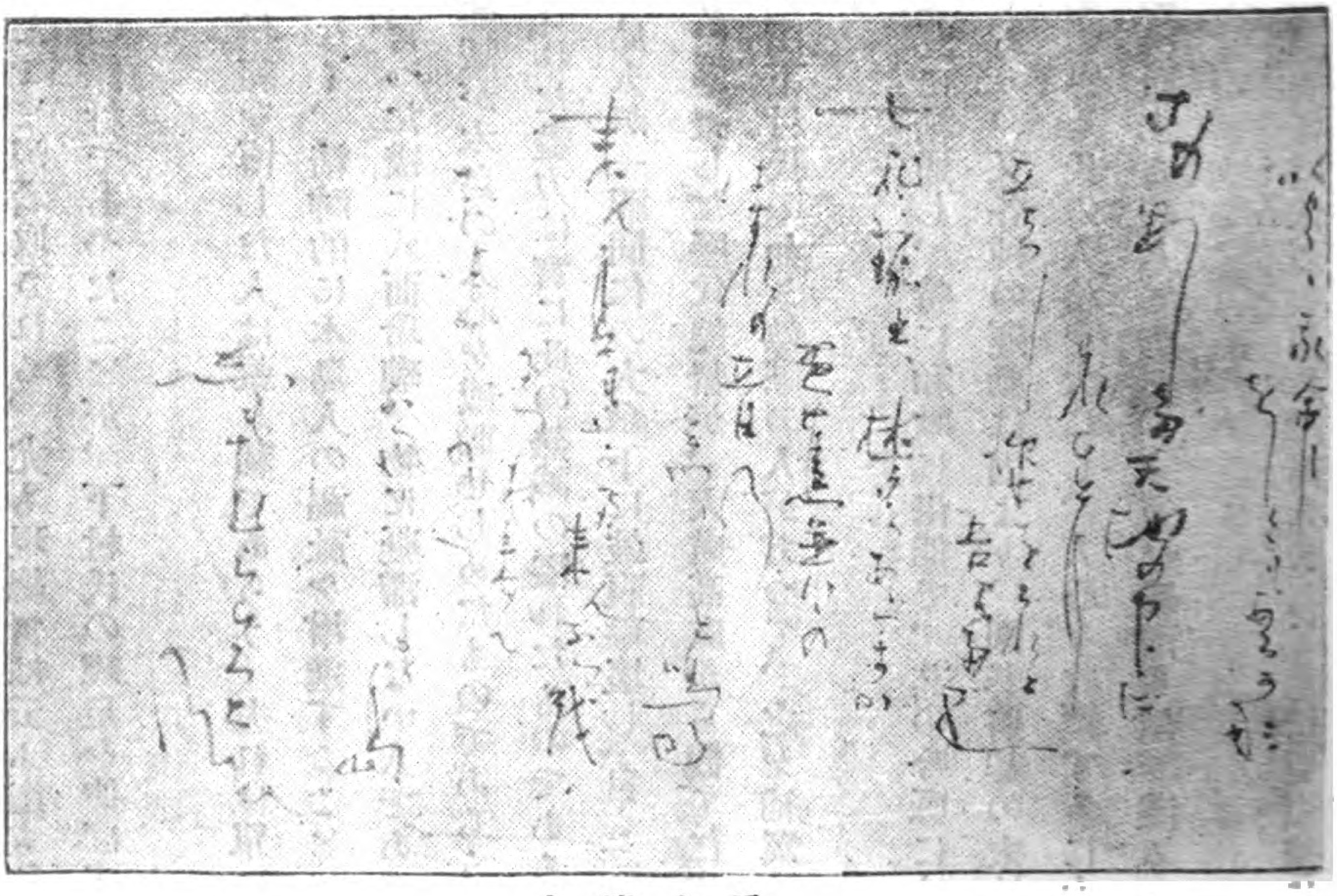


下村前長官揮毫の和歌

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いかと竊に疑懼して居た樣であつたが、博學に兼ぬるに聰明、卓識に兼ぬるに煥發の才を抱いて居らる、氏の胸中には早く既に成算があつたのであらう。徒らに理論に拘泥することなく、然りとて舊風を墨守すると云ふでもなく、三代の總督を補翼して時勢の趨く所に應じ民心の向ふ所を察して施設せられた所は、整々として肯綮に當つたことは人々の親しく見聞した所で、其の學殖の頗る深遠該博であると同時に、之を十分に活用する丈けの聰明と才幹とを有した非凡の人であることが首肯せらるるのである。

氏の發制せられた所を見ても鐵道の改善、道路の改修、若は埤圳の開鑿を始め、產業上諸般の改善や獎勵は固より、地方制度の刷新の如き、又華南銀行、南洋倉庫、水力電氣等の設立に關しても甚大の援助を與へ、東洋協會、南洋協會等の經營に盡瘁せられるなど、單り島內の開發に限らず、一面には我國南方經營の國策を助長するに努力せ



同上續き

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

られた蹟を觀ると、氏の輪廓は決して狹小でなかつたことが看取される。尤も現總督は云ふ迄もなく最も卓越したる政治家であり、歷代の總督皆當代の偉材であつたことが、下村氏の驥足を伸ばす上に於て大なる幸であつたことは勿論である。

又歷代多くの大官中に在りて、氏の如く本島人の信賴を博した人は蓋し稀であらう。夫れは單に物質的に本島人の利益を圖られたからと云ふ許りでなく、精神的に本島人の福祉を增進することに盡瘁せられたに因るものと思はれる。元來氏は前に言つた樣に八面玲瓏、物に凝滯しない人であるが、一面には非常な熱誠を包藏して居られる。其の熱誠が本島の人心を感動せしめたものであらう。彼の宗教問題、教育問題、共婚問題自治問題等に致された盡力は實に此の熱誠の溢れたものである。大戰以來、民族自決の思想が瀰漫せむとする際、本島人が一視同仁の大傘下に鼓腹擊壤し、自ら「世界殖民地中の最幸福者である」と稱するのは、大御心を奉體した歷代總督が、大處高處から觀て仁政を布かれたに因るは言ふ迄もなき所であるが、其の間下村氏の如き熱誠の人があつて、之を補翼せられた力は決して沒することの出來ない所であらう。

尙下村氏は極めて多趣味の人であつて、東西の文藝に精通し、特に和歌に堪能で、其の吟咏には絕唱とも云ふべきものも少くない。其他書に巧みであり、又各種の運動は固より、圍碁將棊の末技に至るまで、之くとして可ならざるなしである。此の點も氏の人格を大にし、人心を收攬するに力があつたと思ふ。要するに下村氏は博識にして時勢に通ずるの人であり、才氣煥發而も熱誠溢るゝ人であり、輪廓の大きな趣味の豐富なる人である。

斯の如き偉材にして本島を去られると云ふことは、詢に遺憾の次第で、個人としても惜別の情に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

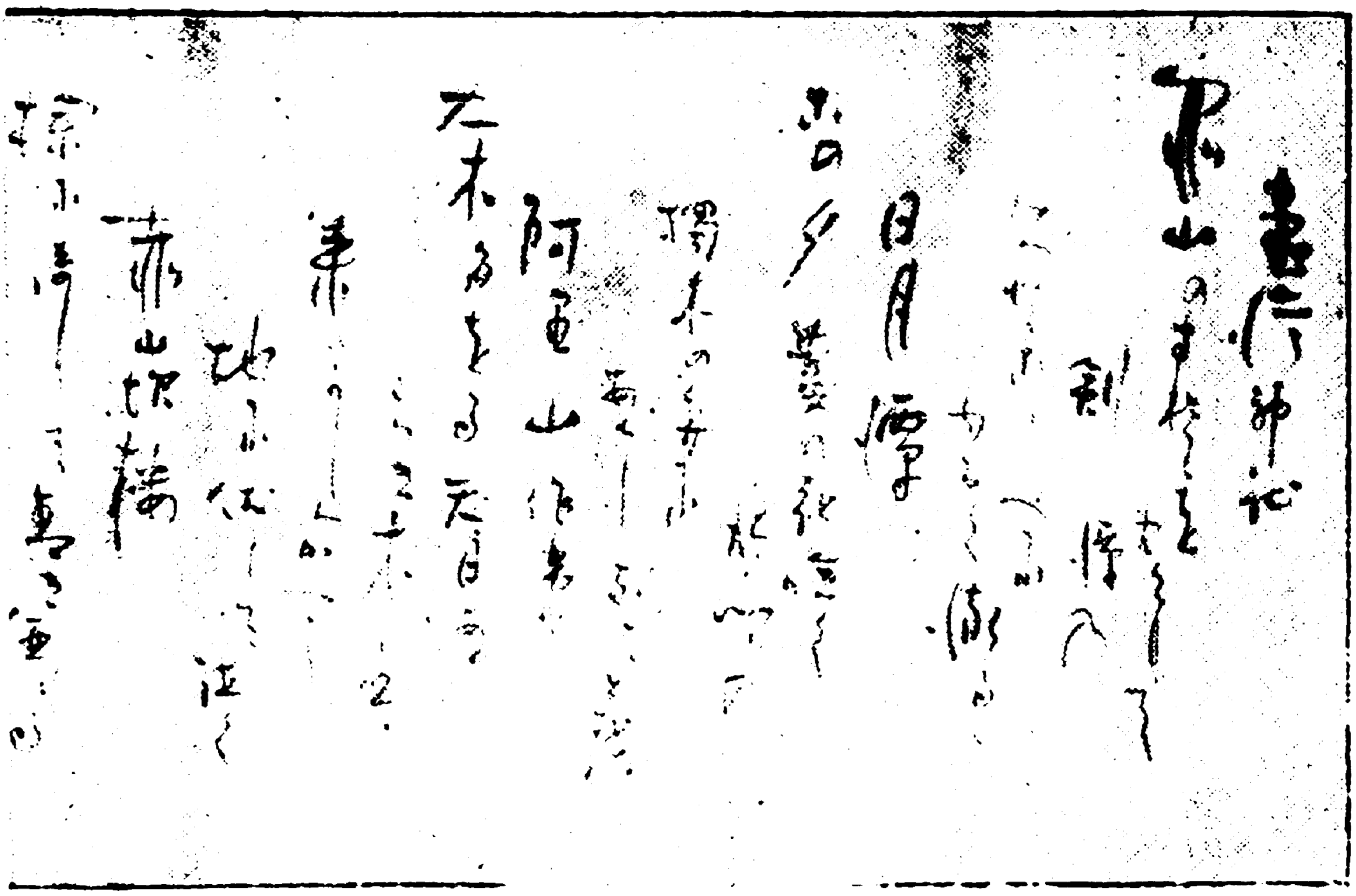
堪へない所であるが、氏は近來健康を害して居られると云ふことであるから、暫く閑地に靜養せられるのも已むを得ないことである。其の後任としては、多年本島に在りて上下の事情に通せられ、謹嚴精勵の聞へある賀來氏が起たれたことであるから、島治上に就ては萬々意を安んして可なりと信ずるのである。

何一つ不愉快の無かつた下村前長官

鐵道部長　新元鹿之助氏談

下村前長官と私との干係は、下村氏の同窓以外、在臺者の中では、私が一番懇意であるだらうと思ふ。曾て私の方の運輸課長たりし村上彰一といふ人は、下村氏のお父うさんの房次郎氏とは親類同樣に親しくした人だが、中々奇行に富んだ人で、苦勞人丈けに酸いも甘いも嚙み分けたものだつた。此人は臺灣鐵道に貢獻した計りでは無い。我が鐵道界の恩人として隨分名物男で鳴らしたものであつた。私は此人から常々房次郎さんの話を聞き、又た其の息子さんの宏君の噂も其の宏君が洋行した話も聞いて居つた。所が私が明治三十六年、洋行して伯林に在つた時分、偶然其の下村宏君と一緒になり、豫て噂に聞き知つた間でもあり、日々手を携へて遊び、毎晩ビールを飲みに出かけるといふ風に非常に親密にしたものである。其の後歸朝してからも時の遞信次官たりし今の田總督の宅などで逢つた事もあり上京すれば必ず訪ねるといふ風であつたが、偶々大正四年十月、內田民政長官が挂冠するや、其の後任として例の下村宏君が臺灣へやつて來たのは誠に不意の事であつたが、

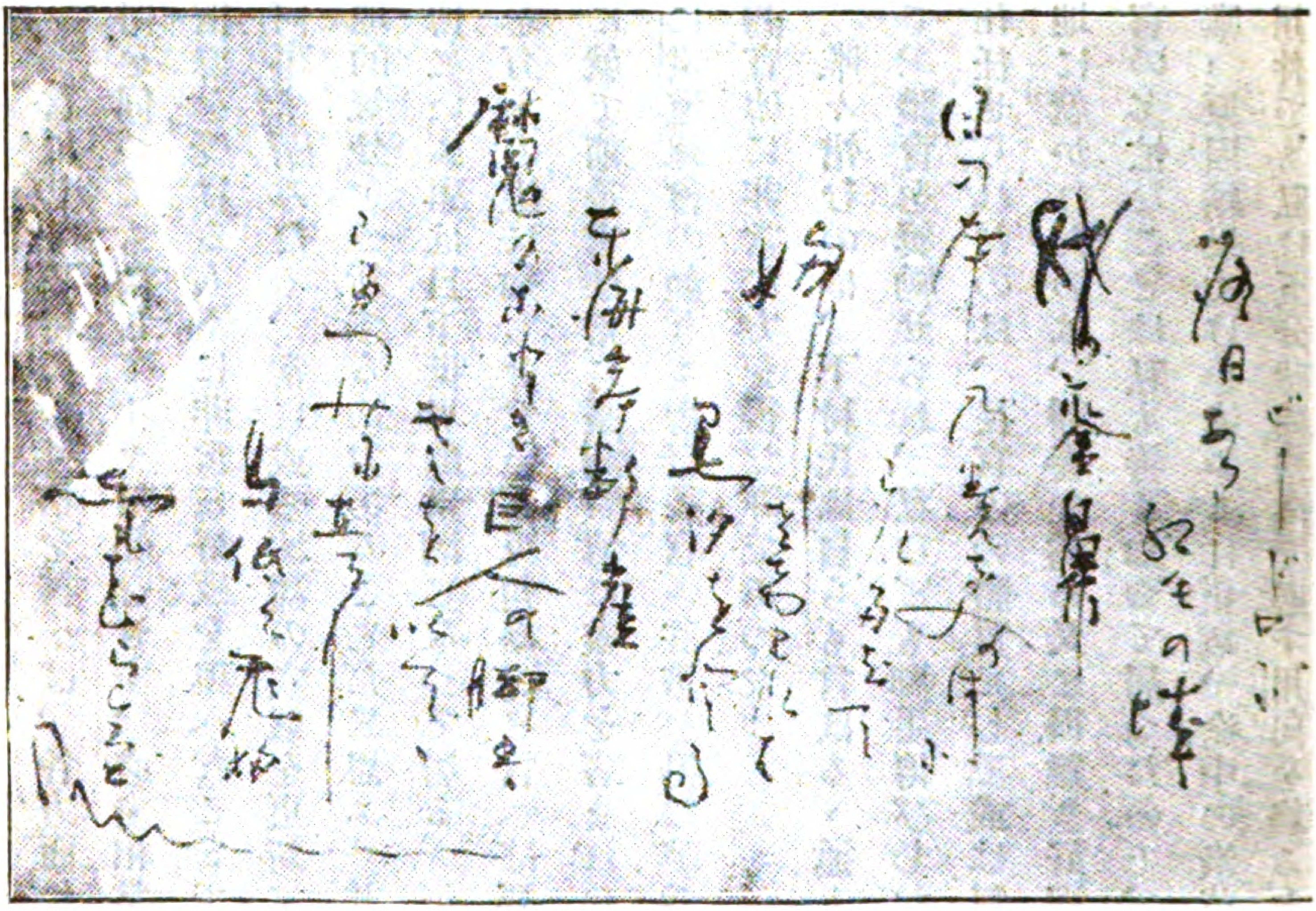
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



下村前長官揮毫の和歌

私の鐵道の仕事の上には之が爲に非常の便宜を得た譯であつた。爾來七年間、一緒に居つて未だ曾て一度も不快を感じたことが無い。鐵道問題に就て私の稟申する事は必ず通過する。又た常に長官として注意も與へられる。歷代の長官中、是れ程私の親しくした人は無く。其後總督は三度も代つて居るが、鐵道には何等の變りも無くて着々と進行し、滯貨問題に就ても海岸線案を提出するや、下村氏は即時に共鳴せられて、咄嗟の間に豫算も編成せられ、非常な御盡力を以てそれも無事通過を見、今や數箇月にして其の鐵道も完成せんとする迄に順潮に進み來つたのである。臺中市民は最初海岸線に對して非常に反對を唱へ、一時は八箇間敷い問題となつたのであるが、それも事なく濟んだのは全く私の仕事の上に前長官の諒解を得たるに是れ因るもので、此の事は最近非常に深い印象を私に與へて居る。

鐵道問題に對して前長官の諒解せらるゝ處は以



同上續き

上の通りであるが、其外下村氏の見地は常に時代よりは一歩づゝ先んじて居つた。勞働問題の如き、思想問題の如きにも非常に深い諒解を持つて居らるゝので、今日以後の斯ういふ時代、特に新領土の動もすれば思想に變化を來さんとするやうな場所に、前長官の如き人を失ふたのは詢に遺憾の極みで、個人としても一層物淋しい感じを禁ずることが出來ない。然し下村氏は從來の經歷から云ふも、其の學識からいふも、今後は更に大なる舞臺に飛躍さるべき運命を有する人であると考へる。

特に最近の所報では、下村氏は臺灣の事に就ては將來と雖も責任を負はるゝ旨を明言せられて居るので、必ずや蔭になり日向になつて臺灣の爲に盡力せらるゝであらう、と思つて竊かに自ら慰むる次第である。殊に下村氏は臺灣それ自身のみでなく、臺灣の位地に就て非常な諒解を有し、是に由て南支南洋に發展すべく幾多の抱負を有せらた、現に其の一部は實行を見るに至つたので、是等も將來相當の結果を見るべき時期に達することであ

らう。果して然らば前長官の與へられた努力が其の効を奏したものと言へやう。

一言にして下村氏の性格を言へば、各方面に圓滿に發達した人で、如何なる問題にも屈託せず、何を伺つても決してイヤな顔をせず、必ず相當な意見を付せられて結局を見た、といふことは其の指導を受ける人々に非常に好感を與へたことであつた。殊に下村氏は物に凝滯することが嫌ひで、何事も滯みなく、常に或る沈滯の空氣を更新することを考へて居られたやうだ。是等は確かに植民地的氣分を一新するに力あることだと思ふ。其外、下村氏の努力されたのは臺灣宣傳であつた。宣傳といふ事は目下世界的風潮となつて居る。が吾々は臺灣の爲に多きを宣傳に求めない。唯々事實を有りの儘に知らせたい。兎角臺灣と言へば惡るく傳へられて居るのは遺憾千萬であつたが、此點に就て前長官は常に臺灣宣傳に盡力を吝まれなかつたのは本島として感謝すべき一事に屬する。現に鐵道總會の如きも總督長官の許諾を得たが爲に、アレ丈けの各方面の人士を網羅するを得て、臺灣宣傳に非常な力を得た譯であつた。

唯々惜むのは、下村氏は自らも言はるゝ通り蒲柳の質であつたことである。隨つて運動にも熱心で、體育を奬勵せられ、私なども御手傳ひした譯であつたが、アレ丈けの劇職に從事して七年間も在任せられたのは、長官のの體質として或は無理であつたかも知れない。幸ひに今回冠を挂けて閑地に就かれたのは、靜養の爲め又と得難き好機會だと思うて御當人の爲に喜びに堪へない。實際長官の多忙なことは私も善く知つて居つたので、如何なる難問題でも長官に稟申する場合には、私は唯ゝ原因結果丈けを述ぶるに止め、途中の沿革などは總て省略して之を言はない。斯くて如何なる用件でも私は五分時間内外で必ず用向を終るを常とした。夫れで決して指導を誤るやうなことは無

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

かつた。アノ多忙な人を長時間煩はすことは一種の罪惡と心得たのである。ドンな事柄でも私は大體十分時間以上に亙つたことは無かつた。

先達て下村氏が私に左の歌を書いてよこされた

日の本のみんなみのはてに我立ちて
ふりさけ見れは黒汐おとる

之は往年同氏と東海岸を旅行して恒春に行つた時讀まれた歌で、當時私の讀んだのは

みんなみの海原遠くすむ月の
てらすかきりを大八島とも

意味は同じだが下村氏のは謂ゆる新派印象派の歌としては中々の名吟で、蓋し傑作の一と思はる、而かも同氏の面目の躍如たるものがある。私は更に左の一首を贈りたい。

君が見し南のはての黒汐に
おどる血汐は知る人ぞしる

●●●●●

新長官の賀來さんは十八年間臺灣に居られたので、謂はゞ臺灣生へ拔きの人である。私も同僚として非常に親しい。十八年間も間違ひなく要職に當つたといふ其の事自身が既に本人の性格を物語つて居る。淸廉、潔泊、謹直は賀來さんの資性として實際著聞のものである。先輩特に故人に對して情誼の厚いことも隱れたる氏の德行である。唯々從來餘り酒も飮まず、騒ぎもしない人であつたが爲に社交的に缺けて居るやに考へらるゝ節の無いでも無い。が賀來氏自身は恐らくそれ等のことを職務上の要件とは心得て居るまい。否な寧ろ無用として居つたに違ひない。其の點に於ても賀來さ

んの面目が潰はれるのである。然し長官となれば、さう計りも言つて居られまい。無駄のことでも談笑の裡に有要の機會があることは、聰明な賀來さんとして疾くに知つて居られる筈である。特に賀來さんの新任に就て嬉しく感ぜらるゝのは、後藤さん時代から長官の後任としては土地の事情に通する人を推薦するのを例とした。祝、大島二氏、皆な然りである。中頃に至り内田、下村の兩氏の内地から來たのを見たが、然し其の人物が臺灣に居る以上は他に求むる必要は無い。現總督も其所に留意せられて今回賀來氏の新任を見たのは、私共も相互の諒解上至極便宜と考へる。況んや當地に於て相當の成績を擧げた人が長官に昇任するは誠に仕合せである。又た一方から言うて斯ういふ土地に辛抱した人を登用することは一つの奬勵になるとも思ふのである。

青年を愛護された下村前長官

總督府評議會員
新高銀行常務　李　延　禧

下村前長官は在任七箇年間、三代の總督を補佐して島治に參畫せられた。其事蹟を回想すれば、熱誠慈愛を以て本島の福利を念とせられ、特に本島青年（内、臺青年）に對し熱愛を注がれたことは吾々の忘れ能はざる處である。

下村前長官は非常に情に厚い御方であられるが、最初著任の折ホテルの歡迎會に於て試みられた其御演説は、普通一般の儀禮詞とは違ひ、切々偲々として實に懇切を極め、本島に對する温情實に溢るゝ計りで、吾々は非常に感動し、斯る好長官を戴きたる本島の幸福を祝福せずに居られなかつ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

た。其後或時、私は長官を御訪問致し、例の書齋に通された時、其開放的な待遇に少なからず愉快を感じて居るところへ、長官は諄々として本島青年の心得方を垂示せられたときは、何とも云はれぬ一種の感に打たれたのであつた。

下村前長官が本島に於て參畫せられたる事蹟は頗る多いが、本島の教育上に關することは特に熱誠を注がれた所である。又體育に關することは民族の優劣と云ふ點からも非常に奬勵を加へられた。先頃上海のオリンピック大會に出場する選手達に對し、前長官が激勵せられた訓示の如きは前長官御自身も感激せられた如くであつたが、選手一同も感泣措く能はざる所であつた。殊に其節吾々に直覺された事で、本島青年の教訓たるべき適切な一事實があつた夫れは前長官は常に人に對し「實力の養成」と云ふことを訓諭されるのであるか、其際上海に派遣さるべき臺灣選手は、規則上第二の豫選は東京に出なければ「レギユラー」の選手たる能はず、單に「オープン」の選手たるに止まるべかりし譯であつた。然るに臺灣選手の内二人の選手（此の二人の選手は本島人であつた）のレコードは、內地に於ける選手に比して大した遜色が無かつたが爲に、當方より何等の要求無かり

挂冠せる下村海南博士（左）と文子夫人（右）

しに拘らず、此の二人の選手を「レギュラー」の選手として、大日本體育會に於て認めたのであつた。其報を聞た下村前長官の御喜びは嘸かしと想察するが、恐らく臺灣在任七箇年の間に、此時程御喜に成つたことは無いと思ふ。此の事實に依つて、何人と雖も實力さへあれば、同等に待遇されるのである、前長官が常に「實力を養成せよ」と云はれるのは、畢竟此所である、實力さへあらば、何も要求せずとも向ふから與へて呉れる。其の生きた證據は即ち是であると云ふことである。

前長官は又智育にも非常に重きを置かれ、各學校の卒業式には常に臨席され、其の該博なる見地から、或は世界的に或は民族的に、堂々たる演説を青年達に聞かせて、只管其の向上發展に注意された。先日の新報紙上に依れば、此度本島の學生達に別れるのに忍びないと申されたとか、前長官が次代の國民に如何に囑望せられて居らるるかと云ふ事は、此の一言でも明かである。

要するに前長官の在任七箇年間は、萬事熱誠と温情とを以て臨まれたので、吾々が今日前長官と御別れする事は、恰も慈母に別れるが如き心地がするのである。然れども前長官が今後何所に在られても、時々刻々、本島の爲めに相變らず御注意を與へ下さるに違ひない。又本島の青年に對する御高情も依然として變る事なく、舊の如く御指導下さると云ふことは何人も之を信じて疑はざる所であります。

思想問題に留意された下村前長官

眞言宗臺灣開教監督　小山祐全氏談

聚散の定まりなきは人間の常であるが、扨て別離となると、今迄は左程にも思はなかつた人が急

に好い人であつたと感覺するのが常で、今回下村前長官が本島を去らるゝに就ても、僅かに思ひ出して下村氏の長所美點に就て同人間に話して居た譯であつた。其の中でも直接吾々に關係のあるのは、思想問題に就て下村氏が著るしく熱心であつたことである。回顧すれば安東總督の時であつた。大正五年の十月三十日、下村氏は山口宮司を首め在臺北の宗敎家竝に信徒中の重なる人、及び關係官吏等四十六名を官邸に招いて、民衆一般の思想を善導する爲め全力を盡すべく各宗敎家に囑望する旨を述べられ、且つ自分は宗敎に就ては白紙である、何等の色彩も帶びて無い。隨つて甲に親み乙を疎んずるやうのことは無いとて、公平無私の趣旨を述べられたが、全く夫れに相違ない。下村氏自身は實際白紙で或る宗敎に對する信仰を有せざりしも、然かも國民の精神を善導する上に於て宗敎の必要を感じて居られたが爲め吾々宗敎家の盡力を求められたのである。若し政府當局にして何か自分に或る信敎を有せんか、其の地位上より公平を旨とすべきに拘はらず、知らず識らず不公平に陷り易いのである。其の點に就ては、下村氏は白紙を標榜せらるゝ通り全く公平無私であつたのは、爲政家として誠に好い處であつたと思ふ。

斯くて下村氏は宗敎家の努力を求めた計りでなく、自身にも秘書官以下の人を隨へて在臺北の各宗敎の神社、佛閣、會堂其他それ等に附屬する社會事業的施設等を精細に調査された。而して其の調査たるや職務上の形式に出でたのでは無く、十分なる熱心を以て自身に調査されたのである。此の如きは下村氏以前に在りて絕無の事で、時勢の相違もあつたが其れ以前は大體宗敎家を度外視して居たと申すも過言で無いやうな狀態であつたのである。尤も兒玉總督は禪の趣味から屢々圓山の臨濟寺に遊ばれ、其の寺院の建立に就ても一臂の力を添えられたが、之は謂ゆる「英雄回首卽神仙」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

といふやうな意味に於て、將軍が禪の趣味からして其の宗旨丈けに就て幾分の助力を與へられたといふに過ぎないので、全島の各宗教を盛んならしめ、其の力を利用して精神界を善導せんとするやうな遣り方では無かつたのである。此の如く從前は一般の宗教を度外視して居たのが、下村氏の時に初めて宗教の必要を認められ、特に本島人に對して布教を盛んにするやうに囑望せられたのは、縱し西來庵其他迷信に由る匪亂類似の事件が屢々紛起した後を承けて、之が匡救策の爲にせられたりと信ずべき理由なきにあらずとは云へ、時恰も世界大戰の第三年に當り、從來歐洲の思想界に險惡の萌芽を見たりしもの、大戰に因る經濟界の激變の爲め隨所に其の爆發を觀、延いて世界的に蔓延の徵候あらんとするに察せられ、下村氏は其處に著眼せられて此の方策に出でられたものと思ふのである。之は歐米の政治經濟の事情に精通せらるゝ下村氏としては當然の處置であらうが、亦た時勢を達觀せらるゝの明ある點に於て、誠に人に秀でゝ居られる方であると、私は其時から感じて居た次第である。

大體私は下村氏に就て右樣に感じて居る。併しそれは臺灣丈けのことである。一度び眼を轉じて世界の大を見渡せば、今や一般に物質にのみ重きを置き、精神界のことは又た深く顧みざるの結果、思想界は險惡となり、到處に民族結合の崩解を見んとするの狀態を現出し、爲政家は遂に宗教家の力を假らんとするに至つたことは、現代の事情として詢に已むを得ざる次第であると思ふが、此の事に就て下村氏は今より五六年前に、既に其處に留意せられて吾々宗教家の努力を要望せられたるは、其の一事、既に相當先見の明ありしことゝ思ふのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新舊長官と世評

總務長官更迭の報一たび傳はるや、世上の批評は一齊に新舊長官の上に集つた、其處には新聞紙の社說もある、名士の批評もある、友人知己の辯說もある、皆是れ別れを惜み來るを喜ぶ人情の發露で、之を綜合すると略ぼ兩長官の人格風尙を彷彿することが出來る、仍て送迎記念の爲に主として臺日、臺灣、臺南の三新聞から收錄したのが卽ち是である。（編者）

日日小筆（臺灣日々新報）

三代の總督に歷任し、且在任期の七歲に亙れる總務長官下村宏博士は、今次病の故を以て其職を辭し、專賣局長賀來佐賀太郞氏其後を襲ふ、七歲は從前の長官中寧ろ其長き部分に屬す、此間の施設は餘りに一般の記憶に新しきを以て玆に贅せざる可し、唯夫れ今次の長官更迭は、其後任の他より來らずして督府內より選擇せられたる事實は、地方制度改正其他新稅設定等の後を承けて、其善後の尙幾多考慮を要するの時に於て、最も適當の措置たるを欣はずんば非らず、賀來長官は臺灣に在る事久しく、能く其眞相を知悉するに於て第一人者たるは、恐く何人も否定せざる處なる可く、此點に於て後任長官の外より來らざりしは、臺灣の爲めには寧ろ幸福と云はざる可らず。

總務長官の位地は官制上に於ては敢て異なる無きも、其實質上に於ては軍人總督と文官總督時代に依て、大に其趣を異にするものあるは何人も首肯する處、臺灣統治の根本方針は吾人の屢次繰返せるが如く、儼として存するものあるに於て、假令總督の更迭と云ふと雖、聊か之に依て喜憂を要せざる可き也、況んや其總務長官の更迭に於てをや、特に田總督在任以來明かに內地延長主義を聲言し、自治制の實施に、敎育の普及に、其他所有文化政治の施設に銳意しつゝあり、若し三百萬本島人にして能く此精神を理解し、眞摯に一日も早く其理想郷に到達す可く努力する處あらんか、恐くは其效果の顯著なるものあらんか。

政治の要訣は常に民心を新にするに存す、忌憚なく云へば最近數年間の臺灣は、概して沈滯の狀態を免れざりしは、何人も異議なき處なりとせば、今次

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の長官更迭の假令統治の根本に何等の交渉なく又其波動の果して如何なる程度に迄及ぶ可きやの明かならざるも、其民心を新にするに於て相當の效果ありとす可く、此點に於て今次の長官更迭は、間接に最近數年間に於ける沈滯の空氣を一掃するの動機たるなからんや、思ふに新長官は多年本島に在て能く其事情に精通するの人、悉くは此機會を逸するなくして、何等か民心一新の方策を講ず可く、臺灣の爲めには一大幸福と云ふ可し。

殊に此際に一言す可きは本島人の態度也、政治に理解なき多數本島人に在りては、長官更迭の如き動もすれば危惧の念を懷き、爲めに動揺を免れざるなしとせず、されど吾人は前にも小論を試めたるが如く、臺灣統治の根本方針は假令總督の更迭を以てするも、其動かざる泰山の如きものあり、況んや其長官の更迭に於てをや、又況んや其後任の多年本島に在て能く其事情に精通する賀來氏なるに於てをや、一長官の更迭の如き必ずしも關心するを要せざる也、吾人は本島人の深く此點に考慮する處あり、殊に其先覺者に於て指導宜しきを失せざらん事を切望す。

下村博士は臺灣に在る事比較的長期なりしと雖尚春秋に富む、若し健康にして回復せんか、其朝野に於けるに拘らず、邦家の爲めに盡すの餘地多きを思ふ、此際靜養を以て健康の回復を圖り、世界改造の機運に際會せる大戰後の歐米各國を巡遊するが如き、他日雄飛の素地を作る可き最善の策ならずとせず、博士も亦恐く吾人と其感を同うするならんか、敢て一言を附する所以。

長官更迭 (臺南新報)

臺灣總督府總務長官更任は、昨日を以て發表され、下村氏は願に依り其職を免ぜられ、賀來氏總務長官に榮進せり、事は極めて突然にして、且つ意外の感なきにあらざるも、其實決して意外にあらず、只豫定の事實が豫定の如く遂行したるに過ぎず、蓋し下村前長官が辭意を決せるは議會開會當時にして、當時巷間其後任に就て揣摩され、長官更迭は單に時日の問題として迎へられつゝありき、下村氏は就任以來七星霜を閲し、天稟蒲柳の資を以て劇務に當り、三代の總督に歷任し、島治上幾多の改善をなし、臺灣をして殆んど面目を一新せしめ、殊に本島統治百年の大計たる教育令の制定、及び地方制度の改正に參畫し、田總督を助けて之が完成を見たる事は、長く本島史上に錄すべく、更に今春の議會に於て、多年の懸案たりし六三法を解決し空前の大豫算を通過

せしめたる等、田總督の處置其宜しきを得たるに由るも、抑も亦下村氏の苦心經營與つて力あり。

最近評議員の設置を見、今や下村氏としては盡すべきを盡し、爲すべきを爲し、歷代の長官中最も多くの功を樹て、後藤男と共に、本島統治史上特記さるべし、殊に至誠公平、一身の計をなさず終始一貫國家を以て任とし、只徒本島の啓發と、島民の幸福を圖る事に努めたる事は、島人の等しく認むる所なりしが、今や本島を去るに至りしは惜みても餘りある事といふべし、然れども前途尙大に爲すあるの士を、久しく暑熱の地に留め、其健康を害はしめん事は蒲柳の氏に對して寧ろ忍びざる所、暫らく故山に歸臥して健康を復し更に大に國家のために盡瘁するの機を造らしむる事は、其去るを悲むの私情に優るものあらん。

新任長官賀來氏は、少壯にして本島官界の人となり、島內の事情に精通し、屢々長官の後任に擬せられたる人、多年在職せる專賣局長の地位は、未だ大に行政的手腕を試むるの餘地無く、從つて其抱負手腕も、之を今後に徵せざるべからざるが、其謹嚴なる資性と、重厚なる人格とは蓋し好個の適任なるべく、吾人は切に誠心誠意、本島のために盡瘁されん事を望む、若し夫れ長官更迭のため、島治上の方針に變更を來すが如きは斷じてあらざるべく、田總督の抱負は、新長官の翼賛の下に益々步を進め、百年の基礎既に定まり、本島の前途は洋々として春海の如きものあらん。

長官の更迭 (臺灣經世新報)

長官とは何にぞ、總務長官である、總務長官とは何にぞ、事務總長である、係長、課長、局長、部長、總長、要するに是れ一の事務官たるに過ぎない、物に大小の差こそあれ、質に於て其處に何等の異りがない、されば、長官の更迭、夫れが何の臺政に變化を及ぼすべきが有らうぞ、雁去り燕來るも、燕去り雁來るも、其一去一來は吾人に取つては晉雲烟の去來に等し、業々しく取立て、騷ぐ程の問題では無いのだ、されど、一面から見れば、縱ひ事務官にせよ、夫れが一の長たる以上、普通雜兵的事務官の入替と同視すべきでない、況んや、總長的職務に該る長の長たるべき者の更迭に於てをや、施政の大方針に變りが無いとしても、同じ政治を切り盛りするにも執行家其人の如何に依りて、其態容、成績に千差萬別の有るべきが必然の事象である、否、場合に依りては殆んど政治其物の變質的作用を顯はす事も鮮なしとはせぬ、故に此點から言へば、總務長官の更迭

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

とて強ち馬鹿にはならない、寧ろ人民に取りては最も注意すべき重大なる事態の出現であるかも知れない。

元來、總督が變れば長官が更はるべきが當然である、如何に娘天下と雖も、亭主三人に歴仕する婦さんも無いものだ、置く者も置く者、居る者も居る者、共に隨分異つた分子の人達だとは吾人の平常考ふる所なのであつたが、何うやら此の度は世間竝の夫婦關係に復歸した様である、此意味に於て、吾人は長官の更迭に異存はない、寧ろ今頃に至つて突如更迭したのは不思議とする所で、或は下村君が眞實御病氣にでもなられたのでは無いか知らと、陰ながら心配する程である、處で下村君は一寸靜養して追つ付け洋行せられるさうだから、先づ安心はしたが去りとは、時機遅れの御更迭、一體何う云ふ經緯であるので有らう乎、殘る處は疑問のみである、併し乍ら、开んな疑問は元來要らざるお折介、罷めた者は矢張り罷めた者には違いはないのだ、去る者は追はず、死したる者は鞭たず、下村前長官に多少の失策ありとするも、吾人は今更追擊的惡言は放たない、況んや、彼には短所もあるが長所も大にある、吾人固より世の賤々者流の如く、下村君に對して葬式に於ける弔文でも讀むかの如な讃辭を呈して以て敬意を表したものと信ずる譯には行かない、故に、其んな事は敢て吾人の出來る藝當では無いが、併し功は功、善は善、事實の通りに確認せねばなるまい。

功とは何にか、曰く彼の思想が文明的で有つた事である、善とは何にか曰く彼の性格が廉潔で有つた事である、彼や在職七年、其思想が隨處に顯はれた、其性格が隨事に表はれた、既往幾多の長官ありと雖も此二事に於て彼れに優る者は無い様である、官吏として此二事あれば以て祖先を辱しめざるに足る、彼や省みて疚しからざるべし、人や以て恨みとすべきなし、噫、彼は善い事をした、然り、洵に善い事を仕たものである。

吾人は國家の爲めに、將た臺灣の爲めに、下村君の遺した此の二つの善い事は何時迄も保存したく思ふ、此に言ふのは下村君を讃める爲めではない、社會國家の爲めだ、他の一般官吏の爲めだ、特に後繼總務長官たる其人の爲めに言ふのだ。

新長官賀來君は如何なる人か吾人は臺灣に二十有五年も居るが、不幸にして未だ賀來君其人を知らない、從つて未だ此人が長官の職に就かれた事が良いか惡いか、一切盲目である、されど、思想極めて堅實にして果決に富むと言ふことだ、而して其心胸頗る溫味ある人であるとのことだ、堅實、果決、溫味、夫れに利もあれば害もある、何れ其人に就て親しく胸臆を叩くの機會も有らう、政治の實績に御手腕を拜見することも可能るで有らう、其の上で緩々邦家

の爲めに相見參することゝする。

世界の大勢に順應して‼

政治を行つた下村宏氏

高木友枝氏談

下村總務長官は大正四年十一月に着任された、當時は安東總督時代であつたが、其後明石總督を迎へ而して現任田總督の三代の總督に歷任されたのである、下村長官は前明石總督が逝去された時に辭意を決心して居られたやうに思つて居た、其後辭意を飜へして今日に至つたやうである、私が長官に對して常に敬意を表して居たのは、其事務を執るに當つても世界思潮の大勢に留意し、民衆思想の向ふ所に應じて施設に努力せられた點である、卽ち自治制とか共學共婚とかの如き施政は夫れである。

二三年前までは東京に在住する殖民學者の臺灣觀と臺灣在住の人が觀た殖民政策とは餘程見解が異つて居た、東京に在住して居る殖民學者の材料は要するに英國の殖民地たる印度や、和蘭の爪哇政策より得たものに外ならぬ、英國が印度に對する政策は所謂優等人種が劣等人種を統治するのであつて此間劣等人種が優等人種の生活社會に侵入するを得ない、爪哇に於ても亦之と略同樣の立場に在る、日本に於ける朝鮮統治は朝鮮人民の希望や立場を考へないで、單に內地人から觀た考へのみを以て支配せんとするから過般のやうな問題が起るのである日本でも明治維新の際には平民は武士の專橫を怨んで居た事は約三百年の長い月日であつたが一朝にして武士は其特權を奪はれて俸祿を失ひ其代りとして公債を貰つたけれども使へば無くなる從て武士の勢力は衰へた玆に於て多數の平民は武士に對する怨を捨たのである然るに朝鮮に於ては兩班以來卽ち平民たりし朝鮮人が日本政府の警察官となつて警察權を濫用して兩班を苦しめた事實がある是は平民が日本政府と云ふ虎の威を假りて兩班と云ふ昔の特權階級に復讐をしたのであるが、兩班が日本政府を怨む種には確になつて居る之は一例に過ぎぬけれども斯の如きことがいくらでもある日本の政治家は世界戰爭の結果思想界の大變化に對して大に狼狽して新な施政方針を樹てやうとして焦つて居るのみで思想の變化に對する先見の明がないと批評されても致方が無い。

要するに英國の印度に對するが如きは優等劣等の人種の生活が畫然と區別されて居るが、東洋に於ける日本の朝鮮や臺灣は同じ東洋人種であるのみならず內地人が被治者の社會に侵入して金を借りたり又は喧嘩したりする者がある、歐洲人は被治者に對して右の如き現象は絕無であるとは云へぬが、大體に於て無いと云つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て差支ない、以上の如く同じ植民地を統治するにも治者と被治者との立場や被治者の希望や思想に大なる差異がある、下村長官は夙に之等の各事異つた思想の變化や大勢を會得して、施設に努力されつゝあつた事は私が最も敬服する所である、斯の如く常に新らしき思想を有して居られた長官の施設が今日までに何程現はれて居るかと云へば諸君の知る通りであるが是は長官が懷抱して居られた意見の一小部分に過ぎぬと思ふさうして中央當局との折衝如何に關係する所が多いからであらう、兎に角長官の植民政策に對する見解は多くの人の持する見解とは、其趣きを異にして居たと思ふのである（臺南新報）

輪廓の大きい下村長官と自信力の強い賀來長官

中川臺銀頭取談

下村前長官は博學博識能く世界の大勢を洞察し得て加ふるに八面玲瓏清濁併せ飲むの雅量を備へた極めて輪廓の大きい人であつた然して長官となつて渡臺して今日まで既に七年其の間三代の總督に仕へ殊に武官總督を扶けて臺灣統治の上に必要なる諸般の設備を爲した殊に臺灣電力、華南銀行から南洋倉庫にまで及ぼして商工業の開發に努めて居る。

政治上の施設としても昨年行はれたる地方制度の改正の如きは田總督に依つて行はれたりと雖も其の茲に至るまでの調査研究の苦心に對して大いに同情すべきものがある其の他一々枚擧に遑が無いが是等は何れも臺灣史上に特筆大書すべきもので其功績は決して沒すべからざるものであるが今や此人を送ると云ふことは島民の均しく惜む處である。

新任の賀來長官は如何にと言へば之は又其の性格に於いては全然相反するものがあるかも知れぬが人物の上から言へば決して相讓らないもので高潔にして謹嚴寡默而かも強い自信力の所有者であつて一度何事をか爲さんとすれば必ず之を遂しなければ止まぬと云ふ風で所謂言行一致しなければ承知の出來ない人である。

專賣局が今日の如く總督府の一角を領して其の重きを爲して居るのも亦此の措置宜しきを得て居たからである今回氏を總務長官として迎ふるに至つたと云ふことは惜しき前長官を送つて之を償ふに足るものがあると云ふことは何人と雖も首肯し得る處であらう數代の長官に依つて臺灣は現在の如き文化の惠澤に浴し居ると雖も今後尚近に行ふべき事項は前途に累々と横はつて居るのであるから田總督を補佐して之等の施設を實現せしむるには最も適當なる長官を得た事を吾人は喜ぶものである。（臺灣日々新報）

熱の人下村宏氏

木村匡氏談

下村總務長官の挂冠は、屢次傳へられたが、今回は事實となつ

た、併し僕は是は當然の成行と思ふのである下村長官は安東大將の部下としては磊落に過ぎた人であつた、軍人型に固定したる安東大將の民政長官として必しも適材ではなかつた、幸に期間が短かゝつた爲めに事なきを得た明石大將の部下としては寧ろ適器であつたと思はる明石大將は無頓着の人であつた、議事にて云はゞ第一讀會の人であつて第二讀會の人ではなかつた、下村長官は明石大將の此の短所を補うべく適器であつた、相互の間に相許したこともあつたかも知れぬ、明石大將逝去當時の下村長官の愁傷は此の想像を物語るべく充分であつた。

若夫れ文官總督の第一世たる田總督の部下としては寧ろ不適當であつたかも知れぬ、彼の智識は是にもあり、彼の精悍は是にもあり、所謂兩雄竝立たずとは此の意味であらう更に切言すれば田總督と下村長官の先考と相知合の仲であつた關係上、田總督は下村長官の學生時代の事も知つてゐたであらう、腕白盛りの事をも知つたであらう、先人爲主は誰も免れざる所で、田總督の眼底に映ずる下村長官は長官自から任じて居る程に大きく映じなかつたであらう、長官が安東、明石兩大將に奉事したる所の長所は、田總督には不必要の長所であつたかも知られぬ、是今回の更迭を促かしたる原因ではあるまいか、併し斯の如きを詮索する閑事業は僕の任ずる所でない、左りとて僕は下村長官の臺灣統治上に於ける決算報告をすべき自分でもない。

是等は臺北の官民間に於て下村長官より信認を辱なうしたる人々の當然の義務として行うべき領域であると思ふのである、別に臨み徒らに權屬數などに長官を押籠めて惜別の意を表するなどは此際暱近者の謹愼を要求したい僕は單に社會の一員として下村長官の功績と思ふものを回顧したいのである第一に臺灣の教育上の方針を確定する爲め臺灣教育令の發布を見るに至つたことである、臺灣教育令の問題は佐久間總督當時からの懸案であつた、拓殖局でも引懸る、法制局でも引懸る臺灣の事情を知らず、唯三册の法規提要を金科玉條としてゐる中央の役人から手古摺らせられた問題であつた。

然るに下村長官は此の行懸りを排して通過せしむべく全力を傾注して遂に發布を見た、下村長官の謙德は之を己の功として誇らず先輩たる濱尾樞密顧問の助力を德として居つたのは奥床しかつた、此の教育令の結果に依つて設立せられた學校は目下未製品であるが、將來此の學校が根幹を鞏くし花を開き實を結びたる日には臺灣人は下村長官の盡力を想起することを信ずるのである第二に宗教は政治上看過すべからざる問題である、眞の文化的政事家は宗教を善用せねばならぬ、今の所謂政事家は唯目前の有形的事業に追はれて宗教の如き無形的で高尚悠遠なる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

仕事を顧みる宏量がない、兎に角臺灣で宗教家の人格を認めたのは下村長官の功と云はねばならぬ、人格を認めたと云ふては言語は激越であるかも知れぬが、事實に於て其うであつた下村長官は各宗僧侶、宣教師、神官を一堂に集め、宗教と政治との聯絡をすべきことを説き各宗教家の意見を求めたことがあつた、各宗教家は下村長官の此の擧に雀躍しつゝ歡迎したのであつた、將來宗教家が臺灣の文化に貢献するに方り行政の助力を得ることあらば、其の端を開いた功を下村長官に歸するに吝かならざるものかあらう。

第三に日本の政事家が孔夫子を貴んでゐることを本島學者に味はした下村長官の好意は沒することが出來ぬ、大正協會の主催で年々孔子祭が行はれ、今は崇聖會と云ふ團體が組織せられて繼續してゐる、此の祭典の第一次には長官が親ら參拜した其後の祭典の時には生憎不在のことが多く參拜せられなかつたが、祭典執行の時其の位牌は師範學校に保管せられて居ろのを用いてゐる、其の送迎には長官の馬車を貸して呉れらるゝ事が例になつてゐる、長官自ら用事があつても、自分は人力車を用いても此の送迎には馬車を貸して居られた、畢竟之れは本島人が孔夫子を崇拜するの習慣を尊重するの意であつたのみならず日本が古來釋典を重んじたことを知らしむる用意であつたと思ふ、要は下村長官の文化政治の流露の一たるを信ず。

第四に下村長官は如何なる場合にも青年の將來と云ふことを忘れなかつたことは記憶を價すると思ふのである、中學校の卒業式に一時間の講演を爲して倦むを知らなかつた、少年の運動會と云へば自ら陣頭に立つことを辭せなかつた、體育協會の成立も實に下村長官の發意であつた是等の事業の效果は直に現はるゝものでないから普通の役人から見れば下村は餘計な事をして居ると笑つて居るかも知れぬが、斯る樣の下の力持は下村長官でなければやらぬ仕事である第五に下村長官の研究心は青年の範とすべきである長官の書齋を覗いて見れば圖書、新聞、雜誌か紛然雜然として居る、紛然雜然とは唯書齋中に充ちて居ることを形容したのであるが其實長官は自ら之を閲し或は朱點を施し或は之を切抜き或は各種類を類別して保管するなど、あの繁忙中能くも怎んな勉强か出來るものだと思はしむる程である、僕は商工銀行の各支店長に此の實況を見せ之れに倣はしむべく長官を訪問し、書齋の開放を請ふて各支店長に見せたことがあつた。

今後下村長官は暫時書界の人となり閑日月を十分に利用することゝ思はる僕は其の捲土重來の日の速かならんことを期待する。

（臺南新報）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

閑地に就く海南君

電力副社長　角源泉氏談

京都府知事にとの話があつたさうだが、それはきッぱりと固辭されたさうだ、今度は暫く役人はやめだらう、多分洋行される筈だ、此前の洋行が明治三十何年であつただから云はゞ十何年振りだから大分樣子も變つて居るだらうし、戰後の歐洲視察も一度はされて好い事だ、内田さんも罷めてから直く行かれたからねエ……（臺南新報）

是程の適役は無つた

日拓專務　小松吉久

下村宏氏が臺灣總督府の民政長官になつたのは大隈内閣の時であつた「是程箝りきつた適任者を推薦した事はない、實に氣持の好い程適材適所である」と時の大隈首相は云つたさうだ、實際適任であつた如何に適任であつたかと云ふ事は氏が在任中に爲された仕事に就て見ても判る。

對外施設としては南支南洋方面に於ける諸種の仕事がある百年の大計を樹立せるものに教育令がある、更に其の大なるものに自治制の確立がある、產業關係の事業方面に於ては日月潭の水電事業あり、官佃溪埤圳あり、同種類の桃園大圳がある、一として是れ偉業ならざるはなしである、南支南洋方面に於ける施設としては對岸各地に於ける博愛醫院の事業、廈門、福州、汕頭の三地に於る教化事業、又た別にしては例の領事會議等あり、其他年々督府各部局の官吏を同方面に派遣して種々の視察を爲さしめ彼此相通ずるの策が樹てられ、所謂臺灣を飛石とする帝國南進の國是に寄與する所尠なからざりし事は今更喋々を要しない。

而して此策の如きは下村長官は其の眞の第一步を發し、永久的に益々其步を進めらるゝものと思ふ、教育令が本島に於ける教育事業の一大新根帶を作した事は今更云はずもがな、日月潭水電の力が農業國なりし本島を更に工業國となすは遠き將來でない、官佃溪埤圳、桃園大圳に至つては人の力に依つて千里の沃野を新造するものである、其の利益の大なる事又た今更云爲する迄もなからう。

自治制度の確立に至つては、それが爲め下村長官が如何に心血を絞つて努力せられたかは知る人ぞ知る、要するに下村氏が本島の爲め帝國の爲め、在任七年間盡された功蹟は啻に是位にして止まらず、若し謂ひ得べくんば歷代長官中稀れに見る精勵振りであつた、云ふを要せざる事かも知れぬか下村氏は非

常に頭腦明敏な人である、總ゆる事物に對して理解を有つ人である、有り餘る程多方面に智識を有する人である、而も其の總てが完全に消化されて居るので、有り餘る程の多方面の智識が有り餘る程の多方面に何等の停滯もなく、如何にも鮮かに利用されるのである、此點に就ては特に敬服して措かない、從つて氏の趣味性も又た至つて多方面である、そして其の趣味の何れに對しても行くとして可ならざるなきには又たしても敬服する、運動家として、新派歌人として、圍棊に於て、撞球に於て、其の盡くが群を拔いて居るのだから敬服に絶えない。

中にも氏が臺灣體育協會々長として體育の奬勵に努力せられた事は特に感謝に堪えぬ所で聞く所に據れば時には私財を投じて迄も之れを奬勵されたと云ふ、最近に於て上海のオリムピツク大會に臺灣代表選手を派遣し、一には日支親善、一には臺灣宣傳の爲めに稗益する所尠なからざりしが如きも又た本島の爲め多とせねばならぬものである海南の雅號を以て折に觸れ發表さるゝ新派和歌には洗煉された豐富なる詩情字句の外に横溢するものあり、三誦に値するものがある。

之れを要するに下村宏氏は新らしき思想新らしき頭腦、新らしき智識を有する新らしき爲政者である、氏が本島に於て種々施設せられた仕事はこれから芽を吹くのである、これから收穫があるのである、私は此の意味に於て特に惜別の情禁じ難きものがある、

それから。

最後に一言を呈し度い、從來一度臺灣を去つた者が兎もすれば臺灣を忘れるのを氏は尠なからず不滿に思つて居られた私が氏に一言を呈する迄もなく、氏は其の持論よりして將來共屢々來臺せらるゝ事と思ふ是非共左樣御願ひし度いのである、終りに於て、私は今下村宏氏を送るに蒞み滿腔の敬意を表し、併せて邦家の爲め十分に自愛あらん事を祈る（臺南新報）

在任中の仕事は

驚く程目覺しかつた

電力社理事　永田隼之輔氏談

下村さんは實に好く働かれたものだ餘り強健な身體でもないのにあれだけの活動が出來たのはいろいろな趣味があつて、其の趣味の爲めに一日の勞苦を忘れる事が出來たからでせう、碁をやられる、將棋をやられる、いろ／＼の運動をやられる、或は詩を作る、歌を作る、そしてその何れもが群を拔いて居るのですから敬服すべきです、料亭などへ行かれてもなか／＼面白く遊ばれます、萬事がそんな調子であつたので、餘り強健でもない身體があの劇務にも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

耐え得たのでせう。（臺南新報）

地理的活用が眞に偉大なる使命

専賣局腦務課長　鎌田正威氏談

今までも歷代の長官が更迭さるゝ時はその過去の功勞を謝し且つ深く島民の腦裏に記念せしむる意味に於て大に新聞紙上に宣傳を試みたものである勿論今度の下村長官の功勞に對しては十分に筆を揮つて頂きたい下村長官が先づ着任の當初に於て再々に明言された事は　灣の地理的狀況に着目して本島の使命は島内の經濟的生產的能力開拓に於てのみ存するものでなくその地理的立場を活用するに於て眞に偉大なる使命を全ふし得るものである乃ち敎育に於て文化に於て極東の經濟貿易交通に於て本島さ南支南洋の相關的問題は自分が在任中の中心問題であるさ信ずる云々さ云ふ意味であつた。

顧れば島内の水利事業を始め官制改革社付事業敎育令共婚問題等に於ける努力の蹟さ共に先づ臺灣そのものを内地人士に紹介し理解せしむべく着眼した事は所謂地理的臺灣活用の第一步とも見られぬ事はない又下村長官として最も得意な事業は元來どうも社會事業の樣である公設質舖とか體育協會とかそう云ふ色彩を帶びたものが特に目立つ樣に思ふそれから本島人への接近等は全く下村氏の代に於て十二分に濃厚になつた樣であるそれから。

賀來さんに就いては貴君は何う觀察する……ウムあの人の生命はその誠實なる風格の示す樣にだらしのない事が大きらひで一面に豐かな溫味があるが一面には誠實にして確信のある所は自已も地位も何のも眼中に置かぬ秋霜侵し難い處があるネそれがあの人の半生を通しての一異彩だと思ふあれで仲々徹密な眞面目な人だよ。（臺灣新聞）

賀來新長官

謹嚴で溫味に富み政治的研究趣味を持つ

神社内務部長談

私は賀來さんの下に約八年間居つたのですか、先づ賀來さんを一言にして言へば謹嚴な人さ云へるでせう頭腦が明晰で仕事も一々バキ〳〵と片付けて置かないと嫌ひな方で、自分から先だつて勤勉であるので局内一體に此の風が染み急ぎの仕事となると晝夜となく出勤して整理すると云ふ風でした。

斯ふした工合で皮相な見方をするさ一見事務家のやうであるが

矢張り方針の人であつて大局に眼を注いで良く方針を樹てる人です專賣局も賀來さんが來て鹽にしろ樟腦にしろ面目が一新されたがの感があります趣味と云つては碁將棊撞球などで餘りやらないやうですが讀書殊に政治方面のものに多くの興味を持たれて居るらしく氣合術なども健康上からか自宅でやつて居られた樣です。

その外花盆栽等に幾分趣味を持つて居られるやうです、大分朝は早く起きられる方で一應急ぎの公務を處理し讀書に移るそうです、宴會の席上などの騷きが嫌いだと云ふのですか、それは餘り好む方ではないやうですが交際には出ない譯ではなく他人が行くのをさして制する譯でもなく、只自分から進んで此の方面に出ると云ふ事が無いと云ふ位のものでせうかそれが必要を認めなかつたからでせう、あの謹嚴一方に見ゆる人で一面非常に人を愛する人で隨分人の面倒を見てやる方です云々。（臺南新報）

前長官の功績

臺北市尹　武藤針五郎氏談

人生萬事塞翁が馬ぢや何處がよくて何處が惡い等と人間の頭で極められるものぢやない人間は到る處が活舞臺である下村長官の挂冠賀來局長の新任それ等に兎や角論議の餘地はない然し下村長官は三代の總督に侍して誠實な努力と文化の根底に向つて一通りでない貢獻があつた事は何人も認むる所てある。

官田溪の大工事桃園の埤圳工事共進會開催官制改革財界不況臺灣の內地宣傳但に教科書調査委員長として教育會に於て共學問題教育令社會教化國語普及の宣傳中等教員養成を內地に委託せる等あらゆる方面に根底的基本的努力の蹟が見ゆるのである更に今後發展すべき體育協會問題義務教育問題ずいぶん難局であり亂局であつた時代の長官として島民は永く敬慕すべきである特に同氏は家庭の人として開放的で趣味の人であつたテニスもやれば歌も作るそうして野外趣味の宣傳者であつたその表面の人としてよりも裏面の人としてかへつて民衆或は官海への印象は深い樣である。

下村前長官は
珍しい人格者

參事官　菊池武芳氏談

教育的方面に於ての長官は特に熱誠な態度と努力があつた樣に思はれる學校當局者等は非常に敬意を拂つて居る樣である今度は愈々賀來長官を迎へたのであるが同氏は本島にはずいぶん古い人で民情及百般の事情にも精通して居る方であるから頭腦も緻密な人であるし下村長官の後任としては適任ではあるまいかと思ふ。（臺灣新聞）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

秘書官として下村長官と最も近侍して居た菊池參事官は下村前長官の美點長所に就て記者の問ひに應じて語る。

餘りに接近して居ると却つて能く判らぬものであるが下村前長官の人格に就ては敬服に堪へぬ事共が甚だ多い第一に知識慾が非常に旺盛でアノ忙中に讀書すること夥しいものだ新聞は二三十年來引續いて重要の記事を切り拔き之を部門別けにして保存して居るが其の量は汗牛充棟も啻ならずで他人の眞似難い所である萬事が平民的で俠客肌の氣前があり如何なる種類の人間にでも愛想良く接して語り且つ聞くか他人の話を盲信するが如き事は無く充分に咀嚼し判斷して自分の意見を發表すべきは發表して辯ずべきは辯じ難ずべきは難ずるといふ有樣である。

而して非常な精力家で能辯家で朝日講演會で四時間程立て續けに演説して世間の驚嘆を買つた位ゐの事は敢て珍しくない海外の事情に克く精通し進歩的で積極的で且つ文明的の思想家で考慮深いと共に善いと信じた事は直ちに決斷し理非曲直の理解が極めて明らかである財政經濟には特に權威者であり身に奉ずる事甚だ質素であるが金錢には甚だ恬淡たるもので餘裕さへあらば私費を投じて他人の爲めに盡して遣るといふ風で財產らしい財產は殆んど無い克己心の強い人で煙草は貯金局長時代に禁じ臺灣に來てからは酒も斷然廢止したし好きな料理で過食せぬやう注意してるので。

アノ體質で激忙に處しながら克く健康を保つて居られたのだ趣味の多方面な事も驚くばかりで萬事に掛けては全く天才的である碁、將棋、撞球からランニングまで素人放れがして和歌に堪能で風韻に富んだ書を能くし文を草しては達筆なこと呆る、ばかりであるが中にも意外なのは音曲に隱れたる藝能を有する事だ往年德川賴倫侯の來臺した時北投の無名庵で催した歡迎會の席上に義太夫常盤津淸元歌澤から謠曲まで呼吸も吐かずに二時間程ぶつ通じに行つたさうだ之れは一事に熱中して居るやうでも常に萬事各方面に精神が躍動して居る證據で頭腦の明晰な事は以て知るべきだ體育にも甚だ熱心で臺灣の體育熱の勃興も偏へに前長官の賜物であるが情もあり又た威も兼ね備へて克く人の世話をするので崇拜者や乾分が隨分ある而して人を使ふのに心持よく働らかせるやうに努め日月潭にせよ官佃溪にせよ重大な事業を面白く進行させる殊に敬服すべきは他人の惡口を陰で言ふが如き事は絕對に無い言ふ事があらば直接に面と向つて言ふが溫かい情愛が籠つてるので何人も其の親切に感ずる。

部下が病氣にでもなると隅から隅まで氣を付けて世話を燒く吒

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る時も頭ごなしに呶鳴らずに理解させろうやにするから人は心服して了ふ公德心が發達して居て他人に迷惑を掛けることを非常に嫌ふ出張しても大袈裟な出迎へや人拂ひや護衛は却つて機嫌を損ねる寳際に遲刻するのは多忙の爲めで其他は萬事に確讀式であつた公平で淸廉で精神的であつた其感化の現はれとも見るべきは前長官赴任以來大した土匪騷ぎも無く生蕃の大きな亂も無く役人間に甚だしき收賄事件とか費消事件が無かつた夫れである適材を適所に置くことにも意を用ゐられたもので役人のみならず評議會員や州協議員の人選なども亦モツト奇拔に行れたと主張する論者もあつたが前長官は萬人の認めて以て是なりと首肯する處に落付く。

又た內務省と總督府との間に高等官の融通し合ふ事にも努めた例せば湯地、龜山、中山、後藤の諸氏が內務省に入り川崎局長、廣瀨前遞信局長、鈴木信太郎、得能佳吉、川淵洽馬、皷包美、川崎末五郎、生駒高常の諸氏以下最近の學士連は內務省から來た事業の上の功績は人も知る如く地方制度、官佃溪、桃園の兩埤圳、日月潭水電、教育令所得稅施行、上告部の設置、體育協會を首め南支南洋の開發に意を注ぎ南洋協會、東洋協會、赤十字、武德會其他各團の團體に會長支部長として盡瘁された所は多大なものである而して第一に臺灣に對する理解と同情が徹底的であつた事が本島人の最も德とすべき所である私の常々感じて居た前長官の美德の一つとして雅量の大きな事を擧げねばならぬ例へば一度は過つて惡事を犯した者でも悔悟した後は其の罪を忘れて遣る又た缺點を補ふ丈けの長所があれば其の缺點は大目に見るといふ襟度があるので多くの俊傑が部下に馳せ參じて來る次第だ夫から。

文子夫人は非常な賢婦人である萬事に臨んで賢に理想的の態度を持して居られる自然聞き込む機密など決して洩らしたりせぬ殊に此間前長官が東京に出發さるゝ時に留守するか一緒に上京するかと云ふ事に就て前長官から尋ねられた時の夫人の態度は一層夫人の人格の輝きを發揮したものであつた因に前長官の嚴君下村房次郎翁は日濠貿易の功勞者で敦賀に其の銅像が建てられてある夫人は第一銀行取締役佐々木愼四郎氏の息女である。（臺灣新聞）

光風霽月の心事

臺灣倉庫會社　三卷俊夫氏述

吁、實に惜しい人を本島から失ひました。僕は惜しいと云ふより寧ろ悲しい別れだと云ひたいのです。下村氏が長官として本島は其う何時々々迄も勤續されるものとは元より思つてゐなかつた時が來れば是非もなく〳〵別れればならぬのであるが何時迄も別れる時が來ないようにとも亦來るだらうとも思はずに過してゐ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

たのであつた近頃下村總務長官の挂冠の風評を耳にした時は恰も近親者の訃を傳へられても其の訃を信じないやうに愈よ發表になる迄は其の風評が誤傳であつて欲しいと希望してゐたのであつた

下村長官に就いて我輩の印象に深く刻まれてゐることは一見城府を設けざるの人、堅忍不拔の人、努力主義の人、諸藝に堪能なる人と云ふ其の性格が既に非凡であることだ、併し時には不徹底で八方美人式だと云ふ譏を免れなかつたこともあつたであらうが其れは長官と云ふ地位が餘儀なくせしめたことが多いだらうと思ふ、若し下村氏から長官と云ふ肩書を剝いだならば未だ〳〵言ひたい事も多くあつたであらう又爲すべき事も多くあつたであらう、下村長官は所信を斷行する上に於ては勇氣があつたにしても各方面との關係上、必ずしも一本調子で猪突驀進することを許さなかつた事情もあつたに相違ない。

世俗紛々たる毀譽褒貶は敢て下村氏の念とする所ではなく、唯内に顧みて疚しからず光風霽月の心事は所謂知る人ぞ知るで下村氏自身も恐らく會心の笑を洩して本島を去らるゝことであらう尚ほ我々運動に趣味を有つてゐるものは氏が本島を去らるゝと共に氏の發意に成つた體育協會の前途に杞憂を抱かずには居られない

或る人は體育協會の運動に就いて詰らぬ一種の遊戲だと蔑視する聲を聞くが下村氏の體育協會設立の趣旨は日本の將來に鑑み體育を奬勵して行く〳〵は優良な人種に造り上げたいと云ふのが目的であるのだ同協會が下村氏を失ふのは實に殘念である、僕は更に一つ悲しむべき事は下村氏と共に石井君を奪はれはせぬかと云ふ心配であると悄然として語つた。

（臺南新報）

海南博士と米南先生

役人程白ばつくれる者はない能く嘘を吐く者はない、臺灣新聞に依つて下村長官の辭職說が傳えられたのは五月の事であつて二十日には發表と云ふのであつた、夫れが內地に傳はり更らに逆輸入さるゝに及んで下村氏は新聞記者には元より、逢ふ人每に辯解に努め、其んな形跡は元より、考へさへした事が無いと、例の赤心を披瀝して諄々と辯解されたものであつた寄り觸る程の者は悉く長官が眞面目の辯解に、今度の風說に就ては餘程神經を惱まされたものと見えると云つて居た、去月末內地へ出發の際にも誰一人モー總務長官として再び臺灣へ歸らぬ人とは思つて居なかつた。

長官が東京へ著かれた際臺灣關係者の多くが出迎へるのが例であるのに、今度は非常に少なく製糖會社連は唯二人切りしか出て居なかつたと云ふ、此一事に就て見るも斯樣な事は悉く東京で畫策され、從つて東京では早く其消息が漏れると云ふ事を證明し得ると共に、出迎者の少ないと云ふ點に見て如何に人情の輕薄さが窺はれる、而して長官は去月三十日

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に辭表を出したと云ふ風說が臺灣に傳はり、繼ひで賀來さんが出立する七日より、三四日以前に、「東京方面から長官交迭、後任の賀來さんである事、下村さんは京都府知事になると云ふ電報が頻々と臺灣へ這入つて來た、賀來さんの立たれる頃はモー一般に知れ渡た。

在職中には、辭任など思ひも寄らぬと明言して居た下村さんも發表になると直ちに三年間の希望か達せられたと云つて居られる、三年前と云へば明石總督が薨去當時かも知れぬ、總督と進退を共にすべき長官の事だから、多分此頃に辭意を漏らされたかも知れぬ、スレば三十日に辭表を出したと云ふのは噓か或者は今度の退職は暗打ちで、長官としては眞の不意打であるとも云ふ、又或者は加福氏等が下村氏に復讐の爲め暗中飛躍をなして、後藤男の活躍となつたのだとも云ふ、チト穿ち過ぎて居るが近く加福氏と井村氏が捲土重來本島へ戻つて來ると云ふのが事實とすれば、此風說も一種の興味を有する樣にも思はれる。

田總督と下村長官とは意見が衝突し、其結果だとは內地新聞の多くが報道して居る處である、田總督は上京毎に下村氏の轉任を運動したが、現內閣が下村氏を喜ばない爲め轉任先問題で何時も悶へて居たのだとも報道し、又或新聞の如きは總督長官の間は從來から決して圓滿なる間柄でなく殊に最近行政訴願令制定に關し意見一致せず、終に下村氏の決意を促したものだとも報道して居るが、孰れが事實か何うか判つたものでは無い併し吾人は長官が每々說明せらるゝ程、總督長官互ひに信任し合つて居る中だとは思つて居なかつた、長官として面白からぬ感じを起したらふと思はるゝ事實が昨年來澤山ある。

吾人が知れる範圍の事實丈けに於ても、長官が彼れで能く隱忍して居る事と感心した、夫れと同時に官吏に成らなくたつて、立派に飯を喰ふ途を知つて居る下村氏でも、一たん役人となると役人が廢めづらいものと見えると云ふ事を聯想せずには居られ無かつた、法學博士、幷んなものが無くたつて學者としての下村宏君は立派なものである、財政學は君の本職であるが、社會學者としては日本での先輩である、社會學と社會主義との區別さへ世間が知らない時代に熱心な研究をして、警察から睨まれた事さへあると云ふ、其他哲學にしろ美術にしろ、文學、語學適くとして可ならざる無きは下村宏君である。

下村君が七年間の臺灣生活に於ける功績は、認むべきもの決して少なくない、督府て敍勳の下調べとして功績調査をして居ると云ふのも當然である、併し下村君は役人として必要な押しが無い、執拗でない、頑强でない、權謀がない人が好すぎる、餘りに學問が廣過ぎて夫れにカブレる事がある、斯んな處から吾人は下村君

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を總務長官として見たくない、湊南博士として見たいと平素思つて居つた、既に京都府知事と云ふ處まで話が進んだ、京都府知事は決して總務長官に劣る地位ではない、夫れを長官が手もなく謝絶したと云ふのは、暫時休養と云ふよりも、役人生活に飽きが來たのでは有まいか。

下村君は純粋な學者肌の人である、趣味の人である、從つて官僚式とは反が合はないのが當然である、日本の官海まだ何と云つた處で官僚臭味滿々である、臺灣とても御同樣である若し下村君を咒ふものがあつたとすれば夫れは官僚式の者である、下村君の臺總に於ける七年生活は官僚式との惡戰苦鬪であつたかも知れぬ、而かも今や此官僚の圈外に高踏して了つた、下村氏の洋行は事實であらふ、或新聞は國際勞働會議政府代表犬塚勝太郎氏と交替する事に內定して居ると云ふに眞僞は元より不明であるが、氏の洋行云々と結び附ければ多少意味あり氣に聞えぬでもない、下村氏の前途は尙は長い。

賀來佐賀太郎氏が下村氏の後を襲ふたに就ては、意外でもあり、又意外でも無い樣である內田長官時代に賀來氏が暗中飛躍を試みたと云ふ說は、今尙は多くの人の耳底に殘つて居る、爾來賀來氏の長官運動說は間歇的に絕えず人口に上つて居た、昨年來の風說では賀來氏が長官となり松本剛吉氏が專賣局長に成ると云ふのであつた、今度長官交迭が實現すると共に松本專賣局長說が內地新聞にまで傳えられるのも當然である、果して松本氏が襲職するや否やは別として下村氏が辭職して三年振の希望が達したと云ふなら、賀來氏は十年振の希望が達したのだと云つても宜い、お目出たい事である。

此程總督が出發以前に既に局長連には其話があつたと云ふのは事實らしい、局長連の連袂辭職など大袈裟な事を云ふものもあるが、夫れは誰かの捏造說であらふ、總督から一應話があつた上、賀來氏は局長の各自に就て一々了解を得たと云ふのが事實らしい其中で高山殖產局長が、然らば吾輩は之れから退陣の準備を致さうと云つたのも事實らしい、斯くて後總督は上京して諸般の手續きを定め改めて賀來氏に上京を命じたので有ふ、賀來君は云ふまでも無く後藤男直系である、官僚式の錚々たるものである、下村氏のデモクラク的とは正反對である、督府內の空氣も之れから先き多少の變動を見るかも知れぬ。

賀來新長官の人物評に就ては極端に賞揚する者と極端に批難するものとがある、又或者は賀來氏は非常に相違せる二個の性格を有して居ると云ふ者がある、若し然りとすれば其賞揚する者も、批難する者も何れも其一面丈けを見ての評論では有まいか、君は骨董書畫以外多く趣味を有たないと聞く、然れど

も君は我經世新報社長と同じ米南と云ふ號を有して居ると聞いた既に米南と云ふ號がある以上何等かの趣味を有するに相違ない曾て和歌をやられたと云ふ者もある、而して君の能書は一般の認むる處である、到る處飄逸な海南博士の書を見ると同じく、遠からす勁健な米南先生の書を拜見する事であらふ。

（臺灣經世新報）

往を偲び來を想ふ

小宮元之助氏談

前の總務長官下村宏氏は本島に赴任の當時挨拶されたる辭に

自分は茲に臺灣總督府民政長官として臨むや全く白紙である故に今後の色彩は一に總督の指導を始めとし延ひて重なる官民の援助に依つて其の色別を決するに在りと。

茲に於てか自分は同氏の著任後三日を出でずして官邸に訪問し「治臺十則」を書き記し即ち本島土著民は支那本來の遺流を脱せず所謂忠君愛國と云ふ點に於て缺如する處あるの民なるに依り先づ此の方面に力を灌き以て忠君愛國の附隨たる大和民族の氣風を充分に彼れ等の根底に植付けられ而して施政の基礎とせられんこと等十箇條を列擧し進言せし處ありしに同氏も亦之を諒とし鄭重なる禮狀を送られしことあり。

氏は官界に入るとなり先づ遞信省に入り簡易保險等の事務より進んで爲替貯金局長等繁細なる換算上の事業に從事され來れるに係らず一度民政長官として執務せらるゝや能く大勢に順應著眼し以て政務に當り皆々好成績を示し且つ其の人物手腕より見ても頭腦明晰にして人に接し能く談じ正義を守り信を以て人を服し德を以て人を懷く此の點に於ても充分なる成績を收め先づ曩の後藤長官に等しき迄に成績の顯著なるものありと云ふを憚からず。

然れども輓近に至つて本島人を遇するに一視同仁の趣旨より出てたるものならんも其の無差別的方面より餘りに極端に傾き寧ろ公平を失したるの感なくんばあらず由來內地人たる大和民族は數千年の古來世界各國民に對し誇るべき獨得の或る貴重なる國民性を有す者に比し之と同一たらんとせば或る道程を踏ましめざる可からず然るに僅かに二十六年前領有せる臺灣たるに係らず島民に對する紋上の如き無差別觀は寧ろ本島人偏重の嫌なきを得ず斯は同氏の本島統治の末路に於ける幾分の失政として深く惜しむべきことに屬す而して。

新に總務長官となりたる賀來新長官は渡臺の年月も古く夫れ丈臺灣風俗民情其の他に精通し隨つて將

來の施政上に於て下村氏に一歩を讓らざる可しと思ふ特に臺灣に於ける專賣局を中心として在任の永き丈それ丈時代に順應すべき方針に就ても定見あり且つ經驗に富める手腕を有するに於ておや世間の人稍もすれば君を見るに無愛嬌の人物なりと評する人あるも斯は君の眞意を知らざる皮相の見解にして君を眞に知る多くの人は仁慈の情に富み寧ろ頼るべき人なりとして深く尊敬するに吝ならず云々。（臺南新報）

新舊長官

谷口巖氏談

賀來新長官は本島に渡臺されしは去る明治三十六年秋總督府事務官として赴任され爾來元通信局の各課長、參事官、土木局庶務課長、作業所長專賣局長等の經歷を經累進して今日に至る迄實に在臺正に二十年に近き歲月を閲し府內各般の事業に從事し而かも其の間本島に於ける人情風俗を知悉し淸廉恪勤の人たるを以て今後の大任に當り必ずや施政の功績見るべきもののあるを信ずるものなり而して

下村前長官に至りては安東明石の兩總督を經て現任田總督に仕へ其の間出入七八箇年の星霜を閲し相當成績の見るべきもののありたるを信ず然れども最近に至り稍々愼重を缺きたる或るものなきかを疑はしむるものあり深く此の點を惜しむ。（臺南新報）

下村博士

陳鴻鳴

孟軻の曰く禹之行水、水之道也と政治の要道他なし、即ち社會の大勢を察して之れを善導するにあり。是れ水を治むる者の能く水の性を察し能く地の勢を測り、之れを疏通して以て汎濫橫溢の害を防ぎ、灌漑利濟の利を興すと何ぞ異ならん、然れども此事たる言ふに易くして行ふに難く、天下其人を得る寔に尠し。

茲に吾が下村長官閣下に至りては天賦の穎才と加ふるに學殖の豐富とを以てして能く此事を實行し常に些の違算あることなく在職七年の久しき三代の總督に歷仕し精勵恪勤以て補佐の大任を盡し未だ嘗て倦色なし即ち爰に本島住民の幸福を增進し延て國家的植民政策の基礎を確立せられ、施設皆宜しきに適し歷代の長官中多く其比を見ず、挽近本島文化の開發顯著にして長大足の進步を致せる誠に故なきにあ

らざるなり。

甫め閣下の本島に臨むや、百度弛緩、財政窮迫、恰も行詰れる臺灣と稱せられ官民殆んど救濟の途なきに苦む、而かも閣下は此の大勢を察して還利を海外に拾ふべく、南支南洋の經略を畫し、兼ねて資本を本島外に求めて殖産興業の大本を定め、戰時及び戰後に順應して機宜の處置を採り、彼の臺灣電力株式會社を創立するに當りては特に民力を補ふに官力を以てし、一面官佃溪埤圳の大土工を興して國利民福の增進を圖らる、既にして物質的方面の成果を收めらるゝや更に精神的方面に於て彼の敎育令を發布し、島民の子弟をして向學の急に應ぜしめ、依て以て今日見るが如き奎運に際會せしめらる。

殊に吾等本島人の人格を認められ、向上的政治を行ひ忽ち同化の民たるの實を擧げしめらる、島民の幸福何を以てか之れに加へん、宜なる哉民人の悦服其極に達し朝夕接物の間其鴻恩を懷はざるはなし、而して自から酬ゆるの道なきを恐る、此時に當つて突如閣下辭任の報を耳にす、虛なるを願ふて而かも實なるに於て、島民の驚愕譬ふるに物なし、自失せざらんと欲するも豈得べけんや、嗚呼。

然れども流水留め難く、吾が下村長官閣下は汪洋たる大海の資、永く本島の如き小天地に止まるべきにあらざるを知つて又如何ともすべからざるものあり、區々の私情を以て國家の大利に代えべきにあらず、氣を勵まして閣下の爲めに離愁の涙を灑がず、請ふ吾等の信賴措く能はざる長官閣下よ、閣下が驥て世界を震撼するの大波瀾を捲き起し眞に天下の壯觀を極めらるゝの時、吾等島民が一齊に擧ぐる快哉の聲を受けらるゝことを吝まるゝ勿れ、閣下の背後には閣下の撫育に成れる善良の島民あるを忘れ給ふべからず是れ吾等がより大なる功績を閣下に依つて得んと欲し、綿々たる惜別の私情を抛ち、强いて其志を大にして以て其行を壯にする所以也。（臺南新報）

臺灣運動界の大恩人

臺灣體育協會幹部某氏談

下村さんが本島體育界の爲めに盡して下さつた事は實に非常なものです、昨年十一月臺灣體育協會が出來上つて其の名譽會長として盡して下さつた事は云ふ迄もありません、其の以前から常に體育奬勵の意からして諸種の運動競技などを盛んに奬勵されました。

單に奬勵のみではありません、時としては自ら陣頭に立つて行られたものです、淡水のゴルフリンクなどへも政務に支障なき日曜、祭日等に幾度か行か

れました、それらの事の爲め本島各方面の體育界が如何に振興したかは私の言を要しない所です、長官が斯くの如く體育を奬勵されたのは、古い言葉ですが「健全なる精神は健全なる肉體に宿る」と云ふ格言を最も適切に認められたからであります、さなきだに常夏の本島に在りては兎もすれば人々の肉體がだらけ氣味になります、之れを引締めるのは唯だ體育あるのみ、そして其の體育に依つて健全なる人々の一人でも多くを得以て植民地開發者の能率増進を圖り度いと思はれたのです。

最近上海に於ける極東オリムピツク大會へ臺灣代表選手を派遣する際の如き、下村さんの熱心さは吾々幹部をして實に敬服させました第二次豫選會當日の如きは雨中にも拘はらず自らグラウンドに出馬して何呉れとなく注意するやら、いろ〳〵の事を訊かれるやら實に熱心なものでした愈よ選手決定して遠征の途に上らんとするや、學生送別大會に出席して送別の辭を與へられる停車場へまで見送りに行かれる選手を愛する事吾兒に對するが如き、下村さんの美しき人格の發露を見たる吾々は臺灣體育界が今日の盛大を爲せる又た故なきにあらずと思ひました。

其の選手等が不幸敗れて歸るや「諸君は捷たずして歸るのが當然である、捷つて歸つたらそれは奇蹟である」と慰められました、選手等は默として一語なく、只だ感極まり、兩眼は感激の霑ひに滿ちて居ました、つい此間終局を告げた臺北野球爭覇戰の始球式は下村さんに依つて行はれまして、爭覇戰中も政務に餘暇あれば必ずグラウンドに來て居られました、臺北に於ける最初のレギユレーションボールの庭球會には其日は日曜でしたが、朝一寸來られて、一旦歸邸し用事を濟まされて又た直ぐに見えました、正午になれば選手等と一緒に大きなはんばうの中に入つて居る握り飯と煮〆を摘み食ひしながら「實に旨いねエ」です公園のグラウンドへひツこり來られてもいきなり其所らに在る空いた椅子に腰掛けて熱心に見物すると云ふやうな風ですから、下村さんの體育奬勵は體育奬勵以前に一般の者に對して或る一種の好感を與へ、到る所に於て長官を見る一般の人に云ふべからざる親し味を感ぜしめたと云ふやうな事もあります。

體育奬勵が文化生活の一要素となつて居る事を否認するやうな沒分曉漢はよもやありませんでせう、然らば本島の體育界をして今日の盛大あらしむるに努められた下村さんは正に運動界の恩人として永久に敬慕せねばならぬ人です、吾々は下村さんに依つて斯く迄立派に培はれた本島の運動界を飽く迄も十分に育て上げて行かねばならぬ事と思つて居ます、尠なくともそれが今本島を去

らるゝ下村さんに對する吾々の義務です吾々は此の言葉を以て下村さんをお送りします。（臺南新報）

新派歌人としての
下村海南君

＝南方藝術社某氏談＝

趣味の人下村海南君に文藝方面に對する理解もなかくに廣く且つ深いものがありました特に新派和歌は或は巡視の折、或は何かの事ある時、其の作品を發表されましたが、露骨な事を申せば其の何れもが必ずしも立派な作品とは思はれませんでした、要するに非常に出來、不出來がありましたが、海南君の場合に於て作品の出來、不出來は問題ではありません、況んや時に依つては非常に雄大なるもの、時に依つては非常に莊重を極めたものなどあり、之れが日々政務の爲めに忙殺されて居る官場の人の作品かと思はさるゝやうなものがあるに於ておやです、海南君其のものが總ての點に於て眞の新人です、隨つて其の作歌も又た眞の新味を帶んで居ます。

彼の著聞せる作

日のもとのみんなみの端にわれ立ちて振りさけ見れば黒潮踊る（鵞鑾鼻にて）

の如きは新味と雄大味を併せ有つた實に氣持の好い作です、此の新春の作

此の朝け新高山のいたゞきにながなき鳥の聲高らかにうたふ

の如き又た同じ作風に屬するもので金槐集に今も雄渾なる吟詠を遺す薄命詩人實朝卿の作品にも似通ふた所があります、前總督栢陰將軍の靈柩を送りては

かへる日のなき君のせて紅葉橋砲車きしりて秋の日かなし

に至つては哀音切々たるものあり、栢陰將軍薨去の當時より辭意ありしと傳へらるゝ昨今の話と相照應して、麗はしき情緒字句の外に溢るゝものを感じます

むらきもは正に醒めけり大正の維新の前に立ちにけらずや

は官人として將た新人としての海南君の面目躍如たるものがあります、さうかと思ふと方面を變て純粋な詩情を歌へるものに

南國のいでゆの秋の空澄みぬわがいたつきの癒えし此頃

星一つ大屯山の上に見えて北投の谷は靜もりゆくも（臺灣新報）

本島運動界の忘れ難き恩人

前長官下村さんは辭職の聽許となつた際『七年間

馴染の臺灣、殊に能く馴染んだ學生達と全然訣別するのは僕として實に忍びない所だ』と感慨無量で語つたと本社の東京特電子は報じて居る、過ぐる新公園の南北對抗仕合の時でも下村さんは何時もスタンドに姿を顯はして熱心に觀戰するなど右の東電もさこそと肯かれるものがある。

勿論下村さんが多數の學生青年達と接近されたのは概れ運動競技のある機會が多く體育の奬勵普及に重きを置いての故だつたらうが又若い人達の無邪氣に生々として活潑に振舞ひ何事にも些の澁滯なきを好愛するにあつたことも確だと思はれる今度愈々辭職決定といふので二三學生に就き其感想を聞いたが孰れも異口同調で下村さんと訣別するのを惜まぬ者無く語つた所を綜合すると：：臺灣體育協會が設立されて本島にレギュラリーの運動競技が漸く芽生え體育の科學的發達が將來さるゝ機運の迎へられたのは何んと云つても前長官の指導奬勵に與つて力ありて寔に感謝に堪へぬ。

下村さんは體育……運動競技に深い理解と趣味とを付つて居られて內地及び海外に於ける陸上競技界の消息に案外な點迄も精通されて居るそしてフキールドやトラックに顏を出す學生や其他青年の人物や氏名を能く知て居られて、時折不意に背後から如何にも親しみのある聲で『何々君』と言葉を掛けられ、何氣なくオイと應答して振返ると夫が下村さんなので大に面喰はされたことも度々だつた、陸上競技部の練習のときでも折々は顏を見せ競技會には公務に支障の無い限り一寸の間でも出席された、そして機會ある每に有益な教訓を聽かされたが、夫が又下村さんの愉快であつたに違ひない、今此平民的で親しみがあつて毫も隔意のない先輩指導者を本島から失ふのは實に名殘惜くてならぬし、又何んとなく前途に心細さを覺えてならぬ、聞く所に據ると近く一度歸臺され某方面へ多數の學生と會見したいとの電報があつた相だが吾輩は其悲喜交々の日を待受け永久に前長官の指導誘掖を牢記したい、そして本島の體育、運動競技界の前途を大に祝福したい云々。

（臺灣日々新報）

賀來長官の半面

在京記者　春　風　樓

赴任以來十八年間の植民地生活を無難につゞけて來た賀來氏が其の府內から拔擢されて下村氏の後任に進められたのは何等怪しむ點がない若し同氏にして他に立脚地を求めて中央に移る考へがあつたならば是れまでも幾多の機會はあつたであらう夫れにも眼をくれずに今日まで其の職に甘じ且つ何等不平もなく遣り通した其處に多くの同情が集つたのは氏の此の獻身的貢獻に報ゆべき正

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

當の成行きである曩には祝辰已氏が財務局長から出で後藤氏の後を襲ふた例もあり後には祝氏歿後の長官として大島久滿次氏警視總長から拔擢された例もある。

殊に賀來氏十八年の在府は府の内外に求めた臺政上の智識と抱負とは前の祝大島兩氏に比べて些の遜色がないのみならず事務の方に於て寧ろ秀でた點もあらう懸念さるゝは高田殖產局長の今後の去就と末松、川崎兩局長等の折合如何であるが何の道一度は或る程度の動搖は免れまい其處は酸いも甘いも呑込んで居る田總督の胸三寸に在ることであれば賀來氏の立場に對しては總督に相當の諒解があらう。

私人としての賀來氏に對しては先輩に對する恩義に感ずる念の深いことが中央に於ての一美談とされて居る其の一例を言へば上京すれば何事を差措いても先づ第一著に兒玉前總督の墓前に額いて香花を供へることを忘れない次に大島前長官の墓參もすれば多忙の中から餘裕を見出して遙々仙臺に在る佐久間總督の墓前にまで參じて淸き追懷を繰返すことを念とするといつた其の誠意の致露は一寸他人の學ばんとして學び得ない美くしさであると人をして感ぜしめる。

又或る消息通は賀來氏の友情に厚い點は大にい賞すべきであるが餘りに深入りしすぎるので時に或は疑ひの眼を以て見られることもある好意必ずしも不可なしではあるが長官としての同氏に望む點は從來の斯うした友情に對して世間から誤り見られることのないやうに注意すべきが必要であると評した者もあつた、憾むらくは氏は中央に相當の背景を持たない此の點は今後中央政界との交涉に於て大分骨が折れやう、けれども其處は臺灣の人と云ふよりも寧ろ中央の大人物である田總督が相當取なしをして吳れる總督としても氏が中央政界に於ての立場を庇護する位のことは諒解して居るべき筈であれば局外者か案じる程骨が折れまいといつた觀測をする向きもある。（臺灣日々新報）

賀來新長官は
俗に流れぬ好紳士

臺北州知事　相賀照鄉氏談

下村長官は實に多趣味の人であつたが今度の賀來長官も決して相讓らぬものかも知れない書畫骨董等は趣味の中でも特意な方でねそうして世間で思つてゐる程四角四面ぢやないあれでも笑はせれば笑ふし只俗に流れない紳士の體度を失はない程度が明瞭に區劃されて引締つてゐるのでネ脫線しないと云ふ人物さ決して木で造つた人でもなければ土で造つた人

形でもないから安心したまへ然しそこらの工合だらふがよく人に誤解され易くてネ先頃東京へ引揚た時土木局長になるとか何とかの噂等も立つた樣だがあれも子供の敎育上の都合から細君を歸したのでそれ以外になんにもなかつたと云ふ理けさ下村長官どしては三代の總督に仕へ七箇年の奉公は島民としてその事蹟を永く記念して敬意を表すべきである私は十分に詳細に渡つてその苦心の情況を知つてゐる理けではないが何と云ふても官佃溪其他水利事業を基礎としての開拓同風會を通じての社會改良事業同化策の基本的事業として國語普及を益々宣傳した事共婚問題、官制改革問題、敎育令の發布臺灣の內地宣傳共進會開催、交通通信に至る迄隨分少くないが何れもその渦中に投じて一意專心奉公の態度の窺はれた事は云ふまでもない或意味に於ては身を以つて本島民の範となつたとも云はれやう。（臺灣新聞）

親友の眼に映じた

賀來新總務長官

臺北州知事　相賀照鄉氏談

賀來長官新任の報を齎して宮內省に關屋次官を訪ひしに次官は心好く記者を引見して語る……愈々發表になりましたが賀來君とは學校時代からの友達で臺灣でも暫らく一緒に居ました親しい間柄です賀來君は一言にして言へば頭腦明晰、身體健康の二拍子揃つて居ますからネエ何しろ臺灣には十八九年居ますが未だ一度も病氣をした事がありません大抵な人は此の永い年月の間臺灣に居るとマラリヤだとかアミーバーだとか何かの病氣に罹るものですよ而し同君は病氣した事がない體格は左程良いと云ふ方ぢやないが病氣はしない之れを以て看ても同君が如何に攝生家であるかゞ解る。

また兎に角此の永い間何等批難の聲を聞かないので看ても同君の人物を推察する事が出來る頭腦手腕等に至つては諸君の知つて居る在臺官吏中賀來氏と親交なる某氏を訪へは之れ亦にこにこして語る……僕が賀來君と知るやうになつたのは明治二十五年熊本の今の五高が豫科補充と言つた頃で共に机を並べて勉强したものだ其後大學では僕は病氣の爲め一年休學したので卒業するのは彼の方が一年早かつたが學校を出ると直ぐ農商務省へ入つて鑛山監督官になつて東京出張所の主任をして居た臺灣へ來たのは確か明治三十六年で當時の通信局長であつた鹿子木氏の招きに依つて來たと思ふ學校の成績は先づ中の上に屬する位であつたが其頃は總て人物本位で學問などには餘り重きを置かなかつた、で。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

彼は生來人の世話をする事が好きで暇さへあれば友人間を廻つて何かと面倒を見て獨りで樂んで居たものだ途を歩いても乞食が居れば素通りは出來ないと言つたやうに頗る同情心に富んで居た夫れが爲め時々友人に致される事があるが斯うした場合にも一旦怒つても後はケロリと忘れて又ゾロ世話をしてやると言つたやうな美德を備へて居た官界に入つてからでも其の性格は依然として居て部下に何か過失があれば譴責もすれば時に首も切る此の場合は涙を流して且つ責め且つ誡めるのである首は馘つても決して馘り捨てにはしない必ず其の職へ廻つて之を庇護して其者の一身の安定を見る迄は盡力して遣るし身を持するに極めて謹嚴で時間を有效に消す事に注意して居る。

ソシテ一度交際したものは何處迄も之を續けると云ふのが君の主義で僕が金州に行つてからも屢々交通をして呉れたが一度も返信をしなかつた處が或時君の部下が轉勤して來て其の時に偶には手紙の一本位は呉れとの言傳であつたので僕も聊か恐縮して早速繪端書を四五枚買つて來て續けさまに久濶を謝して最後に債務が滯つて迚も月賦位ぢや濟せないから一度に返濟すると書き送つたが夫れからは互に交通をすることになつたさう言ふ風に先づ自ら實踐して而して人に勸めると云ふやり方である君は酒は殆んど一滴も飮めないが大弓もやれば擊劍も使ふ居合も上手だし書畫骨董も好きで從つて鑑別の眼を具へて居る和歌も今は知らぬが以前は少々位詠んだもので要するに趣味は多方面に亙つて居る云々と相賀知事は談つて居た。（臺灣日々新報）

麗はしい人格の人

＝賀來佐賀太郎氏＝

小松吉久氏談

新任總務長官賀來佐賀太郎氏は實に謹嚴重厚な人である、啻に謹嚴重厚のみてはない、謙讓にして又た廉潔の士である、本島官界に於ける氏の出發點は明治三十六年臺灣總督府事務官兼參事官に任せられた事に始まつて居る。

專賣局長に任せられたのは大正三年であつたと思ふ氏の説明に據れば本島に於ける專賣事業は阿片、食鹽、樟腦、煙草の四種にして阿片は明治二十九年、食鹽、樟腦は同三十二年專賣制度を施行し各獨立機關の下に在りて經營せられたるを同三十四年專賣局官制の下に併合統一し同三十八年に至り煙草を加へ今日に及べるものなりとある、氏が專賣局長となるや一意專心、經綸を畫策し諸事を整頓し以て專賣事業の成績向上に苦心せられたのである。

其の結果として專賣收入は逐年增加し煙草專賣實施の明治三十八年度に於ては一千六十八萬圓であつたのが氏が就任の大正三年以後は增收又た增收を見るに至り漸次從來のレコードを破り大正八年度に至るに逮んでは實に二千四十五萬圓の歲入を見るに至り

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

本島輸入總額の五分の一以上を占め其の一大資源となつたのである、斯くの如きは云ふ迄もなく氏の手腕の大なるを示したものである。

由來氏は頭腦頗る明斷にして何事を處するにも總てが秩序的であり規律的であり實際的である、其の態度は莊重で其の襟懷は深沈である、加ふるに氏は非常に溫情に富み部下や其他に對して心からなる陰德を施されて居る實例は殆ど枚擧に遑なき程であるそれもこれも盡く是れ氏の麗はしい人格の發露で氏の德を敬慕して居るのは決して吾人のみではない。

それから氏が今度の重任を帶びたと云ふ事は期せずして本島內朝野の人心を緊張せしめる事と思ふ、氏が中央政界に於て知己を有するは眞に多大なるものありと聞く而して其の勢力たるや一般の人々の想像以上のもので蓋し此點に於て臺灣官場氏の右に出づる人あるを聞かぬ、要するに總ての點に於て氏が今度の榮進は、本島の爲め將又た氏の爲め大に祝福せねばならぬ事である。（臺南新報）

賀來さんは…… ……

非常な精勵の人

參事官　吉岡荒造氏談

總務長官入替りの辭令が愈々發表せられたが四五日此方の下馬評は蜚說紛々暗雲低迷と云ふ態で勝手な揣摩臆測を逞うして居た這んな最中に參事官の吉岡荒造さんを大正街一一の寓居に訪れると『今朝咲いた朝顏は四寸あつたよ』と美事な大輪の花を弄つて神氣靄に浩然たるものだ之ではならぬと兎に角新總務長官賀來佐賀太郎氏に關する感想を聞く事となつたが吉岡氏は賀來さんに關る格別精勤で全く臺灣に珍らしい眞面目な人だ。

凡そ日本人が外遊中に女に接しない者の無い中に賀來さんと三好飜譯官の二氏は之が無かつたと云ふ以て眞面目さ加減知るべした……』とそろ〳〵聲が高くなる『趣味としては何にも家族と共に樂しむと云ふ風な人で却々情味を持た人で一部の誤解がありとすればそれは賀來さんに信用されない人から見た一面で一度信ずるとなると腹の底まで任す性格の持主であるらしい確か一昨年在官十五年の祝賀をホテルで行つたと思ふから今年で十七八年になり臺灣に於ても最も古參の群に屬して居る專賣局長としての任期も歷代の局長中最長期で又それ丈け治蹟が擧つて居る局長時代の遣口は一體に樟腦政策阿片政策等政策のウマかつた人で在任中樟腦の問題と云ひ最も困難であつた。

樟樹の每木調査方針を樹てた如き或は煙草に於ても自產自給の策を樹て外國 を輸入して臺灣で之を培せしめ或は製鹽自給の前提として鹽田擴張の計畫を樹立し現に島內海岸に於て適地調査をして居る如き要するに賀來さんが專賣局長として之等の專賣事業の基礎を確立した其功績は永久に不滅のものであらうと思ふ尙總務長官としての賀來さんは議會に於ても圓滑明快な說明を成し得る丈けの手腕を持つて居るし頭腦も質味も備はつて居るから蓋し將來總督の補佐役として統治の實績を擧げる上に申分がなかろう云々。（臺灣日々新報）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

松本卓爾君の遺稿「海外管見」

法學博士　下村宏

（小引）前土木局事務官法學士松本卓爾君、歐米に官遊して得る所頗る多かつたが、歸朝の後、腸チブスに罹つて大正五年八月二十日、壯志未だ酬ゐず遂に黃土に歸したのは、尙は我等の記臆に新たにして誠に遺憾に思ふ所である。無論、我輩の臺灣に就任後、外遊した人は尠く無いが、然し松本君は我輩殆ど二回程會つた位に過ぎざるに拘はらず、誠に深い印象を存して居る。歐米からは二三度も手紙を寄越したが、土木局から出張したのであるが、到る處に社會各般の事業に就て意見を述べたものを送り、歸任の後も一二回逢つたが、ドーモゆつくり話す機會が無いので、一つ書面に認めて出して呉れ、其の中から一つ意見を鬪はさうといふことで、松本君の書いて出したのが卽ち此の海外管見三十八箇條である。之を我輩の手許に差出したのが大正六年の四月二十四日、丁度死ぬ四箇月前のことであつた。內地臺灣を問はず。各方面に亙り、又た日本の將來

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

にも及び、臺灣の施設に就ても幾多の意見を提出して居るが、随分有益の意見も尠からぬ爲に我輩は中心感謝を表せし次第である。殊に松本君の意見は非常に高處に立ち所謂日本の將來に對して意見を述べて居る。其の中には我輩の在來著述に演説にした意見と合致せるものも尠くない。尤も一面には必ずしも首肯し得ざるものもあり、又た例へば此の第十一の電燈に依る夜間の庭球を奬勵すべしとの意見の如きは、議論よりはマア遣つて見ろといふので、新公園で試みた結果、外國のやうに光力の無い爲に失敗した例もある。併し大體に於て有益の意見が尠くない、自分も公表はせざるが松本君の意見と合致したものもある。而かも本人は少壯有爲、最も憂國の士で、澤山の抱負を有し、健康に體育に非常に熱心であり、殊に其の實行者たりしに拘はらず、中道にして亡くなつたのは如何にも遺憾に堪へない。同君逝いて既に五年、此の三十八條の意見は尚は茲に存して居る。匆卒の際に記したもので無論不備の點はあるが、或る意味に於て日本に生存した松本といふ人の不滅の記念とも見える。唯々斯ういふことを一般に公表することの是非も考へて今日まで其の儘に過ぎたのであるが、一は同君を永久に記念する爲め、一は之により多少なりとも幾多の讀者に何等かのインスピレーションを與へることを得ば、松本君も地下に瞑すべく、大きく云へば何等か公益に資することもあるべきを考へ、茲に君の亡くなつたと同じ月の八月號に於て之を紹介することゝしたのである。

海外管見

（松本卓爾君遺稿）

留學中の海外管見識者の一顧に値せざるもの多きは因より覺悟する所指敎を辱くせば幸甚之に過

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

將來作業所に對する施設

ぐるものなし書中經濟問題の爲に實行不能のものも之あるべし然れども人間の價値は其人が理想を有するにあり吾人の努むべきは堅忍不易理想の一歩に接近するにあり。

所見左記各項の如し。

一、將來作業所に對する施設として臺北營業課を新設し現在の基隆、臺中、臺南、打狗の四出張所と同等なる地位を有せしむること。

(一) 臺北營業課と業務課とを分離するの必要は收入の增加に伴ひ Routine business に追はれ全島に關する電氣事業の企劃を事實上爲すこと不能なるにあり。

(二) 昨年度電氣賣收は百六十萬餘圓に達すべし之を大正五年度百六十萬八千九百四十二圓の收入豫算を有する通信局に比較するに

	勅	奏	判	傭給
作業所	一〇	四	五七	六六・二四九円
通信局	一一	一五	五二	四九一、三九五

の差異あり又以て作業所業務の繁劇を看取するを得べし作業所官制定員は明治四十四年に制定せられ當時の電氣收入は六十七萬七百三十一圓にして今日の電氣收入は二、四倍弱に相當す

(三) 業務課は企劃課なると同時に全島に關する電氣業務を指揮監督す差當り企劃すべき新項目次の如し。

イ、南支南洋との交通を盛ならしめんとせば臺灣を工業地とせざるべからず工業を振興するには官營により低率なる電氣動力を販賣するにあり從て水力發電に關する調査の中心たること。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支那研究

調査事業に經費を投すべきこと

調査課にて調査すべき要項

ロ、晝間電力を灌漑用に低率に販賣する事。

ハ、本島に電氣化學工業を起すにつき之が調査をなす事。

ニ、歐米にて見聞せし Management 及び Service に關する事項にて臺灣に適用し得べきものを實施する事。

ホ、民營電氣の取締は現今土木局に屬せるが從來作業所との間に種々故障を來せることあり宜しく之を作業所に移管して鐵道部が民營鐵道取締をなすが如くすべし。

以上改革の爲何等經費の增加なし。

二、歐洲戰後に於て歐米各國の世界に於ける最上の商業上の著眼地は支那なり臺灣總督府官吏其の他の臺灣在住者は支那研究を目的として初めて臺灣在住を有意義のものとなすを得べし。

三、米國にて欽羨に堪へざるは調査事業に多額の經費を惜ます能く學俗一致を務むるにあり臺灣總督にも航海補助殖産補助に多額の經費を投すると同樣以上に調査事業に經費を投するの價あるべし。

之れが財源としては舊慣及法案調査費豫算四萬九千八百六十三圓の幾分を利用するを可とす。

總督府調査課にて調査すべき要項次の如し。

(一) 六三問題

(二) 臺灣特別會計維持に關する調査。

(三) 臺灣二審制度に關する調査。

(四) 臺灣銀行特權廢止に反對の意見。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(五)臺灣街庄區行政を自治制に改むる研究。

(六)烏龍茶及包種茶の海外販路擴張に適應する生產の增加につき一般茶行政の研究。

(七)臺灣防暑に對する發明意見。

(八)Trade Bank に關する報告書中にあるが如き完全なる獨逸式の Information Bureau を作ること

(九)南淸南洋經營の策源に關する調査並に國際變局の移動に伴ふ日本支那の關係調査。

婦人の體格改良の急務

四、婦人の體格を改良するは强兵の基礎よりするも焦眉の急なり女學校は因より臺灣在住の婦人はテニス其他の運動を努めざるべからず之れ日本人種改良の起點なり。

日本に缺如せるもの

五、日本と歐米一流國を比較し最も日本の缺如せるものは。

(一)富　第二項により主として支那より得べし。

(二)婦人の體格　第四項により得べし。

(三)工業敎育　本項に論せんとするもの卽ち之なり瑞西强制工業敎育法の如きものを發布して本島職工に强制工業敎育を施すべし。差當り作業所に工業敎育の一端として電工養成事業を擴張し生徒を一般より募集して電工を養成せんと欲す。

技術機械の調査工場

六、工業敎育の助長行政と共に技術、機械の調査工場を設立すべし其目的は。

(一)Zeppelin 又は飛行機により基隆及長崎間を連結し郵便物の搭載旅客の運輸に當らしむべし基隆長崎間は六百二十八浬なれば飛行機の速力を一時間に九十哩とせば約七時間にして臺灣と內地を連結するを得べし。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

保健的休日を市民に與ふべきこと

坐禮を廢する趣旨の官舍改良

夏季住宅の建築

衛生的自働車の設備

夜間の庭球場

高地利用の夏季學校

公共水浴場

婦人の衣服改良

(二) 潜航艇の發達を奬勵し一旦緩急あれば臺灣に在住せるものは潜航艇により日本と連絡を取る事恰も獨逸の Submarine Imer Deutchland の獨米間航海の如くなすべし。

(三) 無線電話の發達を奬勵し臺北と東京間に無線電話にて通話する如くなすべし千九百十五年米國 New Jersey 州 Arlington 無線電信局と Paris, Eiffel Tower との間に無線電話の通せるによりて見るも不能事に非す。

七、臺灣總督府律令を以て一般市民に適用する日曜休業法を發布し一週の日何れか一日を休業せしめ島民の保健に務むべし。

八、國民の體格改良方法として坐禮を廢する目的にて官舍の一室を椅子掛りとする樣官舍設計標準を改正し及建增すべし。

九、公共衛生費にて基隆クルベー濱北投淡水に夏季の住宅を作り玆に轉居して臺北を Office とし Office hour に間に合ふ樣汽車にて通勤すべし。

十、臺灣にては冬期にても無蓋自轉車は苦痛にあらず宜しく三線道路及臺灣神社道路に於て Fresh air を取らしむる爲に公共衛生費にて自働車を購入し廉價にて一般の乘用を許すべし。

十一、電燈による夜間のテニス場を奬勵し晝間の暑熱を避くべし。

十二、角板山其他の山中に又臺北より便利なる土地に夏期に使用する家屋を建設し臺灣教育會の夏期講習會其他の使用に供すべし。

十三、紐育 Palisade Park の Surf Bathing に倣ひ市內公共水浴場を設立すべし。

十四、婦人の衣服を改良し高所に上り又は風に逆ふも運動の自由を妨げざる如くになすべし之婦人

體育改良の一端なり。

留學生と高等敎育

十五、臺灣總督府留學生の數を增加すべし。
醫師の留學も此規定に依るべし又將來高等行政に當るもの丶敎育の爲めに英獨人の敎師を傭聘し之を總督府に豫算すべし。

留學生費增給

十六、英米留學生に支給する留學生費は不足なれば學資增給の名目の下に增給するときは留學生の勅令を改正せずして其目的を遂するを得べし。

通俗講演

十七、紐育市が Public lecturer に年々七萬圓を支拂ひて通俗講演をなす如く臺北其他の市街に屢々通俗講演を開催せしむべく其主催者として臺灣敎育會に補助をなすべし。
之には Press の力と協同するに非らざれば其效果少きの故に臺灣日々新聞其他の協力を得ざるべからず。

十八、婦人の智識を向上せしむる爲め通俗講演に出席を奬勵すべし。

學會加入費

十九、歐米各種學會に加入し其會員として出版物を受くるが爲敎育費雜給雜費中に學會加入費の一節を設くべし。

商工會と當該官吏との連絡機會

二十、商工業を保護奬勵せんとせば商工會と意思疏通を計るを要す從て當該官吏との連絡の機會を有せざるべからず。

支那に於ける日本の醫師及藥商

二十一、米國に於ける藥種商及醫師は獨逸系のもの多きが如し日本も之れに倣ひ支那に藥種商及醫師にて成功することを得べし。

二十二、Mothershill の Sessiok renedy は有效なり之を臺灣航路に於て用ゐは婦人其他船暈を威ず

醫學敎治法

る人の福音となるべし。

醫學校の擴張

二十三、多數の對岸支那人にも入學を許す爲め臺灣醫學校を大に擴張すべし。

臺灣銀行の南方發展

二十四、獨逸の大銀行が伊太利及バルカン半島に Peaceful Penetraion をなしたるが如く臺灣銀行は南淸及南洋に Penetrate すべし。

記念營造物等の建設

二十五、將來紀念營造物を建設する際には之を

(一) Concert Hall 又は劇場となすべし。

道學は Recreation 及娛樂を卑しむの傾向あり日本人が稍もすれば性的娛樂を誇りとするが如き傾向あるは人間の性情が一定量の Recreation 及娛樂を要求するの證據なり Concet Hall 又は劇場の完全なる設備に依り日本人の通弊を矯正せんとす第三十三項の如きも亦同一趣旨なり

(二) 佛敎又は耶蘇敎の宗敎思想養成の爲に敎會堂を建設し。日曜日には以上の營造物中に時を過す如くすべし。

英文統計要覽の頒布

二十六、臺灣總督府英文統計要覽は歐米各地の圖書館又は名士に頒布すべし歐米人は日本人が新版圖に於ける人民の自由を束縛し文明の宣傳を爲さゞる如く誤解し居ればなり其の英文統計要覽よりは紙質印刷文章を特選すべし。

英國の敎育制度

二十七、英國の敎育制度改正は我國敎育制度の參考となすべし。

我國に今後助長を要するもの

二十八、戰爭の立場より批判すれば次のものは今後助長すべきものと認む。

(一) 忠君愛國主義

(二) 家族主義

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(三) 神　道

(四) 婦人貞操

(五) 精神の鍛錬

又之等に伴ふ弊害は之を芟除するを要す。

內臺人合併の事業獎勵

二十九、亞細亞主義は歐米人が日本人支那人を同等に待遇せざるに對する正當防衛なり亞細亞主義の根底には經濟上の團結を必要とす而して日支合辦は其重要なるものにして本島に於ける新興製糖彰化嘉義、新高、銀行の成功は日支合辦の可能を示すが故に今後內地人及本島人合併の事業を獎勵することを要す。

南支南洋貿易從事の生徒養成

三十、臺灣總督府が今後南支南洋に施設するに當り之等貿易に從事する生徒を養成するは勿論既設の東亞同文書院の如き支那研究を目的とする學校との間に十分の連絡を要す。

本島に商船學校設立

三十一、將來日本の富は船舶によりても之を得べく天然の富源を缺く日本にありては船舶によるを適當とす從て將來本島人の爲めに商船學校を設立するを要す。

烏龍茶の價格引下げ

三十二、烏龍茶の販路の擴張せざる理由の一は烏龍茶の價格不廉にして一般の需用に適せざるにあり百斤につき二圓四十錢の製茶輸出稅は之を廢すべく總督府收入の缺陷は酒稅其他の稅目を增徵すべし。

體育方面投資

三十三、日本の富豪は其道樂として瀨戶內海に Yacht を浮へ又は Base Ball 觀覽席の Steadium を寄附する如き體育方面に其餘財を投すべし。

海峽の隧道掘鑿

三十四、關門海峽朝鮮海峽に隧道を掘鑿する事英佛間の Channel Tunnel の如くなすべし經費不足

なればせめて關門連絡に Ferry boat を使用すべし。

三十五、○○○日米問題に關する新刊著書の發刊は多數あり常に購入し研究するを要す。

三十六、日本支那に對する歐米の新刊書籍新聞雜誌は購入することを要す。

三十七、○○○日英同盟を存續せざる可からず。

三十八、吾人は東西文明の調節者として世界文化の歴史に日本文明を貢献せざるべからずこの點よりも予は一部に傳ふるが如き日米開戰に絶對に反對す日米開戰を避くるの方法として次の方法を提唱す。

(一) Cecil Rhodes 奬學資金制の如く日本有爲の青年を米國に留學せしめ卒業の後は外交關係又は貿易關係又は言論界に其職務を取らしむる事及日米國交の緩和に資する圖書を刊行する事。

(二) 日本の富豪が其餘財を以て太平洋兩岸又は布哇に日米館を建設し兩國の議員其他の政治家が毎年會合して兩國の平和を劃策すること。

外國に在るときは日夕國際競爭の劇甚を感じ以上の如き意見焦眉の急として念頭を去らず遥に祖國を顧みて世界的進歩の爲にする努力頗る少きを屢々歎したり然るに一旦歐米を去り内地を經て官權萬能の臺灣に入るや漸次其剌戟を失ひ加之日常忙殺さるゝもの國運進歩の骨髓に觸るゝもの少し

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

乍併世界の趨勢に鑑みるに改善の必要は刀を擬して身に迫れるを覺ゆ吾人をして一日の閑を偸むを許さゞらしむるものありて存す。

我邦の南方發展の現狀に就て

木村増太郎

（要旨）我國の南洋貿易、對印度貿易は何れも樂觀を許さず。我が南洋貿易の將來。邦人の南洋に於ける事業不振と我國民の努力

一

我邦南方發展の現狀如何

事實我邦は發展せしや

南方發展なる言辭は、多年我邦に於て宣傳せられ、一時南進策は、我邦の國是であるとまで提唱せられたものである、勿論國力の發展に南北を論ずるの必要なく、南するも北するも孰れとして可ならざるはないが、特に南進策が、我國運を振張せしむる上より觀て、最も有利なるを主唱せしものに外ならぬ、然らば我邦南方發展の現狀は奈何、歐洲列强が、國を賭して戰つた曠古の世界大戰が勃發してから、最早已に七年有餘の歲月を經過し、其間各國は何れも、南方諸地方に驥足を延はすの餘裕を有せなかつたに反し、我邦は一躍五大列强の一に進み、未曾有の經濟的大發展を遂げた、從て恐らく多年の主張である南方發展に於ても、目醒しき實蹟を擧ぐるを得たであらうとは、多數人士の期待せし所たるに相違ない、事實果して如上の期待が、達成せられたであらう乎、先づ試に貿易上より之を査究せん。

印度濠洲を除いて所謂南洋地方に對する我邦の貿易は、歐洲戰爭中に躍進的大發展を遂げ、一擧

貿易上よりの觀察

にして南洋各地方に於ける外國貿易の大半を、我商品に依て占據せしもの、如くに傳へられた、勿論我對南貿易は、戰時中異常の激增を告げたことは事實である、即ち戰前の貿易は纔に少額の雜貨を輸出して、主として爪哇糖と暹羅西貢米とを輸入したに過ぎない、從て其貿易額たるや、大正四年の如き尙輸出二千九百萬圓、輸入三千五百萬圓、合計僅に六千五百萬圓で、其外香港經由貿易を加ふるも、尙七千萬圓を超ゆること多からざる狀況であつたが、大正七年には輸出入略相半ばし一躍

大正八年の貿易額

三億萬圓を突破し、更に翌八年には輸出一億一千萬圓、輸入二億六千萬圓、合計三億六千萬圓餘に迨んだ、併し翻て南洋各地方に於ける貿易上の地位を顧るに、未だ全貿易額の一割餘を占獲せるに過ぎない、

南洋全貿易額の一割餘に當る

即ち輸入貿易よりせば、大約英領四億萬圓、米領三億六七千萬圓、蘭領五億萬圓、暹羅八九千萬圓、佛領四千萬圓、合計十四億萬圓内外なるに對して、我邦の貿易は一割餘に該當するに止まる、輸出貿易よりしても、英領四億乃至五億萬圓、米領五億萬圓内外、蘭領六億乃至七億萬圓、暹羅一億萬圓内外、佛領六七千萬圓、合計十六億乃至十八億萬圓なるに對して、我邦の貿易は大正八年のレコードを以てするも、二割に達せざること遠き狀態である、而かも同年の我邦に對する輸出の比較的多かつたのは、主として爪哇糖の激增に基くもので、同年の南洋一帶の輸出貿易は總額二十億を突破した筈であるから、實際の割合は依然一割强に當るに過ぎないのである。

二

一種のイリユージヨン

戰時中我邦の製品が、南洋市場を獨占せしかの如く傳へられたのは、全く一時の急激なる貿易界の活躍に眩惑せられた一種のイリユージヨンたりしことは、上敍の實蹟に依て瞭らかである、而し

近年我が貿易の凋落

て上記の貿易額の激増も、其間に於て我邦の物價が、三倍以上の暴騰を告げた事に照し考ふれば、左迄著大の發展とは認むることが出來ない、戰前に比し五倍の貿易額の増進も、過半は商品の價格の騰貴せしに基くものと謂はねばならぬ、加之折角急増した貿易額も、近年著しく凋落の傾向を示し來り、大正九年には漸く七年と略は同額に上つたが、十年に入ると共に、急轉直下の悲況に陷り、上半季の成績にては、前年同期の半はにも達せない減退を示すに至つた、

其原因

是れ固より一面に於て世界的不況に基く購買力の減少並に金融の梗塞に因由するものであるが、尙他面歐洲品の捲土重來並に米國品の活躍にも依據するものたるは、疑なき所である。

各國の南洋貿易

英國の如きは、國を堵して彼の曠古の大戰に從ひながら、尙一九一八年の戰時中に於てすら南洋の貿易上に於て、英本國は一割以上の地位を保持し、其屬領の貿易額をも加算せんか、依然として四割内外の優位を占守して居る、戰前英國に亞ぐ貿易國は、獨乙並に和蘭であつたが、戰爭勃發と共に兩國孰れも凋落したことは言を俟たない、米國の南洋貿易は、戰前に在ては、單に比律賓に對する貿易の外、特に見る可きものが無かつたが、戰時中我邦以上の大飛躍を遂げ、遂に一九一八年には英本國を凌駕して、輸入に於て約二割、輸出に於て三割五分内外の地位を占め、確固たる一大商權を彼地に扶殖することゝなつた、

最近の實績

最近の實蹟は未だ之を審にせないが、昨一九二〇年には、恐らく英米共に更に其地位を進めたのみならず、和蘭の如きも近年漸次南洋貿易の復舊に力めつゝあるを以て、必らずや相當地位を占め得たに相違ない。

印度の貿易

英領印度に對する我邦の貿易も、價額の上に於ては、少なからぬ發展を示した、卽ち大正四年には輸出四千二百萬圓、輸入一億四千七百萬圓、合計一億八千九百萬圓に過ぎなかつたものが、八年

我邦の對印貿易の觀測

我邦と英米

には輸出一億一千六百萬圓、輸入三億一千九百萬圓、合計四億三千五百萬圓に達し、殊に九年には輸出一億九千二百萬圓、輸入三億九千四百萬圓、合計五億八千六百萬圓の巨額を示すに至つた、併し輸入は主として紡績業の一時的活況に基く棉花の需要激増に原因せると共に、輸出の如きも十數億の購買力を有する廣大なる印度市場より觀れば、左迄著大の發展とのみ斷ずることが出來ないのみならず、其間に於ける我邦の物價暴騰に照せば、單に如上の價額增加のみを以ては、未だ滿足するに足らない、殊に印度の海外貿易上に於ける我邦の地位を査するに、一九一八年乃至一九年の貿易に於て、尙輸入貿易上、英本國が四割五分五厘の優位を占むるに對し、我邦は漸く一割九分八厘を占め、輸出貿易上に於ては、棉花の大顧客でありながら、英本國の二割九分米國の一割三分八厘なるに對し、我邦は一割二分一厘を占めたるに過ぎない、戰時中に於てすら斯の如しとせば、今後の運命や蓋し想像に難からずである。

三

南支南洋の市場開拓

地理上歷史上及我邦の工業程度に適したる市場

今や各列强は、何れも戰時中に其經濟上に被つた創痍を可及的迅速に醫せんが爲めに、內に在ては產業の復活、輸入外國品の抵制を策すると共に、極力對外的活躍を試むべく、經營劃策を爲しつゝあるから、我邦としては、何時迄も製品の銷路として、歐米の市場にのみ信賴することなく、飽く迄支那南洋の市場開拓に努力せなくてはならぬのである、就中南洋一帶の市場は、上にも敍へた如く今日已に十二三億圓の購買力を有し、支那の六七億圓なるに比して、遙かに廣大なる販路であり、且つ之に隣接して印度濠洲てふ大市場を控へ、而かも我邦との間には、地理上將た歷史上、極めて密邇なる干繋を有すると共に、本市場は我邦の工業程度上、最も適應した製品の銷路と謂ふべ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

將來の我が貿易上の地位

きで、即ち歐米向と支那向との中間に位する中等品の市場であるから、我商品の販路としては、特に注目すべき重要なる地位に存在するのである、殊に彼地方の天然物を利用する輸入貿易上の見地よりしたならば、我邦の如き其領域内に、開發すべき經濟資源を藏することの乏しき國に於ては、工業原料の供給地として、殆んど無盡の資源を有する南洋熱帶圏とは、更に一層深甚なる干繋を有するのである、而るに歐洲戰爭なる千載一遇の好機に逢著しながら、尙我邦が彼地方に於て纔に敍上の地位を占獲し得たに過ぎないことは、洵に遺憾たらざるを得ない、

而かも漸くにして占め得た此等貿易上の地位も、戰後數年ならずして、今や漸次危殆に瀕せんとしつゝあるは、實に寒心に堪へない、是れ蓋し我對南貿易の發展は、全く戰爭の齎らした偶然の結果であつたと共に、當業者なるものも徒らに眼前の利益に眩惑し、何等基礎的永遠の商策を施すことなく、從て毫も商權の根蔕を彼地方に樹立せなかつた爲めに外ならない、されば勢ひ現情より推究したならば、我邦が戰時中に振張した商勢の少くも半ばは、歐米の爲めに奪回せらるゝものと覺悟せねばならぬであらう。

四

邦人の南洋に於ける事業は

我邦南洋貿易の現狀は上來敍へた如くであるが、次に然らば更に進んで彼地方に於ける邦人の事業は如何と云ふに、熱帶產業の頗る有利なることが、從來旺に宣傳せられたに拘らず、之が實蹟を觀るに貿易と同じく是れ亦た大に吾人の期待を裏切るものがあるのである、勿論歐洲戰爭勃發後、一面我邦に於ける正貨の異常なる激增が海外投資を促したると、他面南洋に於ける事業が比較的確實有利なりとの一部の宣傳に誘發せられて、護謨業を始め砂糖及麻其他の熱帶植物の栽培に資本を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

投ずる者、相踵で現はるゝに至つたが、併し其額たるや未だ殆んど言ふに足らない。

柔佛州のゴム業

凡そ南洋に於ける邦人の事業投資の濫觴は、彼の馬來半島ジョホール州に於ける護謨業である、是れ十數年前に護謨相場が異常の暴騰を告げ、一時世界の市場を熱狂せしめた好況に誘惑せられて、既に最盛期を過した後に於て漸く、白人に追隨して開始したものである併し一時は殆んど世人をして本業が南洋に於ける唯一の有利なる代表的事業であるかの如く思惟せしめた程、護謨栽培に對する投資が熾に行はれたのである、而るに現下馬來半島を中心とせる英領一帶に於ける邦人の斯業に對する投資額は、未だ約三千五百萬圓に上れるに過ぎない、勿論護謨園の數より觀察せば、二百三十九の多きを算するが、其中二百一は極めて小規模なる個人經營である、邦人以外の諸外國人の護謨投資額が幾千に上るやは、到底之を審にするを得ないが、如何に少くも三十億圓を下ることはあるまい現に英領に於ける護謨の總植附面積は約百十萬英反、採液面積約九十萬英反、生產額約三億五千萬封度に達すと稱せらるゝに對して、邦人護謨園の現狀は、僅に植附面積約九萬英反、採液面積約四萬英反、生產額約一千萬封度に上れるに過ぎない。

南洋に於ける邦人の投資は約六千萬圓

諸外國のは少くも五十億

馬來半島に於ける護謨業に次ぐ邦人の事業は、比律賓ミンダナオ島ダバオ州に於ける麻の栽培である、同地方には既に五十有餘の邦人會社設立せられ、從業邦人の如きも小作制度であると共に、米領は支那苦力の輸入を禁止せる干係上、其數今や四千名餘の多數に達し居るも、投資額たるや未だ纔に一千萬圓內外を計上するに過ぎない、其他蘭領に在ては、邦人の護謨、砂糖、椰子、煙草、茶及香料等各種の事業に投資する者現はるゝに至つたが、全投資額は恐らく一千五百萬圓を超ゆることはなからう、從て我邦が南洋一帶に於て既に投資せし事業資金は、恐らく六千萬圓內外に止ま

るであらう。之に對して諸外國人の投資額は、固より精確なる計數は之を知るに由なきも、少くも五十億に達するは疑なき所である。

爪哇の製糖會社百八十六社の内邦人のは僅かに三社

斯の如く南洋の事業界に對する邦人の投資額は、未だ頗る貧弱なるを免れない、事實現下南洋に於ける邦人の事業としては、上にも敍へた如く主として護謨及麻の栽培であつて、近年漸く製糖業に手を染めたに過ぎないが、而かも爪哇に於ける製糖會社の數、總計百八十六に及ぶに對し、邦人工場は未だ僅に三を數ふるのみである、而して其他の主要産業たる錫採掘業にしても、精米製油製材等の工業にしても、將た椰子、茶、珈琲、煙草、規那等の栽培業にしても、邦人の干係は極めて薄く、殆んど何等の勢力をも認むることが出來ない、加之邦人事業の樞軸とも稱すべき護謨業にしても、敍上の如く歐人の後に追隨して著手したもので、彼等は既に最盛期に於て資本の大半を償却せるに反し、邦人當業者の多くは今や尙放資の中途に在るものなるに、最近の恐慌に逢著したことは、多大の打擊たるを免れない、

ゴム界の前途

而かも護謨需給の前途は、現時の用途竝に生産費の上より觀察して、將さに生産過剩の傾あるを免れないと共に、何れにしても其の滯貨の大なるだけ市況の回復は恐らく容易ではあるまい、果して然らば邦人當業者の幾割迄が今後持久し得るであらうか、兎に角危惧すべき境遇に在るものと謂はねばならぬ、是れ正しく永遠の計を策するなく徒らに眼前の利益をのみ追ふた當然の歸結ではなからうか。

邦人南方の發展の現狀

斯く觀じ來らんか、我邦南方發展の現狀は、多年其緊要なることの宣傳せられ來つたに拘らず、余りに吾人の期待を裏切るものと謂はねばならぬ、殊に戰時戰後を通じ我邦の經濟界は、未曾有の活況を呈し、昨年の事業資金の如き實に四十億に達したと稱せられ、戰爭勃發以來の我國富の增進

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は、三十億を超えたと傳へられたに拘らず、最も投資に利便多き南洋事業に對する放資が、如上の狀態に過ぎなかつたことは、洵に吾人の意外とする所である、蓋し其因て來る諸般の事由に就ては、姑く他日の論究に讓り、要は一に國民の發奮努力に俟つの外なきを提言し、聊か我邦南方發展の現狀を述べ、讀者の參考に供する次第である。（完）

佛領印度支那の近情

横山正修

此の一篇は嚮に横山氏が總督府に於て講演せるものゝ速記録にして左の要旨の事項を含む

（要旨）印度支那は政治上に於ても經濟上に於ても佛國の爲め有益なる植民にあらざるに反して東洋殊に日本とは至重の關係を有す、從來佛國の政策は本國との通商關係にのみ重きを置き之を開放することを宜しきを得ざりき、今後は日佛協同して其の富源を開發することを可とす、起業其他頗る好望なり　（編者）

富源を有して然かも開發されず

佛領印度支那のことに就ては大體諸君の御承知のことゝ思ふ。其の國の大なることは朝鮮併合の我日本と等しく、人口も多く、各種産物に富んで居ることは此の前にも申上げて諸君も御承知と思ふが、此の富源を有する大なる國が何故に未だ充分に開發せられざるや、今申した通り大きな國でありながら、人口は臺灣に六倍し、臺灣の面積に數十倍して居りながら、其の總督府の財政が一中央財政が漸く五千七百萬圓に止まり、地方財政が千六百萬圓、兩方合せて漸く七千餘萬圓に止まるので、財政に於ては臺灣にも劣つて居る。是れ即ち佛領印度支那が尨大なる形を備へながら充分に生産力を發揮する事が出來ない證據である。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

佛領印度支那を亞米利加に賣らんとすとの說

土人は印度支那の自治を渴望す

佛國の守備兵は僅々五千人に過ぎず

斯の如き狀態である時に當つて、近頃此の佛領印度支那を亞米利加に賣ると云ふことが佛國の上院に於て或る議員から主張せられたのである。最もこの主張は多數者の容るゝ所とならずして葬られたのであるが、其の時に議員の曰く、我がこの說の容れられぬと言ふ事は承知である、併しこれは何時も理想である、將來に行はれ得べきものであらう、と言ふことを信ずると謂つて居る。これは吾々日本人の身に取つては大いに注意を拂はなければならぬことゝ存ずる。佛領印度支那の今日の狀勢と言ふものは決して樂觀を許さない。第一には政事上の狀態である。即ち歐洲戰爭中、佛領印度支那から十四萬人の土人が彼の地に出征した。此等の大部分の者が今日は佛領印度支那に還つて、泰西の自由の空氣を吸ひ、自由國の缺點を詳かにして還つたから、中々以前の樣に惟命是從ふと言ふ風に佛蘭西の施爲に甘んじない。時々衝突を來して居る。亦柴棍邊の新聞に於て盛んに權利を要求して居る、又一方佛領印度支那の革命黨と言ふものを佛蘭西の本國に行つて印度支那の獨立を主張して居る。本國に於ては彼のカイユー一派の代議士が之を保護して居るから極安全である。……佛領では排斥せらるゝが……斯くの如く土人が印度支那の自治を渴望する一方に於て、之れを抑ゆべき佛蘭西の軍隊の力と言ふものは非常に減つて居る。一時東京政府の時代に四萬五千の兵隊を送つたが戰爭前には一萬一千ばかりに過ぎず、今日では其の多くの軍隊を佛蘭西から送る事は出來ず、又財政の都合から漸く五千人ばかりである。この僅々五千人の軍隊で日本と同樣の廣い佛領印度支那を守備して居るのであるから、吾々も其點からは實に同情に堪へないのである。一朝事あれば非常に危險なことゝ思はれる。且つこの印度支那の守備の主力は土人兵一萬五千、三萬の屯田兵である。一朝これらの中に獨立思想が浸潤したならば如何なる事件を惹起することがないとも限

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

經濟上にも有益の植民地にあらず

らないこれが即ち上院議員をして印度支那の東洋の植民地は良い加減に切り上げて良いぢやないかと言はしめた一の理由と思ふ。が此のの外に又た大なる經濟上の理由がある。と言ふのは印度支那と言ふものは佛蘭西本國の爲めには經濟上餘り有益の植民地では無い。以前は盛んにこゝに鐵道を敷設し又は雲南鐵道を建設する時に大分佛蘭西の鐵製品機關車を賣り込んだが、今は佛蘭西の物資を殆ど需要せぬ。又印度支那が斯う云ふ生產品に富んで居るにも拘らず佛蘭西本國が餘り印度支那の物品を需要せぬ。即ち經濟上の關係が日に〳〵薄弱となる傾がある。この點は尙少し詳しく申上げなければならぬと思ふ。

經濟上に於ては印度支那は佛蘭西と關係を有せず

印度支那の最も重要なる物產と謂へば、第一が米、第二が亞鉛礦石、第三が石炭、第四が食鹽、これらが主なる輸出品であるが總て此等の物品と言ふものは佛蘭西の本國と關係がない。佛蘭西の本國に輸送せらるべきものでは無い。即ち經濟上から觀るときは印度支那と言ふものは佛蘭西の印度支那ではない、東洋の印度支那である。佛蘭西市場の束縛を受けない。經濟上から言へば獨立して居る印度支那である。佛蘭西からは獨立して居るが、經濟上からは日本支那に從屬して居る。斯の如く一方に於ては政事上の困難が漸次增加せんとし又一方には經濟上本國は餘り密接に關係して居らぬと言ふ樣なことで、是等は印度支那の賣却說を起す基因となつたものと思ふが、此の佛領印度支那と言ふものは佛蘭西の本國からは斯くの如く或る人は輕く見て居るが、之を東洋諸國殊に我が日本から見ると、將來最も密接の關係を以て、或は政治的關係を進むべき有望な國である。

東洋殊に日本とは重要の關係を有す

と申すのは印度支那は恰も處女に等しい國である、未だ一人前になつて居らぬ。今申した米田の如きものも今後大いに增加すべき餘地がある。又礦山に就いても亞鉛、石炭なり未だ開發せらるべきもの

は九牛の一毛である。其の他甘蔗の栽培、或は棉花の耕作の如き皆之れを企て、成らざるもの、ない天惠を受けて居る。是等のものは總て我が日本に需要せらるゝもので印度支那の開發は我が日本に重大なる關係を持つべきものと思ふ。卽ち日本に缺乏せるものを悉く供給してくれるのである。

佛の誤りたる植民政策

それが今までは佛蘭西政府がこの重要なる物產を增加することに餘り力を用ひないで、本國と印度支那との通商關係計りを注意し印度支那に本國のものを成るべく賣り込む、それから印度支那から必要品を吸收しやうと言ふ方針から、移住民の如きものも米作甘蔗作等に注意せず、專ら珈琲の栽培を圖る。それで本國と印度支那の關係に注意して、さうして印度支那を基本として東洋諸國と密接の經濟的關係を結ぶことは第二に措いたので、之れが佛蘭西の植民政策の最も誤つた所と考へる。

開發の方法如何

若しこの印度支那が本國の保護政策の束縛を受けずして自由に開放せられて居れば、尠くとも暹羅などに比して五六倍の勢力を持つて居ることは私の一箇の私言ではない。前々の司令長官も言はれて居る。若し佛蘭西が印度支那を領有せず之れを獨立せしめて置けば、產物の點人口の點どの點から言つても暹羅に三四倍する所の强國が出來ると言ふ事を謂はれて居る。然らばこの印度支那を如何なる方法を以つて開發するか。印度支那を開發し經濟上の進步をなさしめ生產を增加し財政を綏融する方針に進めるには如何なる政策を執れば好いかは門戶開放の他はないと思ふ何となれば此の戰後の疲弊を受けて佛國から印度支那に多額な資本が注がれることは夢想も出來ぬ。現に佛蘭西に資本は無い。殊に在住多數の佛人は多少の金を拵へれば本國に歸るものばかりで、佛國が印度を領有以來柴棍は六十年、印度支那は四十年であるが、それ以來佛人は大きな地面を各所に拂下げを受けて今はこれを賣り拂つて本國に還りたいと言ふものが澤山ある。現に日本人に相談を持ち込んだ者

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日佛人の協同を得策さす

は尠なからぬ有樣である。然らば印度支那を如何に開發すべきか。門戸開放主義にならなければならぬか。其の後は如何にすればよきか。私はこの問題を充分に研究した結果、印度支那に於て日本人佛蘭西人の協同を圖るべき事が一番得策と思ふ。これは佛蘭西人のみでは東洋の市場に發展することは到底出來ぬ。印度支那に於ける重要なる產物は皆東洋品であるが、之れを東洋の消費市場に供給するには佛蘭西は第一船舶を持つて居らぬ。即ち石炭・米の如きものを輸送すべき機關がない。又今日炭山を經營すべき資本もない。之れに加ふるに東洋に於ける市場に密接の關係も有して居らぬ。此等佛蘭西人に缺くるものは總て日本人が供給し得るものである。即ち佛蘭西人が日本人と結託すれば、米なり鹽なり亞鉛なり、總ての生產品の販路を得ることが出來るのである。甘蔗の如きも亦然りで。印度支那は經濟上から謂へば東洋に屬すべきものなれば、東洋に於ける一大强國であり且つ佛蘭西と休戚を共にする日本人と提携することが最も必要であり且つ道理に適ふたることと思ふ。

日佛協定の提議を促す

それで私は印度支那の經濟的關係を主眼とする所の日佛の協定を日本政府から此の際進んで圖つて貰ひたいと思ふのである。乃ち政府と政府との充分なる諒解を得て、日佛人共同の利益の爲めに投資すべく、佛國政府の同意を求めて、日本人の企業を容易にする樣にしたいと言ふ考へを持つて居るこれは佛蘭西人中の具眼者は既に其の必要を認めて居ると思はれることもあるので度々私等にも話した人もある。私は此等の議を今日日本が出すべき頗る好時期であると思ふ。最も今日に於ても土地所有と言ふ事に付いても別に困難は無いが、唯々礦山の如きことは企業するに面倒の規則がある其の規則のために日本人の資本も充分に這入らぬが、それが佛國人と提携すれば礦山は開發される。斯る場合に於ける相方の利益のために、外國人の企業に障碍を與へない樣な規則を拵へ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

てもらひたい。即ち日佛人の企業を容易にする様に交渉をして戴きたいと思ふ。此の交渉に就いて私の希望として述べたいのは印度支那の事は總督が決して之れを獨斷で極めない。必ず西貢とか海防にある各種の機關に諮る。さうすると各地の商業會議所は約十人位の佛蘭西人と及び二名宛の土人から組織されて居るが。其の商業會議所の議員は多くは自己の利害を標準として決議し報告を爲す。而して總督は之れを本國へ報告する。さうなると本國政府は是等の報告を無視して日本の要求を容れることが出來ない。故に日本の外務省は佛領印度支那の事に就ては、巴里と東京との間に交渉するを以て滿足せず、尚は一層、印度支那に於ける商業會議所の意見を有利に造ることを必要とする。商業會議所の意見必ずしも不良なことは無い。隨分日本の爲めに主張して呉れる議員を拵へれば拵へられないこともない。其邊の懸引に就て私は外務省の御盡力を煩はしたいのである。私は今後、日本の經濟上の必要又經濟的發展の必要上、印度支那に重きを置き、又充分の注意を日本の外務省に請ひ、更に進んで印度支那の開發に就ては日佛の提携を結びたいといふ希望を持つて居る。今日に於ても礦山を除く以外の企業は別に六ケ敷いことは無い。唯々土地所有權の問題が兎角世人に誤解されて居るので、この事を一つ解釋して見たいと思ふ。

大體の原則として佛蘭西の植民地では外國人に土地所有權を與へるのを本則とする。即ち印度支那の五箇國なる東京・安南・交趾支那・東蒲塞・老撾の内で、交趾支那は純粹な佛蘭西の植民地である。此の交趾支那に付ては土地所有權問題は起らない。吾々の名義で自由に土地を得られるのである。其の他東京・安南・東蒲塞・老撾の四箇國は母國の保護國になつて居る―實際は佛蘭西が持つて居るが―土地所有權の問題が一寸解釋の六ケ敷い點があるのは、佛蘭西とこの安南國王との間に於て、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

法人としては所有を許す

起業に就て官憲の反對なし日佛協同にて起業すべきもの頗る多し

今から五十年程前の條約に斯う云ふ事がある。卽ち「佛蘭西政府の承諾を得ずして外國に土地を割讓することを得ず」とある。その解釋を擴めて外國人に土地所有權をやる事が出來ないと言ふ一派の人がある。それが爲めに一寸問題になつて居る。併し以前の法務總長のミッセルと云ふ人は牽强附會の解釋で、古來安南の外國人には土地所有權をやつて居つた、それが保護國になつたからとて外國人に土地所有權を禁ずる譯はない。個人の所有權に關した事でないと言ふ解釋をして居る。が然し多少とも反對說がある。保護國の土地については仕方がないのであります。然し之れを日本人ばかりで無く、法人とすれば卽ち佛蘭西の法人となるが、之れに就ては少しも異議がない。卽ち日本人が組織した法人で、佛蘭西の領土で組織した事なれば、たとへ法人の代理者が日本人であらうとも、株が日本人であらうとも、少しも制限は無い。一箇人の名義では得られないでも一つの會社を拵へて土地を買收するには少しも故障は無い。唯々礦山については重役の過半數が佛蘭西人か又は土人なることを要するので、普通の製糖或は普通の農業には少しも制限は無いから、土地所有權の問題は事業をする人には問題にならない。其の他に就ては問題となるべきものはないので、昨年から本年にかけて臺灣總督府から技師を派遣され、製糖上の視察或は棉花の視察をされて居るが到る所此等の事業を起すことに付いて官憲に於ては少しも反對はありませぬ。皆到る所好遇を受けて居る。時には各所の知事から好意上晩餐の御馳走などになつて居るのである。今日は佛領印度支那に起すべき事業は澤山ある。農業の方面、礦山の方面、大にしては鐵道又は大なる灌漑事業、その鐵道の內で最も著しいものは安南の中部から起つて西に於て暹羅に行く鐵道は、若し之れを完成せば錫蘭から暹羅、盤谷までは三晝夜で行けますから、恰度臺灣から盤谷まで十日以內で行ける樣に

なる。此等は政府で豫定線が測量か出來て居る。是等のことか今の佛蘭西の財力では出來ない。これは日佛の共同事業ならば最も有利の事業と思ふ。是等のことは能く政府と政府の諒解を得て、日佛の協定と言ふ大方針の下に共同を得たいと思ふ。之れは最も我が經濟的發展の爲めに必要と思ふ。我が經濟的の發展は爭ひある方面に爭はぬとも順調の方面に努力すべきことがまだ澤山あると思ふ。西伯利亞の方面に強ひて爭はぬでも順調の所には遺憾なく進みたいと云ふのが私の考である。恰度碁を打つても一局部の所に爭ふよりも大きな所を焦る所に得がある。どうかさう云ふ事のない様に、斯の如き順調の所を見遁さない様にしたいと思ふ。夫から吾々の爲めに印度支那方面に於ける經濟的發展の福音とも云ふべき事は、本年の豫算にも計上してあるが、基隆から海防の佛領印度支那の海防に定期航路が開けるといふことは、これは我が發展の一大先驅をなすものであつて、吾々は之れが實行せらるゝことになれば宜しいと望みを屬する所であります。香港を接續すれば可いぢやないかと云ひますが、從來は香港の接續は不便でありまして、日本の首府等に貨物を註文しても一箇月半でなければ到著しない。土人の最も重要なる需要品である綿絲綿布の如き相場の變動するものは、斯の如く接續が不便では取引が出來ないと言ふので困つて居る。商業上に大膽なる三井物產の如きも如何ともする事が出來ない。之れが基隆接續になれば、內地の物品が私の計算では二十日以內で屆く樣になる。さうなれば印度支那に於ける需要品の綿布綿絲も日本品で扱ふ事が出來る樣になる。又この戰後先刻申した多數土人が歐羅巴に行つて還りました結果、土人の風俗が一變しつゝある時である。今迄の中流者の跣足で居た者が靴を穿かなければならぬ樣になる。此の際に之れが航路を開くことは特に必要で、總督府の補助金の如きは思ふに基隆に這入る倉敷料及び人夫賃で償はれる

經濟的發展の福音

海防航路の開始

總督府の補助金は償はれて利益あり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

こと、思ふ。香港に於ける支那人の手に落ちて居つたのが卽ち本島人の手に落ちるだけでも補ふ利益があると思ふ。決して此の補助金の如きものは憂ふるに足らない。總督府は金を出しても此の金は皆な民間に戻るのである。臺灣が此の中に立つて印度支那と日本との楔となり、經濟的に盡くされることは、總督府に對して私は深く感謝の意を表するのみならず、今日諸君が玆にお出でになつて吾々の樣なもの、話をお聽き下さることは、洵に私の感謝に堪へない所であります。

辮髮に對する史的研究

總督府囑託　鷹取田一郎

全篇の要旨　支那各地、殊に南方に於て明朝の風俗と清朝の風俗と互に衝突し、或は之れを忌避し、或は之れを强制し、恐怖し、忿怒し、激昂し、悲歎慷慨し、遂に政治上の混亂を生じ、幾多の戰亂を惹起し、多年平和を見る能はざりし明末清初の事實を詳叙し、其の原因の辮髮强制に在りたることを說けり、本篇は大正五年春執筆したる舊稿なり、頃日下村前總務長官の筐底より發見せられ、爰に臺灣時報に揭載せらるゝの光榮を得たるは、畢竟吾人の勞苦を憐まるゝのみ。果して一讀に値ひするや否やは編者の知る所に非らず。

一

曩に下村民政長官閣下。爰に余に命するに支那の辮髮に關する史的研究を以てせらる。余謹んで其命を承け、喜んで之に從ふ所以のものは、其の趣味旣に余の嗜好に適せるのみならず、苟も臺灣に於て支那民族を統治し、親しく之と相接觸せんとする者の將に洞悉せざる可からざる重要問題なればなり。世人或は之れを以て市井の一瑣事と看做し、徒に辮髮の爲めに深く精神を疲勞せしむるの

幾多の英雄豪傑を懊惱せしめたる重大問題

清朝は辮髮の强制を以て急務となせり

無用なるを謂ふ者あるべし。焉んぞ知らむ、辮髮は支那近古史を通じて幾多の英雄豪傑を懊惱せしめたる重大問題にして、其の關係する所の史實は單に風俗習慣の末節にのみ止まるに非らず。儼然として國家問題の焦點に立ち、常に萬斛の血涙を灑かれつゝあるを見る。是に於て乎。長官閣下の著眼の奇警なるに敬服し、余の見聞する所を傾注し、以て多年の胸蘊を披瀝せんとす。若夫れ篇中の差訛謬妄、大方の讀者を誤らしめんとするもの有るに於ては、識者乞ふ之れを叱正せよ。

抑も國家の統治者たらんものは、其の疆域を護持するに於て嚴正ならざる可からず。其の民衆の幸福を保障するに於て周詳ならざる可からず。善鄰の交誼を厚ふして以て相倶に世界の文明に貢獻するに於て明敏に且つ篤敬ならざる可からず。唯夫れ之れ有り、是を以て統治權の威力は始めて神聖なる也。獨り彼の清朝に至つては全く之れに悖戾せる幾多の事實を認むるを奇とす。歷史の余に示す所を以てすれば、清朝は實に其の疆域を護持せんよりは先づ其の辮髮の强制を以て急務と爲す也。其の民衆の幸福を保障せんよりは先づ其の辮髮の强制を以て喫緊事と爲す也。善鄰の交誼を厚ふして相倶に世界の文明に貢獻せんよりは、寧ろ國俗維持を頑固に尊重して以て、其の是に由つて生ずる友邦の損害をだも尙且つ之れを無視せんとする也。斯の如きは統治權の濫用たること固より論亡し。啻に統治權の濫用たるのみならず、之れか爲めには百萬の生靈を塗炭に苦ましめ、隨て支那四百餘州の反感を買ふこと蓋し少なからざる可し。然るにも拘らず有りと有らゆる高壓手段を以て、此の辮髮の强制を行ひたる清朝の施政方針に至つては、殆んど人の常識を以つて判斷する能はざる底の不可解事たるを覺ゆ。清朝創業の初、固より幾多賢能の之を輔佐するものあり、徒に拙策を弄して自から好んで天下の統治を艱難ならしめんとするの愚を爲さんや。清朝の辮髮强制こそ實

に吾人の研究せざる可からざる問題たる也。

世に人の國を奪ふて躬親から其の帝王たる者少しとせず。我が帝國に在つて萬古に亙つて之れを容さずと雖ども、支那に在つては商周以後三千年の間、劉興蘇廢常に之れを反覆せる歴史を有せる也。是を以て簒位歴次行はれ、神器歴次移さるゝを見る。今其の代つて天子と爲る者を觀るに、號して「受天明命」と謂ひ、或は「神聖應期」と謂ふと雖ども、其實多くは簒奪にして、畢竟英雄の風雲に際會せるに外ならざる也。然れども多くの場合に於て、豫め天下の人心を收攬するに足るべき大義名分を標榜せざるは稀なり。請ふ看よ。漢の高祖の天下を奪ふや、秦の暴政を排して法を三章に約するを以て信を民に求めたるに非らざる無き乎。唐の太祖の寳位に陞るを得るや。五代の亂を治定して天下を安寧に歸せしむに於て、人心の之に服するもの有りしに非らずや。彼の朱元璋身を緇衣に起して元朝の社稷を覆すや。夷狄を掃攘して中國を恢復するの理由に於て、天下翕然として之れに嚮應したるに非らずや。孰れも咸な大義名分の存するあり。實は簒奪に過ぎずと雖も、民亦た之を奉戴するを以て敢て疚しと爲さゞるを知る。抑も淸朝の天下に君臨するに至つては、知らず何の名とする所有りしぞ。强ひて之を事實に覔むれば、彼の朱氏の王室を蹂躙し崇禎帝をして悲慘なる最後を遂けしめたる流賊李自成を逐ひ、帝の屍を改葬するに禮を以てしたる者、或は取つて之れに代はるの名とす可き乎。是れ實に天下の人心を收攬するに於て、又た以て大義名分なりと爲すに於て、附つながら極めて薄弱なる辭柄なり。然れども所謂夷狄を以てして所謂中國に君臨する所以の名分なる者は、未だ曾て此他に存するを見ず。中國に優越せる宗教道德を有するに非らず。中國に優越せる文學工藝を有するに非らず。禮樂刑政悉く之れを中國に學はざる可からざる所謂夷狄を以

清朝立國の意義

てして、尙克く中國に君臨せんとす。蓋し何物が四百餘州を威壓するの利器なきを得んや。是に於て乎辮髮の强制に以て人民を律すること猶ほ濕薪を束ぬるよりも急なるもの有りし也。果して然らば彼の辮髮の强制を除きて又他に淸朝立國の意義を認むる能はずと謂ふ、亦た過言に非らざるべし辮髮の問題たる豈に夫れ重大ならずとせんや。

古來支那の古俗は椎髻を以て男子の頭髮整理法と爲し、之れに冠冕を加ふるを以て定制と爲すこと、唐虞三代の昔より降つて明朝に至る迄、未だ曾て之れを改むること有らざりし也。孔子も夷俗を指して被髮左衽と稱し、中國の中國たる所以は極力此の風俗を排斥するに在りと爲せり。是れ即ち上下三千年を通したる漢人種の思想にして、中國と夷狄との差異は殆んど之れを以て分別せられたる也。然るに明末韃靼の入關に迨んで、初めて不可抗力を有する最高威壓を以て、敢て四百餘州の人民に向つて辮髮を强制せんとす。即ち是れ孔子の所謂髮を被り其衽を左にする者にして、漢人種の之れを憤慨すること、到底筆舌の形容し盡す所に非らざりし也。當時明朝の遺臣、三千年來の衣冠禮樂を維持せんとする者、長江以南至る處に義を唱へ節を守りたりと雖も、弘光帝先づ金陵を守る能はず。紹武も亦た餘杭を退かざる可からざるに至り。續ひて隆武も亦た福州を維持する能はず。永曆帝に至つては久しく兩廣雲貴の間に轉徙して結局中原を回復する能はず。遂に緬甸に蒙塵して終を告げ、椎髻の古俗は到底淸朝の辮髮强制に反抗して之れを永遠に維持する能はざりし也。

獨り此の臺灣あるのみ

その能く三代の衣冠を繼述して飽迄も辮髮の强制に服從せざりしもの獨り此の臺灣あるのみ。此に至つて臺灣も亦た聊か氣を吐くに足る。

臺灣の遵制薙髮は實に淸朝の康熙二十二年にして、鄭克塽が施琅の爲めに征服せられ、始めて淸

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

朝に降りたる時を以て辮髮の强制に從ひたる也。されは西暦一千六百八十三年を以て支那人種を通じて悉く辮髮と爲りしものにして、我國の天和三年迄は臺灣に住居する者、悉く明朝の舊制に從ふて尙ほ推髻を守りし也。故に臺灣人が全く辮髮を爲したるは、今を距ること僅に二百三十四年前にして、支那本土の人民に較ふれは約四十年の後なりし也。

臺灣は實に斯の如き歷史を有するを以て、淸朝の滅亡と同時に先を爭ふて辮を剪るこそ、臺灣人の臺灣人たる可き面目たらざる可からず。然るに今尙ほ染習に執著して畢竟此の二百餘年の風俗を棄つるに忍ひざるが如き者あるは、寧ろ不可思議なる現象なりと謂はざるを得ず。

彼の革命軍初めて武昌に起つて江南之れに響應し、淸朝遂に亡びて民國更に興るに及び、辮を剪り髮を散し、韃靼の夷俗を棄て以て世界普通の風俗に移らんとするは賀すべし。今改めて辮髮の舊事を談するは殆んど操觚者の好奇心に過ぎざる如しと雖も、淸朝の順治二年以後二百三十餘年に亘つて辮髮强制に對する漢人種反抗の歷史は、誠に吾人をして津々たる興味を以て之れを送迎し、慷慨悲憤を以て之れを囑目せしむるに足るものあり。具眼の士或は之れに親炙する所有らん乎。朝庭の隆汚竝に國家の興亡に關する幾多の鑑戒に於て、更に新興國の氣運を助長し、且つ支那人種に對する統治の要訣に悟入するの便無しとせんや。長官閣下の余に命せらるゝ所以の者は想ふに是れなるべし。讀者乞ふ余が本篇起草の意志を察し。漫に辮髮の小題を捕へて徒に之れを誇大になる者に非らずとせは、則ち可也。

二 辮髮の起原

上古は四夷皆な髮を被むるを以て常習と爲し、未だ頭髮を整理するの風あらざりし也。孔子の所

謂被髪左衽なる者以て證とすべし。然れども中國の風俗漸く夷狄に浸潤し、漢の時に至つて南夷は中國に倣ふて推髻を爲し、西夷も亦た嶲昆明の如きは髪を編めること漢書に見へたり。既に其の髪を編むと云ふ。蓋し辮髪の濫觴なるべしと雖も、未だ以て正確に之れか起原なりと斷定す可きにあらず。晋書に「吐谷渾婦人。辮髪縈後。綴以珠貝」、と見ゆ。是れ辮髪の載籍に現はれたる初めなりとす。吐谷渾は今の四川省松潘縣より青海に亘れる地方にして鮮卑の族分離して國に建つるもの、晋の永嘉の時代に當れり。されば西暦紀元三百〇七年より、十三年に至るの頃、支那の西北夷に辮髪の風俗の現はたるは事實なり。

前述の如く辮髪は吐谷渾に始りたりと雖も、畢竟その國に於ける婦人の風俗にして、男子の之れを爲す者は未だ之れ有らざりし也。その之れ有るは高昌國に昉まる。「高昌ノ男子。辮レ髪垂二之於背一。女子辮レ髪而不レ垂」云々。南史に見ゆ。高昌は今の新疆土魯番の地にして漢の所謂車師前部の高昌壁なる者是れ也。前涼の張駿始めて高昌郡を置き、苻秦以後之れを襲ひたるも、隋の時獨立して高昌國と稱し、後ち唐の爲めに亡さる。されば西暦紀元六百年前後に於て、支那の西北夷に男子の辮髪を見たるは事實にして、蓋し吐谷渾の風俗の更に高昌に至つて進化したるものなるべし。

更に顏師古が註する所の漢書を見るに、比疎は史記の單于比余と同一にして髪を辮にし飾るに金を以てすることを謂へり。然れども是れ匈奴の一頭目の頭飾たるに過ぎざるを以て、未だその地方の風俗なりとは謂ふ可からず。此の漢書の註を以て果して信なりとせは男子の辮髪を爲すこと。匈奴の單于比余を以て最も古しと爲さゝるを得す。漢の時代に於ける辮髪の有無は、姑らく之を疑問と爲すも、鮮卑、拓跋、蠕蠕等の番夷は既に六朝の時代に於て辮髪の風俗ありたること諸書に見へ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たり。南朝、北魏を稱して索頭と爲すは、その俗の辮髪を爲すに因る者たらざる可からず。後世に至つて滿洲蒙古の辮髪を爲すは蓋し之を因襲せるに外ならざる也。清朝乃ち滿洲に興る、其俗こを以て辮髪を爲せり。

清朝の創業

清朝は長白山を以て發祥の地と爲し、始祖を愛親覺羅、布庫里雍順を呼へり。其の開國に關する神話は荒誕奇話、容易に信ず可からざるも、要するに靺鞨の後裔にして往古の渤海並に金と同種族たるは明瞭なり。始め長白山東の額多力城に居り。又た呼蘭哈達山下の赫圖阿拉に移る。乃ち今の興京の地是れ也。肇祖の當時果して何の年代に當れるや今甚た詳かならざれども、魏源の說に據れは明朝の正統景泰の頃に相當するなる可く、長白山發祥の當時は遼金の未造なる可しと謂へり。今その肇祖の時代に於ける風俗を考ふるに、殆んど文獻の徵する足る者無きを以て、到底その詳を悉くす能はざるは勿論なりと雖も、上古單于の比余、並びに高昌國の遺俗の漸次東遷して此の地方に入れるものを因襲し、その部族一帶に辮髪を爲し居たるは論を俟たざる所なりとす。肇祖四世の孫を興祖と呼び、景祖、顯祖を經て太祖乃ち愛親覺羅、努爾哈赤と爲す也。

先づ遼陽の市民に辮髪を強制す

太祖は固より不世出の英雄なり。父祖積年の餘威を承けて、諸部落の紛亂を治定し。遂に松花江流域一帶の地を領有して王號を稱へ、明の塞外諸部落、古の遼、金の地を併吞して滿洲國を創建し勢に乘して開原を拔き、鐵嶺を降し、明の遊將と戰ふて常に之れを敗走せしめ、天命六年（明朝天啓元年西暦一六二一）遂に瀋陽を破り進んで遼陽を圍み、守將袁應泰以下之れに死し、遼東以東の諸州大小七十餘城を降して都を遼陽に移せり。當時遼陽の市民出て降る者は悉く髪を削つて辮を垂れしめたり。實に是れ清朝が辮髪の强制を以て統治權の威嚴を示さんと試みたる嚆失なりとす。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

三　清朝の雉髪令

清朝が塞外窮塞の地に興つて、遂に燕京を占領したる經過を詳かにせんは容易にあらず。然れども爰に清朝の支那統一及び其の辮髪强制の狀況を敍せんとするには、概略その經過を說かざる可からず。既に前章に於て略記したる淸の太祖は天命十一年を以て瀋陽に卒し、其の第八子皇太極を立て、太宗と爲し、天聰崇德を經て約十八年後なる世祖皇帝の順治元年に至つて、始めて明の燕京を奪ひ、遂に支那四百餘州に君臨するを得たる也。

明朝の衰亡

翻つて明朝の形勢如何を顧みるに、彼の愛親覺羅氏が頻に遼東半島を席卷して、其の羽翼を塞外に養へるの時に當つて、內憂外寇荐に臻り。至尊未た曾て枕を高ふするに遑あらず。朝廷又た賢良忠貞の之れを輔佐する者なく、天啓より崇禎に至る約二十餘年の間は綱紀解紐して威令全く行はれす。既に亡國の象兆は宮廷の裡に充滿するものありたり。形勢斯の如し、天既に朱明の帝德を厭ひたるに外ならすと謂ふも、敢て過言に非らざるに似たり。斯くして遂に崇禎十七年（清朝順治元年 西歷一六四四）甲申の歲三月、闖賊李自成は燕京を陷れて帝位を僭稱し、國號を大順と稱し、承昌と改元し、崇禎帝及び明の宗室を擧げて悲慘なる最後を遂げしめ、燕京は忽ち紛糾混亂の巷と化するに至りたり。是れ實に清朝の爲めに關に入つて王たるの好機を與へたるものなりと謂ふべし。

睿親王の輔佐

當年世祖皇帝は年甫めて六年、天授聰明にして素より天子の器を備へたりと雖も、未だ乾綱を握つて自から天下に號令する能はず。鄭親王濟爾哈朗、睿親王多爾袞を擧げて此の幼帝を輔佐せしめたり。之れを攝政王と稱す。中にも睿親王は太祖第十二の王子にして武勇材幹殊に勝れたるものあり。黃沙百戰未た曾て其の英鋒を挫しきたるを知らず。久しく威名を關の內外に震ひたり、會々明

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

山海關の住民に辮髮を強制したり

山東巡撫朱朗鎔の奏議

の事遂總兵吳三桂、燕京の變亂を告げて急援を乞ふあり。卽ち以て中原逐鹿の好機と爲し、兵十數萬を率ひて山海關に向ひ、吳三桂と力を協はせて李自成の軍二十餘萬を破りたり。攝政王は實に此の一擧を以て山海關を奪ひ、此處に中國の天下を領有するの基礎を定めたり。此時又た遼陽占領の當年に於ける先例に倣ひ、山海關城內の軍民をして悉く薙髮して辮を垂れしむ。是れ卽ち淸朝第二次の辮髮強制なりとす。

斯くて睿親王は吳三桂に藉すに精兵一萬を以てし、燕京を圍んで李自成を逐はしめ、親からは五月一日を以て燕京に進み、喪禮を以て崇禎帝を改葬し、喪に服する三日にして前朝に對する敬意を表し。城內の秩序を回復して漸次民政を施し、其歲九月燕京の安寧を維持するに及んで遷都を奏請して聖裁を仰ぎ、車駕十月一日を以て始めて燕京に親臨し、支那四百餘州の統治權は此に全く淸朝の掌握に歸し畢りたり。事既に此に至れり。之れを遼陽の占領當時、近くは山海關占領の當時に徵して洽く滿都の士民竝びに軍人に對して彼の辮髮の強制を斷行するならんとは、蓋し都下一般に豫期したる所なるべし。然るに睿親王は明朝遺臣の憤懣を買ふを以て不利と爲し、燕京占領の當時に限つて辮髮の強制を行はざるのみならず、却て明朝の遺制を尊重するの傾向を示したるは、全く人の意表に出てたる所なりき。睿親王は實に多智多謀の英傑なりと謂はざるを得ず。

今順治元年七月、山東巡撫使朱朗鎔なる者の奏議を見るに。

中外臣工。皆以衣冠禮樂。覃敷文敎。頃聞東省新補監司三人。俱關東舊臣。若不加冠服。恐人心驚駭。悞以文敎興化之官。疑爲統兵征戰之將。乞諭三臣。各製本品紗帽圓領。云々。

朱朗鎔は明の宗室の支裔なれども滿州入關の後歸順投誠し、依然前官に襲用せられたる者なり。

然ども滿州人を以て州郡監察の官に補せられたるもの、中國の衣冠を爲さずして漫に滿州の舊俗を維持せるを以て心に慊しとせず。遂に此の奏議に及びたるものなるべし。今此の奏議を熟讀するに、表面その文字にこそ顯さゞれ辮髮は夷狄の習俗にして、苟も官職を中土に帶ふる者の之を爲すを許さゞる所なりと謂ふの意は、自から言外に溢るゝを見る。又た滿州人にして新に地方監察の吏に任せらる。その地方人民の之れを驚駭して幾多の惶惑を生じたるも亦た事實ならざる可からず。されば朱朗鎔は清帝燕京を定むるの後、遼陽並びに山海關に於て爲したる如く直に辮髮を強制するの形勢なきを以て自から其心を安んじ、寧ろ却て清朝をして中國の衣冠禮樂に傚はしめんとするの意ありし者と想像せざる可からず。當時容親王は諭して曰く。

兵務方殷。未レ遑二衣冠禮樂一。近簡二各官一。姑依二明式一。速製二本品官服一。以便二公事一。時常出入。仍遵二國家舊例一。

是れ素より容親王の本意に非らずと雖も、漢人種を懷柔するの策に於ては、今假に此言を爲さゞる可からず。その人心を駕馭するの道に於て、蓋し用意周到なりしと謂ふ可き也。

是歲、金陵に於ける明朝の遺臣相謀りて福王を擁立し、宏光と改元して別に朝廷を建設し、前兵部尚書兼東閣大學士史可法を以て內閣と爲し、總兵劉澤清、劉良佐、黃得功、高傑等を以て各鎭に分駐せしめ、長江の天塹を以て南中の半幅を維持し、以て徐に明朝の社稷を囘復せんとす。攝政王即ち書を史可法に送つて未だ國仇を報せざるに當つて、新に帝を立つるを難す、史可法通鑑綱目の光武中興、昭烈踐祚等の例を引きて之が辨解を爲し且つ兩國永く盟好を通せんと謂ふの意を以て之れが答書を與へたり。その答書の一節に謂へるあり。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

吳三桂借二兵貴國。破走二逆賊。爲二我先皇帝后。發レ喪成レ禮。掃二清宮闕。撫二輯羣衆。且罷二薙髮之令。示レ不レ忘二本朝。此等舉動。振古鑠今。凡爲二大明臣子。無レ不三長跪北向頂禮加額。云々。

此の答書素より其の措辭を婉曲ならしめ、毫も鋒鋩を露はさゞるを以て主旨と爲し、諛辭の其心に反する者無きにあらざる可しと雖も、旣に史可法をして此言を爲さしむ。燕京入城と同時に其の市民に對して例の辮髮强制を行はざるのみならず、已に幾多の日子を經過するも尙且つ之れを勵行せざりし所以の者、畢竟用意の周到なるに出でたるに過ぎずして、寬嚴伸縮時の宜に隨ふて策を施すの巧好なるを證明し、人をして睿親王の一成功を認めしめすんはあらざる也。

燕京入城後彼の辮髮を以て之れを一般國民に强制すること無く、却つて明朝の舊制を尊重するの傾向を示して、漢人種の心を緩和せしめたるは、勿論一時の政策にして果して淸朝本來の素志に非らざりし也。順治二年五月清軍長江を飛渡して金陵を陷れ、宏光帝出て奔るに及んで、始めて薙髮令なる者は宣布せられたり。是れ卽ち天下の大勢全く清朝の掌握に歸したるに由るなるべし。今將良驥の東華錄に揭げたる薙髮令の全文を示せば左の如し。

諭二禮部。向來薙髮之制。姑所二自便一者。欲レ俟二天下大定一也。此事朕籌レ之最熟。若不レ歸レ一不レ幾レ爲二異國之人乎。自レ今布告之後。京城內外。直隷各省。限二旬日一盡行レ薙完。若規避惜レ髮。巧レ辭爭辯。決不二輕貸一。該地方官。若有レ爲二此事。瀆二進表章。欲下將二朕已定地方一。仍存二明制。不レ遵二本朝制度一者上。殺無レ赦。

此の薙髮令は恰も江河の堤を決する如く一時に天下に勵行せられたる也。恰も濕薪を束ぬるが如く、之れを各人各個に急施せられたる也。文武周公以來の衣冠禮樂を尊重せる中國百萬の蒼生は、

故明石將軍の筆に成れる「壺瀛仙府」の碑文

壺瀛仙府といふは本文の通り朝鮮の保寧に在る一寺刹の方丈に名づけられた堂名であると思はれるが、明石將軍が其の碑文を書かれた譯は、其所の住僧たりし洪疇といふのは將軍知音の人で、僧侶ではあるが志士といつたやうな肌合の人物で、常に志士遊俠と交り、東學党の亂や王妃事件、乃至日韓合邦などにも、皆な隱然關係する所があつたらしい。其の人物は彷彿として此の碑文の中に窺はるべく、文章も中々面白く至極名文であるやうに思はれる。私が之を讀んだ際に興味を感じたことは、第一に前の臺灣總督たりし將軍の選文たること、第二に之を讀み了りて將軍が日露戰役の當時、歐洲に在りて奔走企劃された事績などゝ考へ合せて、本篇の主人公たる洪疇師の性格の、將軍と相似たるものある如く、随て靈犀一點の相通ずるものなからずやを想つたこと、第三に斯くて將軍の選文も自適無我の境、愈々其の妙を成したのでは無いかと思つたことである。今や將軍逝いて三年、會々將軍と意氣相許した畏友なる下村海南博士は、道囘病の故を以て臺灣總務長官の職を辭して閑地に就かれた。私は夫れに就て本號長官送迎に關する資料を蒐集するの際、先頃擧行された明石將軍の臨時祭のことから、不圖此の「壺瀛仙府」の碑文の事に考へ及んだのも亦た奇因緣であるから、仍て潜越ながら茲に小引を付し、其の全文を掲げて故將軍の俤を偲ぶの料となさんとするのでる(屯山生)

……………………………………

壺瀛仙府碑　陸軍大將　明石元二郎撰

沙門洪疇寂之七年、其嗣晩成來曰、先師知音一推公、敢請貞珉之文、願莫辭以避焉。予固知洪疇、而未詳其行藏學術也。仍質之内田良平、曰、洪疇以一破衲、與志士遊俠交、從訪金鰲之窟客、迨日韓合邦之時、形影如夢、功過不可拉而紀矣。然洪疇學問文術之交、推權藤成卿、或有可勸而傳者歟。輙質之成卿、曰、洪疇常謂、予文未能伍中峯絶海、六一浩然之門徑、尚且遠矣。我所歴遊處、只在不説之傳、無字之門焉耳。其詩律雖有佳什、未盡伊人也。然晩成縮燈、其道或有足傳者歟。於是質之晩成、晩成瞠目謂曰、壇有祖師之偶、室有無門之關、衣有解説之袈裟、食有福田之香飯、皆先師所傳。信是不朽矣。予曰有是哉、乃可以銘也。按、洪疇久留米侯遂臣澤四兵衛第三子、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

幼爲武田貞齋所養。已長遊無方、縱恣嗜酒、出在東京、無所容、去彷徨東山諸陬、入越之妙高山、逗留山寺、讀起信論、始傾心梵籍。明治十八年、來寄保寧之玄道、請讀大藏、玄道容之、以準徒弟、字曰善來、洪疇陟獵諸乘、又詣安全寺千春間律。越四年。玄道寂、道牛繼、卽下山放浪四方、遂到對馬。二十六年航金鰲島、訪寓客李豐榮、說日韓匡合。明年與同志十餘輩、會於釜山、投東學之亂、而征淸役起、乃晦其迹、及至戡定、潛入漢城、有景福宮之變、檻送廣島獄。二十九年。放歸於保寧、後四年、道牛寂、洪疇繼燈、修築方丈、扁曰蓬瀛仙府、洪疇與內田良平好、統監府成之後、引薦之於李容九。四十一年讓燈於晩成。亡幾容九上封事、而合邦藏事。予時在職於漢城、洪疇來敍別曰、白雲俟我、曷爲濡滯、乃歸。其明年六月十三日遷化、年四十九。洪疇初名範治、後改範之、善來梵名、號洪疇又保寧山人。川上邦弘輯遺文、拜撰其傳云。嗚呼之子、流離慘苦、學問文章無常師、出入干戈遊朋党、翻掌詭遇之中、干公侯相將、治法征謀、勳業功名之間、竟悟應緣化物之訣、以空乎其迹。是豈疏松一様、佛者之徒侶乎哉。乃作銘繫之、銘曰。

不說說兮不講講、有酒醉兮與神蕩、忘來路兮將何往。逍遙兮魚龍之淵。徂徠兮保寧之山。怡々兮醉僧之顏。恍惚見兮智之圓。詠櫻花兮詠李花。頌悠揚兮韵其香。梟之待兮守此窩。鷲之吼兮望彼涯。

右寫し終つて筆を擱いた時、會々七月三十一日門司發下村博士の、私に宛てられた繪葉書を拜受した。其の表面には「筆硯益御勁健を祈る海南客」との博士の御自筆があり、裏には「明石總督一週年祭記念」と題した。三板橋なる將軍墓域の寫眞が鮮明に認められた、私は今更乍ら博士の故將軍に對せられる追懷の深さを感ずると共に更に此の記事と繪葉書とを思ひ比べて因緣の不思議なるを深く感じた（八月五日午後五時、屯山又識す）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大聖孔夫子の子孫も亦だ辮髪す。

今や夷俗に從かひ頭を削つて其の髪を辮にせざる可からず。何んぞ喜んで之れに遵ふ者あらんや。皆な其の急峻な法令を畏れて涙を吞んで其の頭を剃りたるなり。嘉定屠城記の外に余は遺憾なから當時の狀況を詳述せる史籍を見る能はずと雖も、此の薙髪令の爲めには、天下到る處阿鼻叫喚の地獄を現したるは、蓋し想像するに難からざる所、隨つて流離困頓、遂には閩に往き粵に往き以て淸朝の暴虐を忌避し、爲めに明朝恢復を以て志と爲す幾多の義軍は、由つて以て其の勢力に幾許の氣焰を增加したるかを知る可からず。

山東省兗州府に曲阜縣と稱する一市邑あり、是れ卽ち大聖孔子の舊里にして、此邑に孔子の後裔にして奕葉連綿たる名門あり。漢の孔安國以來、歷朝帝王の尊信を受け、累代公爵に封せらるゝを以て例と爲し、天下の崇敬を受くること又た尋常に非らず。當時の宗主を衍聖公と稱し、儼然として先聖の典型を維持せり。今此の薙髪令の天下に宣布せらるゝや。遂に此の衍聖公と雖も亦た之れを免かる能はず。所謂髪を被り其の衽をたにし舉りたりと云ふ。既に此人にして斯の如し、彼の山東巡按使朱鍈朗の如きも亦た固より此の薙髪令に遵ふて其髪を辮にするの已む無きに至りたるや知る可き也。

因に云ふ。支那の書物に於て推髻の舊制を棄て辮髪と爲ることを薙髪又は剃髪と稱し、之れを以て淸朝に投誠するの證左と爲し、一旦投誠したる者吏に志を翻へして明朝回復に志し改めて制舊に還らんとする時は剪辮又は蓄髪と稱す。此の辮髪と剪辮とは約二百餘年間支那の英雄豪傑に反覆せられたる活劇なり。本篇は之れを秩序的に敍述せんとする者にして、以下各章要するに唯此の頭髪問題あるに過ぎず。（未完）

時報

總務長官更迭

七月十一日臺灣總督府總務長官の更迭あり前長官下村宏氏は病氣の爲め依願本官を免せられ其の後任として總督府專賣局長賀來佐賀太郎氏新たに總務長官に任せられたり下村氏は大正四年十月、前民政長官内田嘉吉氏辭官の後を承けて民政長官となり爾來七年間、安東、明石、田氏三代の總督の下に歷仕し其間、鐵道、埤圳、築港、林野調査、戶口調査、敎育、殖産、電氣、地租調査、三審制設置、地方自治制創始、阿片、通信、評議會設置等、凡そ本島著大の事業施爲等に就ては參劃到らざるなく其他、臺灣宣傳、體育奬勵の如きは最も力を致されたるが性來の蒲柳に加ふるに劇務を以てし遂に健康を害されたる結果辭職の已むを得ざるに至りたるは誠に惜みても餘りあり後任賀來長官は本島に在職既に十八年に及び平生謹嚴の聞あり力量手腕亦た凡ならず從來の實績見るべきもの多ければ下村氏の後を承けて萬遺算なかるべしと期待せらる、新長官の略歷左の如し

賀來總務長官略歷

▲明治七年一月二十六日大分縣宇佐郡佐田村に生る▲明治二十九年第五高等學校卒業▲三十二年七月東京帝國大學法科大學卒業▲同年八月農商務省鑛山局勤務▲三十三年十一月高等文官試驗に及第▲翌年五月鑛山監督官高等官七等▲三十六年九月高等官六等臺灣總督府事務官▲十月參事官に兼任▲三十七年二月民政部通信局海事課長兼務▲同年五月臺灣評議會員▲三　八年九月高等官五等▲四十年一月律令審議會員▲同年七月歐米各國へ差遣さる▲同年九月高等官四等正六位▲四十二年四月歸朝▲四十三年五月民政部財務局勤務土木局事務官兼任▲同十月高等官三等▲同十二月從五位▲四十四年總督府土木部官制廢止臨時工事部事務官總督府作業所長を命ぜらる▲四十五年六月勳四等瑞寶章を授けらる▲大正二年五月土木局土木課長▲同六月總督府參事官兼事務官高等官二等▲大正三年六月專賣局長▲大正六年一月勳三等瑞寶章を授けらる▲七年十月從四位に敍せらる▲大正九年九月高等官官等俸給令の改正と共に高等官一等に任ぜられ一級俸を下賜せられ更に年功加俸四百圓を下賜せらる

新舊長官の挨拶

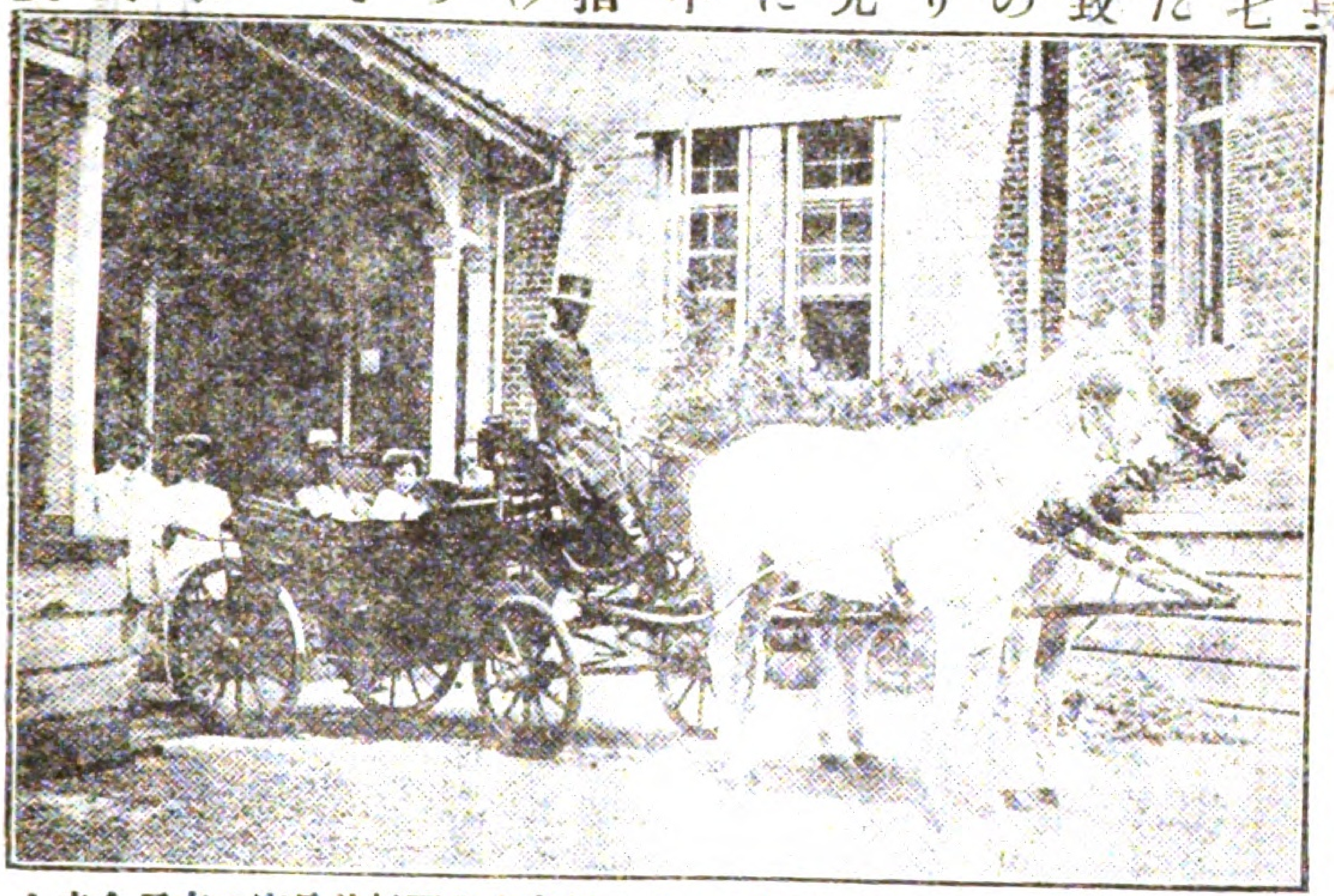
總務長官更迭の發表は、下村、賀來兩氏とも上京中に係り、下村前長官は退官に就き臺灣官民に告別の爲め賀來新長官と相携へて七月十八日神戶出帆の香港丸の客となり同二十二日未明基隆に著、兩氏は直ちに臺北に入りたるが下村前長官は午前十時、總督府會議に於て各部局課長及各官衙長に對して別項

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

掲載の告別辭を述べられ、之に對し高田局長一同を代表して左の答辭を述ぶ

下村長官は歴代の長官中最も長い間御在職になりまして前後七年の久しき本島に盡されましたが今回御健康上の御都合より致しまして御退職になりましたのは吾々の痛惜に堪へぬ所であります只今は洵に御懇篤なる御光榮を賜りまして吾々一同感激に堪へません茲に謹んで御在職中に於ける極めて御懇篤なる御指導に對しまして深く感謝を致します尚將來とも宜く御指導あらん事を切望に堪へません謹んで一同に代り御禮を申上げます

右了りて下村氏の退出するや賀來新長官は總務長官として一同に對し挨拶すべく臨席の上、別項掲載の通り挨拶を述べられ之に對して又た高田局長一同を代表して左の如く答辭を述ぶ



臺灣を去るべく官邸を出でられんとする馬車上の下村前長官と文子令夫人

此度御新任になられまして洵に慶賀の至りに存します尚只今は御懇篤なる御訓辭を賜り私始め一同感激に堪へません長官閣下は本島に於ける御在職十數年吾々は其の間細大となく常に御懇情を賜りまして寔に難有感じて居る所であります尚此上とも從來に渝らずして充分の御懇情を以て吾々を御指導せられんことを希望致します又た吾々一同は只今の御訓辭に對し飽迄も職責を盡して決して忘れざらん事を期待致します謹でお祝を申上げ亦御禮を申上ます

右了りて賀來長官は退出し次で一同退散し式を終る

官民合同 新舊長官 送迎會

●●●●長官更迭に付官民合同●●●●の新舊長官大送迎會は七月二十二日午後七時臺北鐵道ホテルに最と盛大に擧行された、會衆は無慮一千名、式場に充てられた餘興場の內外に溢る、計りであつた、定刻下

村、賀來の兩氏は急霰の如き拍子に迎へられ武藤市尹の先導で壇上金屏を廻らした邊に著席すれば軈て市尹によつて開會を宣せらる、此時高木電力社長は當日の會員を代表して登壇し大要左の如き送迎辭を述べる

一同に代り僭越ながら下村前長官竝に賀來新長官閣下に御挨拶を申上ける

下村閣下には御疲勞の所遙々と遠路御歸臺相成りしに就ては我々一同深く感謝する次第に御座います閣下が總務長官として御在職中に本島の爲に御盡し下さつた事蹟に就ては到底言語を以て盡されぬ所でありますが特に臺灣教育令の發布、地方制度の改正、六三問題に解決を與へられ或は官田溪の埤圳計畫に或は電力會社を創立して臺灣に於ける工業の基礎を作られ或は體育を奬勵されて未來の國民の體育上に寄與されたる所多く何れも悉く臺灣百年の計ならざるは無き立派な仕事を多く殘されました將來日に月に其の效果は偉大なる結果となつて現はれ來るべきを信ずると共に閣下の御努力に對して深く感謝の意を表する次第であります是等の事は表面の事蹟といたしまして更に內面的に本島の爲に閣下が最も御心勞下さつた點は何とも謝するに言葉がありません今後充分に御靜養を加へられて一日も早く御健康を回復されん事を祈ります終りに臨み長い間我等一同が閣下の知遇を辱うした點に對し厚く御禮を申上げる次第であります

賀來閣下には明治三十六年以來本島に御在任になりまして或は通信局に或は財務に土木に或は專賣局長として之くとし可ならざるは無きの御手腕に就ては我々一同常に敬服致して居る所で御座ります既往に於ける閣下の功績は更なり閣下は何事に對しても誠意を以て一貫される點は之亦我々の推服に堪へぬ次第で且つ臺灣の事情には通曉至らざる無く此點に於きましても我々は閣下今回の御榮轉に對し多大の幸福を感じて居る次第で御座ります將來宜しく御誘掖下さらん事を希望致す次第で之を以て兩閣下送迎の辭といたします

次で領事團及外人團を代表して米國領事ヒッチコック氏の別項掲載の如き英語の送迎辭があつた、之に對して下村前長官は割るゝ計りの拍手に迎へられて起ち最と謙遜の態度で別項掲載の別辭の如く、在臺七年間の官場生活を回顧して萬感交々至る底の表情で別辭を述ぶれば滿場閴として聲なく孰れも感慨に堪へざるものゝ如くであつた、次で賀來新長官は謹嚴な態度を以て別項の如く歡迎に對する謝辭を述べ孰れも破るゝ計りの拍手の裡に降壇するや直ちに閉式を宣し同時に別室大食堂を初めホテルの各室に於て開宴し、中川臺銀頭取の發聲で新舊長官の爲に一同乾盃を爲し更に新舊長官は中川氏の先導で各室を廻つて會衆と共に乾盃し午後八時過盛會裡に散會したが、右閉會後餘興場で東宮殿下御外遊の活動寫眞映寫があつて、會衆一同は面白く拝觀したる上夫々散會した

在臺七日間の下村博士

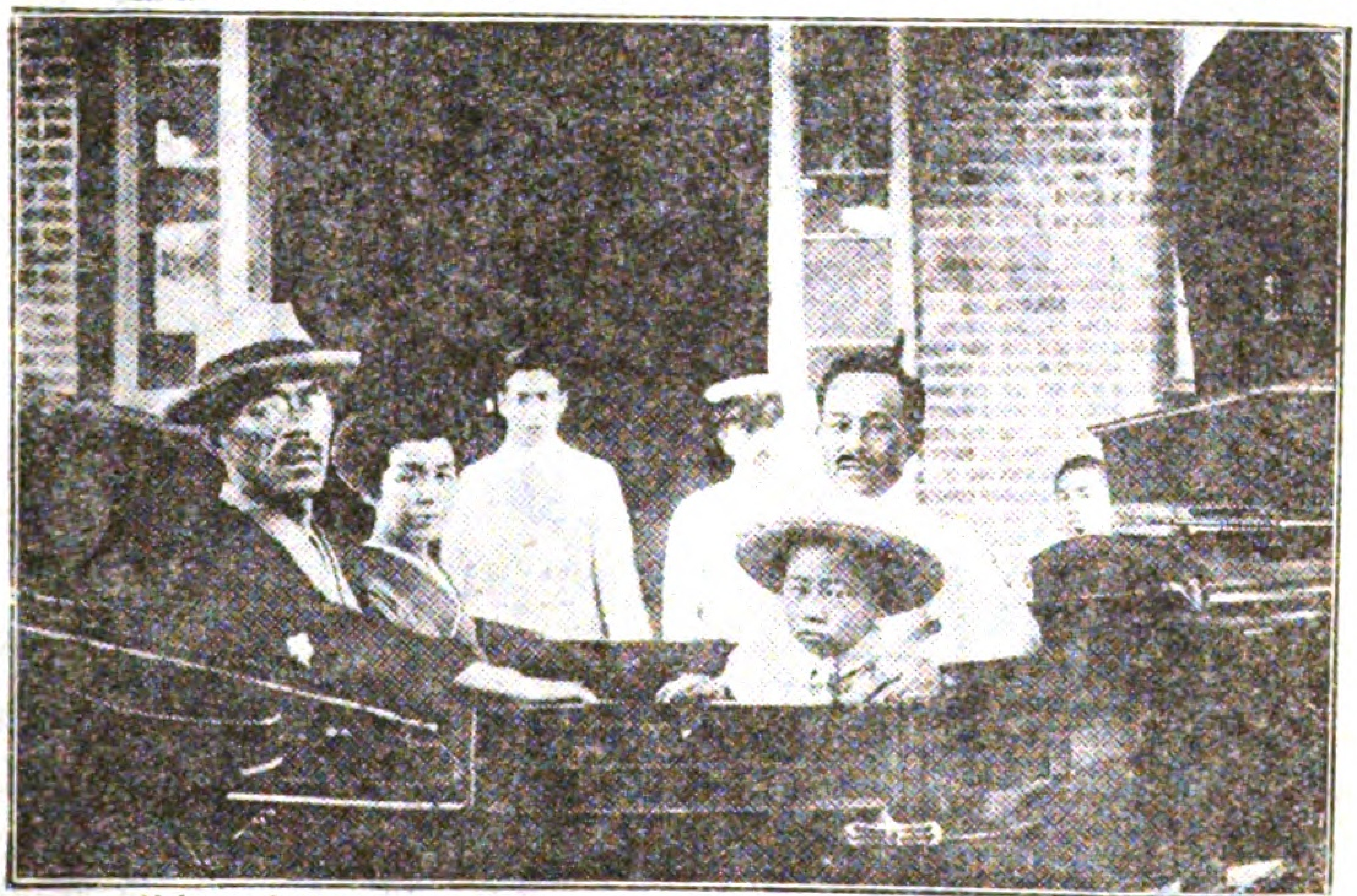
下村前長官挂冠に付告別の爲め歸臺せられたるは七月二十二日にして其の再び去臺東上せられしは同二十八日なり其間日數七日、内地人本島人は有ゆる方法に依りて別を惜み、下村博士は又た面接に宴席に揮毫に出來る丈けの精力を盡して別を惜むもの、爲に滿足を與へられたり七日間の日程は大凡左記の如く

▲二十二日　臺北着●午前十時、府内告別●午後六時よりホテルの官民合同送迎會

▲二十三日。●朝、ホテル紀州會●正午ホテル各團體送別午餐會●午後二時新公園グラウンド臺灣體育協會送別競技會●夜は梅屋敷臺銀送別會●家族同伴自動車にて北投へ

▲二十四日（北投）　●有隣庵の朝起會送別●午前十時より四時迄八勝園朝比奈別莊の歡の會●夜無名庵電力會社送別

▲二十五日（北投から臺北へ）　●朝賀來新長官招待會●午前十時自働車にて歸北●午前中官邸にて面接揮毫●正午梅本の糖業聯合會午餐會●午後二時武德會の送別武術大會　●午後六時淡水戯館の本島人送別會　●八時より有志主催梅本の送別宴



臺灣を去るべく出る前長官邸玄關前の馬車上にて（左方下村前長官（紋付羽織の）さ文子令夫人、右方下村令息さ菊池秘書官）

▲二十六日　●七時三板橋　明石總督墓前祭　●午前中官邸にて面接及揮毫●正午梅屋敷の郵商船送別會●二時ホテル中等學校教師送別茶話會●午後四時より梅屋敷にて臺北記者團及三井送別會

▲二十七日　●午前中官邸面接及揮毫●正午軍司令官々邸送別會●二時構度課コート元老送別テニス會●四時總督府内土俵にて體育會主催送別角力●午後六時總督官邸送別會●九時より各部局長梅屋敷惜別會

▲二十八日　●午前中官邸にて部局課長諸官に告別及揮毫●午後二時十分臺北驛發列車貴賓車にて出發●三時過基隆著同地官民合同送別會場なる公益社に臨席●信濃丸サルン數百の官民に告別乾杯●午後四時出帆

右日程中の主なる送別會の概況は下の如し

紀州會主催の送別宴

臺灣北部紀州會顧問たる下村宏君、退官の上歸省せらるゝに付紀州會員は惜別の微意を表する爲め七月二十三日午前七時半下村宏君並夫人令息を鐵道ホテルに招待して送別宴を催した會する者四十餘名、席定まる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

や會長角源泉君は壯重なる口調にて送別辭を述べたる後一同と共に主賓の御健康を祝し次て下村宏君は叮重なる内にも誠に打解けたる挨拶があつた送る人送らるゝ人總て皆内輪の人のみの集まりとて打解けて四方山の話に時を移し下村デーの次の日程に近つきたる爲め一同は名殘を惜みつゝ御別れした

(南氏寄)

各團體主催の下村博士送別午餐會

東洋協會、南洋協會、赤十字社、愛國婦人會、武德會、臺灣時報發行所、臺灣教育會、警察協會等の下村前長官を支部長又會長に戴きたる各種團體は相聯合して二十三日正午臺北鐵道ホテルに下村博士送別午餐會を開いた主人側は高田局長、高木電力社長、川崎、阿部の兩局長、片山、野呂、吉岡、東郷、鎌田、菊池、阿部(嘉七)諸氏等三十餘名、デサート、コースに入り高田局長は各團體を代表して前長官在職中各團體の爲に御盡力ありしを謝し御蔭を以て各々發展に向ひ居れば今後共不相變御指導を吝まれざらんことをと希望し下村博士は「自分は會長又は支部長の職に在りしも實は名義のみにて實際働きたるは各位なり御禮に預りては痛み入る、然し是れが新任の場台でもあるなら知らぬ人から一々名刺を受け取つて其の顔を覺えて置くなどいふ苦勞もあるか、斯うして舊知諸君と一堂に談笑し居るは何とも言へぬ愉快にて一皮づゝ荷が剝げて御さるゝやうの心地すとの挨拶があつた、折から主人側の一人なる阿部嘉七氏は此の日山形縣理事官に轉任の旨發布ありたるやにて高木電力は阿部氏の爲に乾杯したるは思ひ付であつた、斯くて主客打ち解け談笑の裡に午後二時頃散會した。

東洋協會支部外七團體の臺北鐵道ホテルに於ける下村前長官送別午餐會場の一部光景

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣體育協會の送別大會

低氣壓が香港方面に去つたので二十三日の下村體協前會長送別陸上競技會日和は朝から北東の風が稍強く誂向であつた、新公園內のグラウンドは前日來拭うた如うに手入されて綠の芝生に白く光るラインは一入鮮かに、來賓席の天幕張や委員選手控所は閑寂裡に早や人待ち顔を構へた、此日送らるゝ人と送る人達との心理を思はせて何んとなく悲壯痛烈な空氣を漲らせた、軈て午前十時開始豫報の煙花三發が空中に轟くと委員、選手見物は三々伍々と來集し先づ近藤幹事から出場選手一同に一場の挨拶があつて愈々競技の開始が宣せられ三線道路三周餘の十哩マラソン競走のスタートが切られた(略)

先是下村前會長及賀來新會長の臨場があつたので午後二時十分より六十餘名の選手の入場式が行はれ新元常務理事以下協會役員及び當日の委員一同と共に來賓席前に整列すると新元理事は新舊會長に對して感謝と哀惜の情を込めた謝辭を呈し新會長に將來の指導扶掖を熱望するや下村前會長より大様左記の告辭があつた

―南國の健兒諸君―

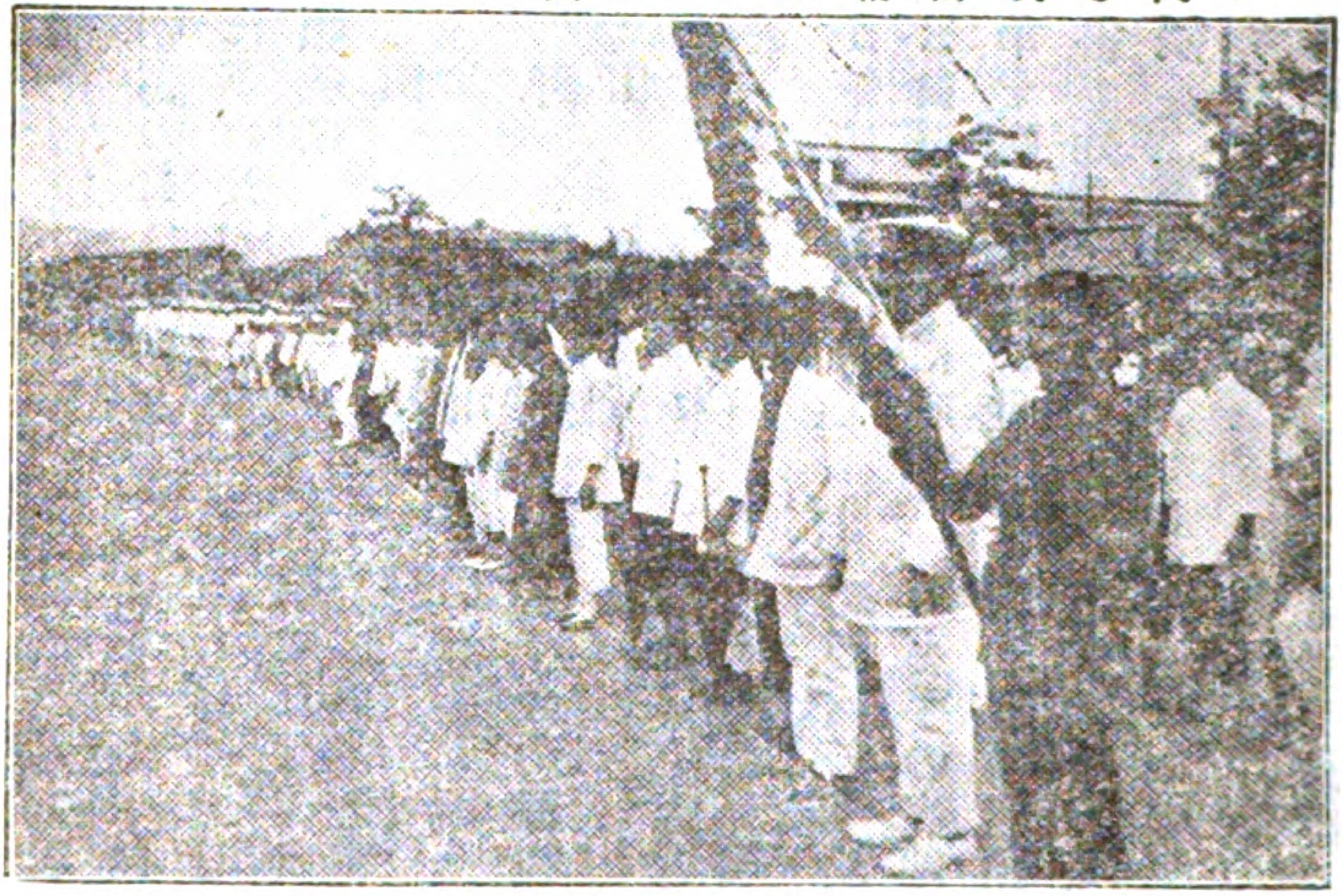
下村は健康を害しましたので今回退官致しました諸君とも茲に訣別せねばならぬことゝなりました、體育に熱心な下村が健康を害したことは一種の矛盾の樣に聞えます、然し此の下村は小供の時は十五歳迄しか生きられぬと醫師から宣言せられた位、弱い〱ものでありました、それが今日四十七歳迄無事に生きて來ました然かも此南國で足かけ七年總務長官の劇職をも勤めることが出來ました、此は私が自ら體育に力を致した結果に外ならぬのであります、諸君は各自は勿論自己の周圍のあらゆる方面を勸つて體育に趣味を持たしめる樣獎勵を望みます、又體育の必要は學生生活の中のみでは意味を爲しませぬ、學生生活を終りし後も家庭を造り自己の健康の維持增進につとむるの外猶強健なる夫人強健なる兒童により一家の平和と子孫の幸福繁榮を期する爲め家庭を擧げて體育に意を用ゐて貰はねばなりませぬ、世間では碁や將棋や球突や謠などにも相當な時間を費します私は何れが是何れが非と贊否を論ずるものではありませぬ唯日本人否東洋人種は如何にも壽命も體格も共に歐米人に劣つて居る、殊に働き盛りになつて中道にして挫折するもの多きは遺憾至極のことであります、返す〱も諸君は「アウトドーア」で「フェイア、プレイ」によつて健實なる肉體と精神を鍛練せられんことを熱望致します下村も臺灣在職中は本島體育の爲めに微力を盡しました、將來は諸君は名譽會長として賀來長官を戴き、新元部長を始め幹部の方方と協力一致一層健全なる發達を見ることゝ信じます、私も事情の許す限り渡臺して親しく此フキールドで再び諸君と手を握りたいと存じます、猶同時に將來の下村は我日本全般否東洋全般の體育の獎勵に努らずや

一層の努力を盡くすべきことを諸君の前に明かに宣言致します、之れを以て告別の辭とし諸君と共に我臺灣體育協會の萬歲を三唱いたしませう此程在京中 體育協會本部の宴會に出席したが 席上岸會長は上海のオリンピックて比律賓や 支那選手や監督間に羨ましい程な協調一致の精神が發揮されて居たに拘らず日本側には 夫が大に缺けて居たと殘念がつて居たが此精神方面に於て日本人は 實際大に缺けて居る此精神的方面の訓練に努めることは 勿論のことであります

次に賀來新會長は

私は船中で體育協會 名譽會長の後任は其器で無いから斷然辭退すると 下村會長に話して承諾を經 たのだが昨夜協會の規定には會長には總務長官を 推すとあるのを楯に迎へられたので遂に 止む無く承諾をした唯今の前會長の 告別の辭は私の同感同意する所で私は 決して運動競技を無視するものでない唯其 極端に偏するのを虞れる私は學生時代から人竝に運動競技に就いて趣味を有つて居る此意味に於て諸君の援助の下に會長としての責任を盡したい云々

右了て一同紀念の撮影を爲し競技は引續き續行された（臺灣日々新報）



各學校生徒の下村前長官見送

臺灣銀行主催の送別宴

臺灣銀行主催の下村前長官送別會は二十三日後六時より梅屋敷に開かる陪賓として督府各部局長其他官民約百名を招待せり席上中川頭取は「下村前長官は大正四年赴任以來今日迄臺灣の爲に參劃せられたる事績は余の喋々を要せざるが當銀行としては大正四年に資本二千萬圓なりしもの今日は六千萬圓に増加し其間新高華南兩銀行臺灣倉庫、南洋倉庫兩會社の創立竝に當銀行海外各地に於ける支店の開設等は多く下村前長官の御盡力に依ること尚ほ下村長官の赴任にして今兩三年早かりせば本島の開發進展の上に更に一段の效果ありしならん」と述べ下村博士は之に對して謝辭を述ぶる所あり了りて宴に移り本島人藝妓の歌曲及内地人藝妓の舞踊あり庭園には彰化煙火等あり其間主

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

客互に健康を祝し乾杯又乾杯歡を盡して九時頃散會せり

朝起會の送別會

朝起會の下村前長官並に同夫人に對する送別會は七月二十四日、朝霧の尚ほ林巒を罩むる午前五時北投の有隣庵に催ほされた、集りたるは主客を合せて二十二人、其の顔觸は

下村氏　下村夫人　高田福留
田阪　野呂　三浦　小川
山本　宇野　小野田　中川
岩本　桂　德田　新元
佐山　佐藤　太田　鈴木
木村　菊池

諸氏である、一浴が濟むと、何時か筆硯が運ばれて山氣樓に迫るの邊、下村氏は悠然と白扇の揮毫に耽つて、諸同人は暫し其の清評に談華を咲かす、浮世を外の此の清會を、例に依つて葉書で知らせたのは

曾田孝一郎　川北幸壽　隈本繁吉
樫谷政鶴　佐田家年　本山文平
星野政敏　内田嘉吉　木下宇三郎
安東貞美　藤根吉春　賀田直治
中川友次郎　井村大吉　石井靜子
川崎軍治　中桑徹郎　枝德二

の舊同人で、其の先は、東京、盛岡、九州から朝鮮に迄及んで居る、人事既に聚散常なし、大屯山巓に去來するの白雲亦た之を語つて居る、唯々當日は天氣も好く、日曜でもあつたので、高岡林巒の間に長嘯すれば、身は殆ど仙化するばかり、やかて朝餐が運ばれ一同杯を擧げて高田幹事長の首唱で下村監督の健康を祝し更に代る／＼祝杯を擧げ、主客いづれも十分の滿悅で、午前九時半頃ボツ／＼散會した

（會の一人）

下村氏送別歌の會

下村前長官送別歌の會は、高木、新元兩氏の發起で二十六日午前十時から北投八勝園内の朝北奈別莊で開かれた、八勝園は北投公園の裏手の高地で、後ろには白雲の徂徠する大屯、紗帽其他の諸山聳え、前に一望十里の臺北の平野を瞰下すべく、全く想像以外の仙郷である、別莊は左迄廣くないので來會者にも自から制限があつた、其の顔觸は主賓の下村氏、同夫人を首め、高木、新元、福留、武藤、東郷、色部、山内、大枝、三卷、鷹取本田、長井といふ正新兩派の混合であつたが、東郷色部二新人の飛入は下村氏應援の爲なるべしとの專

捻さへ起り、一詠一誦、好議又た頻りに両派の間に起つて正派を亡國派なりと嘲るに對し、新派を過激派なりと笑ふたのも面白かつた、下村氏は其の間、笑傲落筆、山と積んだ白絹や短冊を片つ端から揮毫された、やがて晝飯が濟む、送別の和歌は記念の蕉葉帖に認められて主賓に贈られる、其の披講は長井永太郎氏之に當つたが、抑揚の妙一坐覺えず感に入つた、散會したるは午後四時に近い頃であつた、

蕉葉帖に收められた歌

芭蕉葉の音も淋しく此の秋を獨り殘りて如何に過さん　新元鹿之助

もやひ綱ときての後は和田の原心の儘に船のゆくらん　高木友枝

七年を島の幸にと捧けてしいさをし人に今そ別るゝ　福留喜之助

いかにしても別るゝ身とはおもほえずとはにつかふる心地のみして　武藤針五郎

我心相思樹の葉のしめやかに風にゆること悲しみてあり　色部米作

たくひなき勳高くも積み上げて歸り行く君をしまるゝ君　山内尙賢

此の島に立てし勳の數々をとはにかそへて君したはなん　大枝常之進

南の國に七年君ありてなゝとせ歌に榮え多かりき　東郷實

冠のひもをはときて天地をけにもひろしと笑みますや君　鷹取克明

會者定離其のことはりは知り乍ら別れと云へば悲しかりけり　三卷俊夫

更に又花見に來ませ君が植ゑし島のなでしこさきのさかりを　本田正已

高砂の島に寄來る波ならぬ君立ち歸る今日のかなしき　武内美代吉

君がなしし高き勳は常夏の島に殘れり誰かわすれむ　藤井茂尾

惜きとて留めむすべなき別路は身を厭ひてと言ふ外そ無き　竹下種長

この島も榮えにけりな臣の道つくしし功世に輝きて　中村和七郎

君が名は遠の御門の塔にたかくかゝれり歸りますとも　中治稔郎

高砂のとほの朝庭になゝとせも裳那久つかへて歸りますかな　長井永太郎

此の日下村博士の詠まれたるは次の數首なりと

一日〳〵事繁き世を流れ行雲のあと趁ひ湯の山に入る

我に似し翁ありとや相思樹の杜の中なる柴の庵に

來ん夏もまた來ん夏も尋ね來んなつかしの人なつかしき島

（一會員報）

臺灣電力會社主催の送別會

臺灣電力會社にては二十四日下村博士を主賓とし府内各部局長、州知事廳長其他約五十名を招待し先づ午後三時より北投無名庵に送別の對局會を催ほした、主客浴衣に打寛き圍碁、將棋、寄書等に餘念なく下村博士は請はるゝ儘に白扇に得意の和歌を揮毫せられた、斯くて午後七時から公共浴場の大廣間に移つて晩餐會を開いたが浴場の内外は、五色のイルミネーションに飾り立て滿目電化の裡に臺北來の多數の美妓の斡旋があつた、高木社長は「下村前長官は電力會社の爲には實に慈母である今此の慈母に別るゝ會社の悲哀は言辭に表はすこと能はず」との意味の挨拶をなし、下村氏は「臺灣の爲め電力社の健全なる發達と豫期以上の成功を祈ると共に島内諸人士は擧つて同會社の目的の達成に盡力せられたし是れ本島百年の幸福の爲である」と述べ夫れより開宴となり酒三行、高木社長は「下村先生の爲に」又た下村氏は「高木先生首め電力諸先生の爲に」とて乾杯したのを始めに來會諸先生は盛んに先生〳〵を連呼して乾杯を爲し高木社長の如きは感興極まりて大いに郷里の俗謠を唄ひ捲り又た醉筆淋漓、食卓掛の白布に

天地に我は一人と突つ立ちて
世の蛆蟲を嘲笑ひけむ

との送別歌を大書した斯くて一同和氣藹々の裡に九時半散會した。

知名本島人主催の送別宴

二十五日午後六時から臺北大稻埕なる淡水戲館で林熊徵、辜顯榮、顏雲年李景盛、林獻堂、李延禧其他數十名の本島人有志發起の下に下村前長官夫妻に對する赤誠を籠めた送別の宴が開かれた此日幼明石男爵竝に令息をも招待し又別に陪賓として招かれたものは高田新元阿部齋藤の各局長、菅野檢察官長相賀臺北知事鎌田參事官夫妻武藤臺北市尹民間側は高木友枝木村匡其他主なる官民數十名發起者を合して百餘名淡水戲館も狹しと計り綺羅星の如くであつた定刻となるや下村前長官

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

令夫人明石幼男を中央に一同席に就き下村氏夫妻壇上に立つや辜顯榮氏は下村氏在職中の勞苦及び本島人一同が受けた恩顧を謝し下村氏亦將來本島人諸氏の文化の向上を希ふ旨を述べて席に復するや林熊徴氏は一同に代り下村氏及び夫人竝に明石男の健康を祝すとて乾杯するや下村氏立ちて會衆の健康を祝し斯くて餘興支那演劇に移つたが一番目に演ぜられたのが「黄魁脱靴」で漢の時代に非常に清廉潔白であつた地方官の黄魁が任地を去るに臨み地人非常に之を追慕し蝟集して留任を哀願する所よろしくあり黄魁も人民の眞心に惹かされ其地に足を止むる意で靴を脱いで人民に與へ去ると云ふ筋であつたが下村氏這囘の挂冠に髣髴たるものがあり一同感に打れ特に下村氏竝に文子夫人の四つの瞳が舞臺に釘付けの樣に注がれて居た（臺灣新聞）

臺北記者團主催の送別宴

在臺北の新聞記者團は二十六日午後四時から臺北梅屋敷の離亭で賑やかに而も眞情を吐露した名殘りの宴を開いた菊池參事官豊原鳳を陪賓として來會者二十餘名博士は悉く打ち寛いで辭職前後の事共に就いていろ／＼述懐した「止めろ／＼」と聲援する友人共や居れ／＼と叱咤する知己共やに取り卷れて自分で自分が判らなくなつたが遂に初一念を貫徹した扨て是からの我輩は什麼なる乎自分では三つの途を持つて居るが寸前暗黒の運命は到底豫測する事を許さぬ諸君に今此處で僕の前途を投票して貰つても恐らくは一つも當るまい自分も最後には机の上に筆でも立て、其の倒れた方の途に決するより外は仕方無くなりやせぬかとも思ふなど、滲々と語つた庭園で記念の撮影があつて別室で宴席は開かれた臺日の尾崎古邨氏は記者團を代表して「誠に不斷の貧乏な吾々記者團が聊か心ばかりとは言ひながら餞宴の席を設けたのは今夕を以て實に新レコードとする此のレコードを海南博士の爲めに作つた吾々の心情を酌んでせめての名殘りに惜しきお別れをさせて預き度い」と打解けた挨拶に博士は何時に無く遙か末座に下らうとするので面々「其の儘々々」と制すれば「之もレコードだ」とて老妓小種を拉して中央末座に竝んで座を占め音〆めの音に合はしながら臺灣の言論機關に依つて長官の職責を盡す上に非常の便益を得た旨を述べ立てる紋入り挨拶とは奇抜々々と耳を欹てると「浪人した下村が最後のお土産に」とて長唄「勧進帳」の一くさり朗々と

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

梁の塵を飛ばし沈む夕日の日脚を止めて高らかに長らかに唄ひ濟まして八面玲瓏の本領を發揮し、呀とばかりに記者團を撲若たらしめた記者團から德田老が立つて隱し藝を演じ聽て夜に入り涼風颯々たる頃記念の寄せ書となり一同博士の爲めに健康を祝する盃を擧げて散會した（臺灣新聞）

其他の送別會

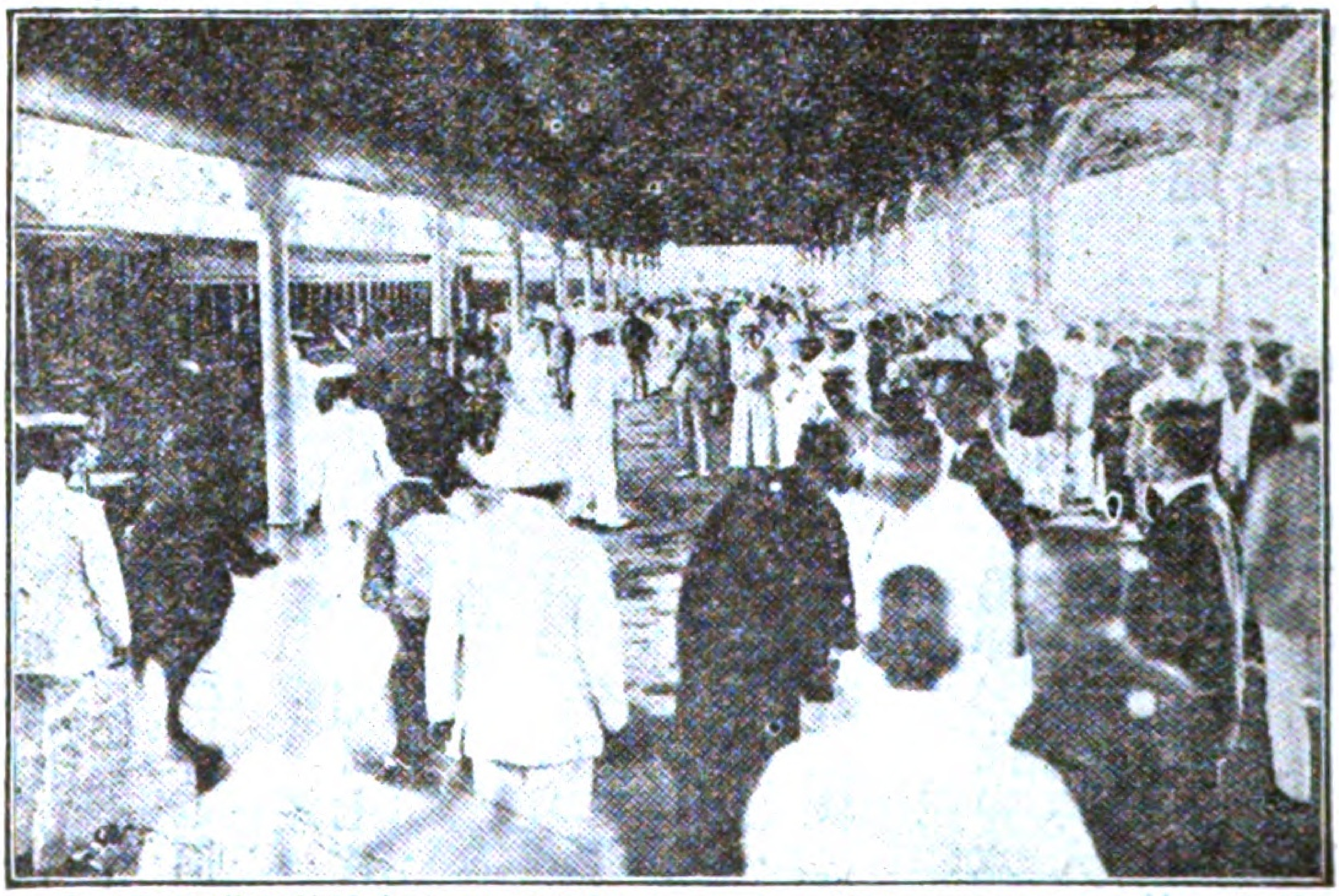
右の外送別として、糖業聯合會の午餐會、武德會送別大會、郵船、商船の送別會、中等學校教師送別茶話會、三井の送別會、軍司令官々邸の送別會、元老送別テニス會、體育會主催送別角力會、總督官邸送別會、各部局長惜別會、其他有志送別會等隨分振つたものも少くなかつたが締切間際にて全部之を收錄するの餘暇なく己むなく之を省略せり

下村前長官の去臺

下村前長官の在臺七日間は宴會に揮毫に面接に隨分多忙であつたが夫れでも疲勞の體も見えず「イヤ恁んな愉快な事は無い、實に愉快だ」と言はれてあつた、最近博士の詠まれた「來ん夏も又た來ん夏も」「雲のあと趁ひ」乃至「我に似し翁ありとや」の歌の如き如何に海南博士が此の懷しい南國を顧望低徊せしかの狀が見える、が名殘惜しい二十八日は來て博士は愈々臺灣を去ることゝなつた、當日思出多い石坊街の官邸は非常の混雜を極めたものであつたが其の中でも主人下村博士は夫人と共に訪問の官民諸氏に對し慇懃に告別の挨拶を爲し九時からは夫人令息同伴にて賀來新長官を府後街の官舍に訪うて告別の挨拶を述べられ歸邸後十一時からは階下の應接室で府內各部局長、在臺北各官衙長各課長等に對し夫人同列で在任中に受けたる諸氏の好意を謝すると共に今後新長官を扶けて臺政に貢献ありたき旨告別の挨拶があり之に對して高田局長一同を代表して御在任中一方ならざる御眷遇を辱うし誠に感謝に堪へず願はくは將來一層の御厚誼を切望すとの意味の答辭あり最後に一同杯を擧げて前長官及夫人の健康を祈りて退散した、斯くて前長官は夫人令息を伴ひて臺灣神社に正式參拜を爲し歷代長官記念植樹の側に樟楠木の記念手植を爲し歸邸せられた、夫れより賀來新長官の來訪があつたが午後二時十分の出發時刻に迫るや夫人令息と共に官邸玄關から馬車にて臺北驛に向ひ驛前の兩側に堵列せる各小學校上級生徒、練習所

生徒等多數の見送りを受けつゝ臺北驛著直ちに驛長の先導にて階上休憩室に入り此處にて主なる官民の告別挨拶を受け少憩の後再び驛長の先導にて府内各部局長、高木博士其の他官民の主なる人々に圍繞されつゝ橋を渡て向側ホームから特別列車上の人となり夫人令息を伴ひ菊池參事官、豐原屬を隨へ午後二時十分臺北音樂隊の奏する嚠喨たる送樂の裡に基隆に向け出發せられた、當日停車場は賀來新長官、福田軍司令官、各部局課長、在北各官衙長、民間の主なる人々婦人會員、臺灣體育協會各部の選手等無慮數百名の見送りありて近來稀有の盛況を極めた（エヌ）

斯くて特別貴賓車の人となつた前長官下村博士は令夫人令息等と車中打興じつゝ基隆まで見送りの賀來長官、新元部長、川崎その他局長、各州知事、高木電力、林熊徵等民間有志等と共に沿道を眺めつゝ



臺北驛步廊に見送人に挨拶せらるゝ下村前長官（中央紋付羽織は下村氏）

松山、汐止、八堵の各驛に送別する官民を一々丁寧に挨拶せられ豫定の三時過基隆に著いたが同驛には黒河内要塞司令官、遠藤郡守、國府街長、近江、石阪、顏雲年等の官民及び其の夫人達の出迎を受けて徒歩で棧橋に赴き汽艇「撫子」に乘ると直ちに當日プログラムの如く基隆官民合同の送別會場なる公益社に落ちついた、會場は此の日出立の時間々際でもあり裝飾設備共に清楚を旨としたものであつたが下村博士夫妻は街長の案内で正面の壇上に導かれ直ちに開會となる、國府街長の送別の辭に次で下村前長官の眞情を罩めた挨拶がある、黒河内司令官の發聲で博士の爲めに會衆百五十が靜かに乾盃すれば博士亦之に應へて乾盃、斯くて再び汽艇に乘つた博士は愈々郵船信濃丸の人となる、定刻の銅鑼が轟き渡る頃はひサルンに集つた數百の官民代表と其の夫人連が交々別離の辭を交換すれば博士夫妻亦慇懃

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に答禮し中には心から此の訣別を愛惜する者の如く嗚咽の涙を禁じ得ない者も見受けられた、靑池郵船支店長が航海の安全を祈る旨述べて一同三鞭の盃を擧げ高木電力社長の發聲で「下村閣下萬歲」が三唱された、岸壁には基隆小公學校の生徒も名殘を惜んだやがて出帆の號報に見送の人々は何れも數隻の汽艇に分乘し港外遠く博士の乘れる信濃丸に追隨して交互に汽笛を交換し帽子手巾を打振りては今日の別離を惜しみ〳〵した、去つてゆく博士夫妻もデッキの上で之に應じて手巾が振られた、夕陽が基隆灣頭の波頭を金色に染る頃ほひ七年間の長きを臺灣の總務長官として在職した忘れ難き我が下村海南博士は、當分の謎を荷つた浪人の姿そのまゝ、水平線下の彼方に消えて行つたのである、博士の薄い絽の紋附を透して今日も袴の紐に例の腰の手拭がブラ下つてゐるのを認めた（此一節臺灣日々）

尙ほ下村前長官は二十八日本島を去るに臨みて左の謝電を在京中なる田總督に宛て發せられた

閣下の御厚情の下に在臺七日間官民各位の深甚なる御懇情に預り告別の情を盡し諸般の引繼を了したり茲に本島を去るに當り重ねて厚く御禮を申上ぐ

又た航海中二十九日午前八時信濃丸から無線電信で臺日社を通じて在臺官民に左の謝電を發せられた

在臺中は深甚なる御懇情を蒙り感謝に堪へず謹みて御禮申上ぐ各位に宜しく御傳へを乞ふ、海上平穩一行元氣御安意を乞ふ

同じ無線電信で前長官は左の三首を寄せられた

○
七日七夜せき留め兼し我が涙
いまし落つるを怪むか君

○
夕霧に影うすれ行く懷しの
高砂の島を我れ見つめ居り

○
觀じ來れば只一場の夢なれや
此の水を見よ此の空を見よ

嗚呼、此の水も此の空も現實なるに過ぎし七年は夢と消ゆ、詩人ならずとも誰か斷腸の思ひなからむ

故明石總督の臨時祭

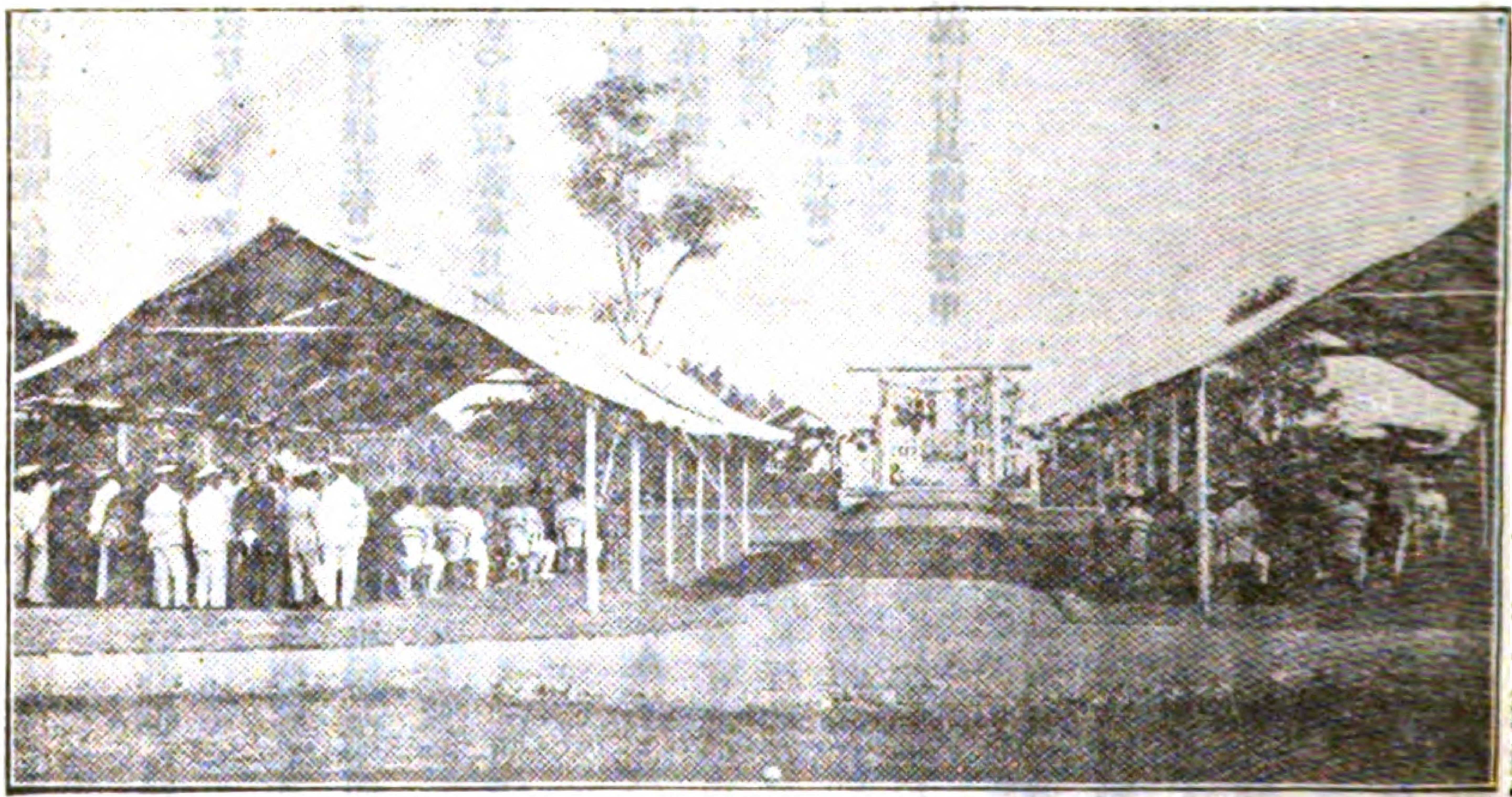
故明石總督令息元長男の來臺を機とし二十六日午前七時より三板橋なる同總督の墓前に於て嚴かなる臨時祭執行せられ新舊長官を初め官民諸氏參拜左の式次により祭祀執行せられたり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲諸員著席
次 修祓
次 祭員饌を供す（此の間奏樂）
次 祭員祭詞を白す
次 賀來團長拜禮玉串を捧ぐ
次 下村前團長拜禮玉串を捧ぐ
次 元長男拜禮玉串を捧ぐ
次 總督代理拜禮玉串を捧ぐ
次 軍司令官拜禮玉串を捧ぐ
次 參列員總代拜禮玉串を捧ぐ
次 祭員饌を撤す
次 諸員退出

賀來新長官の鞅掌

新任總務長官賀來佐賀太郎氏は二十二日歸臺せられ即時總督府に登廳して官民の伺候を受け又た同日午前十時總督府會議室に於て府内部局長及各官衙長に對して新任の挨拶あり同日午後六時より鐵道ホテルに於ける新舊長官送迎會に臨まれたることは總て別項記載の通りなるが翌二十三日は午前八時登廳せられ長官公室に於て出府中の各地方長官の訪問を受けたる後、十時より公室に新元部長、堀内研究所長高田、阿部、山形、齋藤の各局長、吉岡參事官等を召集して臨時部局長會議を開き事務上種々打合はす所ありたり又た二十五日より二十八日迄四日間臺北各官衙を巡視せられたり



明石前總督の臨時墓前祭の光景

新竹州警察會議

（新竹州報告）新竹州警務部にては去る六月六日より八日まで州廳知事公室に於て警察會議を開催せるか其會議事項左の如し

▲諮問事項

一 國民警察の實行方法として安全組合を組織せしむるの可否如何

二 警察官吏の教養に關する改善意見如何
諸般の事務並時代に適應せる新智識を會得せしむる爲左記事項を實施せむとす各員の意見を求む其他教養に關し考案あらば答申せられたし
(1)精神修養に資する爲專門家又は有識の士を招請し各郡に毎月一回精神講話會を開くこと
(2)州警務部より毎月一回宿題を課し答案を提出せしむること但

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

優良者は褒賞すること

(3)巡廻文庫の制を設け雜誌其他必要なる書籍の巡廻閲覽を勵行すること

(4)其他教養上必要と認めたる事項

三 監視區監督又は巡査部長の監督をして一層有效ならしむる方法に付考案なきや

(以上警務課主管)

一 勞働問題より生ずる民心の歸趨如何

二 新制度に依り司法警察事務に現はれたる弊なきや竝改善意見如何

三 笞刑廢止に伴ふ民情竝即決及司法事務に及ぼす影響如何

(以上保安課主管)

一 傳染病豫防上蠅の發生防止及驅除に關する意見如何

(以上衛生課主管)

一 蕃人撫育の狀況如何

左記各項に區分し現在施設中に係る撫育の狀況に付具體的答申を望む

(イ)實地耕作　(ロ)養　蠶　(ハ)國語練習　(ニ)衛生狀態　(ホ)交　易

二 奇襲隊使役蕃人の狀況如何

三 蕃童教育の狀況如何

四 蕃人に對し靈的方面指導に關する意見如何

(以上理蕃課主管)

▲協議事項

一 郡役所に現金前渡官吏を置き巡査以下の俸給加俸手當等の仕拂を爲さしむる件

(以上警務課提出)

一 汽機汽罐に關する常識敎養の件

(以上保安課提出)

一 醫事機關普及の件

二 衛生講話開催の件

三 醫生會統一に關する件

四 マラリア防遏方法に關する件

(以上衛生課提出)

▲指示事項

一 警察官吏の用語に關する件

二 助長行政事務補助に關する件

三 警察禮式に關する件

四 精勤加俸支給者の調査に關する件

(以上警務課)

一 精神病者保護に關する件

二 犯罪檢擧獎勵に關する件

三 刑事要視察人視察に關する件

四 指紋講習に關する件

(以上保安課)

▲注意事項

一 出張命令簿の整理に關する件

二 注意又は訓示事項の徹底を期すべき件

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

三　銃器の保存手入に關する件
四　巡査の身分異動屆に關する件
五　調査事項の正確を期すべき件
六　休暇原簿の整理に關する件
七　警察官吏の配置に關する件
八　注意事項勵行方の件
九　口頭屆出勵行に關する件
十　豫算整理に關する件
十一　物品取扱に關する件
十二　廳舍宿舍修繕に關する件

（以上警務課）

一　銃砲所持者の所在明確を期するの件
二　料理屋飲食店貸座敷の取締に關する件
三　保安に關する諸報告に關する件
四　保甲經費の整理に關する件
五　保甲經費仕拂證憑の整理に關する件
六　消防器具の保管方に關する件
七　戒告浮浪者の視察に關する件
八　汽機汽鑵に關する臺帳記入方の件
九　汽機汽鑵を設置せる製造場許可願に關する件
十　犯罪統計に關する件
十一　寫眞要求の場合注意の件

（以上保安課）

一　衛生講話に關する件

（以上衛生課）

一　警備銃保持に關する件
二　管内蕃情は常時知悉し速報方の件
三　隘勇銃器調査月報廢止後の内偵視察に關する件
四　蕃情其他の報告に關する件
五　輕易なる事項の調査に關する件
六　報告例改正に關する件
七　蕃人勢力者別名改稱の件
八　送電旬報に關する件
九　急を要せざるものは可成書類報告方の件
十　搜索隊日報に關する件
十一　製腦場檢査に關する件

（以上理蕃課）

新竹州公醫會議

（新竹州報告）新竹州に於ては六月九日より二日間州下新埔關西中壢楊梅桃園大園大溪竹東北埔頭分南庄苗栗三叉通霄大湖在勤の公醫を召集し新竹後龍在勤郡警察醫囑託も臨席せしめ公醫會議を開催したり其の諮問事項等左の通

▲諮問事項

一　醫事機關の連絡狀況如何

（說明）本島に於ては未だ郡醫師會州醫師會等の設置なく本島現下の趨勢より觀察するも衛生警察の執行機關たる州衛生當局及郡警察と醫事機關との連絡は最も密接なることを要するものあり況んや公醫と醫生若は公醫と開業醫、開業醫と醫生間に在りて

は其の連絡を濃厚ならしむるは言を俟たざる處なり從來醫生は醫生會の設置ありて公醫其監督及教養の任に當り漸次接近しつゝあるものと思料するも公醫、開業醫間及開業醫醫生間は何等連鎖的關係なきが故に如何にせば此の連絡を密ならしめ得るや現今の狀況竝に將來の希望を聞かむとす

二 業務上の一致に關する狀況

（說明）州及郡醫師會等の設立の前提として業務上一致したる行動を採らむとするに當り意見を聞かむとす

(1)藥價往診料、診斷料其他の均一に就て (2)濟生事業に就て (3)產婆看護婦の養成事業に就て (4)私立衞生會竝に防疫事業に就て

三 公醫受持區域内に於けるマラリア患者の實況及之れか撲滅に關する意見如何

（說明）元桃園廳下の大溪關西及元新竹廳下の北埔には前にマラリア防遏規則を施行したることあり現今は大湖南庄三叉に施行中なるが尚各地に在りてもマラリア患者の絕滅せざるもの多しと聞く其の實況

防遏規則は廣く州下全般に亙り實施の必要を認むるも豫算上の關係もあり故に多額の經費を要せざる範圍に於て地物の整理其他適切なる撲滅方法につき意見を陳述せられたし

▲注意事項

一 藥品に關する件

今回第三日本藥局方改正せられ大正十年四月一日より第四藥局方施行せられし事は已に各位の知らるゝ所なるが第四藥局方は第三藥局方に比し大に改正せられし箇所あるを以て十分に注意せられたく第三藥局方は大正十一年三月三十一日迄は使用せらるゝも其以後は第四藥局方に適合したるものゝ外は一切使用し得ざるを以て此の點今より考慮し置き臺灣藥品取締規則に違反なき樣注意を要す

二 診療簿に關する件

開業醫は臺灣醫師令及同令施行規則十五條の規定により治療したる患者の住所氏名年齡職業病名診察年月日及療法を記載すべき筈なるも公醫にして是等條項を記載せざるもの多しと聞く是等は明かに規則違反にして相當制裁せらる可きものなるを以て爾後違反なき樣注意を望む

三 醫生教養に關する件

公醫規則第十條に基き受持區域内に開業する醫生に對しては醫生會又は其の他の機會に於て教養に努められ其效果見るべきものありと信ず然るに其講演又は說明の往々にして高尚なる學說に走り廣汎に涉り爲に新舊知識の懸隔せる彼等に在りては遂に咀嚼することを能はざる等の嫌なきを保せず故に修養は力めて簡易なるものより漸次徹底的に注入することを要す多數の醫生中には動もすれば法定傳染病の症狀すら識別すること能はざるものありと聞く曩日各地に流行したる天然痘流行性腦脊髓膜炎患者等を實物見學をなさしむるが如きは教養上效果尠なからざるものと思料す

四 公醫期報に關する件

公醫規則第六條一項乃至十九項の條目は四月、八月、十二月の三期に分け公衆衞生上及醫事に關し觀察研究し意見を具し報告すべき規程なるに或は形式に流れ或は二三の項目に止め其記事

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の如きも簡單に失し遂に其要領を得ざる憾あり宜しく部内を督察して若は實地に取扱ひたる事故等にして意見の存する項目に就ては詳細報告せらるゝことを望む

▲協議事項

（公醫一同提出）

一　醫生の檢死檢案に關する件
二　傳染病流行地視察及公醫相互間隣接地傳染病患者發生通知の件
三　傳染病豫防注射料の件
四　漢法醫藥統一に關する件
五　助産婦に手當を給し各公醫所在地に一名以上駐在せしめ公醫をして指導監督せしむる件
六　警察課分室派出所駐在所街庄役場に衞生擔任者を定め公醫の請求する衞生材料は直に調査し以て便宜を與ふる件
七　開業醫は公醫の請求する衞生材料は直に調査提供する件
八　公醫間の交際を一層親密ならしむる件
九　傳染病者隱蔽及隔離室設置の件
一〇　醫生をして西洋藥品を使用せしめざる件

以上各項に對しては衞生課長說明を與へ會議第一日には警察會議の序を以て郡警察課長を參與せしめ第二日には教育課より小公學校囑託醫として學校衞生に關する注意を與へ會長代理警務部長の訓示後閉會せり

桃園郡興風會國語演習會

（桃園郡役所報告）從來行はれて居た國語練習會家長會主婦會等の社會教化事業を整理し統合し一層の美績を確にしたいと云ふので新制度實施と共に桃園郡興風會なるものが組織された其の會則を抄錄すると

第一條　本會は桃園郡興風會と稱し左の事項を遂行するを以て目的とす
(1)母國國風の振興
(2)内臺人間竝に街庄内共同和親美風の馴致
(3)陋習卑俗の矯正常識竝に衞生思想の普及質實勤勉の風習の涵養及び利用厚生の實務の習熟
(4)國語獎勵禮儀作法其他母國國風の習得勵行
(5)通俗講話其他智能啓發德器の成就公益增進に關する事項

第二條　本會は其目的を達するため男子部女子部に大別し各街庄毎に男子部に國語練習會家長會靑年會女子部に國語練習會處女會主婦會を設く
但し靑年會は當分の間他の規程に依る

第四條　桃園郡役所に本會本部を置き各街庄に支部を置く
街庄の興風會は興風會何街（庄）支部と稱す支部の下に分會を置く

今回擧行せられたのは興風會桃園街支部聯合國語演習會である支部長は街長簡朗山君である社會教化事業の功績によつて表彰された名聲嘖々たる簡街長その人である新制度實施後歷史ある桃園街の興廢は自己の双肩にかゝつて居るといふ自覺の下に愼重なる計劃を巡らし確實なる實行を期して最善の努力をして居たのであるが已にこゝに十箇月漸くその績を發

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

表して批判を乞ふて他日の參考に資したいといふので六月の末つ方二十二日午後七時より聯合國語演習會を開催するから御光臨の榮を得たいといふ案内狀を配つた會は左の順序によつて擧行さる、

一 會員着席
二 來賓着席
三 君か代
四 支部長開會辭
五 國語並唱歌演習
六 知事閣下御訓示
七 來賓祝辭
八 會員總代
九 閉會 以上

●●會場は松野郡守の盡力によつて出來た公學校前運動場であるもし雨天ならば公學校講堂を使用するといふことになつて何方にても事缺かない樣にとて十分準備は出來て居る幸に晴天であつて涼風下で十分その成績を發表せしめたいとは等しく一般の希ふところであつた、●●來賓は服部州知事閣下、原州視學、小河州屬、岩本大溪郡守、藏田中壢郡守、長谷川海山郡守、吉田中壢郡視學、吉野海山郡視學、渡邊新竹街長、三新聞記者、附近小公學校長、庄長等二十幾名誠に桃園街の光榮とするところである、これも街民一同の熱誠が通じたのであらう

會場の準備は街役場吏員が街長の手足となつて準備して居る會員の到着に先つて机、椅子、電燈、湯吞所等殘りなく用意が出來て居る役場吏員がよく街長の旨を奉して骨身を惜まずして、犬馬の勞を取つて居るのは何より嬉しい如何に街長だけが熱心でも之を輔佐するところのものが熱心でなかつたならば萬事好結果が得られるものではない桃園街ではそれがよく出來て居る簡街長その人の德の然らしむるところか吏員諸君の忠實の然らしむるところであるか恐らくその兩者であらう桃園街が諸般の事績にその好果を得つゝあるは故なきにあらずと肯せる、會員は續々到著する街長はこれ等に對して一々有難うと謝辭を陳べて居るこんな會は一體街長その人のためのものであらうか言ふまでもなく全員その人のためであるそれに對して謝辭を呈する心なの田夫も野人もこれには感せずはなるまいこゝにも簡街長その人の爲人が窺はるゝ、斯くて會員は已に七百名も集つた靜肅に來賓其他の來臨を俟つて居る定刻を過ること三十分來賓會員一同の著席敬體があつて君か代となる第一聲時も時氣つかはれて居た雨が降り初めたもう十分早く降り出したならばとは誰もの顏に表はれて居た怨言であつた、然るに遽雨で七百名の會員が會場を變更するのであるどんなに騒がしいことで

あらうどんなに混雜することであらうとは等しく想像して居たところであるしかしながら結果はすつかり豫想を裏切る君を勞り幼を助けつゝ互に先を讓りつゝ公學校講堂へと繰込む二十分の後には君が代が合唱されて演習が初まる、毎週一囘乃至二囘の學習に過ぎないがやはり人をして玆に至らしむるかと今更感慨無量なるものがある

夫れより演習が始まり、經濟に關する事項、殖産衞生に關する事項、地理歴史に關する事項等があるかと思へば童話等の罪のないものもある選りに選つたものであるから何れもまついものはない、七十五歳翁の稻の話、アクセントは一寸努力せねばならぬと思はるゝがその熱心には感心をせなければならぬ、恐らく懦夫も立つことであらう、それかと思へば二十一歳孃の婦人の集會の心得といふ流暢な而して朗な話もある、その間には蠶、漁業、桃太郎等の優美、快活、無邪氣な唱歌が合唱さるゝ、囘が進むに從つて會員も來賓も白熱する時間の過るのを思はず忘れる、去れど來賓も會員も明日の大切な仕事を有するものである演習の出來ないものは次の會に於て演習するといふことで一〇六囘の中八〇囘で演習を打切る會員の失望さここそと思はれる

演習玆に終りて州知事閣下は比較的良成績を得たるを喜ふされども更にこれを家庭に及ぼし一般をして今日の如き績を擧ぐるを望むとの要旨で莊重な然しながら慈愛のこもつた祝辭的御訓示があつて奬勵として多大の金品を御下附になつた、次で職田中壢郡守、渡邊新竹街長は會の盛大を祝し國語を解するものはそれだけ聖上の恩澤に浴し得るものなることの意味で祝辭があつた

次で會員總代の流暢な答辭で閉會となつた會員は靜に退散する時に雨は已にはれて月光が悄らしくも凉しく光つて居る

演習會の成績は小學校長及街有識者の嚴密な成績考查によれば別紙の通りになる

成績順	練習會名	出演者數	優秀者數	百分比例
一	小檜溪國語練習會	一二	七	五八・三
二	桃園國語練習會	一一	五	四五・五
三	埔子國語練習會	一〇	四	四〇・〇
四	中路國語練習會	一一	四	三六・四
五	大樹林國語練習會	八	三	三〇・〇
六	水汴頭國語練習會	二	—	—
計		[illegible]	二三	四二・五

▲優秀者氏名表

練習會名	出演者氏名	年齡	練習會名	出演者氏名	年齡
小檜溪練習會	游佛克	七九	埔子練習會	黃清秀	八〇
同	楊清波	七〇	同	黃江現	四八
同	黃文日	三	同	黃劉氏滿	六六
同	楊氏玉秀	二	同	黃氏綿	一七
同	林氏娥嫦	二〇	中路練習會	蔡大江	六九
同	黃氏玉	二〇	同	呂　鐘	二九
同	姚氏錦	一七	同	李氏謹	二七
桃園練習會	劉清奇	五五	同	許氏燕	二六
同	吳衮臣	四四	大樹林練習會	簡氏却	二四
同	簡林氏英	三三	同	溫氏玉	一六
同	邱江氏專	二八		以上	
同	陳徐氏秀	—			

桃園郡内顯著なる社會事業

（桃園郡役所報告）

一、雨傘の備付

（場所）桃園停車場及公設市場（員數）二十五本傘には警察課名を附す（催主）桃園郡警察課（經費）重に警察課員の寄附（目的）驟雨に逢ひ困却せるもの、爲め貸付し公德心を養成し尙一方本島民公德心發達の程度觀測（成績）本年四月二十五日より實施にして結果良好本島に於ける最初の試にして一般に好感を以て迎へられつゝあり

二、人事相談所

（場所）桃園郡役所内（經費）寄附（目的）別紙の通り（開始）本年五月一日（成績）開始以來未だ二旬に達せざれども已に取扱數件あり

（參照）人事相談所目的

左の方々に對しては親切に御相談に預るべく候間御遠慮なく警察課長若くは代理官へ御申出下され度人目を憚る方は夜間にても御相談に應ずべく尤も秘密は嚴守致すべく候

但し金錢物品の貸借取立其他資産相續等の爭に就ては御斷り申上候

一、土地不案内で困つてゐる人
一、此の土地で何か調査のしたい人
一、尋ねる方が不明で困つてゐる人
一、旅先で不時の禍に逢つて困つてゐる人
一、いろ〳〵手續の不明で困つてゐる人
一、心配事があつて相談相手のない人
一、家出人や其他に對しても保護を願ひたい人
一、家庭の事で秘密に相談したい事のある人
一、主人や雇人の事で密かに願ひたい事のある人
一、子供が不具化して教育上困つてゐる人
一、貧乏で醫者にかゝられぬ人
一、内々で說論をして貰たい事のある人
一、宿や借家がなくて困つてゐる人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一、雇はれたい人雇ひたい人

三、桃園公會　桃園郡興風會同青年會別册規則により本年一月以來實行しつゝあり

四、指導標の建設

（場所）桃園停車場（目的）郡內官公署及會社工場營造名物所舊蹟名望家の住宅等の位置及里程を圖面上に表示す

五、宣傳日指示

桃園街に於ては毎月五日を期し街民各自の注意を喚起し修養の一端と爲さんか爲めに六箇所の揭示場に宣傳日々附入著色板を揭出すること

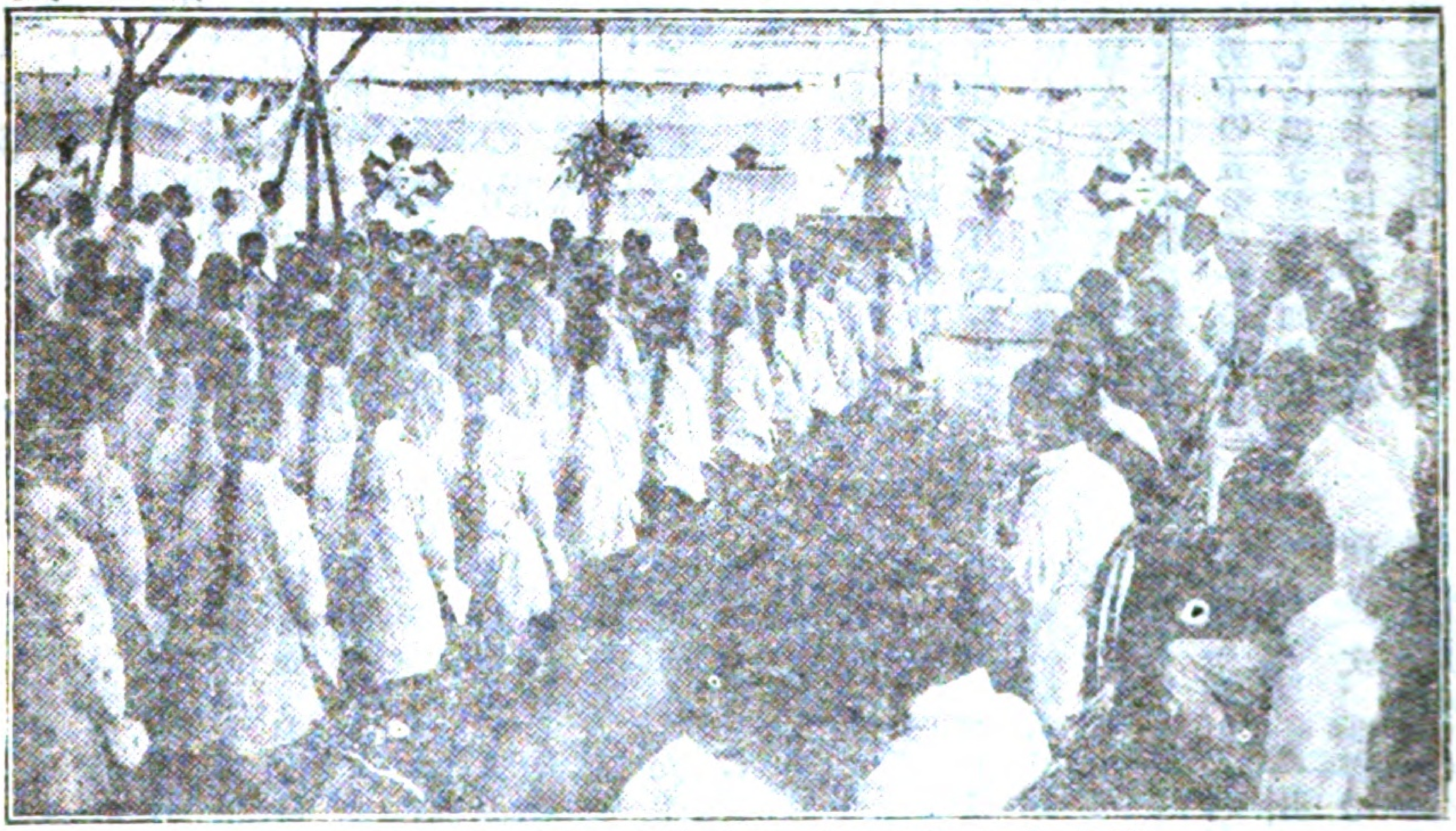
六月一日より實行の豫定

親切日	綠色	五日
警戒日	赤色	十五日
自爭日	白色	二十五日

（臺南市役所報告）

臺南女子高等普通學校開校式

當臺南女子高等普通學校は本年四月二十五日を以て其の設置を認可せられ次で五月十六日學校長職員の任命ありて本校は茲に始めて呱々の聲を揚ぐるに至れり而して本校は是より先き入學生徒の募集を廣告し五月九、十兩日に亙り入學試驗を行ひ合格者九十二名に入學を許可し五月二十三日枝本州知事臨場の下に入學式を行ひ翌二十四日より授業を開始せり而して五月二十九日に至り本校開校式を六月一日に擧行することに決定し夫々擧式の準備を整へたり式は午前十時學校長の開式辭に始まり　君が代の唱歌、勅語奉讀、勅語奉答の歌、學校式辭、枝臺南州知事の祝辭（左記）荒卷臺南市尹、州協議員黃欣氏（別紙寫）の祝辭朗讀、廣江中學校長の本島人女子敎育に關し希望と注意を意味したる祝辭あり、學校長及生徒總代の答辭金剛石の歌にて式を閉づ時に午前十一時十分なりき



臺南女子高等普通學校開校式場の光景

尙下村總務長官は五月三十一日下り夜行列車にて特

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に來南臨場の筈なりしか同夜鐵路に故障を生せし爲め臨場の榮を得ざりしは本校の大に遺憾とする所なりき

右終つて同日正午十二時臺南公館に於て開校祝賀會を開く知事、司令官、市尹、檢察官長以下出席者二百餘名席定まるや陳鴻鳴氏は起つて簡單に挨拶を爲し補校長事務取扱は之に對し吾校開校の爲め如此盛大なる祝賀會を開催せられたるは感謝の至りに堪へさる旨叮嚀なる謝辭を述べ終りて內臺藝者は各酒間を斡旋し堂內歡喜の氣に滿ち主客和氣靄々裡に午後二時三十分散會せり

▲枝知事の祝辭

我が臺南市を中心とする本島南部地方に於て女子高等普通學校の設置を望むや久し客年地方制度改正に際し特に州民の切望を容れられ客月二十五日を以て本校を設立し乃ち本日をトして開校の式を擧ぐることを得たるは洵に慶賀に堪へざる所なり惟ふに社會改良の因をなすものは實に家庭にあり社會文化の向上は婦人の力に俟つ所大なるものあり而して本島女子敎育の現狀は男の敎育に比し著しき軒輊あり今學齡兒童の就學步合よりするも女子は男子の五分の一に充たず公學校に於て女子か僅かに敎室の一隅を占むに過ぎざるか如きは本島女子敎育の一斑を示せるものと云ふべし蓋し本島は未た女子敎育の施設に乏しく中等敎育機關としては從來臺北彰化の二女子高等普通學校あるのみ今や南部に本校の設置を見るに至りしは斯道の爲め大に前途を祝福せざる可からざるなり

希くは本校職員諸君克く女子敎育の本義を體し時勢の進運に鑑み入りては家庭改良の源泉となり出てゝは社會奉仕の精神に富める健全なる女子の養成に留意せられ生徒諸子は克く師父の命に從ひ智德の修養を怠らず他日の成業を期せらるべし又父兄母姉の各位は克く本校敎養の趣旨に則り學校と相待ちて子女の育成を幇助し以て所期の目的を達成せられんことを一言所懷を述へて祝辭に代ふ

▲荒卷市尹祝辭

夫れ家庭に入りては良妻となり慈母となるは女子當然の天職なり而も妻として夫の內助に勉め母として子女の敎養を致すは決して容易の業に非ず而して男子成功の陰孝子出現の裡必ず婦人の力あるを知る時吾人は女子敎育の必要を感ずること愈々切なるものあり殊に本島に在りては家庭に於ける婦人の地位より稽ふるに女子敎育の普及は其の家庭の改善を計る所以なるのみならず延いては內臺人融和の上に於て最も有意義の事なるを信して疑はざるなり從來南部地方の本島人女子にして更に高等の敎育を受けんとする者は遠く臺北若くは彰化の地に學はざる可からずして其不便甚だ大なるものありしなり然るに今や當市に州立女子高等普通學校の開設を見るに至りしは本市の幸福なるのみならず實に南部臺灣に於ける本島人女子敎育の爲慶賀に堪へざるなり本日開校式の盛典に臨み欣喜措く能はず聊か所感を述べて祝辭に代ふ

▲州協議員黃欣氏の祝辭

聖世 文、敎育の普及は新附民の婦女子に及び本日玆に臺南女子高等普通學校開校式の盛典を擧げらるゝに當り不肖黃欣身を以て席末を汚すことを得たるは不肖の感激欣喜止む能はざる所なり

方今社會の進運は女子教育の振興を促して歐米の一部は既に婦人の参政を認め我國に於ても亦女子の開放を唱道しつゝあり然るに蕃擧女子の多くは今尚朝夕父母の膝下に在りて家務に從事するを以て女子の美德とし學に就くを厭ふの風あるは常に識者をして憂へしむる所にして女學校の増設は實に大旱に雲霓を望むか如しと謂ふべし

此度地方制度改正の結果一氣呵成當市に州立女子高等普通學校創設され南部臺灣に於ける初等教育を終へたる女子をして更に組織あり系統ある高等普通の課程を修めしめ他日卒業の曉には人の良妻となり世の賢母たるを得るは獨り諸女生の幸福我々新附民の光榮たるのみならす亦國家の慶事と言はさる可からす

開校式に臨み抃舞の餘り一言の所懐を陳べて祝辭とす

福田軍司令官來東巡視

（臺東廳報告）福田軍司令官閣下は七月九日午前六時玉里出發新開園、新武路「ハイトトワン」を經て午後三時三十分里壠著泊、十日午前六時里壠發、鹿野村「ヒルナガイ」、北絲闘を經て午後零時二十分臺東著官民多數の出迎を受け午後一時三十分より守備隊巡視並廳訪問あり且つ各官衙長、在郷將校及民間紳士を接見し午後七時より臺東小學校に於て官民有志擧行の歡迎會に臨席、十一日午前十時旅館出發臺東神社へ參拜記念植樹をなし同十時三十分長春丸に乘船高雄に向はる

財團法人臺東奬學會

（臺東廳報告）大正十年三月二十九日指令第五八二二號を以て寄附行爲許可せられたる財團法人臺東奬學會の定款は左の如し

第一章　總　則

第一條　本會ハ臺東廳臺東街字東北町六十三番戸市來半次郎カ生前處分ヲ以テ寄附シタル現金三千二百九十八圓八十錢及債權金額三千五百五十圓ヲ以テ設立スルモノトス

第二章　目的及事業

第二條　本會ハ臺東廳下ニ於ケル教育ノ普及ヲ圖リ且ツ學事其他社會教化ニ關スル事業ノ施設又ハ奬勵ヲ爲スヲ以テ目的トス

第三條　本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲官有地ノ拂下ヲ受ケ之カ開墾造林耕作者ハ貸付等ヲ爲シ其他適當ナル使用收益及處分ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

特志者ノ寄贈ニ依リ取得シタル不動産ニ付テモ亦前項ノ例ニ依ルモノトヌ

第三章　名　稱

第四條　本會ハ財團法人臺東奬學會ト稱ス

第四章　事　務　所

第五條　本會ハ事務所ヲ臺東廳構内ニ置ク

第五章　資　産

第六條　本會ノ資産ハ設立者ノ寄附ニ依リ組成ス

本會ハ前項ノ外第三條ニ依リ取得シタル不動産及所有財産ヨリ生スル收益其他ノ收入ハ之ヲ資産ニ編入スルコトヲ得

第六章　理事及評議員

第七條　本會ニ理事四名ヲ置キ内一名ヲ理事長トス

理事長ハ臺東廳長ヲ推戴ス

理事ハ理事長之ヲ選任ス

第八條　理事長ハ會務ヲ綜理シ本會ヲ代表ス

第九條　本會ニ評議員若干名ヲ置ク

評議員ハ理事長之ヲ囑託ス

第十條　評議員ハ會務ニ就キ諮問ヲ受クルモノトス

第十一條　理事長事故アルトキハ理事長ノ指定シタル理事代テ其職務ヲ行フ

第七章　解散

第十二條　理事長ニ於テ本會存續ノ必要ナシト認メタルトキハ本會ヲ解散スルコトヲ得但シ財産ノ處分ニ就テハ主務官廳ノ許可ヲ受クヘキモノトス

第八章　附則

第十三條　本會ノ寄附行爲ハ第二條ヲ除クノ外主務官廳ノ許可ヲ得テ變更スルコトヲ得

第十四條　本會ノ事業年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十日ニ終ル

第十五條　本寄附行爲ノ施行ニ關シ必要ナル規程ハ理事長之ヲ定ム

畜牛改良と印度牛

（臺東廳報告）臺東廳下は到處雜草豐富にして農民は大部分未だ原始時代の域を脱せざる蕃人なると管内の可耕地面積大なるに比し農業勞力極めて不足なる等に依り牛畜の改良は最も肝要にして且つ元來蕃人は牛畜を愛養する好慣習あるにより比較的其の奬勵は容易なり

去る大正四年印度種系「カングレッチ」を總督府より二頭貸下られ地方蕃民間に種付奬勵したるに在來黃牛に比し體貌雄大にして性少しく荒き爲め希望するもの無く當初は農會に於て在來種黃牛との雜種を育成し傍ら民蕃の放牛中に右「カングレッチ」を逐込み故意に自由交配なさしめ漸次同雜種の增産を圖りたるに體格優大にして粗食に堪へ役牛として將た農耕又は運搬用として絕大の個體能力を發揮するのみならず飼養管理も至て容易にして在來種黃牛と何等選ふ處なく尙は混同放牧を行ひ特に濃厚飼料を給せざる場合と雖も發育等に惡影響を認めざる爲め今や廳下蕃人間の好評を博し之れが貸下又は種付を希望するもの頓に多きを加ふるに至りたるを以て廳は此の氣運に乘じ右印度系「カングレッチ」の交配を以て黃牛改良の主眼となし將來盛に同種の雜種を增殖せしめ以て農業其他の勞力昂進と民蕃の富力を增進せしめんとし農會所有の種牛は勿論督府より貸下の同種牛は全部農民に貸與し極力其の蕃殖奬勵を圖りつゝ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ありしが現在約二百頭を算するに至りたるも全廳下の黄牛總頭數より之れを見るときは未だ三、四%にも達せざる狀態にあるを以て當廳農會に於ては本年度より更に總督府より年々七頭以上の右純血種牡牛の貸下を仰ぎ尙ほ種牡牛奬勵金の交付其他の指導に依り同雜種々牡牛を約十%まで育成の豫定なり尙ほ水牛の改良は等しく本年度より種牛を設定し奬勵金の交付其他の指導に依り漸次優良種に更新せんとす因に本廳下の現在畜牛及種牛頭數を擧ぐれば左の如し

畜牛總頭數	
黄牛	五、六〇一頭
水牛	一二、〇一九頭
計	一七、六二〇頭
種牛頭數	
督府貸下（黄牛トカンクレッチ、シンドブラウン雜種）	四七頭
農會所有（主トシテカンクッナ雜種）	四四頭
農民所有（黄牛及カンクレッケ雜種）	八四頭
計	一七五頭

金融概況

（財務局金融課報告）五月六月中に於ける本島財界は依然萎靡不振の狀態にあり金融界亦沈靜新規事業資金の需要極めて稀なるを以て金融は緩漫を呈したり各銀行は貸出金の回收と預金吸收とに努め貸出に對しては確實なる商業手形竝に堅實なる有利の事業にのみ之が資金を融通し未だ警戒を解かず、金利は二三兩月再度の利下により保合狀態なるも漸次軟弱に向ふ趨勢にあり次に重要物產に付て見るに

米界は政府買上實施し其條件不利なりしを以て一時反撥せる內地米價も下押となりたれば本島米價亦之に伴ひ低落し小口取引以外輸移出の大取引皆無市場閑散を極めたり

糖界は依然不況の狀態にして毫も回復の兆を見ず爪哇玖瑪等の市況益惡化せりと傳へられ內地市場亦面白からず又製糖業者は何れも形勢を悲觀し市場沈靜なり、斯くて二三大會社を除く外概して經營困難に陷り生產費節減同種會社の合同、事業整理を高唱するに至れり

茶界亦依然沈衰烏龍茶は督府の徵茶買上に依り古茶一掃せられたると米國市場の停滯茶品薄となれるとに聊か愁眉を開くに至りしも錫蘭茶に牽制せられて氣勢未だ昂らず、包種茶は南洋方面の需要旺盛にして多額の輸出を見活況を呈したり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

●●炭界は重要市場たる香港新嘉坡に於て九州炭及開平炭の爲市場を侵蝕せられて輸出の振はざると島内消費量の減退とにより益悲境に陷れり

●●●●一般商況は依然不況にして物價は概ね下落の趨勢に在り臺北に於ける六月末の物價指數を見るに戰前即ち大正三年七月の物價を一〇〇とするときは平均一八九、一七に當り恰も大正七年六月頃の物價に相當す

●●●●株式市場亦氣乘薄く兩月中に移動せる株式は僅かに電力、三十四及彰化銀行等の諸株に過ぎず

●●●本島の財界は叙上の如く不振の狀態に在るを以て資金の需要尠く臺灣銀行券の發行高は逐月收縮を示す兩月末發行高に付て見るに五月末三千四百九十八萬六百七十三圓、六月末三千六百二十七萬四百圓にして之を前年同月末に比するに前者に於て九百七十四萬九千一百九十四圓、後者に於て七百十七萬八千九百四十四圓の減少を見發行余力六百三十九萬五千九百三圓を示す

●●●●●手形交換月表臺北、臺南、手形交換所組合銀行月報五月末預金貸出金殘高及金銀在高表、臺灣銀行券發行高及流通高表、五月中重要物產に對する各銀行放資額、六月末臺北物價指數表左の如し(別表五月分は略す)

▲手形交換月表

所在場所	年月次	枚數	交換高	交換尻	交換枚數一枚に對する平均金額
臺北	大正十年六月	二七、三〇四	一〇、一三八、六九五	三、三四五、九九九	三七一
	前月	二六、〇〇八	一一、二二〇、〇五六	三、六七二、五二五	[illegible]
	前年六月	三一、八一六	一五、九二一、七六一	四、八八〇、五四〇	五〇〇
臺南	大正十年六月	一五、三六二	四、六九五、二〇五	一、三九三、五八〇	三一二
	前月	一六、二七二	四、六二六、八五〇	一、二七〇、二七一	[illegible]
	前年六月	一五、八六七	六、七五三、二五〇	二、六六四、四三〇	四二九

▲臺北手形交換所組合銀行月報　大正十年六月

銀行名	拂込資本金	積立金	諸預り金	諸貸出金	有價證券	金銀在高
臺灣銀行	[illegible]	一〇、三六〇、〇〇〇	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
三十四銀行臺北支店	—	—	[illegible]	[illegible]	—	[illegible]
臺灣商工銀行	[illegible]	一〇五、二〇〇	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
彰化銀行臺北支店	—	—	[illegible]	[illegible]	—	[illegible]
新高銀行	[illegible]	一、一〇〇、〇〇〇	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
華南銀行	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
合計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
前月	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
前年六月末	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

▲臺南手形交換所組合銀行月報 大正十年六月

銀行名	諸預り金	諸貸出金
臺灣銀行支店	二〇、九九〇、七二六	一六、九四四、一四六
新高銀行支店	[illegible]	一、三〇八、六六二
臺灣商工銀行支店	一、〇三三、〇〇二	九六二、二二六
嘉義銀行支店	一、〇七三、九六四	一、八四二、二八八
三十四銀行支店	一、三二〇、九三二	三、二四七、〇〇四
合計	九、八八四、五六八	二四、三〇五、〇一〇
前月合計	六、七三〇、七〇九	二四、一五七、九二〇
前年六月合計	五、七六五、三六七	二〇、二二四、一四六

▲臺灣銀行券發行高及流通高表

年月	銀行券發行高 準備發行高	銀行券發行高 保證發行高	銀行券發行高 計	國庫現在高	市場流通高	發行余力高	制限外發行高
大正十年六月末	△[illegible]円	[illegible]円	[illegible]円	[illegible]円	[illegible]円	[illegible]円	―
前月末	△[illegible]	[illegible]	[illegible]	△[illegible]	[illegible]	[illegible]	―
前年六月末	△[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	―

▲臺北物價指數表 大正十年六月末

品目	本月	前月	前年同月
白米	一八〇・二三	一七一・三三	三〇五・二三
玄米	一四九・九六	一三九・九六	二〇二・六四
洋紙	二六六・二六	二六六・二六	三四七・八三
日本紙	二三七・七八	二三七・七八	二八八・八九
清酒	二〇六・五五	二〇六・五五	二二二・二二
麥酒	一八一・六〇	一八一・六〇	二〇四・〇〇
紅酒	一五二・七八	一五二・七八	一六一・一一
澤庵漬	二六六・六七	二二二・二二	三一七・七八
砂糖	一四一・八六	一六四・八三	一四〇・六六
味噌	一三三・〇七	一二三・〇七	二一五・五八
醤油	二〇三・二七	二〇三・二七	二一八・一八
鷄卵	一八二・八六	一八二・八六	二五七・一四
火油	一二一・八二	一二三・〇八	二一〇・二六
鹽	一四〇・九一	一四〇・九一	一二五・〇〇
煙草	一五〇・〇〇	一六〇・〇〇	一五〇・〇〇
烏龍茶	一一三・八六	五五・一三	一三八・五二
包種茶	一〇六・九〇	一二〇・六九	一三一・〇二
白木綿	一八二・五四	一八二・五四	三八〇・九五
綿布	一二六・九八	一二〇・四八	二〇四・六八
杉板	三一九・二六	三一九・二六	四五一・八八
杉材	二九六・七四	二九六・七四	三八七・二〇
洋鐵	二三一・五八	二五七・八九	二八九・四七
鉛	一二一・八八	一一二・五〇	一五六・二五
銅	一〇一・〇八	九七・九六	一五五・〇五
煉瓦	二八〇・八七	二八〇・八七	三三〇・四五
日本瓦	一七〇・〇〇	一七〇・〇〇	一九〇・〇〇
板硝子	二五〇・〇〇	二五〇・〇〇	三八一・二五
セメント	二〇〇・〇〇	二〇五・八八	四四一・一八
燐寸	二七六・五四	二八一・四八	三九五・〇六
石油	一九二・〇六	一九二・〇六	二一九・〇九
石炭	一七五・〇〇	一七五・〇〇	二〇〇・〇〇
木炭	二三三・三三	二三三・三三	二六六・六七
薪	二〇〇・〇〇	二〇〇・〇〇	二八五・七一
平均	一八七・八六	一九〇・八八	二五九・六六

備考　本表は戰前卽大正三年七月ノ物價を一〇〇として計算したるものなり

平均指數五箇年對照表

月次	大正十年	大正九年	大正八年	大正七年	大正六年
一月	二五九・九四	二七四・九一	二一〇・二九	一七八・二四	一五六・四二
二月	二二一・七五	二八八・一三	二〇九・九五	一八一・九四	一四八・七七
三月	二〇九・〇〇	二九四・六一	二〇五・二六	一八七・一九	一四〇・八四
四月	一九二・七五	二八九・〇六	二〇三・三五	一八一・八八	一四一・〇二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

五月	一八七・八九	二七三・二一	二〇二・四二	一九六・三五	一四〇・六九
六月	一八九・一七	二五九・六九	二一〇・三六	一八八・三九	一四四・四三
七月	—	二六七・七三	二三三・八九	一九四・八三	一五五・八一
八月	—	二九一・三七	二三七・六七	二〇三・二五	一六九・二三
九月	—	二四七・五九	二三四・八〇	二〇九・六五	一六五・九五
十月	—	二三六・一六	二四四・五五	二一四・〇一	一六四・九二
十一月	—	二一八・九一	二四九・三〇	二二二・六〇	一六六・九一
十二月	—	二一九・二四	二三八・〇二	二二三・四六	一七三・五〇

各年月を一〇〇とせる本月平均指數

基礎年月	本月平均
大正十年五月	一〇〇・七〇
大正九年六月	七二・八七
大正八年六月	八九・九五
大正七年六月	一〇〇・四〇
大正六年六月	一三〇・九八

臺灣商況

（殖產局商工課報告）

●●●六月中の本島商況

◉米に關する商況●●●

内地米相場左の如し

	定期[illegible]限	[illegible]	正米標本 中等[illegible]	[illegible]	内地白米 本島相場	[illegible]
[illegible]日	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
十日	二六・四八	二六・九三	二六・一〇	二六・九〇	三六・五〇	三三・九〇
二十日	二六・七四	二六・八四	二六・六〇	二六・九〇	三一・八〇	三三・五〇
三十日	—	二六・八四	二六・五〇	二七・〇〇	三一・八〇	三四・五〇

米穀法案に依る政府の米穀買上は本月末日を以て終了せるが豫定數量百萬石に對し三十六萬石の申込ありしと稱せらる其意料外に少數量なりしは米質を限定せられたると差向き金融逼迫せるもの、外は申込を爲せしもの少なかりにも由るべけん而して當月中期米は殆んど商狀頭重の感ありしも正米は農繁期とて兎角出廻薄の爲め地方筋に於ても極めて賣腰强く安値は政府買上に賣急かず中々手堅く舵相場を見せたり。

●●●本島米は今回の買上に何等影響を蒙るなく月初め中南部よりの走り米出廻り稍々氣配軟弱なりしも月末には一期丸粒の出穀により相場は反撥し十五圓十八錢と中旬相場に比し八九十錢高となれり丸糯は内地に於ては在荷薄なると外國糯の輸入なき爲め本島糯を吸收し從來殆んど問題とならざりし一期丸糯の如き珍らしくも活氣を帶び●●●百斤冲値十二圓四五十錢所より十三圓と高張れり本島米相場左の如し

	北部玄米	白米一升	長糯	丸糯
	円	錢	円	円
一日	一六・四二	二二	二〇・七五	三〇・六八
十日	一五・一八	二二	二五・二五	三〇・六九
二十日	一四・二六	一九	二三・四六	二八・五五
三十日	一五・一八	一九	二三・七七	二七・八五

●砂糖　内地市場に於ける分蜜糖市況としては糖界振興策も未だ曙光を認むる能はざると海外市況逐日不勢に漸落低落益々先安の念濃厚となりしが會社側依然値頃が値頃丈けに傍観氣味あり旁々歓派も安値には兎角買澁りの狀態にして市場は此邊保合裡に越月せり島内市況としては各地市況不振に連れ殆んど休商の姿にて只一部小口當用の實需筋へ在荷薄の爲め弗々取引行はれたる而已にて殊に連日に亙る降雨の爲め至極閑散裡に越月を見たり精糖は需用季に入れる爲め多少の荷動きあると會社の意氣强硬なるよりちり高氣配にて相當の取引行はれたる模様なり。

六月中平均値段

分蜜糖	保税	六七月限	十四圓六十錢
同	納税モノ	現物	十九圓五十錢
精糖	現物	基隆沖本船渡	二十九圓二十錢

●麥粉　市況は一時先安を期待されつゝありしに反し新舊切端境季に近づくと共に新原料小麥の減收並に降雨續きに北搬出を阻害されたると一方上海粉の品薄昂騰に島内又品かすれの狀態にて却て旗煎れとなり反動的昂進を演出せり月末最終氣配として基隆沖本船渡標準物四圓二十錢見當なりき。

●烏龍茶況　本月に入りては降雨多くして山方よりの出廻はり極めて困難なりしのみならず輸出高は初旬より漸く少量の手合を見るに至りしも米國茶市場の前途尚悲觀せられ且つ夏茶の出廻はりを目睫に控へて春茶の取引は極めて閑散の狀態なり而して各再製業者も多量の箱茶を製出するの余力なき爲め輸出高は勢ひ自己の欲する品を得る能はざるの結果粗茶を買入れ再製をなすに至れるものもあり尚ほ本月末には相當出廻りを見夏茶も弗々市場に現はれ其引合高も月末迄に三萬千八百箱即ち前年同期と殆んど大差なき數を示し相場は中茶三十七八圓上茶五十圓以上にして下茶の取引は皆無の狀態なるが如し其輸出高約二十七萬封度なり。

●包種茶　本月は例年春茶の取引終了して閑散の時期なるも本年は降雨多くして夏茶にて包種を製出せる產地もあり其の結果本月中の取引高約一萬箱に及び價格上茶五十五圓中茶三十五圓下茶十八圓内外にして主に上物の引合多きが如し而して月末迄の輸出通計約八萬箱に達せり彼の料花も前月來依然として品薄の爲め取引せられつゝあり。

●綿布　本月は天候の變化と農家休養期とのため例年夏物賣行最盛の月にして殊に前月市況一般の反動

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

とむて相當實需を見るべく期待されしが連日の降雨阻碍せられて出客少く各商人は日々天を仰いて靑息を吐くが如き不況を繼續し小部に於ては城隍廟祭禮前後も期待に反して極めて閑散裡に終了し其賣行高も例年の三四割に過ぎざりしものゝ如く卽ち一面地方購買力の減退を窺ふに足るべし中間後は漸次夏物手仕舞時期に入りて荷動甚少く内地綿絲布好況の影響も何等效果の認むるものなく非常なる不況裡に越月せり蓋し各品の成行は内地高と品薄とのため堅實なる數字を現はし一般に冬物は一段高を呈することは周知せらるゝに至れり。

	円		円
駱駝六百番晒金巾	一三・九〇	大尺布(五百八十目)	三・四五
同　五百番同	九・五〇	黑無地米千目	〇・五六
象兒細布	九・二〇	黑無地ポプリン	〇・七一
五福祥並布	九・〇〇	紋ポプリン	〇・八二
龍C粗布	八・八〇	黑光輝付ジンス	一一・五〇
三輪C天笠	四・五五	紺小倉	一七・〇〇
尺一白木綿(三百八十目付)	三・四〇	縞小倉	一七・〇〇
同　(二百六十目)	一・四五		

●金物　其後鐵類は鋼鐵まれ銑鐵まれ何分獨乙米國英國品の割安物滔々として流入するを以て内地製鐵所にても外鐵對抗上屢々値下を斷行したるに迚も追付かず餘りに値下は徒に市場を攪亂するの恐もありと申すもの、買手筋に氣乘なき爲め在貨の消化力鈍きことと夥しく全く以て四苦八苦の難境にありと云ふ内地鐵界情勢の不味豈夫れ斯くの如し島内も所謂夏枯にやトント商内薄にて相場は内地安に連れ前月よりは何れも一段と下値を唱へたり最近英國鐵板業者にありては品質改善相場維持の目的を以て統一ある組合を組織せんとの意嚮あり果して事實として現はるゝに至らば多少相場も上進に向はんかなれども目下の處未だ以て頽勢挽回の材料となり難く玆許金物界は隋民滿々乎。

	円		円
丸鐵四分(貫)	〇・六〇	平坂二十八番(一枚)	二・〇五
同　五分(同)	〇・六一	同　三十番　(同)	一・九〇
同　六分(同)	〇・五九	浪板同　(六尺)	一・六五
釘類六分(百斤)	二〇・〇〇	同　(七尺)	一・八五
同　一吋半(同)	一七・七〇	同　(八尺)	二・三〇
同　二吋　(同)	一七・三〇	鐵管内經一吋(長一尺)	〇・三〇
針金八番(一丸八四斤)	一一・七〇	同　二吋(同)	〇・六八
同　十六番(同)	一九・五〇	レール十二封度一呎	三五・五〇

●石炭　内地は近來印度地方石炭缺乏の爲め此の方面に對し大口商談繼り弗々と輸出せらるゝものゝ如し既に二十萬噸を傳へられ氣息奄々たりし内地炭界一部には稍々生氣さへ帶び來りしものゝ如くそれがあらぬか兎角材料倹顔なりし島産粉炭も名古屋、大阪方面に存外引合あり當月のみにて一萬五千噸の積

出を見たるが如きは時節柄一味の清涼劑とや云はん又外國方面に對しては如何と見るに爲替は久敷前より一進一退殆んど保合にて一向上進覺束なけれども香港方面は「コニスタントリー」に積出されつゝあり されど馬尼利、新嘉坡方面に近頃ブッツリ緣切の有樣となれるを如何にせんや而して島内商人は頗る閑散を告げ高雄には撫順炭の出廻もあり一般狀勢としては依然頭重く當月の相場左の如し。

浴道粉炭	基隆本船渡	八円〇〇
切込一等炭	同	一三、五〇

●木材　目下島内不需要期のことゝて目星き取引覺束なきは止むを得ざるも一般に島内事業界緊縮の模樣も見え先行餘り香しからず内地に於ける紀州物は品薄を楯に案外聢り相場なるに不拘本島は一向煮え切らざる商狀にてもあり且つは福州材對抗上高値は望まれず前月に比し手持薄の爲め板が一割方上進せる外は何れも下値添の相場なりしが目先尙多少の小緩は免れ難きものゝ如し。

杉槇(長二間半)(七分厘六分)	一丁	〇、五五	杉板四分	一坪	三、〇〇
杉槿(正一寸八分角)	一本	〇、八五	杉柱(三寸五分角)	一本	二、九四
杉板　六分	一坪	三、九九	同　(四寸角)	一本	三、八〇

●肥料　敢て活目に値する程の需要もなく相變らず商狀閑散裡に推移せり當月官廳側の大口入札としては殖産局の調合肥料十一萬四千貫硫安五萬五千貫を見たるに過ぎず豆粕は大連市場例の建値問題も愈々絶望となりしより華商連は市場に出さる模樣にて僅少の現物が手合せるのみなりと云ふ、本月相場は基隆、高雄渡二圓〇五錢と殆釘付過燐酸は大體に於て突込過ぎの嫌ひありしにより稍反撥の氣勢を示し十六度七貫五百匁入にて一圓五十錢見當を唱へ硫安は百五十五圓所を上下せり。

●燐寸　内地は需要期節に入り地方筋の買氣喚起し荷捌良好なるが如しと雖も何分海外輸出は依然として不進捗を免れず其の結果頃者輸出手筋は競爭的に内地賣込をなし爲めに相場は保合ながら軟調を免れず本島相場も月琴五十五圓を保合ひ平凡裡に越月せり。

●麻袋　既に時節も到來せり又値頃より見るも此邊買手が進まんかに觀測せらるゝに不拘免角肝腎の島米が移出力を缺如せることゝて市況相變ず氣乘薄の儘に推移し月末相場は基隆渡印度品二十八錢内地品二十九錢と前月に比し一錢方の高値なり。

●工業藥品　漸く此邊落付風情かと思はれしが當月

海南博士の歌

鳥川生

下村法學博士の挂冠は我が臺灣にとつて動からざる損害である。特に君が總務長官として前後七年間に於ける功績は既に朝野各名士の讃話に依つて遺憾なく盡くされてゐるのであるからして私は茲に歌人としての氏に就て一言を費し以て惜別の辭に代へたいと思ふ

日のもとのみんなみの端にわれ立ちてふりさけ見れば黒潮踊る

これは先年恒春に赴ける際、鵞鑾鼻燈臺の下に立つて歌へる氏の詠である。その詩律の何んといふ新味ある雄大さぞ。たからかにこれを三唱すれば、帝國最南端の岬に立つて黒潮の狂ふ大海を眺めてゐる氏の姿があまりに大きく吾人の目に浮ぶ—。

村肝はまさに醉むべし大正の維新の前に立ちにけるすや

時は大正九年の秋であつた。氏はアミーバ赤痢になやまされ其二十幾日を北投温泉に籠つた。その際、口さがしき雀娘輩は何んと云つたか、この氏の靜養を目して徒らに閑暇を偸むものとさへ極評する者もあつた。その心なき人々の聲を聞いては私は熱い涙をとゞめ得なかつた。「かぎりなき爲すべきことを胸に秘め君病床にあるは悲しも」と私は嘆き悲しんだ、そして「何がゆゑ君日久さに病みますやこの不可思議を天地に向ふ」と天をも怨んだ。その時君が病床より返されたのが即ち前掲の歌である。この歌に接した私は今迄の悲しみに潤んだ眸は歡喜の光明に晴々しく輝いた。果せる哉其翌春、第一世文官總督田男を輔けて地方自治制度施行の快事は全臺に宣告せられた　然り大正維新の序幕は斯くして美事に切つて落されたのである。

新高のたかねの上にこの朝げながなきの鳥たからかにうたふ

自治制施行の如何に全臺の　心に潑剌たる喜色を與へたるか、黎明の光りは新高山の嶺の上に先づ鷄聲これを呼んだのである。あゝ金槐集に今もなほ雄渾さを遺す薄命詩人實朝の作品に見る崇嚴の詩律はこの一首に遺憾なく傳へられてゐる。

かへる日のなき君のせて紅葉橋砲車きしりて秋の日かなし

氏が今回の挂冠に觀、柏陰總督の棄去の當時既に辭意ありと傳へられしに思ひ至ればその哀傷切々たるものがあり、麗はしき情緒字句の外に溢れてゐるのを感ぜずにはゐられない

鳥川なれのいとし子逝きぬこの秋はたゞ泣けたゞなけよし女々しとも

情の人、下村宏氏は私の亡き長女のために私に涙のあらん限り泣けよとは云つて下さつた。親として思ふ存分泣くより外に執る道なきを教へて下さつた。

子逝きぬ妻また逝きぬゆく春を故郷に急ぐ友おしぞ思ふ

最愛の長女を失へる新愁未だ去らざるに今また妻を失へる私は何んといふ罪業の深い身であろう。中歳に滿たざるに二つの遺骨を抱き二歳の長男を伴つて故郷に歸る私の姿は情にもろき君に如何にいたましく映じたであろう。私は逝きし妻の夫として涙の感謝を永遠

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に捧ぐるであろう。

南國の温泉の秋の空澄みゐわがいたづきの
癒へしこのころ

星一つ大屯山の上に見へて北投の谷はしづ
もりゆくも

詩人の至純なる情緒はそうした自然にふれては美しき歌となつた。豐かな詩の持ちぬしである氏は尊くも自然にしつくりと融け合つてゐる。然もそれは美しき一個の藝術として永遠の生命が脈搏つてゐる。次に掲ぐる二首を見ていたゞきたい。

湯の川の想思樹の林黄橙の一むらくゞり湯
の街めぐる

湯女のむれざれ歌うたふ聲きこゆ檳榔のか
げの南國の宵

何んといふ情緒ぞ、それは繪に見る美しさである。南國の温泉町の宵は氏の藝術に依つて永遠の生命を根強く培はれた。アヽ今やその思出なき臺灣の後に氏は去るのであるか。葵の花さく日月湖畔に庵をむすびたいと云ふ氏はその南國に別れて母國に去るのであるか。

七年は夢かあらずか芭蕉葉の葉ずれの音の
さやさやと鳴る

在臺七年を夢とするにはあまりに思ひ出て多いであろう。東都は綠の富士見町に結ぶ枕の夢にさやかに星降る夜の芭蕉葉の葉ずれの音を聞いては何んでこのみんなみの島根が忘れ得やうぞ。

觀じ來ればたゞ一場の夢なれやこの水を見
よこの空を見よ

歸東の信濃丸の甲板にて斯くは詠じた氏ではあるが、別れゆく愛著思慕は容易に氏を他に拉する事を許さなかつたのである。次の二首を涙なくして讀むを得ないのは獨り私のみではあるまい。

七日七夜せき來れ留し我が涙いまし落つる
をあやしむや君

夕霧に影うすれ行く懷かしの高砂の島を我
れ見つめ居り

けれど氏は徒らに多感にのみ生くる者ではなかつた。辭職離臺の日、我れと我が姿を天地の中にはじめて見出したその瞬間に於て氏は既に進むべき新らしき道程の第一歩を印してゐたのである。

此の朝た天地の中に我れ獨り立ちし姿を我
れと我が見たり

さらば博士よ、再會の喜びの日のあるを期して茲に惜別の歌を捧げ君を送るのを享けて戴きたい。

さきくませいま高砂の島を去る君が船路を
はるかに寿ふ

君はいま船路はるかに歸ります七月二十八
日とはにわれそ

なすべきのすべてをなして君はいま心にの
こるくまもなからむ

君たてし勳は永久に高砂の島にのこりて輝
き布さん

さきくませと心にねぎつはるぐと君さわ
かる十年の卯月

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に入りては殆ど買氣薄なりしに搗て加へ英國市況安の報を入れ人氣は益々下向氣味となり相場は大部分漸落の趨勢を示せり就中白硝散は原料硝石の相當惡化せしにより硫酸は過燐酸の不勢が因を成し何れも相場安を唱へたるが去迚此上無碍の下押はなかるべき乎。

臺北相場左の如し。

品名	円	品名	円
六十六度硫酸二〇〇磅一箱	一四·五〇	晒粉(カルキ)百箇	一四·八〇
六十五度硫酸同	一三·五〇	月印曹達灰　同上	七·九〇
二十度鹽酸　一二〇磅一箱	一四·五〇	洗曹達　一樽	五·三〇
四十度白硝酸一四〇磅一箱	二六·五〇	月印重曹　同	一三·三〇
苛性曹達　一箱	一三·〇〇	硫酸曹達百斤入一俵	四·二〇
硫化曹達　一箱	七·八〇		

●海産物　當月の海産物界の狀勢を窺ふにとんと需要薄閑散の成行にて今一段の下押を見るべき次第なるも産地元は減切品薄を訴へつゝある折柄なるを以て安値は賣應するものなく底意氣丈の商狀を示せり最も干海老及小鰕は前月相場が突飛高なりし丈けに當月は前者七十圓後者三十六圓所に落付共他鰑(秋)六十七圓貝柱百二十五圓五島鮑四百十圓干鰤六十四圓鰆無頭(朝鮮もの)二十四圓同頭付(買館もの)十九圓を唱へたり最近朝鮮より移入ありしと稱せらるゝ飛魚は百斤十一圓內外にて取引を見たるが鹹味の强き爲めが一般の氣受面白からざるもの丶如し。

●野菜(臺北)　當月は久々振に市場の寂寥を破り野菜類は一齊に出揃へ市場裡の繁盛を見たるが就中爪類の如きは豊作なりし爲めに月末頃は一段の格安なりき。

相場左め如し(百斤建)

	月初	月末
大根	六·〇〇—六·五〇	一三·〇〇—一三·〇〇
大枝葱	七·〇〇—八·〇〇	七·〇〇
越瓜	三·四〇—五·〇〇	二·五〇—四·〇〇
三葉	六·〇〇	六·〇〇
牛蒡	四·〇〇—四·五〇	四·〇〇
南瓜(島産)	六·〇〇—八·〇〇	二·〇〇—二·五〇
赤甘藷	二·二〇—三·〇〇	
丸茄子	四·五〇	二·五〇
長茄子	四·〇〇	二·〇〇
里芋	一五·〇〇—一六·〇〇	一一·〇〇—一三·〇〇
冬瓜	七·〇〇	二·〇〇
葱	四·五〇—五·〇〇	四·五〇
玉葱	九·〇〇—一〇·〇〇	六·〇〇
蓮	六·〇〇—六·五〇	四·五〇—一五·〇〇

▲正　誤

臺灣時報第二十四號八五頁上段の商法に關する委員(評議會)の中「主査高田元治郎君」は「主査中川小十郎君」の誤に付訂正す。

統計

臺灣婦人の傷害犯

調査課調査

要旨〇本島に於ける犯罪人の增加〇男女の犯罪人率〇本島人女子の犯罪

本島に於ける犯罪人は漸次增加の趨勢を示して居る、尤も茲に犯罪人と謂ふのは刑法犯は全部、特別法犯は拘留十日以上科料二圓以上の刑に該當する者として法院又は警察官署から刑を言渡された者を指すので、其れが大正元年に其の數一萬九千餘人だつたのが其の翌二年に二萬二千餘人と爲り、次の三年と四年とは少しく減退を示したるも、五年以後は更に累進して八年には二萬六千餘人と爲て居る。そして其の增加は本島人の主要犯罪たる賭博の增加が主因を爲して居る。

右の犯罪人は本島人が大部分を占めて居るのは勿論の事で大正八年の二萬六千百六十六人中には二萬三千七百五十三人卽ち九割一分の本島人が居る而して此の本島人犯人を男女に分てば男が二萬千二百三十二人で女が二千五百二十一人であるから男は男の人口萬に對する一一九・五人で女は女の人口萬に對する一五・〇人に當る、そこで之を內地に於ける犯罪人率に比較するに內地大正七年の犯罪人は人口萬に對し男は五二・四人女は四・七人に過ぎないから本島人が著しく犯罪性に富める事は明かで男女共に內地に比して倍數以上の率を示して居る、併しながら若し翻て在臺內地人のみに就て犯罪人を求むれば更に非常の高率を示し男は千四十四人で在臺內地人男の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

萬に對する一二四•三人、女は三百二人で同女の萬に對する四三•五人と云ふ多數に上るから之を內地に於ける犯罪人に比べては尙更の事、本島に於ける本島人の犯罪に比べても著しく多數である、が此れは恐らく已を得ない現象で、第一に在臺內地人の人口構成が變則的に出來て居る結果である、本編は在臺內地人の犯罪は暫く之を置き專ら本島人特に本島人女子の犯罪に付て少しく筆を染めて見度い。

▲本島人女子の主なる犯罪（十人以上のもの）

本島人女子の大正八年の犯罪は、前記の通り二千五百二十一人で、人口萬に對する一五•〇人に當るから、大正元年に千五百五十五人で人口萬に對する一〇•一人であつたのに比べると七年間に大なる增加を示して居る、然らば本島人女子の犯罪は如何なる種類のものが多數を占めて居るかと云へば、先づ左表に就て各年の主な犯罪を見るべしである。

刑法犯 罪	大正八年	大正七年	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年	大正元年
放火、失火	四八人	六二人	五二人	七二人	四〇人	四七人	二九人	三〇人
文書偽造	一二	一五	七	九	｜	二	六	四
誣告	一三	三	四	三	一	一	五	四
猥褻、姦淫及重婚	一〇〇	一〇九	一一七	一一一	一三三	一二五	九六	一〇五
賭博及富籤に關す	一〇二一	八四四	六九七	五六三	四四四	四八八	四七三	四六〇
禮拜所及墳墓に關す	九	七	二	九	三	三	二	七
殺人	四	六	二	三	六	一〇	三	六
傷害	六四	五八	六三	五五	五〇	四四	五一	四二
暴行	七	二八	一〇	二五	二六	二七	四一	三八
傷害暴行計	七一	八六	七三	八〇	七六	七一	九二	八〇
竊盜	四〇	六三	七四	六九	四二	五三	五四	六六

詐欺及恐喝	横領	贓物に關す	其の他	計	特別法犯																		合計
					貸座敷及娼妓取締規則違犯	請會取締規則違犯	宿屋營業取締規則違犯	保甲條例施行細則違犯	藝妓酌婦取締規則違犯	料理屋飲食店取締規則違犯	戸口規則違犯	臺灣阿片令違犯	臺灣獸疫豫防規則違犯	臺灣屠畜取締規則違犯	墓地火葬場及埋火葬取締規則違犯	骨牌稅法違犯	臺灣地方稅規則施行規則違犯	臺灣煙草專賣規則違犯	蕃地取締規則違犯	臺灣度量衡規則違犯	其の他	計	
一〇	三	八	一六	一、二六〇	四五	八四	一三	一〇	三二	一六	二七	五〇四	七	一四	三	七	四四	—	一六	九	八〇	一、二六一	二、五二一
三	一〇	三	九	一、二四八	五六	一〇	七	四	一六五	三	一三	四二	五	四五	・	九	五一	八	一〇	二	七三	九二一	二、一六九
九	一三	一九	一一	一、〇九七	二九	一二	五	五	一二六	一〇	八	四四四	七	四八	三	二	六九	六	一〇	八	四五	八九四	一、九九一
九	一〇	七	一三	九六八	一五	二五	五	二	六二	一五	一九	四二三	三	二	八	四	五四	一〇	・	二	四八	七四八	一、七一六
七	五	一〇	一三	七七六	一〇	四〇	四	一二	五二	六	一四	二七	一四	四八	四	二	五一	六	・	・	六	六五三	一、四二九
八	三	四	九	八四〇	七	一三	二	八	四六	一三	一六	四〇八	二	一六	九	二	四八	二	・	五	四五	七二九	一、五六九
一〇	一六	一五	一六	八三三	八	三九	六	二	七四	五	二九	四八一	二三	二	四	一	五一	・	一	三	五一	七八七	一、六二〇
一五	一〇	八	八	八〇一	二二	一九	一三	七	九七	五	三六	四〇四	二〇	二七	四	二	四〇	二	一〇	一〇	五七	七九四	一、五九五

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

（附表）

種別	大正八年	大正七年	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年	大正元年
本島人犯罪人總數	二三、七五三人	二一、四一九人	二一、四二九人	一九、六〇三人	一八、二六九人	一九、七五六人	二〇、二〇八人	一八、二四七人
全種族犯罪人總數 男	二三、三二四	二一、五四二	二一、四五四	一九、八二六	一八、四八〇	一九、六七五	二〇、一五四	一八、〇四八
〃 女	二、八四二	二、五九九	二、二一六	一、九五四	一、六七二	一、八二〇	一、八五六	一、八三三
〃 計	二六、一六六	二四、一四一	二三、六七〇	二一、七八〇	二〇、一五二	二一、四九五	二二、〇一〇	一九、八八一

右の表に依りて見れば、本島人女子の犯罪は著しく賭博（富籤犯人なし）と阿片令違犯との二種に密集し殊に賭博は近年の增加著しいものがある、阿片に次ぐは藝妓酌婦取締規則違犯、其の次が猥褻姦淫及重婚の罪此れは殆ど總てが姦通である、所で此の四種以外には百人に達した罪名なく、傷害（暴行を含む）が其の中の主なもので毎年七十人乃至九十人の間に起伏して居る、然るに大正八年の傷害は近年稀に見る少數で即ち漸く七十一人に過ぎないが、本島人女子の人口萬に對する〇・四人、本島人女子たる犯罪人總數の二・八%に當り、賭博、阿片令違犯、藝妓酌婦取締規則、姦通に次で第五位に居るが刑法犯のみの中では第三位に在るのである。

之を內地の事實に照して見れば大正七年內地に於ける女子の犯罪人總數一萬二千七百七十七人中八千二百四十四人が刑法犯で其の罪名を區分すれば、賭博（富籤犯人を含む）の四千二百八十四人を最多とすることは本島と同趣であるが、之に次ぐのは失火の千二百七十八人、竊盜の七百八十五人、墮胎の三百七十七人、横領の二百九十六人、過失殺傷の二百三十九人、詐欺及恐喝の百七十八人、贓物罪の百二十七人、文書僞造の百二十一人、猥褻姦淫及重婚の九十五人で、其の次が漸く傷害の九十人であつて、即ち傷害は女の人口萬に對し〇・〇三人の少數たるに止まり刑法犯中の順位も第十一位に在るに過ぎない、本島に於ける本島人女子の傷害が〇・四人の率を以て刑法犯中の第三位に在るのは內地に異なる所の顯著なる現象である、尤も姦通罪も之と同型で、大正

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

八年の本島人女子では萬に對する〇•六人の率を以て刑法犯中の第二位に在るに、內地に於ける大正七年の姦通女子は同〇•〇三人に止まり刑法犯中の第十位に在るに過ぎないから內地と本島との間に著大なる差異がある、併しながら女子の犯罪としては姦通の多數なる事よりも傷害の多數なる點に於て、注目を惹き奇異の感を喫るのである、兎に角本島人女子の犯罪として姦通と傷害との二罪は失火、竊盜、橫領、詐欺等の犯罪よりも多數であるが、然らば失火、竊盜、橫領、詐欺等の犯罪は本島人女子の方が內地に於けるよりも少いかと云へば、決して然らずで、犯罪人實數は勿論寡いが、人口に對する犯人率は內地よりも甚高いことは、前に犯人總數に就て逑べた所に依ても推知することが出來る、但し本島と內地とは犯罪人の實數に於て、餘りに多くの懸隔があつて、殊に本島人女子のみの犯罪實數は誠に微々たる數であるから、嚴格なる標準の下に內地との比較を論斷するは、多少非倫の嫌を免れないが理論は正に敍上の通である。

本島人女子の傷害罪が刑法犯各罪中の第三位に在ると云ふのは實に驚愕に價する事實で、臺灣婦人殺伐性の一端を窺ふべきである、婦人と而して傷害、誠に似合しからぬ對照ではあるが、臺灣婦人は隨分殘忍なる所行を敢てして平然たる者決して珍らしからぬ樣で、一々其の罪狀を點檢して見れば、往々悽愴の念に耐へぬものがある、今大正七八年の傷害犯中、罪狀の奇拔なるものを左に摘錄して大方の一讀を云ふこととする。(地名は當時の名稱に依る)

(四十七年、農家の妻)(嘉義) 媳婦仔なる十三歲の女が豚肉を偸食したりとて湯匙を火に燒き之を其左右の頰部に押當て火傷せしむ懲役五月

(五十三年七箇月、農家の寡婦)(臺中) 媳婦仔某が無斷家出したるを連れ歸りたるに再び家出せんとしたるより自己の長男某と共謀し居宅粗擂小屋に於て割籐を以て數十回臀部其他を亂打し多數の創傷を負はしむ科料十五圓

(三十年四箇月、日傭苦力女)(銅鑼灣) 某女飼養の家鴨一羽迷ひ來りたるに同女より盜人と惡口せられたるより口論の末拳を以て毆打傷害す科料十圓

(三十七年六箇月、農家の妻)(臺中) 甲女が乙男に對して乙男の妻は被告宅に於て他人と密會したりと告げ居るを聞付けて大に立腹し手を以て不意に甲女を毆打し頰部其他に打撲傷、爪傷等を負はしむ科料五圓

(二十五年九箇月、農家の未婚女)(基隆) 某男と口論の末喧嘩を爲し同人の睾丸を握り且引掻き治療一週間を要する傷害を負はしむ科料十圓

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

（三十二年、臺車後押苦力の妻）（族仔寮）　某女と爭論し一旦我家に歸りしも再び其家に至りて同女を强打したる爲姙娠三箇月の胎兒を流産せしむ懲役三箇月

（二十一年四箇月、竹商の妻）（北斗）　自宅に於て祖母某と口論の末同人の顏面頭部其他を指頭にて捻り或は爪にて掻切り治療五日を要せしむ科料十圓

（五十二年四箇月、苦力の妻）（南投）　姑某と食餌の事より口論の末同人を土間に突き倒し因て其腰部左肩胛部に治療一週間を要する打撲傷を負はしむ罰金二十圓

（六十年十一箇月、無業者の妻）　甲男外二名と口論の末甲男の口中に指を入れて傷害を加ふ科料三圓

（二十六年六箇月、苦力女）（臺中）　某製糖會社農場に蔗園整理苦力として使役さる居る中苦力監督內地人甲男より叱責されたるを怨み自己の兄弟なる二人の男と共謀の上右甲男が裏手道路を通行中之に對して喧嘩を挑み天秤棒又は手拳を以て之を毆打し尙內地人乙男が甲男の危急を救はんとするや更に同人を毆打し因て兩人に多くの傷害を加ふ懲役一月

（二十九年四箇月、公學校雇の妻）（牛罵頭）　意思纏綿して同居の媳媒嫺某を數回相思樹の薪にて毆打し或は熱湯を同人の肩に掛け其の部度打撲傷、火傷等を負はしめたり罰金二十圓

（二十七年、農家の妻）（新營）　當三歲なる養女を虐待し火にて其の臀部及兩脚を焙り遂に火傷死亡せしむ懲役七年

（三十三年十箇月、產婆）（斗六）　自己の媳媒嫺が自己の夫と通したるを怒り些少の過失を捕へて身體を吊上げ燒火箸を當て或は竹にて毆打して負傷せしむ罰金四十圓

（二十九年四箇月、農家の寡婦）（嘉義）　內緣の招夫の連れ子某を虐待苛責すること甚しく某は身體衰弱し偶々炊事場に於て大便を漏したるより有合せたる丸竹を以て胸部其他を毆打し依て肺炎を起さしめ死に致せり懲役三年

（二十九年十一箇月、農家の妻）（樹杞林）　自己の夫と情交ある某女と口論の末同人の頭髮を掴みて毆打し暴行を加ふ罰金二十圓

（三十一年、農家の妻）（打猫）　當四歲なる養女某が一日數回大小便を漏す爲め言語にて矯正せんとしたるも效なきより日を經るに從ひ夫婦共同にて苛責虐待し竹木等にて頭部其他を毆打創傷したる爲め同女の實父は同女を連歸り醫療を受けしめたるも右傷害の爲遂に死亡す懲役三年六月

（四十年、農家の寡婦）（北港）　亡夫の兄の妻が自宅入口の戶を無言にて押開きたるを盜賊と思ひ其場に於て毆打し且追跡打擊遂に死に至らしむ懲役二年

（四十五年三箇月、賣藥製造販賣人の妻）（臺中）　自己の夫が某女と臺中地方法院に於て民事訴訟を爲し居る內其の口頭辯論に出頭したる歸途法院前に於て右某女を罵詈し爭論の末同人の左顳顬外三箇所に負傷せしむ科料五圓

（三十三年、竹細工業者たる寡婦）（淡水）　居宅に於て某女を附近の下水溝に突倒し治療十日を要する創傷を加ふ罰金三十圓

（三十七年一箇月、洗濯業者たる有夫の女）（花蓮港）　某男が其の妻と喧嘩せるを見て女に同情し男と爭論の末之を毆打し顏面其他に治療七日を要する創傷を加ふ罰金二十圓

（三十五年十一箇月、農家の妻）（北港）　某男が某製糖所の農場に雇はれ從業中監督員の指揮に背きたるより場主に毆打解雇せられた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ろを憤り同勢と共に同農場に至り木片或は竹棒 以て場主を毆打し創傷を負はしむ懲役四月

（四十六十箇月、農家の妻）（鹽水港）　某男と共に某女と爭論の上其の上陰部を掻き內陰唇及膣口に裂斷創傷を負はしむ懲役四月

（三十二年十箇月、裁縫職たる寡婦）（臺中）　養女某が賣淫の常習なきに之を強要して賣淫せしめ利益を得尙同女が賣淫を肯せざるを憤り之を毆打して創傷を加ふ罰金三十圓及科料十圓

（五十三年九箇月、無業者の妻）（大稻埕）　甲男と共謀の上乙男方に至り家賃の督促を爲したるも乙男之に應ぜざりしより鎗にて同人を刺し治療約二週間を要する傷害を加ふ罰金六十一圓

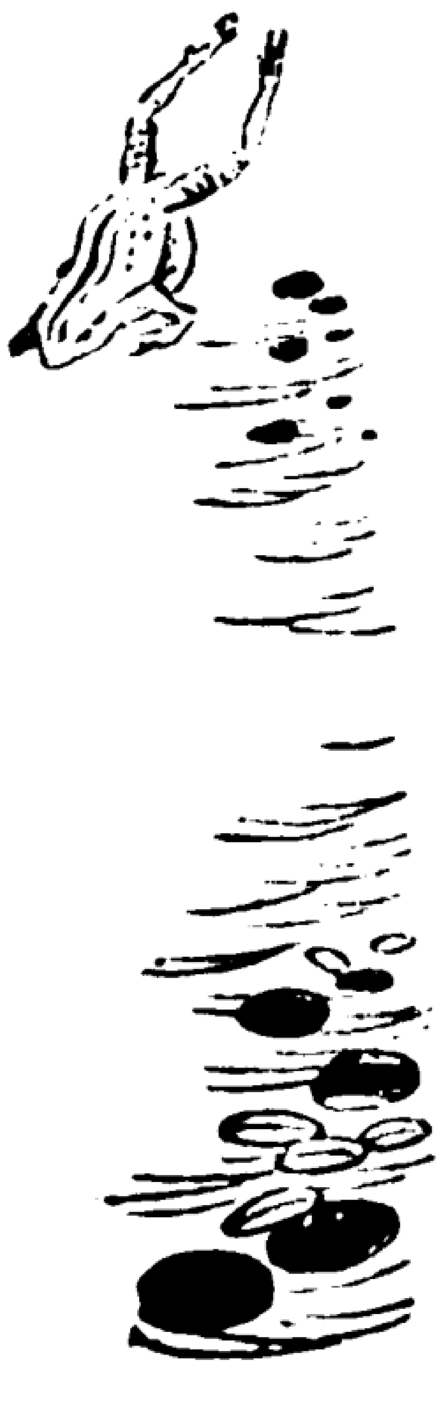
（五十一年十一箇月、農家の寡婦）（北斗）　甲女が自己の次女を惡口したりとて他の二人と共に甲女方に至り同人を強力に引摺り同人之に抵抗したるより互に打合を爲し甲女の右側小陰唇子宮外口部等に傷害を加ふ科料五圓

第二回蘭領東印度勸業博覽會

第二回蘭領東印度勸業博覽會は本年九月十九日より同十月九日迄爪哇バンヅングに開催さるべく同會は蘭印政廳は勿論內外商工業に關する公設機關及個人の援助を得る筈なれば大成功を見るべしと豫測せらる出品希望者に對しては充分其の希望を容るべく出品の種類は前回の如き制限なし出品申込は成るべく速にすべしと

比律賓の規那栽培（アタスカデロ畫報）

比律賓科學局長の報する所に依ればルスン、ミンダナオ諸島に於て規那栽培に好適なる地面甚だ多く現に森林局監督の下に若干の之が栽培を試みたるが成績甚だ良好にして斯業の前途多望なるを證して餘りあり、元來比律賓の氣候其他一般狀態は印度及爪哇に酷似し印度に於ては英國規那栽培地は世界總產額の一割爪哇は其九割を供給しつゝあるより見るも比律賓に於ける斯業の將來は蓋し刮目に値するものあるべしと



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

寫眞宣傳が

戰敗の原因だと

獨逸人一流の面白い觀察

K・G生譯

歴史上空前であつた世界戰爭に對しては各人各樣の觀察が行はれて居るが、其の勝敗の原因に就ひても亦幾多の異なれる意見が發表されてある、殊に敵味方てふ立場の異なるに依りて、各其の見方の異なるのは、固より當然ではあるが、泥棒にも三分の理窟とやらで、獨逸人には亦獨逸人一流の觀察の行はれて居るのも面白い事實である、最近發行の獨逸雜誌「デイ、チオツへ」にエルンスト、ゼエゲールと云ふ博士が實に珍奇なる意見を掲げて居る、今其の梗概を左に譯出して、世間に紹介するのも、時に取りての一興であらふ。博士の意見は乃ち此樣である、曰く

吾々獨逸人は今度の戰爭で、寫眞が實に有力なる宣傳機關と爲つたことを經驗した、而かも此の機關は吾々獨逸人に對して大なる損害を與へたのである、敵の軍隊は勿論優勢であつたが、此の宣傳機關は更に其の軍隊よりもより一層有效であつた△敵が此の機關を利用して其の國民を激勵し、且吾々獨逸人に對して、非常な敵愾心を起さしめた效力は實に至大である、△彼の戰爭の初めには獨逸に對して好意を持つた中立國民までも、遂に其の態度を一變し、吾々獨逸人に對して、嫌惡心を惹起するに至つたのは、亦此の寫眞宣傳の結果に外ならぬ、△若し獨逸が世界との通信から充分に封鎖さるゝことがなく、又嘗つて前例のない「フンネンプロパカンダ」(獨逸人を野蠻人呼はりしたること)が無かつたならば、獨逸人が世界の有識階級から、同情を失ふようの事は、無かつたであらふ、△吾々は斷言する、敵の最も效果多かつた武器は、實に此の寫眞宣傳であつたことを、△惟ふに寫眞は生きた出來事の生ける反影で、恰かも眞の事實を告知すべく見へるのである、殊に吾々獨逸人に好意を持たぬ國民や、思慮なき人民に對して此の寫眞宣傳は極めて好都合である、△彼等は寫眞を見て直ちに眞の事實と思つた、是れと同時に又獨逸の何物に對しても、總て惡感を抱くように爲つたのである、△殊に吾々獨逸人の如何にも解することの出來ぬのは彼の「鷗の寫眞」(Möwefilm)である、敵は此れをすら巧みに利用して、吾々獨逸國民の祖國防衛の正當戰や、勇敢冒險なる行動をは、丸で中立國民の財產に對する野蠻人の暴戾不法なる所業かの如く思惟せしむるに至つた、△反之獨逸の報告物は總て僞物とせられ、又事實でない捏造物とせられてしまつた、△唯た判斷力のある僅少の敵國人や、中立國民の中には多少之れを信ずる者もあつたが、他の大部分は總て敵の其れを信じた、△が敵の寫眞も實際は僞造物であつた世を欺くための僞造物であつた、總て其の國民を激勵せしむる爲めに僞造せられた寫眞であつたのである、△然るに我獨逸國が中立國の好意を得べく試みた寫眞宣傳は何等の效果も無かつた、獨逸大本營では寫眞局(Filmamte)の創設と同時に戰事狀報所(Kriegsberiohterstatt ung)を設置した、同所より發表する狀報は、敵國

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

の其れよりは、勿論事實であつたが、中立國の好意を害くべく、何等の效果も擧げ得なかつた、△瑞西や和蘭やスカンディナビヤ等の各中立國民は、獨逸の出征軍隊の寫眞や、多數な捕虜の寫眞を見て唯た露ひた計りでなく、獨逸軍隊の分列式の寫眞を見ては、寧ろ嘲笑したのであつた、△而かも寫眞の内容は敵の其れに類似し、殊に其の誇張的、激勵的の點に於ては寧ろ劣れるものであつた、△此れを敵の國民激勵の爲めに作製せる寫眞や、其のフンネンフイルム等に比せば因より同日のものではなかつた、元來吾々獨逸人は此の種の寫眞の爲めに數十億の國帑を費やすのを恥辱とした、否敵の狂暴なる所業を寫眞に依りて永久に傳ふることを望まなかつたのである、△要するに敵の對敵宣傳は猛烈であつた、一般に排獨逸主義に變改された下級な中立國民には其の勢力牢固として、拔く可らざるものがあつた、△又敵のプロパカンダは唯たくの如き露骨的の仕方計りでは無かつた、△活動や演劇の力で徹底的に對敵宣傳を行つたのである、△而かも獨逸のプロパカンダは數に於ても内容に於ても甚だ缺如して居る、獨逸では唯た一回丈けプロパカンダ的に脚色せらかた活動が演せられたのみである、△余は茲に「敵の寫眞聯合」(Film=Entente)が戰場で演じたところの例の國民激勵の活動寫眞や其の外獨逸國民を侮辱した寫眞に就ひては何事も言ふことを止めよう、△が是非共一言せざる可らざる必要のものがある、其は敵が新紙上に揭けて頻りに宣傳機關に利用した所の悲慘なる寫眞の一事である、亞米利加人は常に「文明」若くは「亞米利加人の亞米利加」と云ふことを能く言つた、而して其の宣傳の爲めに而かも大規模の下に百萬弗以上の大金を投じて寫眞を作製し、其を米國の劇場は勿論、中立國の劇場に於て盛んは興行したのである、△其の中には極めて公衆の感傷を惹き易き彼の汽船ドレッドノート號擊沈の寫眞もあつた、又一人の母が其の二人の少女を所謂フンネン人(野蠻獨逸人)の手に掛らしめぬ爲めに射殺せしと云ふ寫眞もあつた、或は獨逸の兵士が亞米加の兵士を慘殺せるところの寫眞もあつた、而かも此等の寫眞は何れも獨逸人に對して嘲笑と惡感を抱く所の公衆を欺瞞するために作製せられたものである、△そして此の寫眞宣傳の結果獨逸の軍隊は一種の幻想的勇氣を有して、唯た軍服を着けたる名計りの兵卒であると云ふ一般の思想を非常に高からしめた、又どの寫眞でも獨逸人の侵入と云はずして總て野蠻人の侵入と云ふ言葉を用ひたのである、斯くて吾々を敵視する世界の公衆は總て野蠻人としての獨逸人をのみ見たのである、△そして亞米利加人は此の種の寫眞に刺激せられて何時しか軍國主義に變してしまつた、獨逸の謀反人、野蠻人の侵入に對して極力防禦せねばならぬと云ふ氣になつたのである、是れも要するに寫眞の宣傳で國民を激勵した效果に外ならぬのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

瑯璚

仙俗居士

△琉球藩

琉球の日本に於ける關係は、鎭西八郎爲朝が、伊豆の大島から渡て來て、魑魅を驅り、百姓を安んせしに始まるといひ、更に溯ては往古に於て、其の祖先を一にするともいへるが、是等の考證は、姑く措くとして、慶長十四年以來は、鮮明に我が附庸國と爲り、そして薩州鹿兒島城主島津家の所管と成つて居る、併し一面に、明の封册を受くること、故の如しである、同十七年(明の萬曆四十年)尙寧王の明に致せる書は、此間の消息を詳にせりである。

(前略)小邦は日本薩摩州を去ること、僅に三百餘里、故を以て三百年來、時を以て不腆の方物を獻し、其の鄰好を修む、この頃不肖の裔夫あり、其の貢期を緩す、是の故に薩摩州より、兵を小邦に逞め、小邦の荒墟にせらるゝもの、誠に天の命するところ、而して我も亦た、喜桑の戒なきを以て、不幸にして其の俘囚と爲り、薩摩州に在ること三年なりき、州君島津家久は、外には武勇を好めども、内には悲憫を懷き、我を待つに禮を以てし、禮遇の厚きこと、三年一心なり、加之我を小邦に送還せらる、是に於て、吾民の市に歌ひ、野に抃ふもの、蓋し幸として弄らさらんか。(後略)

ソコデ支那に對する來歷如何といふに、隋の煬帝大業六年、官軍を遣し琉球を攻め、其王を殺すとの古記錄はあるが、其後の交通は杜絕せるもの、如く、再ひ史乘に現はるゝは、明太祖の洪武壬申に至り、王子及び陪臣子弟の、來て中國に學ふに始まるのである、凡そ强國大國に挾まれては、兩屬てふこと、亦た已むを得ずであるが、洪武壬申より萬曆四十年迄は、二百二十年であるに、日本への貢物は、已に三百年來なることを、告白されてある、して見れは連綜的關係は、矢張り日本の方が古いのである、更に其後の二百六十年間(明治五年まて)を槪觀するに、幾ばくもなく、明亡び淸代り、形式的に封册を、收受するに過ぎ無かつたが、島津家は夙に土地の丈量から、租稅の調査までも、內政の世話を燒きしのみならず、降て幕末に及んでは、日本の鎖國が、鎖港攘夷などゝ、騷て居る其際に、獨り此の別乾坤の港灣を利用して、洋船との交易を行て居たといふ事實もある、

總ての關係は、支那に比して更に密接である、去れば薩州以外の日本人が、如何に琉球人を視て居たかといふに、其の接觸するの機會は、將軍の代替りに際して、使節の江戸に往復する位なものであつたが、溫雅にして恭順なるの態度は、毎に好印象を留め、タトへ薩州人に惡感を抱くありとても、琉球人には親愛の情を寄せつゝあつたと言ふことである。

明治五年の日本は、新政を斷行して、最も油の乘つた時代である、爲す事の凡てが、キビ／＼して居る、爾る際に於て、琉球人の多數が、遭難せしとの慘報に接し、深く之に同情すると共に、彼の憎むべき生蕃とやらの、其の鬼が島を、征伐して見たいといふに、自然一致したものである、第一に桃太郎たらむ名乘を揚げたのは、鹿兒島縣參事大山綱良である、渠は事件の報告と共に、政府に軍艦の借用を申請して居る、此時國内の制度は、已に大更革の後なるも、琉球の保護は、島津家以來の關係として、鹿兒島縣當然の責任と考へて居るからである、其の申請書は、同年七月二十八日附であるから、此頃の交通便から推して、使者の東京着は、八月十日前後たるべく想はる、之に對して、廟議は、先づ臺灣蕃地の所屬を、研究することに決したのであるが、其の研究に連れて、更に先決問題に逢着した、それは琉球の根本問題であつて、現狀維持か、聯合保護か、將た斷然併合か、之を解決せずては、臺灣に手を觸るゝにしても、不便を覺ゆるからである、是に於て政府は、琉球王尚泰に入朝を命せられ、軍艦借用の使者は引返して、國王招致の使者と變じたのである。

國王は、驚き且つ怖れられたに相違ない、入朝したが最後、そのまゝ浮囚と爲るの外なしと、想はれたからである、ソコデ自らは病氣と稱し、取敢へず代理を差向けらるゝことゝ成つた、正使尚健、副使尚有恒が、尚泰王の書と、方物を齎して入朝したのは、九月十四日である、二使は、國王自身ならさるが爲に、或は叱退に逢ふこともあらんと、豫期して居たのである、然るに朝廷は、聊か咎むるの色なく、恩遇優待至らさるなく、新に尚泰を琉球藩王として、華族に列するの詔書を給はつたのである、此の結果として尚王家は、島津家と同等の朝遇を受け、琉球國は、鹿兒島縣に關係なく、政府に直屬したのである、是より先き、琉球國は別に、各國との條約締結があつたが、自今我が外務省の、所管に遷すと公表され

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たのは、其の二十八日であつた、此は宇内の形勢に徴し、事實に於て、琉球を危難の中より救ふたわけである。

皮肉と言はうか、痛快と言はうか、爰に一挿話がある、此頃マリア、ルーズ號といふ、秘魯國の賣奴船を、横濱に抑留して、同國との爭議と爲り、露國皇帝の仲裁々判を求めたるに、竟に我國の勝利に歸し、因て多數なる支那苦力を、解放せしめたる國際事件があつた、清國からはまだ、公使の派遣なき時代であり、上海の同知陳福勳は、之が爲に來朝中である、清國の使節も、琉球の使節も、同時に延遼館（今の芝離宮）の賓客であるが、彼の琉球處分を、故さらに此の清國使節に、見せ付て置いたといふは、副島外務卿の方寸であつたそうだ。

琉球に對する根本方針を、斯く斷然併合に執りたる以上は、總て主要問題たる、臺灣の兇蕃處分に、研究を進めねは成らぬ、其の處分は、清國に交渉するか、日清協力するか、或は日本直接問罪するかに在る、副島外務卿は同月廿三日を以て、米國デイロング公使に會見された、要件は彼の老婆號事件に因り多くの實驗を積める、厦門領事、リジヤンドルを延て、我が顧問と爲す希望に在るが、尙は彼の三案に就て、其の助言を求められた、公使の答は。

由來臺灣の蕃地は、支那の版圖に屬すといふと雖も、其政令の、行はれざるは事實なり、故に清國政府に交渉するとせは、期限を定めて處分を求め、違はゞ、卽ち日本に於て、直接に處分して可なり。

其後、幾ならずして、リ、ジヤンドル領事は來京し、左の意見を述へ、更に其後、我が外務省の准二等出仕に任せられたのである。

臺灣の南海は、東洋の通路にして、風波の難に遭ふもの、必す此地に碇泊するの要あり、隨て遭難民の、安全を保障せしめさる可らす、故に一たび清國政府に交渉し、彼若し自ら主權の實なきを示すに於ては、日本は直に兵を派して、砲臺を築き、之が守備に任するは當然なり。

此の諸說を參覈し、我が當路の方針は決したり、陸軍少佐樺山資紀、爲に先づ臺灣視察の途に上る、是は十月九日であつた。知るや知らすや、琉球五十四靈、日本はその弔合戰に、斯く曲折を重ねつゝあるを。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臍の緒

蕉鹿夢

人類が、產兒の際、臍緒を截る利器に、概ね竹の箆若くは蘆の莖などを使用すること、諸民種間に廣く行はるゝ風習で、日本にても、古代に此俗を存せしこと、神代紀に載する木華開耶姫の生兒條に、姫が皇孫を見たてまつりて、一夜にして娠める事を申し上げしに、皇孫の之を疑はしく思召しゝかば、姫は甚だ慙ぢ恨みて、乃ち無戶室を作り、吾が娠めるところ、若し他神の子ならば、必ず幸ひなけん、實に天係の御子たらば、必ず全く生きたまへと誓ひ、隨て、其中に入り、火を放ちて室を焚いた、初め火燄あかる時、生みませるは火明命、次に火炎盛んなる時、生みませるは火進命、次に火炎を避くる時、生みませるは火折彥火火出見尊、すべて此三柱の御子火も害ふこと能はず、御母も亦少しも損ふところが無かつたといふ奇蹟の記述を承けて。

時に、竹刀を以て、其兒の臍を截る、其棄てし竹刀、終に竹林に成る、故彼地を號つけて竹屋と日ふ。

と書いてある、さて此神秘なる史蹟は、今の薩摩の國に傳へらるゝ趣で、古風土記逸文に。

日向風土記に云、皇祖裒能忍耆命日向國贈於郡高茅穗槵生峰にあまくたりまして、是より薩摩國閼駝郡竹屋村にうつり玉ひて、土人竹屋守が女をめして、其腹に二人の男子をまうけ玉ひける、ときに、かの所の竹を、かたなに作りて、臍緒を切り玉ひたりけり、其竹は今も有りと云へり。(塵袋所引)

と見ゆる、故栗田博士の考證に、和名抄に所謂薩摩國阿多郡鷹屋鄉とあるを之に擬し、且つ薩藩名勝考に、川邊郡加世田鄉宮里村竹屋鷹屋大明神社頭より、西方に竹林あり、古老傳へ云ふ、此處古へ箆竹を捐し邊なりと云へり、地圖を考ふるに、加世田村は阿多郡に近き處なれば、古へは阿多郡に隸屬たりしなるべし』と記してある、紫式部日記に據るに、『御ほぞの緒は、殿のうへと侍れば、式正の事あるべし、三議一統にも、大御所入御ありてつぎたまひし』とあるが、蓋し中古平安朝時代に降り、緒といふによりて、反語をもて祝し、斷をば續と言ひ易へたのであらう。

之に因みて、想ひ起さるゝのは、南洋ニユギニイ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

島なるPapuanの口碑に、同土人は、昔時出產の法を解せず、分娩の期に及べば、夫は、篠の刀を用ひて、妻の下腹を剖き、嬰兒を取り出した、そこで母は傷のために死亡するを免かれぬので、殘りし嬰兒は、椰子や甘蔗の漿液を飮まして哺育するを常とした、嘗てUmaiの部落を征伐した際、偶ま一女を掠奪し、頭目の妻にしたが、軈て妊娠して分娩するに臨み、其婦は、具さに自然出產の成行を語り、篠の刀の切開を被ることを免かれて、產屋の内に籠つた、期滿ちて安々と嬰兒を產み、母も亦健全なる狀態を目擊し、一時は驚異の情に打たれしも、爾後自然出產を是認する觀念發生し、篠刀切開の法を癈止するに至つたといふ事で、是れは確かに臍緒を截るに使用する原始利器に就きての、尤も興味ある說明神話と認められ得る、そして臺灣屬島の紅頭嶼土蕃なるYami族の口碑に、昔は、子を產むに際り、刀の如く尖つた篠の先きにて、母の腹を剖いたのたが、後に山羊の自然に兒を產む有樣を見習ひて、腹を剖くことを癈めたといふなども、正さしく敍上の傳承と同系なる思想の顯はれであるを疑はぬ。

若し夫れ支那の漢民に至りては、少なくも三千年の開化を保ちし、人類の遺裔であつて、有らゆる儀式の事には、隔段の人爲的潤色を加へられて居り、現在臍緒を切るには、金屬の剪刀を使用するけれども、一般普通の常習としては、寧ろ竹箆を以てするのを本式と考へられつゝある、(漢民の傳へには、臍緒を截るに、長さ約二寸ばかりを殘すを常例とし、長きに過ぐれば後障あり、短きに失すれば風濕を受くといふ)斯の如くにして、人類出產の原始的儀式、竝に之に伴ふ神話口碑などには、世界諸民種に共通する或る特徵を見出さるゝことをも得らるであらうか。

●彰化にも新水浴場

彰化街で同公園の水浴場は此程出來した、場所は八卦山下樹陰涼しき邊で構造は十間に十四五間もある長方形のもの、其の一區劃に煉瓦で仕切つた淺い子供の浴場が拵へられてある、水は元水源地の水を全部引き入れるので清冽此の上なし、此種の施設の追々各地に增加するは南國の爲に喜ぶべし

詞苑

遊草山偶作　田讓山

僅隔人寰亡世情。蟬聲鳥語暮雲平。
靈泉如乳襯肌滑。洗盡熱塵心自清。
公暇欲舒丘壑心。七星山下曳杖尋。
老楓林上半輪月。照到溪流凉味深。

直寫實境。不毫用雕琢。渾圓溫雅。自然成章。敬服敬服。　岳陽妄批多罪

次韻恭和讓山總督有感　林熊徵

匡扶大道賛絲綸。猶自謙恭下衆詢。
緯武經文資至治。可知先覺是天民。
濟々群賢試大論。集思廣益爲諮詢。
從玆治化敷南服。鼓腹同爲盛世民。

岳陽曰。莊重典雅。頗得體。

敬和讓山督憲瑤韻　林耀亭

渭水求賢訪釣綸。輶軒採問重諮詢。
古來仁政遵王道。上致君兮下澤民。

岳陽曰。意古語老。也是風雅。

謹次讓山督憲瑤韵　黃純青

採風問俗策經綸。治化關心一一詢。
寄語群公重言責。直陳無隱福吾民。

岳陽曰。佳作。

敬步田督憲瑤韻　呂瑞珍

文章蓋世富經綸。猶自謙恭好下詢。
資治關心籌策略。仁風美政濟斯民。

岳陽曰。矩度謹嚴。得詩人之正。

敬步田督憲瑤韻　王子清

文章經世貴絲綸。求治心誠樂下詢。
他日和羹調鼎鼐。拯登衽席惠斯民。

岳陽曰。疏宕。

和田督憲瑤韻　陳澄秋

萬端政治若絲綸。下採芻蕘得博詢。
額手諸君當此任。發言關係是黎民。

岳陽曰。才氣微露。

喜臺灣評議會成立謹次護田總督瑤詞　肯峯　施家本

自來施政大經綸。世論輿情要細詢。
番府即今言路闢。芻蕘欣採到頑民。

岳陽曰。不失雅音。

奉和田督憲臨評議會瑤韻　蘇南　永島登雄

鴻謨英斷樹經綸。新制布成好廣詢。
東魯西齊堪一變。堯風舜雨被斯民。

岳陽曰。猶是雅音。

拜讀田督憲大章謹次瑤韻　學步　羅蕉鹿

讓水廉泉答悖綸。山川風土更周詢。
總林維石具瞻在。督責由來視我民。

岳陽曰。吐屬典雅。渢々乎盛世之音。可詠可嘆。

讀田督憲佳作有感　內湖　郭瓊玖

文章治績兩堪風。畛域無分惠政同。
絕海黎民三百萬。買絲爭欲繡明公。
百年大計須同化。首倡延長自治施。
寄語同胞好努力。聞鷄起舞在斯時。

岳陽曰。雄渾之中。多少閑雅。第二首結句。殊覺痛快。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

敬步田總督遊草山瑤韻

黃華 西口敬之

巒光水色絕塵情。炎熱不臻氣自平。
想見英雄閑日月。看花聞鳥寫心淸。
欲醫公事亡還心。半日遊蹤任探尋。
鳥語泉聲絕塵俗。草山風色爲君深。

岳陽曰。淸字深字俱有力。

敬送海南下村博士罷官歸國

孤松 小松吉久

鈴閣曾無暖席事。七年佳績姓名馨。
府中永護將軍樹。天際更懸處士星。
政教覃敷無弗屆。官規振肅有儀型。
送君長嘆鯤溟水。泛去錦帆不暫停。

岳陽曰。壯麗渾雅。聲出金石。

送前總務長官下村博士

東歸有引

閣下仕臺七載。身經三督。獻替擘畫。總宅百揆。任中經綸美政。大慰民胞。功績仕人。口碑載道。正圖續像鑄金。忽然解組辭官。攀轅無計。祖道空殷。臨岐恭賦小詩數首冊子奉呈。以誌別忱。

其壹

吟龍 顏雲年

化行南國七星霜。遺愛長留召伯棠。
無計攀轅空惜別。心隨鵠首到扶桑。

其二

解組飄然上帝京。斯人退隱奈蒼生。
他時郭及重來日。定有兒童竹馬迎。

其三

宦場瀟洒孰如公。出處悠々國士風。
惟大英雄能本色。衣布互欲老隆中。

其四

鯤溟湖水接蓬萊。同盼何曾別內臺。
三疊孟背如有願。山靈掘徑待公來。

岳陽曰。寫出眞情。綿々不盡。

恭送下村前長官閣下

臺南 楊鵬搏

七年輔佐臺疆政。自治因時奏厥功。
文化更將民智啓。新陰桃李泳春風。
鵬程暫息幾何時。捲土重來信有之。
臨轍人深遺愛羡。餞辭齊奉健康卮。

岳陽曰。用筆跌宕。詩中自有其人。

送前長官下村博士歸鄉依雲年兄韵

雪漁 謝汝銓

恩多雨露少繁霜。南國人歌陰召棠。
暫養冲天鵬翮健。侯封陶況有柴桑。
文章經濟問誰京。報國形勞己半生。
豈有蓴鱸張翰意。秋風吳下意相迎。
朝三暮四養狙公。機智今成靡々風。
衆議獨排施德教。斯民都入帡幪中。
片帆歸剪故園萊。無極關山遠紫臺。
祖餞旗亭人有淚。幾時還我寇公來。

岳陽曰。字字精鍊。意在言外。老手々々。

送下村前長官

加藤鋌五郎

邊城經營功大成。七年善政化蒼生。
挂冠歸去三千里。偏禱順風一路平。

送別海南博士

嘉義 鄭作型

王事勤勞廿四年。植民政策獨超然。
願公暫作歸田計。他日仍來任重肩。

下村長官將之歐州。掛冠歸里。臺灣官民設燕於鐵道旅館。賦詩以送。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺南 黃茂笙

一葉扁舟入帝京。三臺冠蓋送公行。
卽看今日纏綿意。繪出當時政績聲。
七載甘棠樹下居。芻蕘又許貢吾愚。
勸公速返西歐擢。好把東瀛大雅扶。

岳陽曰。繪出二字。最有斡旋之功。

縱筆 小松孤松

養恬須使俗情虛。向晚南椽懶檢書。
最愛琯樵描乃妙。直從壁上看扶疎。

岳陽曰。寫出淸涼奇況。所謂善於言愁。

古鏡 北門 王大俊

江心冷鑄成何代。斑駁銅花古色留。
閱盡興亡光不滅。前身明月共千秋。

岳陽曰。明俏淸圓。兼得象外之趣。

古鏡 釣翁

龍盤古色凛霜秋。歷刼蒙塵歲百週。
金背土花靑欲盡。無人拂拭晴添愁。

岳陽曰。披沙簡金往往見寶。此詩不可棄也。

借石秋作礪軒少集 趙雲石

風雨聯床作礪軒。秋光新滿舊吳園。
故人一別三年老。吟席重逢半日溫。
此地依稀館爪跡。臨岐何必斷詩魂。
蓬萊頂上神仙去。莫更飛來話劫痕。

夢仙過訪惠贈佳什卽此依韻奉和 說劍

茫々匣劍世誰知。陶寫閑情入小詩。
漸覺頭顱嗟老大。此身枉費作鬚眉。

觀迎神偶作 黃登高

繡旂蔽日影橫斜。詩意裝成衆口誇。
冷落商場嗟不振。今朝市上倍繁華。

賣花聲 林仲衡

聲聲徹曉爲誰忙。紅紫挑來傍粉墻。
莫道侯門深似海。要傳芳訊與肅娘。

連雅堂魏潤庵兩先生履約見過有詩先似 鷹取岳陽

深樹蟬聲日末斜。倩來新扇捲窓紗。
幽香猶似喜君到。昨夜盆蘭冷著花。

次韻呈岳陽先生 連雅堂

遠山如黛綠陰斜。嚮午凉風入碧紗。
記取大墩秋雨後。倚欄同看白荷花。

用連雅堂先生金陵雨花臺韻賦似 鷹取岳陽

十載怳如夢。曾逢櫟社中。擧杯招李白。搦管罵楊雄。慷慨身雖老。鄭雨計不空。名山誰繼起。惟有龍門風。

次韻呈岳陽先生 魏潤庵

曠代興亡事。蒼茫逝水中。吾曹杯共把。此日世誰雄。窓映垂々樹。雲橫咄々空。多翁能愛客。雅有古人風。

奉送下村海南博士歸于東都 岳陽 鷹取克明

府樓佗雨未曾知。底事今朝說別離。流水百年人易老。浮雲千里日無期。猶存松菊陶潛賦。何必蓴鱸張翰思。看盡江天腸欲斷。遠帆平浦夕陽時。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

阿部嘉七氏の送別會

財務局會計課長として令名あり本誌編纂委員として創刊以來盡力されたる總督府事務官阿部嘉七氏は去月二十二日、山形縣理事官に榮轉せる爲め僚支知人間に種々惜別の會合等ありし中に同二十七日午前七時三十分新公園ライオンに於て財務局員其他主催の送別朝餐會の催しあり、阿部局長、野呂技師、菊池主計課長を初め財務局員數十名。本誌の中野、伊藤二氏も出席定刻開會せられたるが席上阿部局長は阿部嘉七氏の從來の成績を稱揚し督府の爲に好會計官を失ひたるを遺憾とする旨送辭を述べられ之に對する阿部氏の挨拶ありて主客の間に交互に乾杯を爲し炎陽未だ起らざる朝の新公園の涼風に各員心地好げに談笑しつゝ八時半頃散會し主人側は夫々登廳したり、當日の朝餐會は阿部氏の日程の都合に由りたりとは云へ炎南島都の夏期の集會としては却々要領を得たるものと思はれたり因に阿部氏は二十八日、下村前長官一行と同船の豫定にて同日午後二時十分臺北驛發赴任せられたり。

草山夏期林間學校

臺灣の島都臺北を距る數里、草山の山間に此程夏期林間學校が開催された、其は臺灣基督教青年會の靈的生活を標榜した催しで、草山温泉なる警察職員療養所裏手の溪流に沿うた木蔭涼しい平地を卜して天幕を張り其處に講壇聽講席等を設け、七月七日より同十三日迄七日間開校し、講師は内地から元田作之進、山室軍平等の名士渡臺、其他、片山、金平、吉岡、阿部、近藤、室田等の諸氏擔當、會員は男女共六十名、孰れも療養所、公共浴場等に男女分宿し、講演の外、朝夕に祈禱、茶話、文藝茶活、餘興等の諸會もあり、開校僅かに數日に過ぎないが靈肉共に滋味に富むの糧を味ひ得たのは南瀛に於ける誠に有益な催と思はれた。

臺北の水浴場

先年臺中に公共水泳場が出來たのに首都の臺北には未だ其の設備もなかつたが今年は臺灣土地建物株式會社が臺北大正街の其の所有地に臺中のにも增した立派な少年水浴場を設けたのに、又一つ臺灣基督

敎靑年會の計劃で臺北府後街に公共水泳場を設けて一時に其の二つを得たのは誠に市民の幸福といふべきである來年は臺北市に於ても計劃するといふが追々此種公共的設備の充實せんことを望むのである、

諸　集　會

●六月十三日田總督は各部局長竝に各評議會員を官邸に招待晩餐會を催す●六月十三日基隆街有志主催同港碇泊中の第一潜水艇隊の將校を基隆劇場に招待す●六月十四日臺灣第一期の長官水野大路先生の追悼會を圓山淨土宗布敎所に催す●六月十八日田總督は馮裕芳氏一行七名を主賓とし官邸に歡迎茶話會を開く●臺北州敎育課に於ては女敎員、公學校丙種敎諭の學力補充の爲め七月四日より二十三日まで學事講習會を開く●臺北市役所に於ては七月一日より二十九日まで訓導心得講習會を開く●六月二十五日臺北州立第一第二工業學校に於て第二回工業敎育展覽會を開催す●總督府にては七月五日より三日間各州實業主任者を召集し協議會を開く●基督敎靑年會は七月五日鐵道ホテルに於て元田博士、山室軍平兩氏の招待會を開く●七月五日長官官邸に於て元田、山室兩氏の午餐會を催す●總督府主催小公學校長學事講習會を七月七日より六日間醫學專門學校講堂に開く●臺北第二高等女學校同窓會は夏期講習會を同校に開く

講　演　の　數　々

●臺灣基督靑年會主催婦人文化講座として六月二十五日第一高等女學校に於て農學士鈴田巖氏の講演を開く●同月二十一日臺北州に於て衞生集談會開催、基隆醫院醫長中村讓氏の「精神病と國家的關係」なる講演あり●同三十日臺北商業學校に於て見元敎諭の天文に關する通俗講話あり●七月三日東門外曹洞宗別院に於て伊藤俊道老師の維摩經講演を開く●同五日鐵道ホテルに於て元田、山室兩氏の講演會を開く●臺灣藥友會主催七月九日陸軍偕行社に於て講演會を開き內地藥業視察談(小山惣吉)、配合禁忌合劑及飽和劑の投藥法を自家考案投藥瓶に就て(小田部鎭)、放射能物質に就て(黑川春信)、內地に於ける衞生技術官會議所見(惠澤貞次郎)、原子の構造附所謂萬物の銀化說に就て(米澤清助)等の講演ありたり●同九日臺北衞戍病院會議室に於て軍醫分團講演會開催「ハロミン」の殺菌力試驗附「ナフタリン」蒸氣に就て(奧田藥劑官)軍隊の普界難路通過並衞生上注意事項(小橋軍醫)徵兵檢查餘談(渡邊軍醫)臍のエンプリオームに就て(重富軍醫正)稍々興味ある傷害致死鑑定例の二三(重富軍醫正)等の講演ありたり。

●編輯雜記　（八月五日、屯）

▲下村評議員長上京中退官せられたるに付發行條規により卽時電報謝狀を閣下に致し同時に賀來新長官閣下に評議員長御就任を請ひたるに早速御承諾の趣電報御回答を拜受したるは本誌の光榮とする所なり

▲東鄕委員七月二十二日歸任、自今同委員本誌編纂主任として吉岡委員より引繼を了す

▲阿部編纂委員山形縣理事官に榮轉し七月二十八日赴任の途に上る、本誌は創刊以來の氏の盡力に對し敬意を表したり

▲歸省中の烏川君去月中歸臺、健康全く恢復す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣日誌

▲六月十六日(木)

□潜水艇作業　本日基隆港に於て碇泊中の海軍潜水艇隊の潜水作業あり一般観覧を許し田總督、下村長官にも松村司令官の案内にて観覧せらる

□評議會委員會開會　本日總督府にて評議會諮問事項に關する委員會を開く

□公設質舗公賣　本日臺北州公設質舗に於て流質品の公賣を行ふ

▲六月十七日(金)

□北投自働車開業　北投自働車商會本日より開業す

□第二十六回始政記念日　午前八時臺灣神社に於て記念祭あり午前九時半より總督府に於て記念式を行ひたり此日城北小學校に於て臺北官民合同の大祝賀會あり總督官邸に於ては空前の大園遊會を開催せり

▲十八日(土)

□馬來語講習會修了式　洋協會主催第六回馬來語講習會終了を告げ本日其の修了式を行ふ

▲二十日(月)

□税務課長會議　本日より總督府に於て全島税務課長會議を開く

▲二十五日(土)

□工業教育展覧會　臺北州立第一第二工業學校第二回展覧會を開く

▲二十六日(日)

□田總督淸遊　田總督は本日自働車を驅りて草山に一日の淸遊を試む

□高雄簡易商業開校　高雄簡易商業學校設立許可せられ本日開校式を行ふ

●七　月

▲七日(木)

□草山夏期學校　臺灣基督教青年會主催草山夏期林間學校を開く會員は男女六十名、講師として元田作之進、山室軍平氏

▲十一日(月)

□總務長官更迭　下村長官病を以て官を辭し專賣局長賀來佐賀太郎氏總務長官に任ぜらる

人事消息

自六月十六日
至七月十五日

▲佐藤北大總長　大學演習林視察の爲め來臺中の北大總長佐藤昌介博士は視察を了りて六月二十日歸還但し歸途朝鮮に於ける大學演習林を視察すべしと

▲下村總務長官　六月二十日上京

▲末松内務局長　同上

▲後宮信太郎氏　二十一日内地より歸臺す

▲横光吉規氏(事務官、本誌編纂委員)二十四日上京

▲古賀三千人氏　同上

▲渡邊英太郎氏　同上

▲原税關長　二十八日歸臺

▲山下龜三郎氏(山下汽船社長)二十八日來臺し七月四日歸京す

▲田總督　三十日喜多祕書官を隨へ上京

▲赤石定藏氏　三十日上京

▲井澤眞民氏(臺北州内務部長、本誌編纂委員)

▲小野檢察官長　七月一日内地より歸臺

▲元田作之進氏　草山夏期學校講師として五日來臺、十四日歸還

▲山室救世軍大佐　同上

▲菊池代議士　菊池良一氏は廣東視察を終りて歸京の途次六日來臺、十一日歸還

▲賀來專賣局長　七日上京

▲森山松之助氏(技師)十一日上京

▲高田富藏氏(法院判官)十一日内地に赴く

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

任命

大正十年六月中

▲五月三十日

任州理事官、高雄州內務部勤務ヲ命ス　總督府屬　宮田成一

▲五月三十一日

公立女子高等普通學校教諭　楊基道

臺南女子高等普通學校生徒監ヲ命ス

▲六月一日

高等法院長　谷野格
鐵道部長　新元鹿之助
殖產局長　高田元治郎
內務局長　末松偕一郎
警務局長　川崎卓吉
土木局長　山形要助
財務局長　阿部滂
中川小十郎
高木友枝
赤石定藏
林熊徵
顏雲年
李延禧
平山午介

簡阿牛
(各通)
坂本素魯哉
辜顯榮
松岡富雄
林獻堂
津田毅一
許廷光
宮地近思
黃欣
古賀三千人
藍高川

臺灣總督府評議會員ヲ命ス

參事官　吉岡荒造
秘書官　喜多孝治

總督府評議會幹事ヲ命ス

津久井誠一郎
諏訪禮次郎
(各通)
李景盛
後宮信太郎
林濟山

臺北州協議會員ヲ命ス

本田德純
(各通)
簡朗山

新竹州協議會員ヲ命ス

宮島眞之

蔡蓮舫
楊吉臣

臺中州協議會員ヲ命ス

中山秀之
陳冠英
(各通)
磯谷恒三郎
陳瑞山

臺南州協議會員ヲ命ス

陳啓貞
赤石定藏
(各通)
林熊徵
顏雲年

願ニ依リ臺北州協議會員ヲ免ス

平山午介
(各通)
簡阿牛

願ニ依リ新竹州協　會員ヲ免ス

坂本素魯哉
松岡富雄
(各通)
林獻堂
辜顯榮

願ニ依リ臺中州協議會員ヲ免ス

津田毅一
許廷光
(各通)
宮地近思
黃欣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

願ニ依リ臺南州協議會員ヲ免ス　古賀三千人
（各通）
願ニ依リ高雄州協議會員ヲ免ス　藍高川

▲五月三十一日

州警視　角田廣次
任州理事官、臺中州內務部地方課長ヲ命ス

警察官及司獄官練習所教官兼總督府事務官　森島庄太郎
任州警視、臺中州警務課長ヲ命ス

公立高等女學校教諭　二股卓留
任臺灣公立高等女學校長兼臺灣公立高等女學校教諭、臺中高等女學校長ヲ命ス、臺中高等女學校長ヲ免ス

公立高等女學校教諭　山崎熊次
任臺灣公立高等女學校長兼公立高等女學校教諭、臺北第二高等女學校長ヲ命ス、臺北第二高等女學校勤務ヲ命ス

總督府技手兼農事試驗場技師　石田昌人
任總督府技師、殖產局附屬糖業試驗場勤務ヲ命ス

公立實業學校教諭陸軍步兵少尉　長東有鄰
任臺灣公立實業學校教諭、嘉義農林學校勤務ヲ命ス

總督府技師　山口鉅五郎
任臺灣總督府技師、殖產局商工課勤務ヲ命ス

總督府高等商業學校助教授　西村信一
任總督府高等商業學校教授

拓殖局屬　松岡一衛
任總督府事務官、殖產局商工課勤務ヲ命ス

州理事官　富田成一
依願免本官

州理事官　草野義一
臺南州內務部地方課長ヲ命ス

州理事官　神社柳吉
東京府外一府三縣下ヘ出張ノ序ヲ以テ德島縣下ヘ出張ヲ命ス

鐵道部事務官　白勢黎吉
歐米各國ヘ出張ヲ命ス

總督府技師　長尾正元
神奈川、兵庫ノ二縣下及北海道ヘ出張ヲ命ス

州理事官　政所重三郎
上京ノ序ヲ以テ京都、大阪、神奈川及福岡ノ二府二縣下ヘ出張ヲ命ス

▲六月一日

參事官　吉岡荒造
普通試驗委員ヲ命ス

▲六月二日

總督府事務官　藤井恭敬
東京、大阪、名古屋及仙臺ノ各遞信局管內ヘ出張ヲ命ス

▲六月三日

總督府技師　山本三次郎
東京及仙臺ノ各遞信局管內ヘ出張ノ序ヲ以テ廣島遞信局管內ヘ出張ヲ命ス

▲六月六日

總督府技師　石原實之丈
總督府技師　片平重次
南支那ヘ出張ヲ命ス

▲六月七日

總督府事務官　和田一次
兼任臺灣總督府警察官及司獄官練習所教官

總督府技師　市川純一郎
任臺灣總督府技師、土木局土木課勤務ヲ命ス

總督府農事試驗場技師　素木得一
長崎、山口、愛媛、島根、石川、長野、福島、秋田、新潟ノ九縣下及北海道ヘ出張ヲ命ス

▲六月十日

鐵道部技師　渡部英太郎
鐵道部事務官　橫光吉規
（各通）

總督府事務官　川村直岡
東京、名古屋及神戶ノ各鐵道局管內ヘ出張ヲ命ス

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

上京ヲ命ス

▲六月八日

數田輝太郎

願ニ依リ臺南州協議會員ヲ免ス

皿谷廣次

臺南州協議會員ヲ命ス

▲六月五日

總督府技師　井上清

土木局高雄出張所長長尾正元不在中代理ヲ命ス

▲六月十三日

領事　藤井啓之助

兼任臺灣總督府事務官、總督府官房外事課勤務ヲ命ス

州技師兼農事試驗場技師　磯永吉

免本官專任農事試驗場技師

公立實業學校長兼公立實業學校教諭　田中載吉

陸軍通譯官　室田有

（各通）

任臺灣總督府高等商業學校教授

總督府醫院醫官補　坪井二郎

任醫官、宜蘭醫院勤務ヲ命ス

總督府屬兼總督府技手　小倉孝三

總督府農事試驗場技師

免兼官

▲六月十一日

州理事官　角田廣次

郡守　細井鶴次郎

（各通）

上京ヲ命ス

▲六月十二日

高等商業學校教授　中屋重治

滯京ヲ命ス

▲六月十三日

法院檢察官　土屋達太郎

依願免本官

▲五月三十一日

法院檢察官　小林秀樹

任檢事

▲六月十五日

醫學專門學校教授　小島鼐二

支那廈門汕頭及英領香港へ出張ヲ命ス

▲六月十六日

通信事務官　上原松次郎

門司及神戸へ出張ヲ命ス

▲六月十八日

總務長官　下村宏

上京ヲ命ス

▲六月二十日

內務局長　末松偕一郎

上京ヲ命ス

殖産局長　高田元治郎

總務長官下村宏不在中代理ヲ命ス

警務局長　川崎卓吉

內務局長末松偕一郎不在中代理ヲ命ス

州警視　佐々木國重

任警察官及司獄官練習所教官兼總督府事務官、警務局警務課勤務ヲ命ス

佐藤佐

任高等商業學校助教授

竹田虎作

任商業專門學校教授

商業專門學校助教授　高野貢

任商業專門學校教授

▲六月十七日

土屋達太郎

臺中州協議會員ヲ命ス

今村伊那吉

高雄州協議會員ヲ命ス

▲六月二十二日

財務局事務官　前田稔靖

普通試驗臨時委員ヲ命ス

▲六月二十三日

總督府鐵道部書記　佐藤才郎

任鐵道部事務官補

鐵道部技手　長沼淺造

鐵道部技手　小出三郎

（各通）

任鐵道部事務官補

高等商業學校教授　遠藤壽三

支那上海へ出張ヲ命ス

高等商業學校教授　西澤二松

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

上京ヲ命ス

高等商業學校教授 吉成鐵雄

支那、廣東、英領香港、佛領海防及河内へ出張ヲ命ス

醫學專門學校教授 安達島次

東京、京都及新潟ノ二府一縣下へ出張ヲ命ス

公立女子高等普通學校長 前川治

朝鮮及滿洲へ出張ヲ命ス

▲六月二十二日

鐵道部技師 渡部英太郎

市區計劃臨時委員ヲ命ス

▲六月二十三日

鳥取縣警視 高橋秀人

任州警視、臺北州警務部警務課長ヲ命ス

▲六月二十四日

總督府技師 東郷實

殖産局農務課兼務ヲ命ス

▲六月二十七日

秘書官 喜多孝治

田總督上京ニ付隨行ヲ命ス

總督府技師 納富耕介

東京府外一府四縣下へ出張ノ序ヲ以テ北海道へ出張ヲ命ス

公立高等女學校教授 内田琢磨

任臺灣總督府師範學校教授、臺南師範學校勤務ヲ命ス

▲六月二十九日

總督府技師 高澤壽

英領香港、佛領印度支那、海峽殖民地、爪哇及英領印度へ出張ヲ命ス

新刊紹介

竹本篤處著

●臺灣炭業論

著者は臺灣日々新報の經濟部に在り職務上研究したるものを編して此書を成せり、收むる所八章數十節、世界炭界の大勢より戰前の本邦炭界に及び更に東洋炭界の現勢並に臺灣炭業の發達を說き本島炭業會社の現勢及び臺灣炭の現勢及將來に論及せり臺灣炭業を知らんとする者の好參考たるべし。

寄贈書目

書名		發行所
滿蒙之文化	每號	滿蒙文化協會
大亞	每號	大亞義會本部
東亞經濟研究	同	其社
新臺灣	同	其社
實業之臺灣		其社
臺法月報	同	其社
糖業	同	臺灣糖業研究會
臺灣教育	同	其社
極東公論	同	其社
大觀	同	拓植新報社
臺灣貿易表	同	臺灣總督府稅務課
朝鮮彙報	同	朝鮮總督府
支那	同	東亞同文會
臺灣鐵道	同	其社
青島日報	同	其社
臺灣農事報	同	臺灣農友會
稅務月報	同	稅務職員共慰會
博愛	同	臺灣博愛社
貿易	同	日本貿易協會
臺灣鑛業會報	同	其社
臺灣警察協會雜誌	同	其社
南洋協會雜誌	同	其社
海事新報	同	帝國海事協會
週報(上海貿易)	同	上海日本商業會議所
東洋時報	同	東洋協會
南洋經濟新報	同	新嘉坡商品陳列館
偕行社記事	同	陸軍偕行社
海友	同	大連海務協會
大陸	同	大陸社
地方行政	同	帝國地方行政學會
內外情報	同	外事課調查課
統計週報	同	調查課
臺灣パック	同	臺灣パック社
高砂パック	同	高砂パック社
統計學雜誌	同	統計學社
遞信協會雜誌	同	遞信協會
滿蒙實業彙報	同	大連商業會議所
朝鮮	同	朝鮮總督府
會計	同	明治大學出版部
統計集誌	同	東京統計協會
一味	同	本願寺臺灣開教々務所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

下村前長官對總督府諸官之別辭

七月廿二日於總督府會議室

余此回拜退官之命。本日對諸位敘禮。余於大正四年底。就職以來前後七年於玆。此間歷任三代總督。而無大過。以至今日。此不惟歷代總督閣下指導之錫。並以爲各位深甚聲援之所致。蓋惟余以菲德短才之身。在職之間。對各位殊多欠禮。自知言詞不足而恒對各位諸多遺憾之處。乘此機會。深對各位。尙敘謝忱。余曾經於明石總督薨去之時。乞骸骨而。當時適逢田男爵授任之際。余仍然繼續就任也。縱雖余身健康。一則更新人心。又爲臺灣統治。已知爲退職之時機也。矣何況自今春旅行中部海岸之時。再害胃疾。至今猶親藥餌。如斯微弱之身。尙堪此劇職。自以爲奇異矣。故意欲爲專一健康之回復。自總督閣下及中央先進同僚。念及一身之計。多承照料。余雖不敏。如有周圖各種之事情。不能離職則。不得已而而奉公。不然過有適任者不乏其人之時。余退而養痾。或可能爲則。欲往海外心神俱養。以資他日之奉公然余於臺灣。視各樣之政務。而積多少之經驗矣。余之對新領土統治之意見。往々於中央閑却不顧。余所主意者。將來以一部或全部。在新領土或海外之事情。意欲竭力也。余免官後。再抵臺灣者。一則對來位晤面敘禮告別。實係不能忘臺灣之微衷而已。今後可能則。一年一回。要到臺灣。苟能有益于臺灣之事情。願自當效力。此事曾經向總理大臣及總督閣下。有所樸陳也。從來總督。有三回之更迭。各總督各有統治之方針。現總督是去年就任以來。其統治方針。漸次實行。惟今次不過總務長官之更迭。而余之後任。乃前專賣局賀來新

任。較於不知臺灣事情之人。多年在本島精通各般事情之人。得爲後任。洵爲可喜之事。余在職中。賴歷代總督之指導。與時運之變遷。稍有所貢獻。余謂此不過下補而已。其結實也。不得不待總督以下各位之盡力。方能有效。按今日時勢。無論世界各國即如我國。日積月累。殊爲國事多端。我等非但立於高處。計及臺灣問題而已。應及我國進步。立於高處。同志協力。自臺灣統治推擴日本統治。東洋平和。此等之事。尤須焦慮。余與各位。縱雖地不同。互相以臺灣爲念。捨小異。取大同。共圖微力。又與各位。有七年之久。眷顧之情。回思之則。萬感迫胸。而不知欲言。總之不外乎臺灣之隆昌。臺灣之統治。始終爲念爾。余不德短才。此七年間。頗累各位勞苦。深爲道謝。尚望將來援助新長官。而以盡臺灣之統治不已耳。

賀來長官於七月二十二日在總督府新任敘禮辭

余此回拜命總務長官重任。玆親與各位相會。眞不勝其感慨焉。各位所知。余多年在總督府勤務。易職凡數次。其間得無大過。以至於今日者。皆多由於歷代總督長官之指導。及同僚各位同情。對於此點。常表感謝之意。

臺灣統治方針。夙由總督閣下指示。於長官之更迭。非有何等影響。固不待言。余當以多年在本島之經驗及智識爲基礎。準據統治方針。體得總督閣下之意圖。調節施政之緩急。不過以完總督輔佐之任。致最善之努力也。余欲遂行如上之任務。不可不一俟各位之援助而在此機會。有不可不望各位之留意者。乃各位各對於其職務。具有趣味。一意專心。致力於所與之職務。及緊張協力一致是也。夫對於無趣味之事物。恐缺精神之充實也。又不論何人作事之時。當無有不感其協力一致之必要者。故於今日。希望在總督閣下之麾下。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

協力合爲一團也。余亦深感一人不足。自今以後。余自當率先縱拂如何之犧牲。亦欲完實此缺陷努力。以期一層强總督之中心力。茲望各位諒察余意所存。總督府各機關。異能協力一致。行以緊張之活動。與本島統治上之美果。而致最善之努力也。抑官吏之守官規。而保風格事。要常拂以周到之用意。不俟再言。其在本島。苟身奉公職之人、猶要大爲考慮。此點一俟於各位之自省。以上於新任之際。陳述希望一端。以爲敘禮之詞

下村前長官告別辭

七月廿二日在鐵道旅館。官民。合同送迎會席上

余此回。拜退官恩命。蒙開如此盛大送別之宴。深以爲榮。不勝感激。又今承懇詞。反覺惶恐無地。顧下村。自大正四年。拜命民政長官重職以來。前後七載于茲。此歲月非短也。同時余汚此要職。此間歷仕三代總督者。自或意味而言。於余爲不幸。爲遺憾之事。然而一面得無大過。至於今日者。余誠自覺滿足。是蓋歷代中央關係當局。及臺灣官民諸君高情之賜。就中三代總督閣下之指導誘掖。猶見多大。余乘機向官民肺腑鳴謝。余於官海生活。大部分之歲月。消耗於遞信省爲替貯金事務。自國務全般而言爲極專門一部之事。且不過知社會表面門口而已。然自轉任臺灣。爲地雖與中央隔絕。至對於新附民衆之統治。可謂重大。又動易被內地閑却之新領土經營問題。更進而於南支南洋一帶之事。亦得相當知識了解。余所執事務。固少於內地各省。然其品質範圍。動與內地之政務全體。一致其趣。然內地涉於各省之事務。其表裏全部。得以經驗。其所以啓發余者可感謝也。余奉體三代總督意嚮。對於種々制度之創施。思盡微力。然不過下種而已。以後所種之子。當如何培耕。如何使之成熟。當更要一段苦心經營。余今之所以卸此重任者。爲健康上之所不許。今後經

營。尙祈有力官民各位盡力。

擁貧弱瘦軀之下村。於大昨年。前總督薨去前後。患亞美罷赤痢。約三個月間。臥病在床。爾來有慢性之腸胃加答兒。成爲痼疾。今春海岸線巡視以來。更繼續日親藥餌。顧余之健康狀態加斯。而能勝此七載間之活動者。亦一奇蹟也。此間之虐使。要相當靜養。又余之腦漿。由爾此七年間劇職。吐出枯渴。不可不與相當之滋養。一面肉體的之健康。亦要恢復。一面精神的亦要新廣見聞。余當年四十七歲。事情所許。當於或時期吸收海外空氣。此回退官之際。關於身分上。受總督閣下。先輩同僚各位。非常眷顧。衷心感謝不已。然余以先述之次第。此際當脫離一切公職。專心靜養。以根治宿痾。爰所以仰退官恩命也。

顧臺灣統治。駸々發達之步武。自現總督就職以來。爲各位所知悉者。此際單爲總務長官之更迭。後任長官。爲余舊時學友。同僚之中。深爲余所畏敬。且親愛之賀來君。久在臺灣關係上。事務之交代。極爲利便。而且於將來臺灣施政上。當新有可觀者。不容疑也。余於過去七載。德薄智寡。頗累及部局長及總督府各官衙各位之勞苦。乘機深爲謝悃。余際此退官又復歸臺者。因過去七年間備受公私眷顧厚情。故欲親身對各位告別鳴謝。果平素言責之一。

從來臺灣官民。重要人々之中。非無常以臺灣爲念。有機會則每必渡臺。余見而推服之。大抵之人。一去其地位。則與臺灣恒疎遠。余將來。若爲多忙之身。則或自然難於訪問臺灣。若余得有閑暇爲布衣浪人。當屢踐臺灣之地。若夫活動期過。爲老後送其余生之計。則當卜芽屋於北投或草山。或日月潭。菱花開處之湖邊。或五穀穰々之官佃溪附近也。將來事情所許。當年一次來臺。非欲受各位之歡迎也。余如例穿浴衣一襲。腰手巾。以一介老書生飄然欲逍遙相思樹畔。時々表敬意於以職務埋骨之明石大將墓前。又余所創設之體育協會。亦望諒察體育獎勵主旨。仰各位援助。終祝各位之健康活動並與諸君共祝臺灣益遂健全進步發達。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

賀來新長官之謝詞

七月廿二日夜於鐵道旅館官民合同之送迎會席上

今夕是。對余與下村長官之後而陞任。又兼前長官送別開張祝賀會。實爲光榮感謝莫盡。在場各位。知爲多半與余平素交誼之諸氏。更覺感謝不勝。諸君所知悉。余自青年時代。赴任臺灣以來。前後十八年間勤續。其間歷仕五代總督並五代長官而無大過。以至今日。此實由歷代總督長官之指導。與僚友知已同情援助之所致。平常感謝不已也。

蓋爲總務長官之任務也。即在總督閣下指導之下。能輔助之。而依於臺灣統治之根本方針。遵守總督閣下之意圖。須圓滑施政之運用。以圖努力者也。故其責任甚爲重大。即如現今社會上經濟上。缺安固之時。愈覺責任之重。剛纔代表祝賀會之高木電力會社長。又代表領事團及外國人團之米國領事。與知哥君演舌。及下村前長官所言內。俱皆言及對余之過獎言詞。及將來之期待。余實不敢當也。惟恐知任重而力不足也矣。余欲果此重任。須以多年本島在務所賜之幾分經驗與智識。誠心誠意虛心盡公。且賴僚友之援助。與識者各位之援助。意欲達成此目的耳。鑑於輓今戰爭之實驗。又嗣後國家社會之變遷。凡於事物之達成。都莫不互相之理解與協調之必要。臺灣統治亦然。惟官吏遵守總督閣下之意。辨理而已則。縱或如何努力。到底不能完全達成目的。以收其滿足之結果。必須與島內有識之士。互相理解。以保協調共相協力。增進本島之福祉。盡瘁人文之發展。方能可謂達成目的也。故余務要注力于此點。堅實官民協調之連鎖。以爲最善努力之決心。所望各位者。酌察余之微衷所存。爲增進臺灣之幸福。共爲協力。是所深望也。又向外國領事各位。厚謝本夕之枉顧。併望今後愈加親交。尙對外國人團嗣後增進互相親善之關係。賜以相當之援助。是所切望也。臨終。感謝今夕之隆情。敬敍謝禮

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣總督府內務局編纂

臺灣地方制度法規輯覽

●携帶至便小形　●紙數六百十頁　●定價一部一圓五十錢郵稅共●內容●第一章州廳郡行政●第二章州及廳地方費●第三章市街庄●第四章區●第五章參考法規の五章に分ち昨年地方制度創始以來の法規全部を集成す

右當所に於て發賣致候に付御希望の向は品切さならざる前至急御申込ありたし

大正十年八月

臺灣總督府內

臺灣時報發行所

振替口座臺灣二〇七〇番

電話府內八九番